

裁縫新教科書

下卷

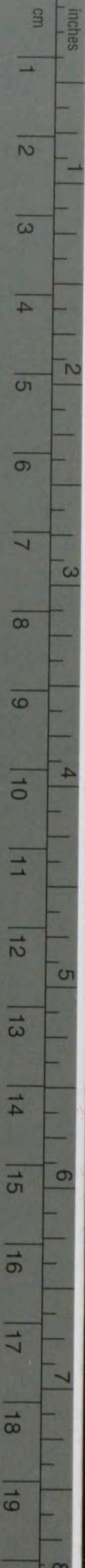
159
110

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



Kodak Color Control Patches

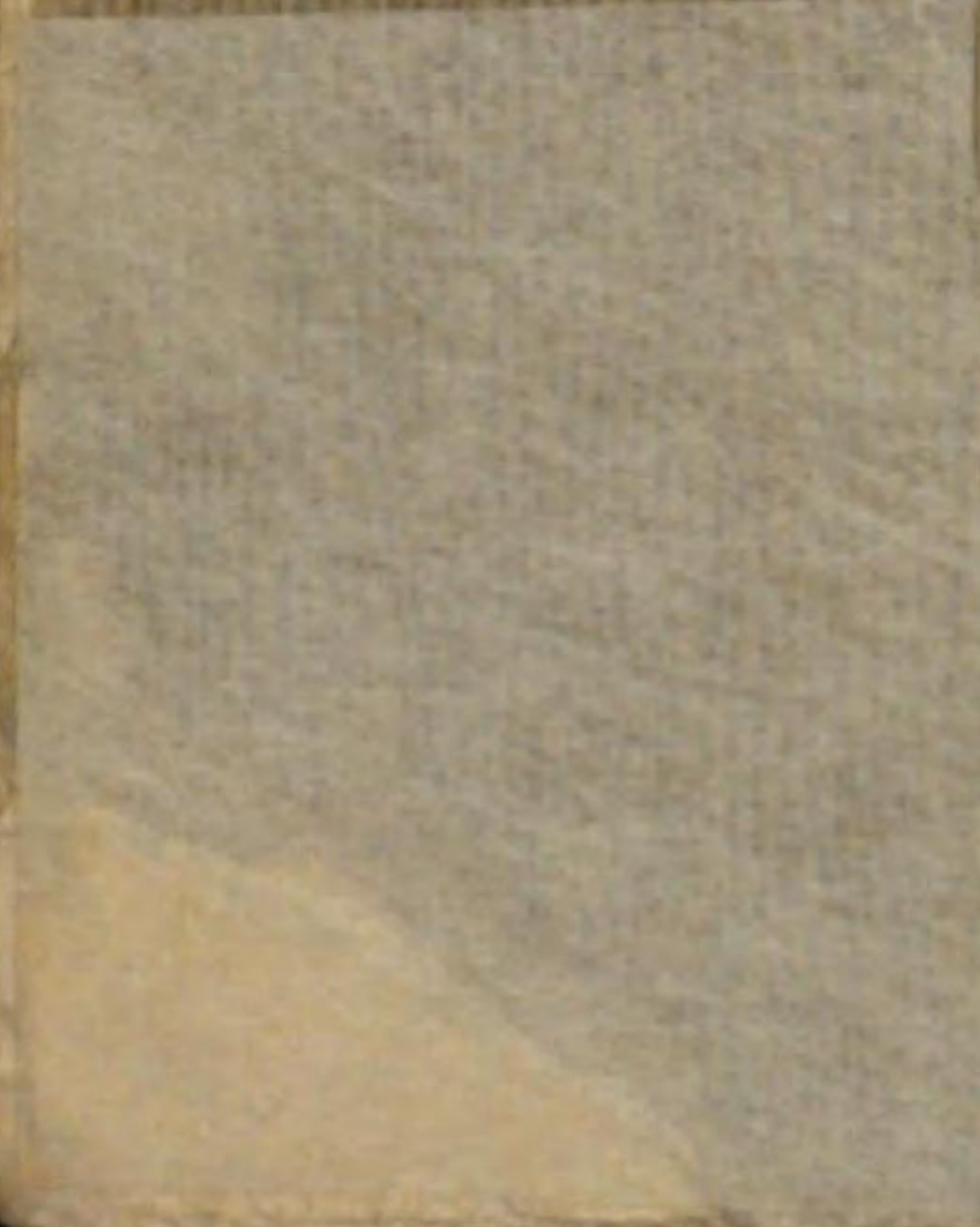
© Kodak, 2007 TM: Kodak



159
2
110

裁縫新教科書

下卷



共三女子
職業學校
梅友會裁縫研究部編

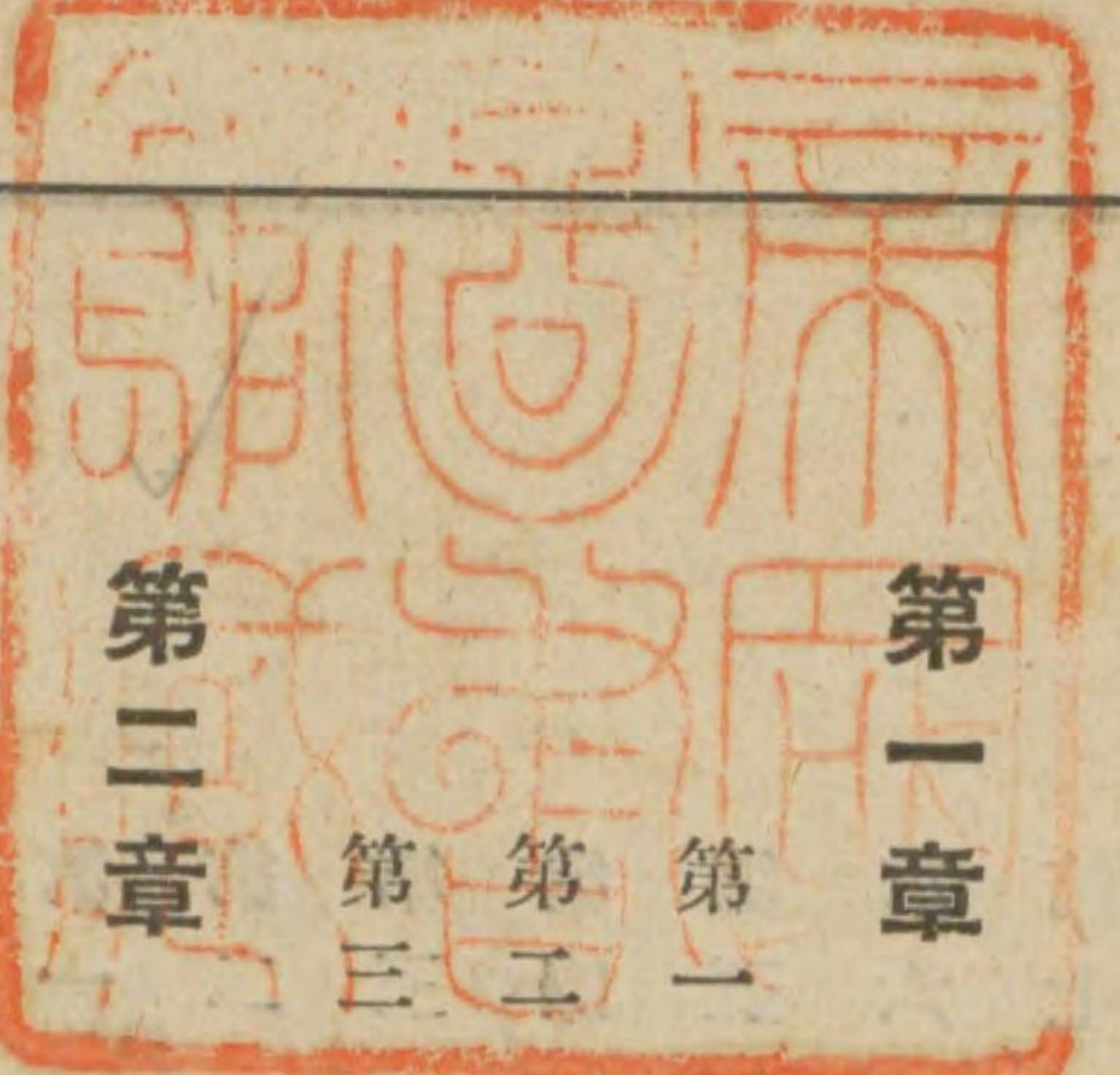
裁縫新教科書 下卷

東京大日本圖書株式會社

裁縫新教科書 下卷

目次

第一章	絹布・毛織	一
第一	絹布單衣	一
第二	毛織單衣	三
第三	絹布・毛織の繕ひ方	四
第二章	腹合帶	九
第一	腹合帶標附け方	九
第二	腹合帶縫ひ方順序	一〇
附	女兒帶	一三
第三章	本裁男單羽織	一四



大正
8 4 17
内交

目次

第四章

本裁被布

第一 被布各部の名稱……………三三

第二 本裁被布普通仕立上げ寸法……………三三

第三 本裁綿入被布裁ち方積り方……………三三

第四 部分縫 小衿……………三五

第五 本裁綿入被布標附け方……………三六

第六 本裁綿入被布縫ひ方順序……………三〇

第七 本裁綿入被布各種裁ち方積り方……………三五

第五章

中裁小裁被布

第一 中裁小裁被布普通仕立上げ寸法……………三七

第二 中裁小裁被布裁ち方積り方……………三七

第三 中裁小裁被布標附け方縫ひ方順序……………四三

第六章

本裁コート

第一 コート各部の名稱……………四二

第二 本裁單コート普通仕立上げ寸法……………四四

第三 本裁單コート縫ち方積り方……………四四

第四 部分縫 隠し小衿(下前)……………四七

第五 本裁單コート標附け方……………五一

第六 本裁單コート縫ひ方順序……………五三

附 本裁單合羽

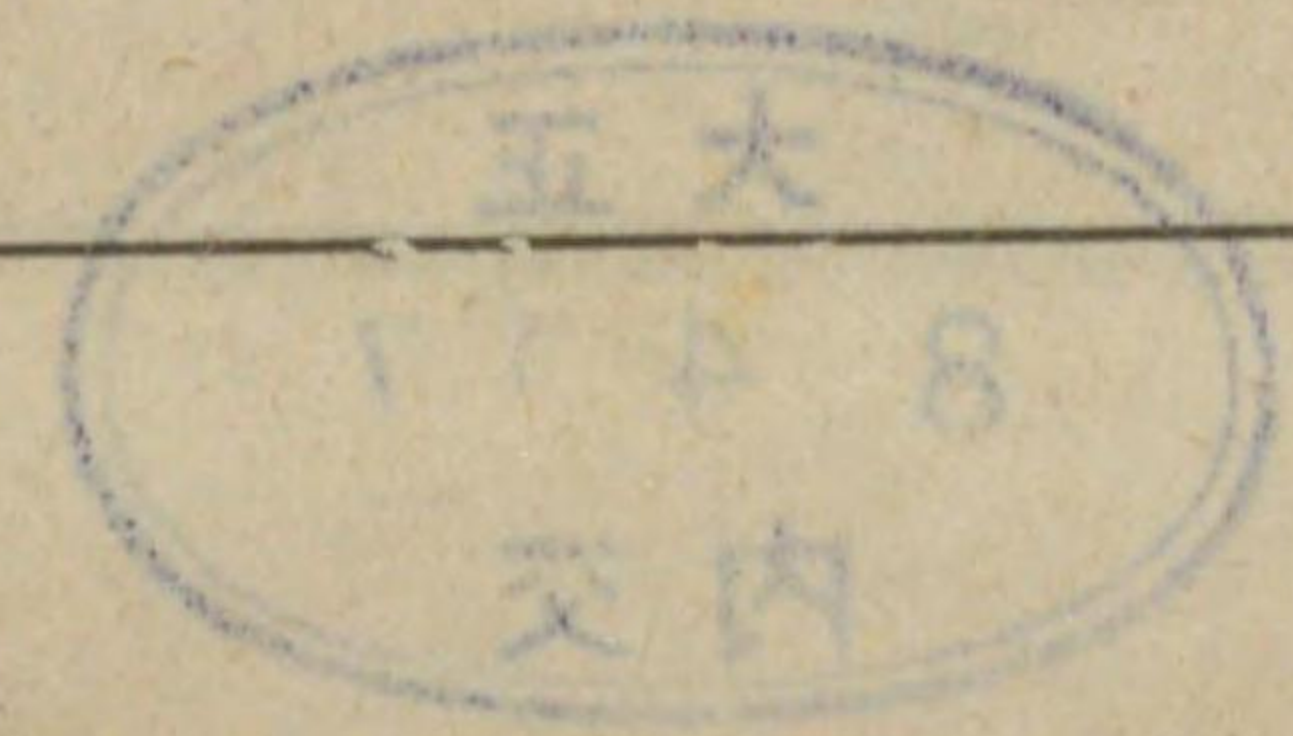
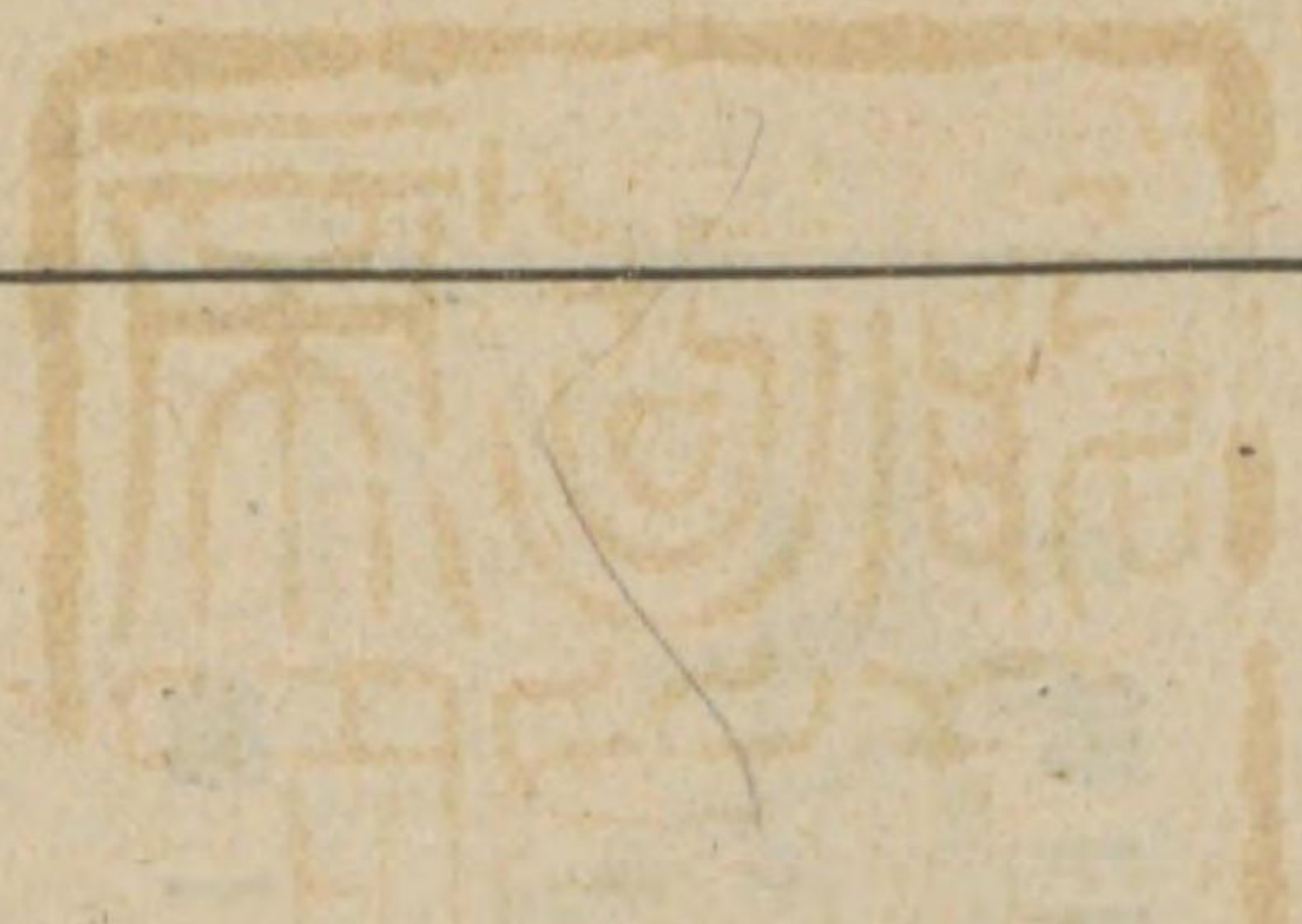
第一 本裁單合羽裁ち方積り方……………五五

第二 本裁單合羽標附け方縫ひ方順序……………五五

第七章

本裁男袴

第一 男袴各部の名稱……………五五



第二	本裁男袴普通仕立上げ寸法及び割り出し方	六二
第三	本裁男袴裁ち方積り方	六三
第四	部分縫 袴の腰板	六四
第五	本裁男袴標附け方	七一
第六	本裁男袴縫ひ方順序	七一
第七	十布遣ひ男袴	八一
第八	半十布遣ひ男袴	八三
第九	本裁男袴各種裁ち方積り方	八四
第八章 中裁小裁男袴		
第一	中裁小裁男袴普通仕立上げ寸法及び割り出し方	八六
第二	中裁小裁男袴裁ち方積り方	八七
第三	中裁小裁男袴標附け方縫ひ方順序	九三
第九章 丸帯男帯		
第一	丸帯	九三

第二	男帯	九三
第十章 本裁女小袖		
第一	本裁女小袖裁ち方積り方及び標附け方	九六
第二	本裁女小袖縫ひ方	九七
第十一章 本裁女小袖重ね		
第一	本裁女小袖重ね下著寸法詰め方	一〇〇
第二	本裁無垢の裁ち方積り方	一〇〇
第三	本裁女小袖重ね標附け方	一〇五
第四	本裁女小袖重ね縫ひ方順序	一〇六
第十二章 本裁單衣重ね		
第一	本裁單衣重ね裁ち方積り方	一〇七
第二	本裁單衣重ね標附け方	一〇七
第三	本裁單衣重ね縫ひ方順序	一〇八

第十三章

比翼

- 第一 本裁比翼裁ち方積り方……………一三二
- 第二 本裁比翼標附け方……………一三三
- 第三 本裁比翼縫ひ方順序……………一三七

第十四章

夜著蒲團

第一節

夜著

- 第一 夜著各部の名稱……………一三三
- 第二 中夜著普通仕立上げ寸法……………一三六
- 第三 中夜著裁ち方積り方……………一三六
- 第四 中夜著標附け方……………一三七
- 第五 中夜著縫ひ方順序……………一三一
- 第六 大夜著・小夜著……………一三三

第二節

蒲團

- ……………一三五

第十五章

蚊帳

- 第一 蚊帳各部の名稱……………一三六
- 第二 蚊帳積り方……………一三七
- 第三 蚊帳縫ひ方順序……………一三九

第十六章

股引

- 第一 股引各部の名稱……………一四一
- 第二 本裁股引普通裁ち切り寸法及び割り出し方……………一四三
- 第三 本裁股引(袷)裁ち方積り方……………一四五
- 第四 本裁股引(袷)縫ひ方順序……………一四七

第十七章

足袋

- 第一 足袋裁ち方……………一四九
- 第二 足袋縫ひ方順序……………一五一

第十八章

ミシン使用法

- ……………一五四

第十九章 涎掛……………一五九

第一 涎掛裁ち方……………一五九

第二 涎掛縫ひ方順序……………一六〇

第二十章 割烹前掛……………一六二

第一 割烹前掛各部の名稱……………一六二

第二 割烹前掛裁ち方積り方……………一六三

第三 孔縫り……………一六三

第四 割烹前掛縫ひ方順序……………一六四

第二十一章 小兒前掛……………一六六

第一節 小兒前掛(二・三歳用)……………一六六

第一 小兒前掛(二・三歳用)裁ち方……………一六七

第二 小兒前掛(二・三歳用)縫ひ方順序……………一六八

第二節 小兒前掛(四・五歳用)……………一六九

第一 小兒前掛(四・五歳用)裁ち方……………一六九

第二 小兒前掛(四・五歳用)縫ひ方順序……………一七〇

第二十二章 シヤツ……………一七一

第一節 本裁シヤツ……………一七一

第一 本裁シヤツ各部の名稱……………一七一

第二 本裁シヤツ普通裁ち切り寸法……………一七二

第三 本裁シヤツ裁ち方積り方……………一七三

第四 本裁シヤツ縫ひ方順序……………一七七

第二節 中裁・小裁シヤツ……………一八〇

第一 中裁・小裁シヤツ普通裁ち切り寸法……………一八〇

第二 中裁・小裁シヤツ裁ち方積り方……………一八二

第二十三章 ズボン下……………一八四

第一節 本裁紐附ズボン下……………一八四

第一 本裁紐附ズボン下各部の名稱……………一八四

第二 本裁紐附ズボン下普通裁ち切り寸法……………一八四

第三 本裁紐附ズボン下裁ち方積り方……………一八五

第四 本裁紐附ズボン下縫ひ方順序……………一八七

第二節 本裁胴廻し附ズボン下……………一九一

第一 本裁胴廻し附ズボン下裁ち方積り方……………一九一

第二 本裁胴廻し附縫ひ方順序……………一九三

第三節 中裁・小裁ズボン下……………一九三

第一 中裁・小裁ズボン下普通裁ち切り寸法……………一九四

第二 中裁・小裁ズボン下裁ち方積り方……………一九五

第二十四章 小兒帽子……………一九八

第一節 夏帽子……………一九八

第一 夏帽子(三四歳用)裁ち方……………一九八

第二 夏帽子(三四歳用)縫ひ方順序……………二〇〇

第二節 雪帽子……………二〇二

第一 雪帽子(一二歳用)裁ち方……………二〇三

第二 雪帽子(一二歳用)縫ひ方順序……………二〇三

附 録

第一章 女兒洋服……………二〇五

第一節 女兒洋服寸法取り方……………二〇八

第二節 女兒洋服製型法……………二一〇

第一 身頃元型……………二一〇

第二 袖元型……………二一四

第三節 女兒股引……………二一六

第一 女兒股引寸法取り方……………二一六

第二章 女兒股引製型法……………二二七

 第一節 女兒股引積り方裁ち方……………二二七

 第二節 女兒股引縫ひ方順序……………二二七

 第三節 女兒股引縫ひ方順序……………二二七

 第四節 女兒襦袢……………二二七

 第一節 女兒襦袢裁ち方……………二二七

 第二節 女兒襦袢縫ひ方順序……………二二七

 第五節 胸繼形女兒洋服(四・五歳用)……………二二七

 第一節 胸繼形女兒洋服積り方……………二二七

 第二節 胸繼形女兒洋服裁ち方……………二二七

 第三節 胸繼形女兒洋服縫ひ方順序……………二二七

 男兒洋服……………二二七

 第一節 男兒洋服寸法取り方……………二二七

 第二節 男兒洋服製型法……………二二七

 第一節 身頃元型……………二二七

 第二節 袖元型……………二二七

 第三節 半ズボン元型……………二二七

 第三節 折衿男兒洋服(四・五歳用)……………二二七

 第一節 折衿男兒洋服裁ち方……………二二七

 第二節 折衿男兒洋服縫ひ方順序……………二二七

 第四節 廻し外套……………二二七

 第一節 廻し外套裁ち方……………二二七

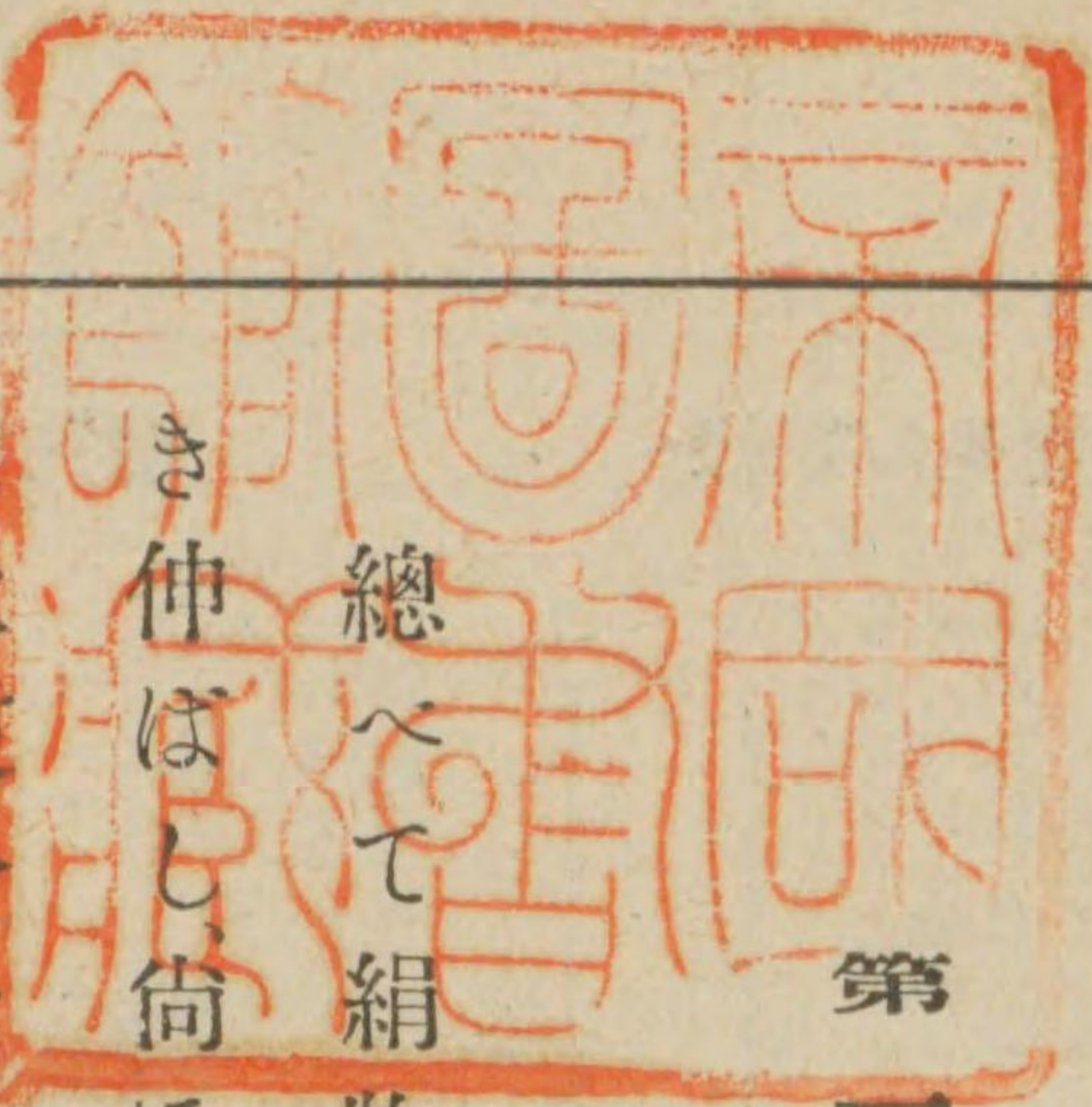
 第二節 廻し外套縫ひ方順序……………二二七

——(目次終)——

裁縫新教科書 下卷

第一章 絹布毛織

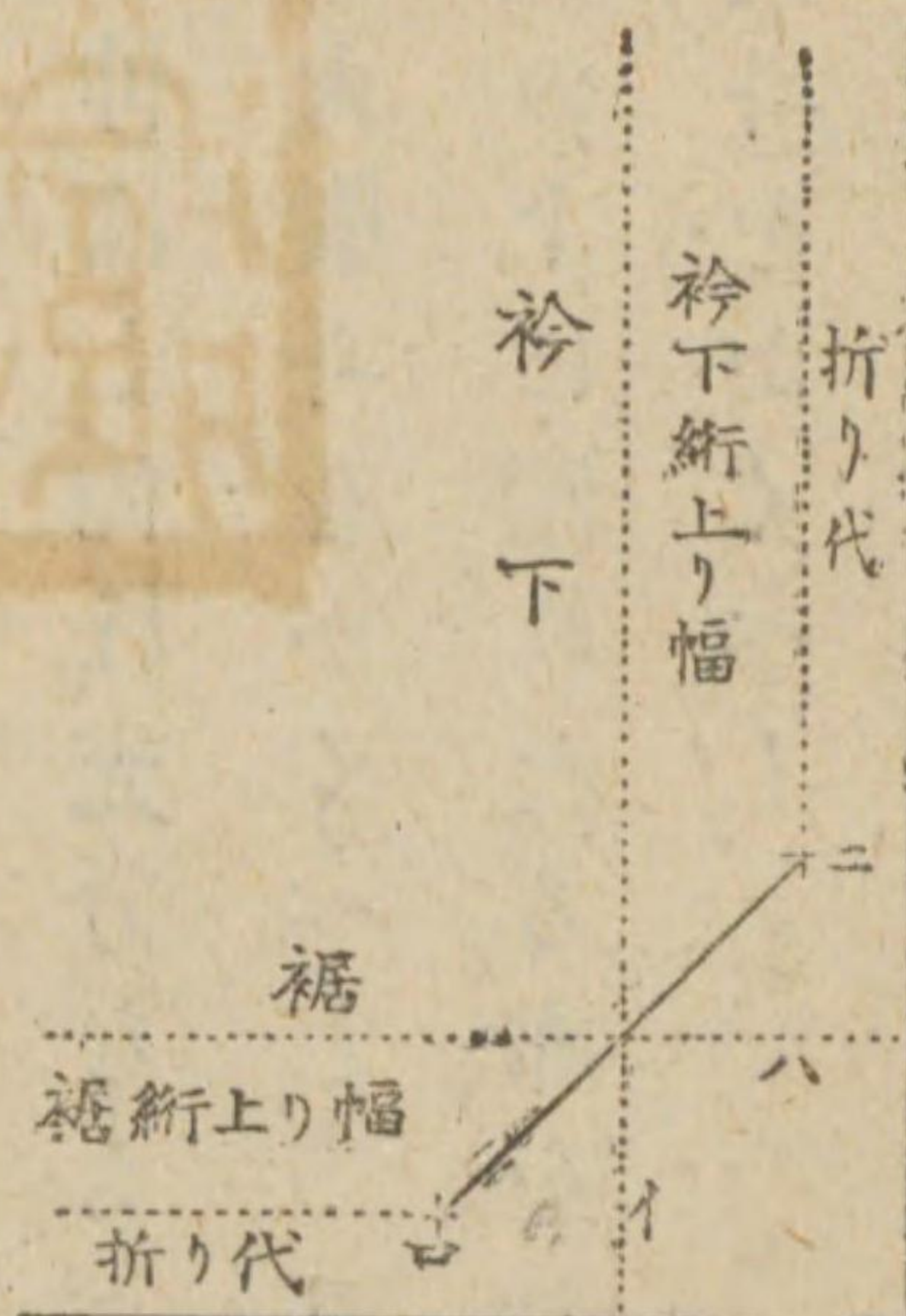
第一 絹布單衣



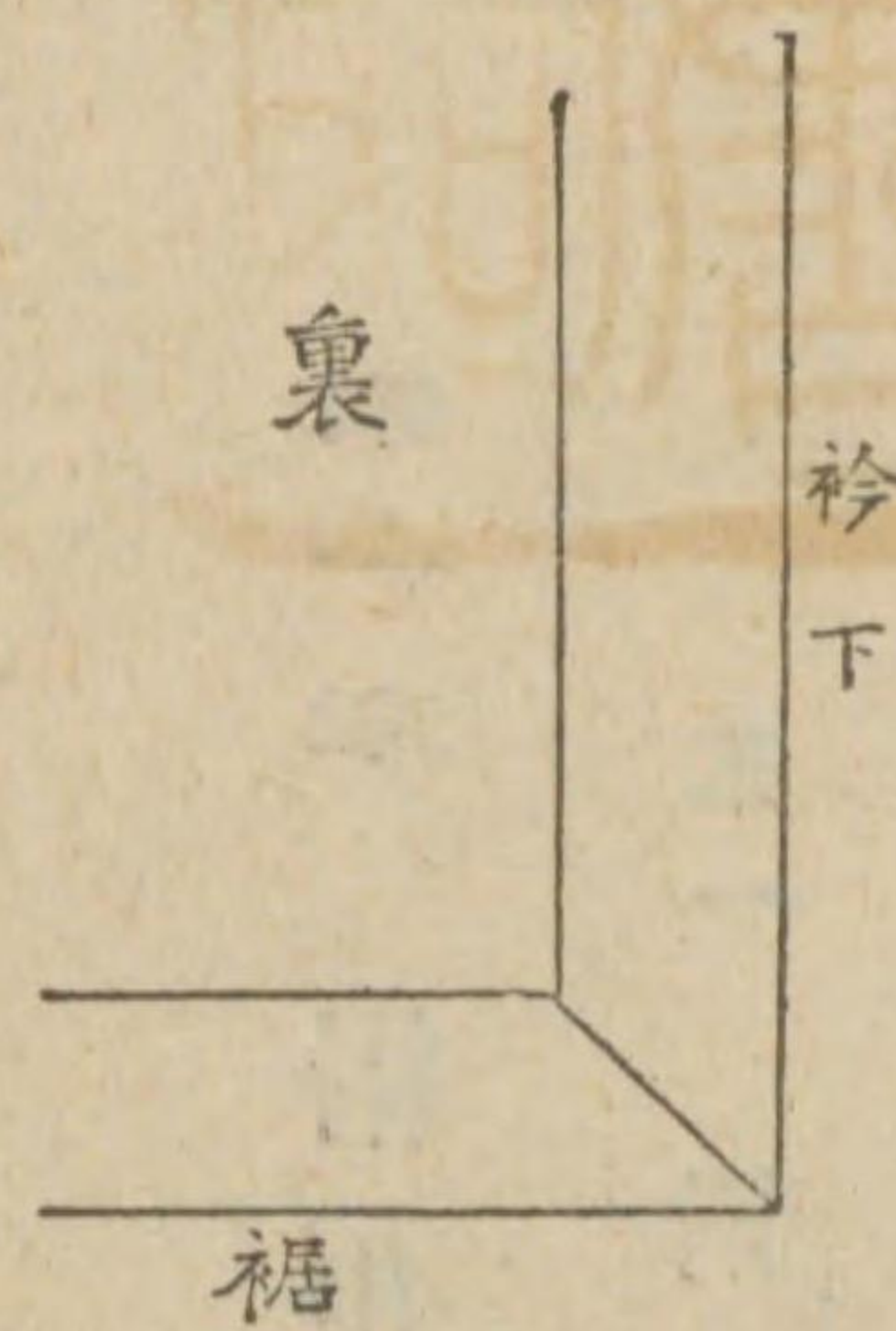
總へて絹物の地伸しをなすには、耳の張れる品は、烙鏝にて引き伸ばし、尙ほ充分ならざるときは、耳の所々に鉄を入れて、總體に火熨斗をかくべし。耳の弛める品は、乾きたる白布を敷きて、其の上に濡れたる布を當て、又は直に濡紙ぬれがみを當て、其の上より火熨斗をかくべし。

絹布單衣の裁ち方、積り方、仕立上げ寸法、標附け方等は、綿布單

袷先額縁の標付け方



袷先の額縁



衣に同じ。

縫ひ方も亦略、綿布単衣に同じと雖も、其の異なる所を擧ぐれば、總體に針目を細かくし、縫ひ目に烙鏝をかゝること、脇衽振りの縫ひ込みの耳を折りて、拵け附くること、又衽の袷先を額縁になすこと等なり。

額縁の標付け方は上圖の如し。

縫ひ方は圖のロとニとを合せて待針を打ち、標通り半返しに縫ひ、縫

ひ目を割りて、常の如く衿下及び裾を拵けるなり。

仕上げをなすには大幅二尺許りの新モスの切れを用ひ、其の

上より火熨斗又はアイロンを掛くるなり。

透織すきおりの如き薄物の場合には肩當居敷當を用ひず、脊の縫ひ代に共切れを當て、脊縫をなし、縫ひ代を包みて、縫ひ目に拵け附くるなり。

第二 毛織單衣

一、標付け方 布の据ゑ方は綿布の時と異なることなし。

但し、袖は内袖の方を五厘程引きて、二つに折り、標を附くるなり。標を附くるには篋の代りに「チヨトク」を用ひて切り躰をなすべし。

二、縫ひ方順序 縫ひ方の順序は、綿布單衣に同じ。

袷先は額縁となし、脊、脇、袖附は半返しに縫ふべし。

ネル地の場合には、袖附と脇縫とは縫ひ目を割り、袖口・衿下・裾は三つ折りになし、脇・衿・袖下・振り等の縫ひ込みは其の儘にし、總べて千鳥をかくべし。

セル地の場合には、袖附と脇縫とはネル地の如く縫ひ目を割り、脇・衿・袖下・振り等の縫ひ込みは其の端を折りて、千鳥縫又はまつり縫になすべし。

仕上げには霧を吹きてアイロンをかくるなり。

第三 絹布毛織の繕ひ方

- 一 接ぎ方 片返し・割り接ぎ・掛け接ぎ・織り接ぎ・突き合せ接ぎ

接ぎ方には解し絲又は共色の絲を用ひ、時としては生絲を用

ふることあり。針は掛け接ぎ用の細きものを用ふ。

一、片返し 綿布のときに同じ。但し、針目は成るべく細かきを良しとす。

二、割り接ぎ 綿布のときに同じ。其の仕上げ方は縫ひ目を割り、姫糊又は續飯の淡くしたるを、針尖にて、裏より接ぎ目に引き、表裏に烙鋺をかくるなり。

三、掛け接ぎ 綿布のときに同じ。其の仕上げ方は割り接ぎにつきて述べたる如し。

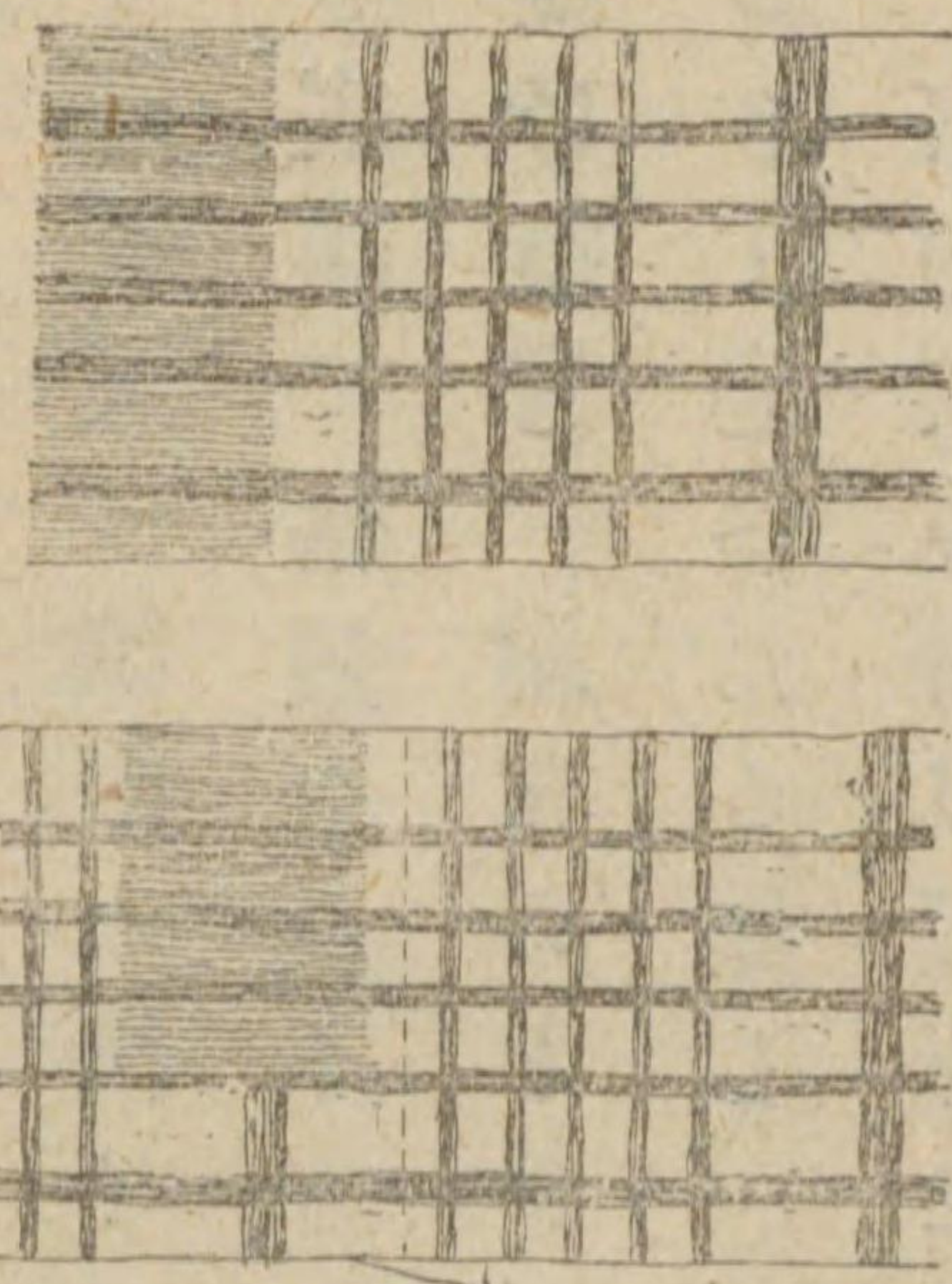
縮緬類の掛け接ぎには、先づ、縞目及び布目に従ひて接ぎ代を折り、次に、西の内又は厚美濃の類を縦に六七分の幅に裁ち切り、之れを接ぎ代の折りの間に挿みて、躰をかけ置き、双方の折り山を正しく合せて、躰を施し、經絲凡そ二本おきに、緯絲一

本を抄ひて、五六針ことに一針つゝスカラ掛けになし、後ち、紙を除き、割り接ぎの如く仕上げをなすなり。

四、織り接ぎ

先づ一方の布を二寸程解し置き、双方の縞目及び

織り接ぎ



布目を見合せ、三分程重ねて、解したる糸を一本宛針に通して、他方の布の緯糸を抄ひ、織地の通りに、五六分刺し行き、糸を引き締めて、よく接ぎ目を合せ、後ち、糸及び布の餘りを切り去り、烙鏝をかくるなり。

五、突き合せ接ぎ

厚地の毛織物には多く此の接ぎ方を用ふ。

其の仕方は、先づ能く毛並・縞目等を見て、裁ち目を突き合せ、双方とも三四分程、織地を刺して接ぎ合せ、烙鏝をかけ、後ち、刷毛

にて毛並を整ふるなり。

二 継ぎ方 色紙継ぎ・刺し継ぎ・孔継ぎ

継ぎ方には、すべて解し糸又は共色の継ぎ糸を用ひ、針は継ぎ針を用ふ。

一、色紙継ぎ

綿布のときと同様なり。但し、針目は三日落しと

し、極めて細かなるをよしとす。

二、刺し継ぎ

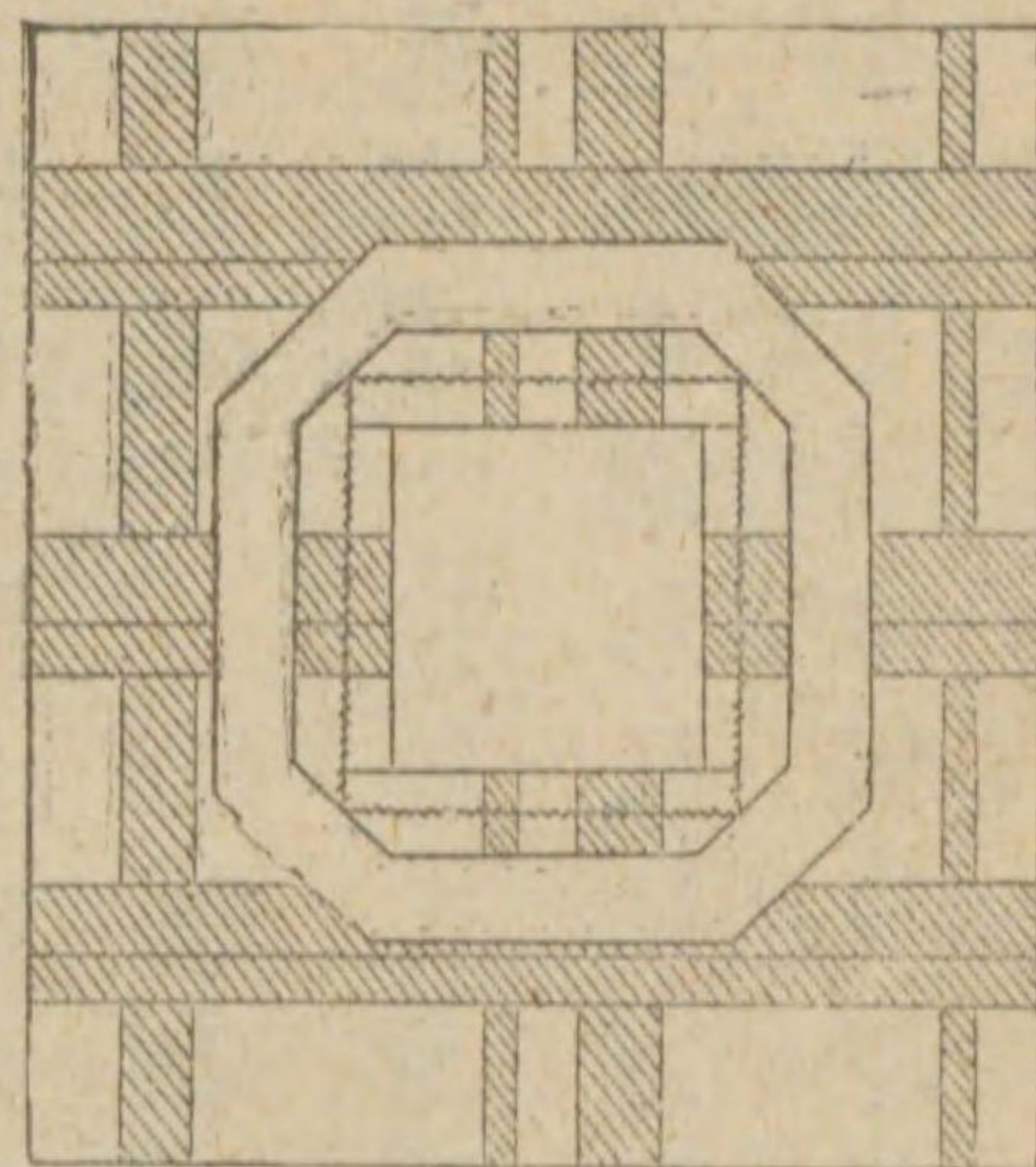
綿布のときと同じ。

三、孔継ぎ

損所よりも稍大なる厚紙を用ひ、損所の形に應じて、

之れを圓形又は方形に切り抜き置き、先づ綿布のときの如く、損所を切り去り、厚紙を裏に當て、麩にて留め、損所の周圍に切り込みを入れて、縫ひ代を裏へ折り返し、其の端に少しく糊

孔 繼



を引き、烙鏝にて厚紙に貼り、次に、當切れを裁ち切り、前に切り抜きたる厚紙を其の裏に當て、能く縞目・布目を合せて、縫ひ代を裏に貼り付け、之れを損所に填め込み、廻りを適宜に躰にて押へ置き、双方の折り山を極めて細かく締め、二分置き位に一針づつ返して繼ぎ合せ、後ち、双方の紙を除き去り、仕上げをなすなり。

厚地の毛織類には厚紙を用ひず、損所と同形同大に當切れを裁ち切り、能く毛並・縞目等を見て、之れを損所に填め込み、廻りを適宜に躰にて押へおき、針目の表面に出でざるやう、布の厚みを抄ひて、突き合せ接ぎになすべし。

第二章 腹合せ帯

腹合せ帯は晝夜帯とも云ひ、兩側^{かは}別々の帯地を縫ひ合せたるものにて、丈は一丈乃至一丈一尺、幅は八寸五分内外を通常とす。

第一 腹合せ帯標付け方

先づ火熨斗にて帯地の伸び縮みを正し、品質により霧をかき、耳の厚き品は耳だけを裁ち落とし、薄地にて耳の張れる品は銕を斜に浅く入れ、能く總體を平し、其れより、表を中にして兩側を重ね、幅の中央に待針を打ち、兩端の布目を合せて、假綴をなし、能く幅と丈との釣合を正し、兩脇に待針を打ち、假綴をなし、然る後ち、出來上り幅より一分廣くして、幅標を附く。

第二 腹合せ帯縫ひ方順序

一、一方の脇の中程を一尺許り(帯幅に一・二寸を加へたる寸法)残して、厚地の品は一針抜きに、薄地の品は小針に縫ひ、角の所は二分程縫ひ残り、又は一寸許りの間、幅標より少しく外を縫ひ、両端の全部と両脇の角より二・三寸の間は半返しに縫ひ、平烙を掛け、其れより、両端を厚地の側の方へ一分被せに折りて、両脇の縫ひ代に綴ち附け、次いで、両脇を五厘の被せに折る。

二、心の拵へ方 通常三河本綿を用ひ、一枚心のときは上り幅と同寸に裁ち切り、二枚心のときは一枚は前の如く同寸に裁ち、他の一枚は両脇の縫ひ込みだけ狭く裁ち落とし、(厚地の場合には両端をも縫ひ込みだけ裁ち落とすとあり)之を綴ち合すなり。

三、心の入れ方 心の片面(二枚心のときは狭く裁ち切りたる心の方)に真綿を引き、火熨斗をかけて綿を押へ、帯側の縫ひ込みを折りたる上に、真綿を引きたる方を下にして、心を載せ、心を弛めにして、幅の中央に待針を打ち、先づ、両脇を綴ち、次に、両端を綴ちつけ、又其の上に真綿を引きて、火熨斗をかけ、前に縫ひ残り置きたる所より引き返して、幅及び丈を整へ、縫ひ残しの部分は先づ心を縫ひ込みに綴ち附け、後ち小針に拵けるなり。

(注意) 紋羽の類を心とし、真綿を用ひざることあり。

四、躰かけ方 角及び總體の縫ひ目を正し、一分五厘程内に、両脇は八分位の針目に躰をかけ、両端は両脇の一分五厘を除き、残りを十分して針目を定め、躰をなし、再び針目の間に、躰をかくるなり。

五、仕上げ方

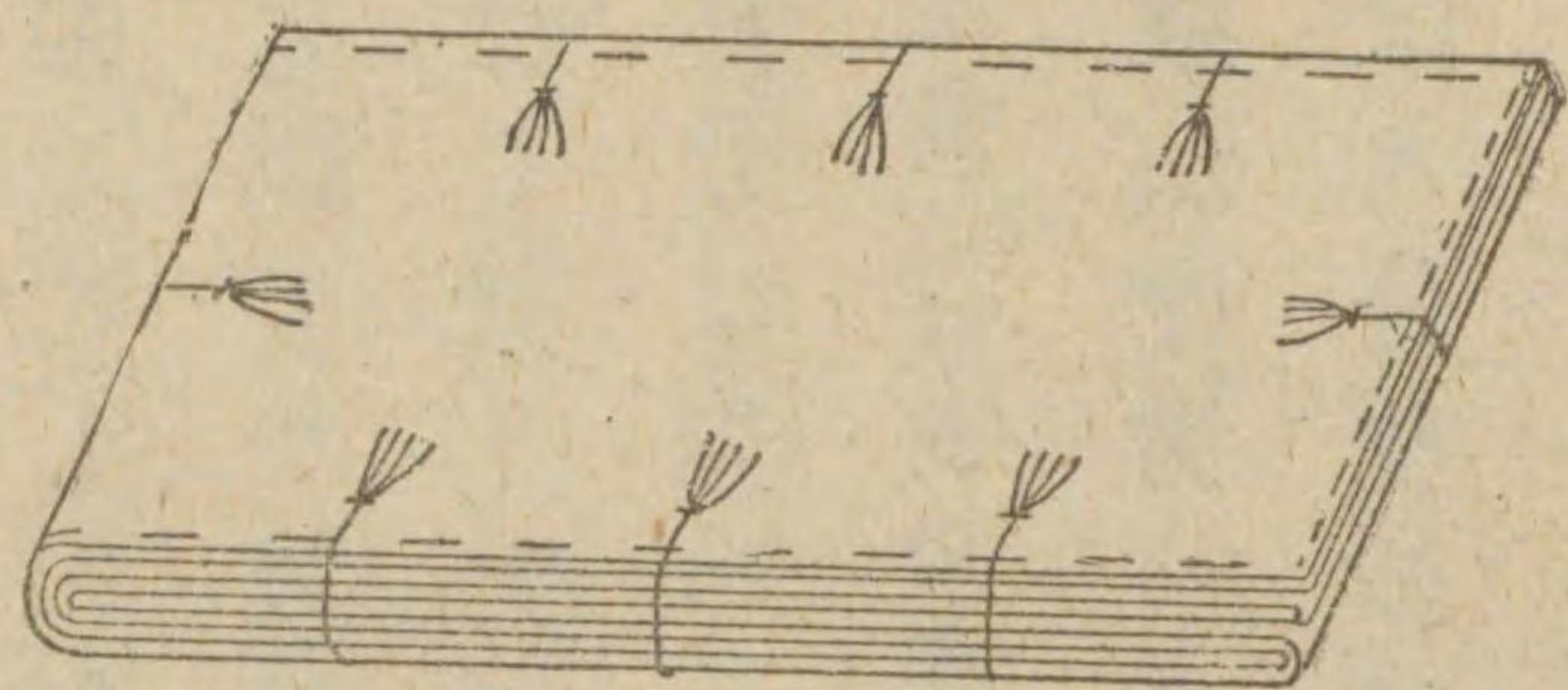
火熨斗をかけて仕上げをなし、丈を八つに折り、兩

端の中央を八分の深さに綴ち、其の間を六分し、之れに八分を加へたる寸法だけ、兩端より内に入り、兩脇の凡そ六分内を綴ち、又其の間にも、圖の如く綴ちを施し、壓しを置くなり。

〔注意〕 縮緬の類を帯側に用ふるときは、先づ其の伸び工合を調べ、其の寸法だけ、丈幅共に張り目に縫ひ合すべし。

又絹紗の類を帯側に用ふるときは、二枚の心を綴ち合せ、一枚心のときの如く裁ち切り、心の間に帯側の縫ひ込みを挟みて綴ち合すべし。

腹合せ帯の疊み方綴ち方



〔設問〕

- (1) 帯心の拵へ方及び入れ方を説明せよ。
- (2) 帯の角を正しく仕立てんには、如何なる點に注意すべきか。

附 女兒帯

女兒帯の丈及び幅は女兒の年齢によりて様々なれども其の寸法は大略左の如し。

丈…八 尺 幅…四・五 寸

丈…一 丈 幅…六・七 寸

一、標附け方 先づ、地伸しをなし、幅を中表に二つに折りて、假綴をなし、出來上り幅より五厘程廣くして、幅標を附く。

二、縫ひ方 一側の中央を五・六寸より七・八寸(帶幅に一・二寸を加へたる寸法)殘して、腹合せ帯のときの如く縫ひ、平烙鍔をかけ、折りを附く。

心地は腹合せ帯のときの如く、上り幅と同寸に裁ち切り、片

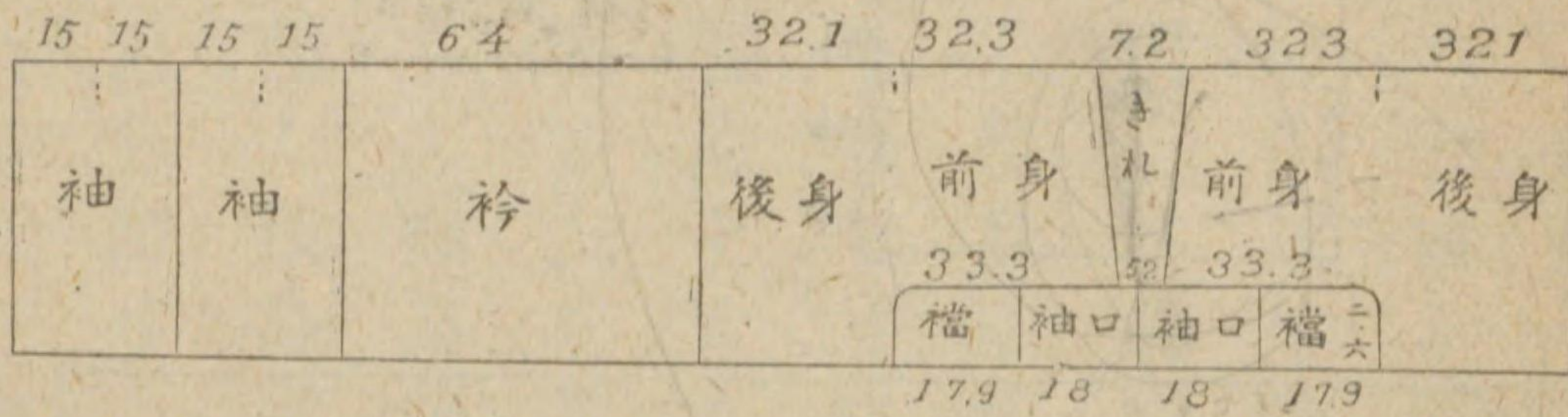
面に眞綿を引きて火熨斗をかけ、之れを帯側の上に載せ心を
稍弛めにして、縫ひ代に綴ち付け、又眞綿を引き、前に縫ひ残し
置きたる所より引き返し、能く角を整へ、縫ひ残したる小針に
け、躰をかけ、其れより、腹合せ帯のときの如く疊み、綴をなし、
しをおくなり。

第三章 本裁男單羽織

第一 本裁男單羽織裁ち方積り方

用布の總尺充分なるときは棒襠裁を用ひ、其の不足なるとき
は釣襠裁になすべし。

並幅二丈六尺にて男單羽織棒襠裁ち方並に裁ち切り寸法
(袖丈一尺四寸五分身丈二尺七寸)



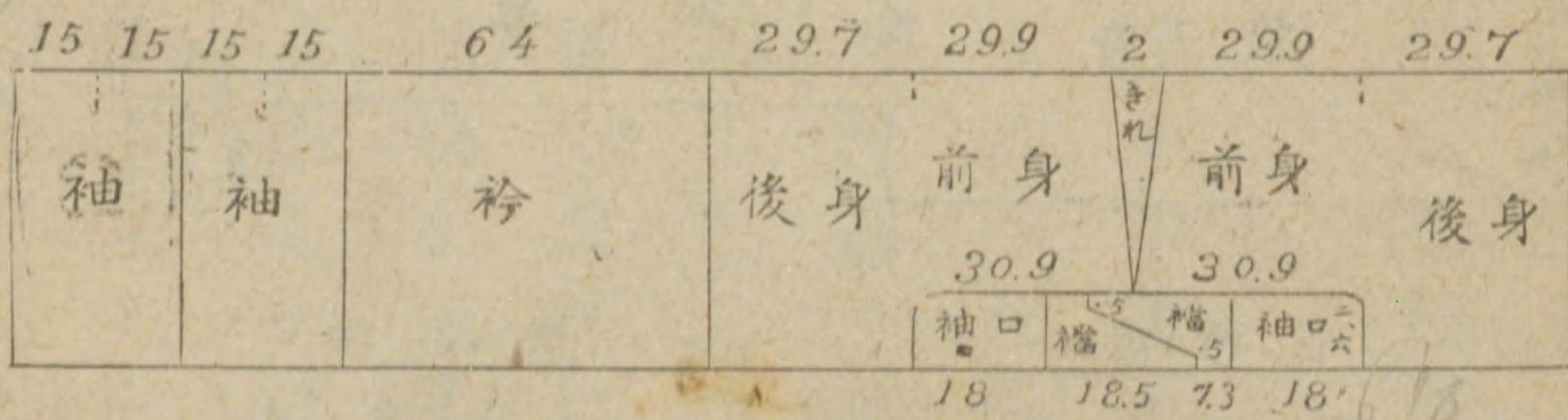
積り方

$$\{ \text{用布の總尺} - (\text{袖丈} \times 4 + \text{衿丈} + \text{襠の補ひ寸法}) \} \div 4 = \text{後丈}$$
$$\{ 260 - (15 \times 4 + 64 + 7.6) \} \div 4 = 32.1$$

$$\text{後丈} + \text{肩の繰り越し} = \text{脇丈} \quad \text{脇丈} + \text{前下り} = \text{前丈}$$
$$32.1 + 2 = 32.3 \quad 32.3 + 1 = 33.3$$

$$(\text{袖口切れ} + \text{襠丈上り} + \text{襠上の縫ひ代} - \text{前脇丈}) \times 2 = \text{襠の補ひ寸法}$$
$$(18 + 12.9 + 3 - 27.4) \times 2 = 7.6$$

並幅二丈四尺五寸二分にて男單羽織釣襠裁ち方並に裁ち切り寸法
(袖丈一尺四寸五分身丈二尺七寸)

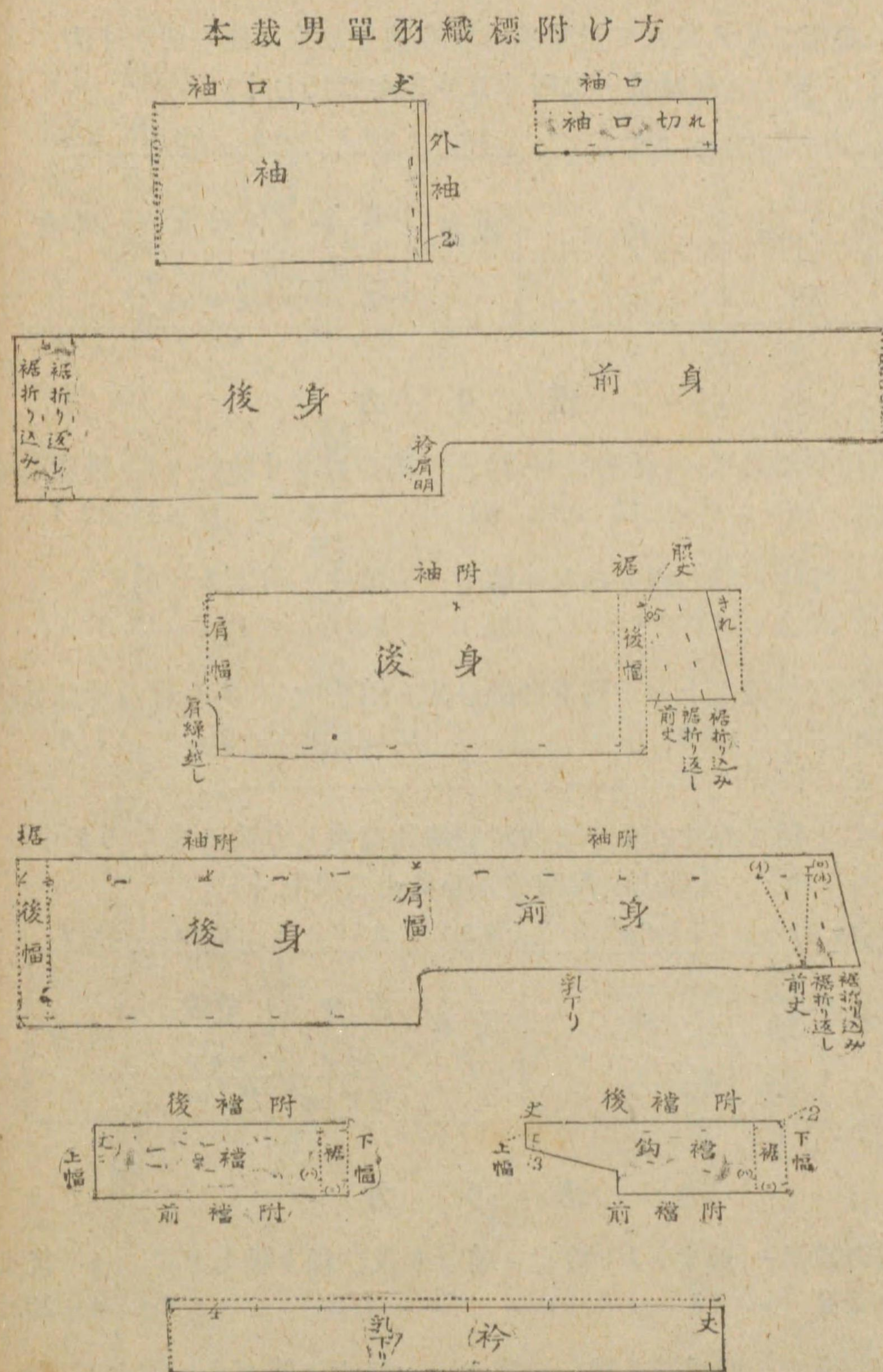


積り方

$$\{ \text{用布の總尺} - (\text{袖丈} \times 4 + \text{衿丈} + \text{前下り} \text{及び} \text{繰り越し} \times 2) \} \div 4 = \text{後丈}$$
$$\{ 245.2 - (15 \times 4 + 64 + 1.2 \times 2) \} \div 4 = 29.7$$

$$\text{後丈} + \text{肩の繰り越し} = \text{脇丈} \quad \text{脇丈} + \text{前下り} = \text{前丈}$$
$$29.7 + 2 = 29.9 \quad 29.9 + 1 = 30.9$$

第二 本裁男單羽織標付け方



一、袖 内袖を二分程引きて、袖を中表に二つに折り、本裁綿入羽織の表袖と同様に標をなし、袖口切れには丈幅を標し、袖より五厘引きて袖口標を附く。

二、身頃 本裁綿入羽織のときの如く、身頃を中表に重ね、後丈を標し、後身頃の餘りを二分し、之れに五厘加へたるものを、裾の折り返し寸法として、標をなし、二枚とも標通り裏の方へ折り返して假綴をなし、肩繰り越し一分の所を肩山として、後身頃を前身頃の上に折り重ね、山・袖附・脊・肩幅を標し、又裾口に後幅の標をなし、後身頃の裾口より五厘下りて前脇丈一寸下りて前丈を標し、後身頃の寸法に倣ひて、裾の折り返しの標を附け、餘分を裁ち落す。

其れより、後身頃を開きて、前身頃に前幅を標し、前脇丈より

上方に裾の折り返し寸法を計りて、假にイを標し、之れより前丈までの寸法を取りて、裾の折り返し標に口の假標をなし置き、後ち、常の如く乳下り、後幅等の標を附く。

三、**襠** 襠丈に上方の縫ひ代三分ほど加へて、裾の折り山を定め、其れより、折り返しの寸法を標し、後身頃の裾の如く折りて假綴をなし、裾口の後襠附の縫ひ代二分を標して、襠の下幅の標をなし、常の如く丈、上幅、後襠附を標し、裾の折り返しの山を除きて、前襠附の標を附け、裾の折り返しの山には、縫ひ代を一ばいに標し、ハ・ニの寸法を、前身頃の假標ロより計りて、裾の折り返しの山にホの標を附く。

四、**衿** 本裁衿羽織のときに同じ。

以上は棒襠裁の標附け方なり。 鈎襠裁に於ては襠の鈎の

方を前襠附となし、棒襠裁のときの如く、襠の裾を折りて假綴をなし、裾口の後襠附の縫ひ代二分を標して、襠の下幅を定め、襠丈の所にて、前襠附の方より縫ひ代三分を標し、更に後へ一分を計りて、上幅の標をなすなり。

又鈎襠の丈は前襠附の方較長きが故に、前身頃には幅と前丈とのみ標し置き、襠標を終りて後ち、前襠附の丈を計りて、前脇丈の標を附け、其れより、前下り及び裾の折り返し標を附くるなり。

第三 本裁男單羽織縫ひ方順序

一、**袖** 袖口切れの下端を浅く折りて伏せ縫になし、之れを表袖に合せて、口明を縫ひ、袖の方に返し、袖口留を四つ留めになし、

其れより、常の如く袖下まで縫ひ廻し、袖幅の標を付け、袂の丸みを作り、袖下の外袖の縫ひ代にて、内袖の縫ひ代を包み、七八分の針目にて、表へ小針に締り附く。

袖口を毛抜き合せに折り、袖下まで躰をかけ、袖口切れの奥を五・六分の針目にて、表へ小針に締りつく。

二、脊縫後襠附 脊筋を二重に縫ひ、常の如く折る。(耳の色異なるもの又は耳に鉄を入れたるものは袋縫ひになすべし) 襠の上方を三つ折り、締りなしおき、襠を後身頃に縫ひ附け、身頃の方へ折る。

三、乳附及び衿附 前身頃の裾を三つ折りにして、假綴をなし、乳を前身頃に縫ひ附く。

衿の附け方は、袷羽織のときに同じ。

四、前襠附袖附及び裾締 前襠を前身頃に合せて、標通りに縫ひ、裾の折り返しは、前身のホ標と襠のニ標とを合せて、折り込みの山より一針先きまで縫ひ、身頃の方へ折り、裾を三つ折りにして、假綴をなし置く。

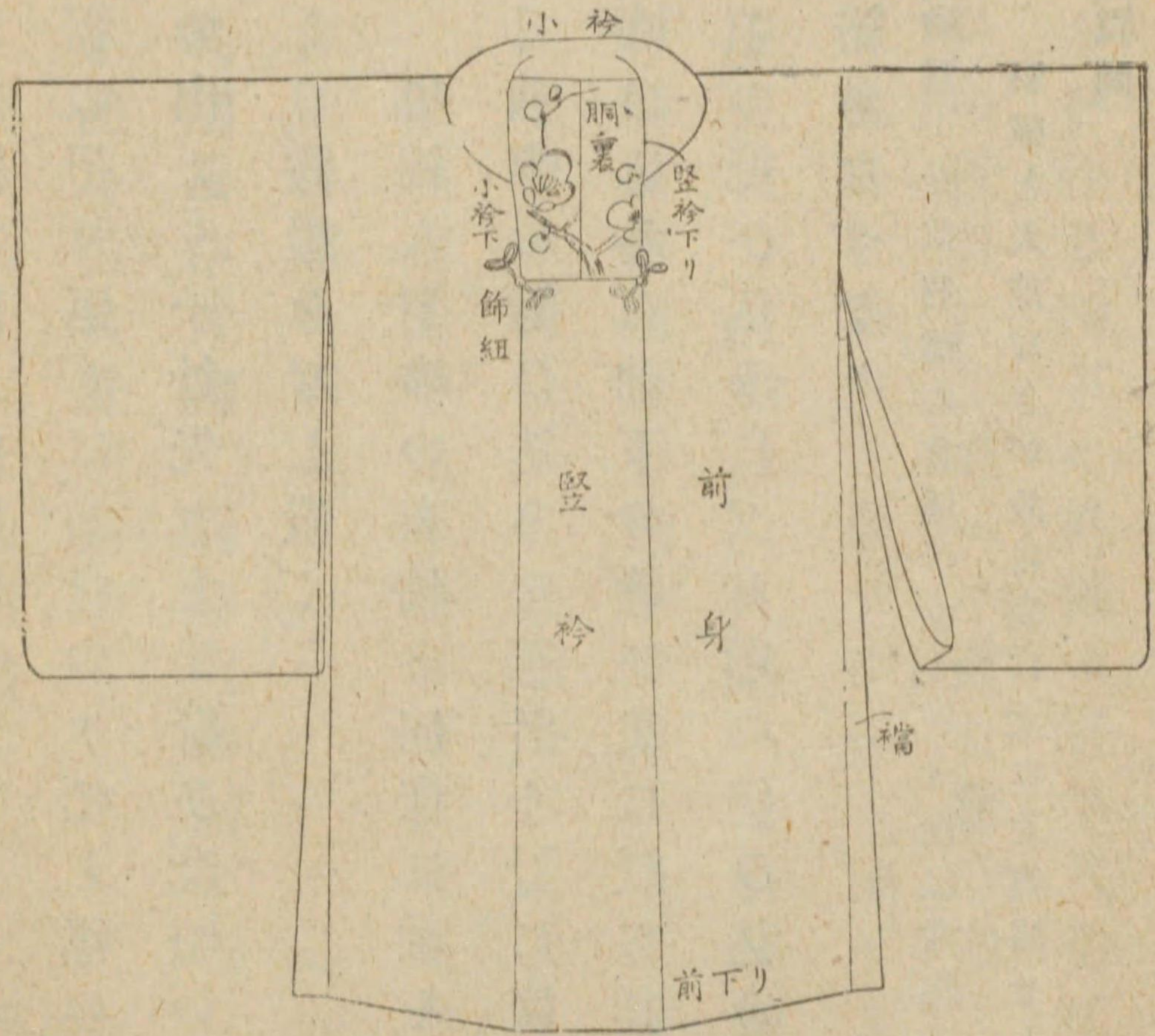
男綿入羽織の表袖と同様に袖を付け、袖の方へ折り、袖山にて袖幅の縫ひ込みを三針、小針に綴ち、袖附留の所も、亦袖幅の縫ひ込みを袖下の縫ひ代に綴ち、其れより、襠の縫ひ込みを身頃の縫ひ込みに、又身頃の縫ひ込みを身頃に締り附け、後ち、裾締をなすなり。

〔附言〕 女單羽織の普通仕立上げ寸法は女綿入羽織に同じ。其の仕立方は男單羽織と大差なきが故に、爰に之れを省略せり。

〔設問〕

(1) 男單羽織棒襠裁に於て袖丈を一尺四寸上りとし、其の他を總べて普通仕立

被布の圖



上げ寸法通りとせば襦の補ひ寸法は何程なりや。
 (2) 用布二丈六尺八寸にて女單羽織の裁ち方並に裁ち切り寸法を記せ。但し、袖丈は一尺六寸上り、身丈は二尺六寸五分とす。

第四章 本裁被布

第一 被布各部の名稱

第二 本裁綿入被布普通仕上げ寸法

豎衿下り……六寸 衿下りと同寸
 豎衿幅……上三寸五分、相襦幅と同寸
 小衿丈……一尺二寸 衿下りの凡そ二倍
 小衿幅……三寸内外 小衿丈の凡そ四分の一
 以上の外、總べて本裁羽織の仕立上げ寸法に同じ。

第三 本裁綿入被布裁ち方・積り方

豎衿丈を積るには、先づ身丈を定め、之れより豎衿下りの寸法を減じ、前下りの一寸と縫ひ代の一寸五分とを加ふべし。又小衿丈を積るには豎衿下りの寸法を二倍し、之れに一寸を加ふべし。其の他は總べて本裁羽織と異なることなし。

並幅二丈八尺三寸にて本裁綿入被布の裁ち方並に裁ち切り寸法
(袖丈一尺六寸身丈二尺六寸五分)

16.5	16.5	16.5	16.5	13	23	23	37	42	42	37
袖	袖	小表	小表	小表	後身	前身	前身	前身	後身	後身
		衿裏	衿裏	衿裏						
							襷	袖	中切れ	襷
							27	15	15	27

積り方

$$(用布總尺 - 袖丈 \times 4 - 小衿丈 - 豎衿丈 \times 2 + 前後の差 \times 2) \div 4 = 後丈$$

$$(283 - 16.5 \times 4 - 13 - 23 \times 2 + 5 \times 2) \div 4 = 37$$

$$後丈 + 前後の差 = 前丈$$

$$37 + 5 = 42$$

胸裏の裁ち方

16.5	16.5	16.5	16.5
袖裏	袖裏	後身	前身
		襷	襷
		後身	前身

積り方

$$(袖丈(仕立上) + 身丈) \times 8 + 小衿丈 + 豎衿丈 \times 2 + 總縫ひ代 - 表用布の總尺 = 裏用布の總尺$$

$$(16 + 265) \times 8 + 13 + 23 \times 2 + 16.4 - 283 = 132.4$$

〔注意〕 總縫ひ

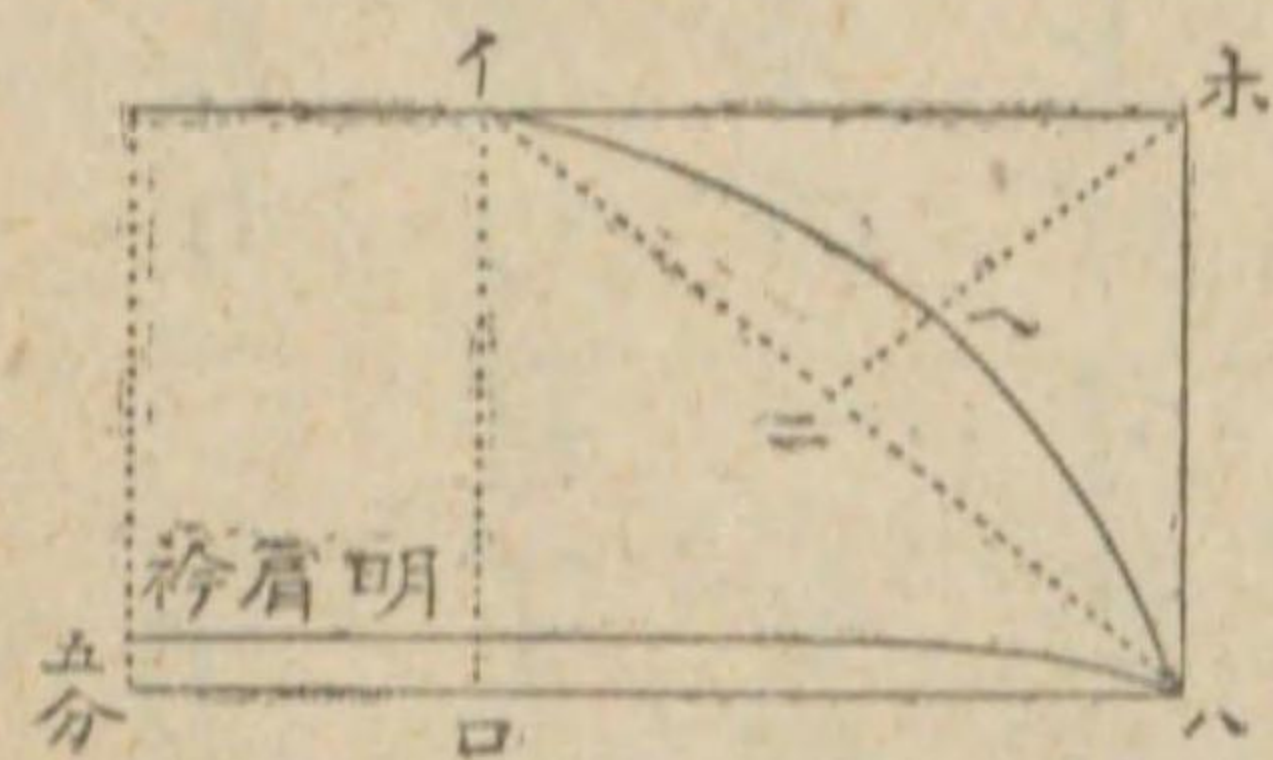
代の見込み
は袖に四寸
身頃に四寸
前下りに六寸
寸衿に二寸
四分合計一
尺六寸四分
とす。

〔設問〕

並幅二丈八尺七寸にて本裁被布を裁つに、身丈を二尺六寸五分とし、袖丈を一

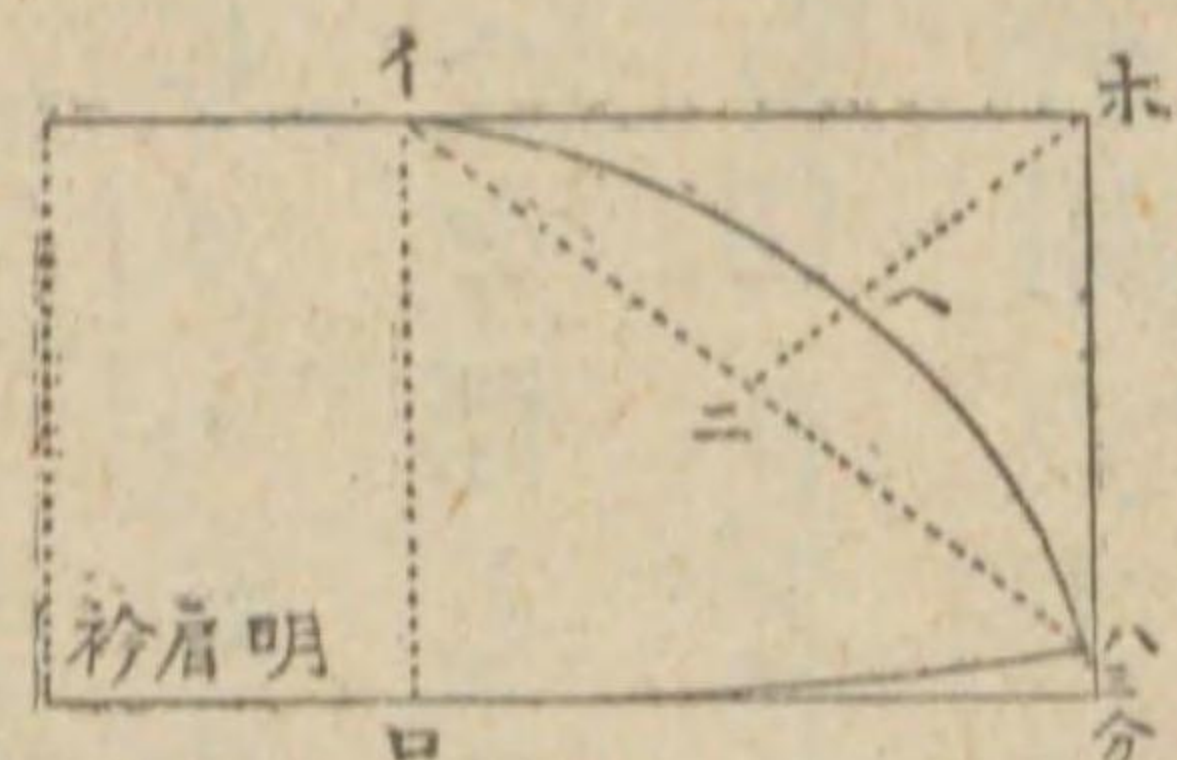
第二圖

小衿にて身頃を挟む仕立



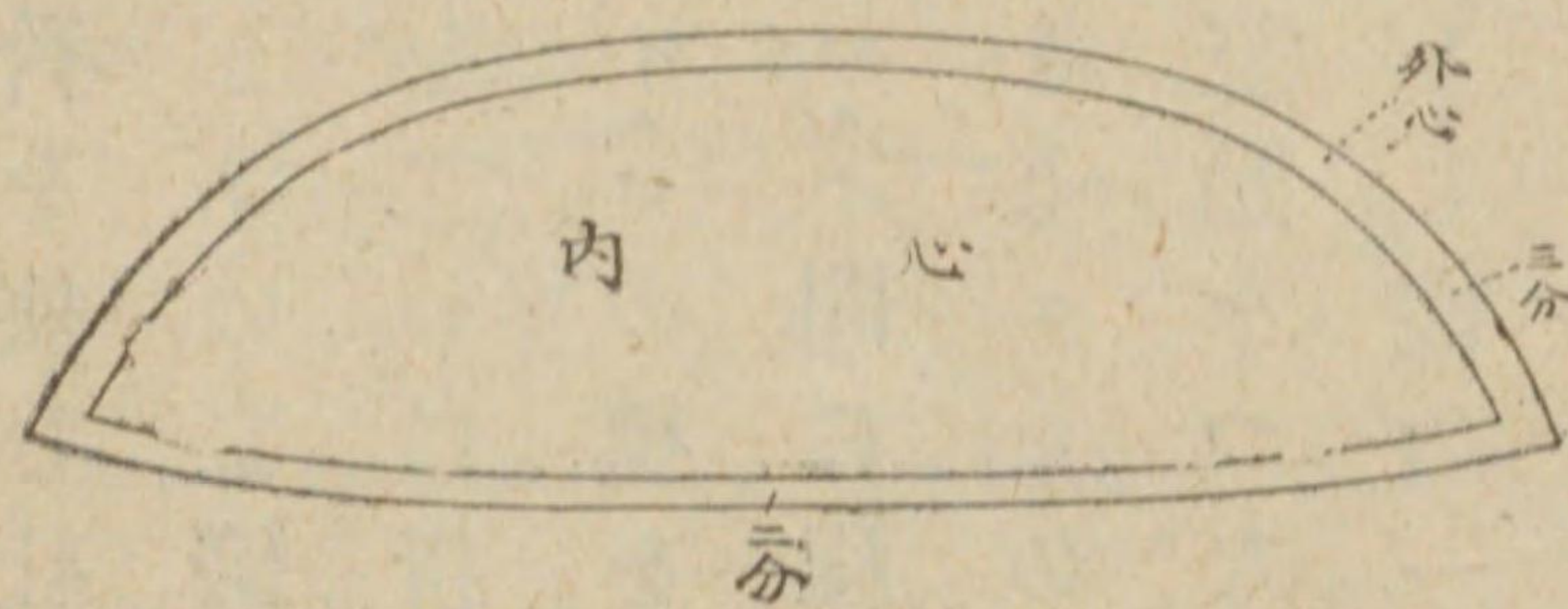
第一圖

身頃に小衿を挟む仕立



第三圖

身頃に小衿を挟む仕立



第四 部分縫 小衿

尺六寸五分裁ち切りとせば各部の裁ち切り寸法は何程なりや。又裏地の總尺は何程を要するか。

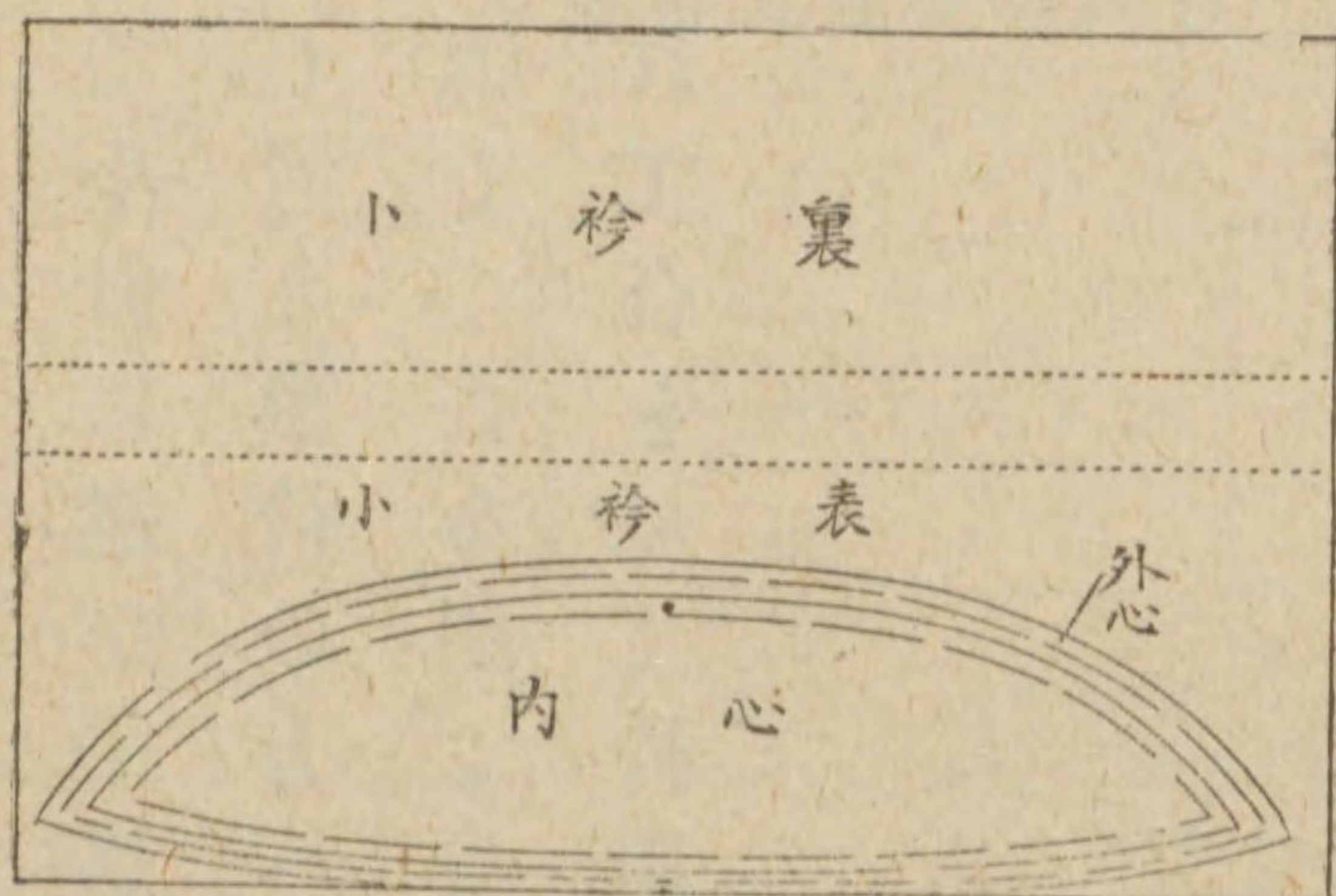
一、心地の拵へ方 心切れには、並幅一尺三寸許りの晒木綿を用ひ、之れを二枚に裁つを普通とす、其の裁ち方は、小衿にて

身頃を挟むと、身頃にて小衿を挟むと、仕立方の違に依りて小異あり。身頃にて小衿を挟む仕立の場合には、先づ、豎衿下り〔長着の衿下りを標準とす〕の二倍を小衿の總丈とし、其の約そ四分の一を幅とし、丈を二つに折り、第一圖の如く、衿肩明の仕立上げ寸法によりて、イ・ロの標をなし、衿附の方の端より凡そ三分上りて、ハを標し、ロ・ハ間に程よく丸みを附けて裁ち切り、次に、イ・ハの中點をニとし、ニ・ホの凡そ三分の一を、ニより度りて、ヘを標し、イ・ヘ・ハの三點をつなぎて、恰好よく丸みをつけて裁ち切り、之れを内心とし、他の一枚の心切れに内心を綴ち合せ、衿附の方は二分、他は三分程大きくして、其の外圍を裁ち切り、之れを外心とするなり。

小衿にて身頃を挟む仕立の場合には、第二圖の如く、衿肩明

の間を約そ五分程裁ち落とし、それより、ハに至る間に少しく丸みをつけて斜に裁ち落とし、之れを内心とするなり。其の他は前に同じ。

小衿の縫ひ方



小衿出来上りの圖



〔注意〕一枚心のときは心切れの地

質の厚薄により、適宜に本文の外

心又は内心に倣ひて裁つべし。

二、縫ひ方 表衿の裏に、外心

を下にし、衿附の方を合せ

て心を載せ、外心の廻りを

表衿に綴ち附け、後ち、裏衿

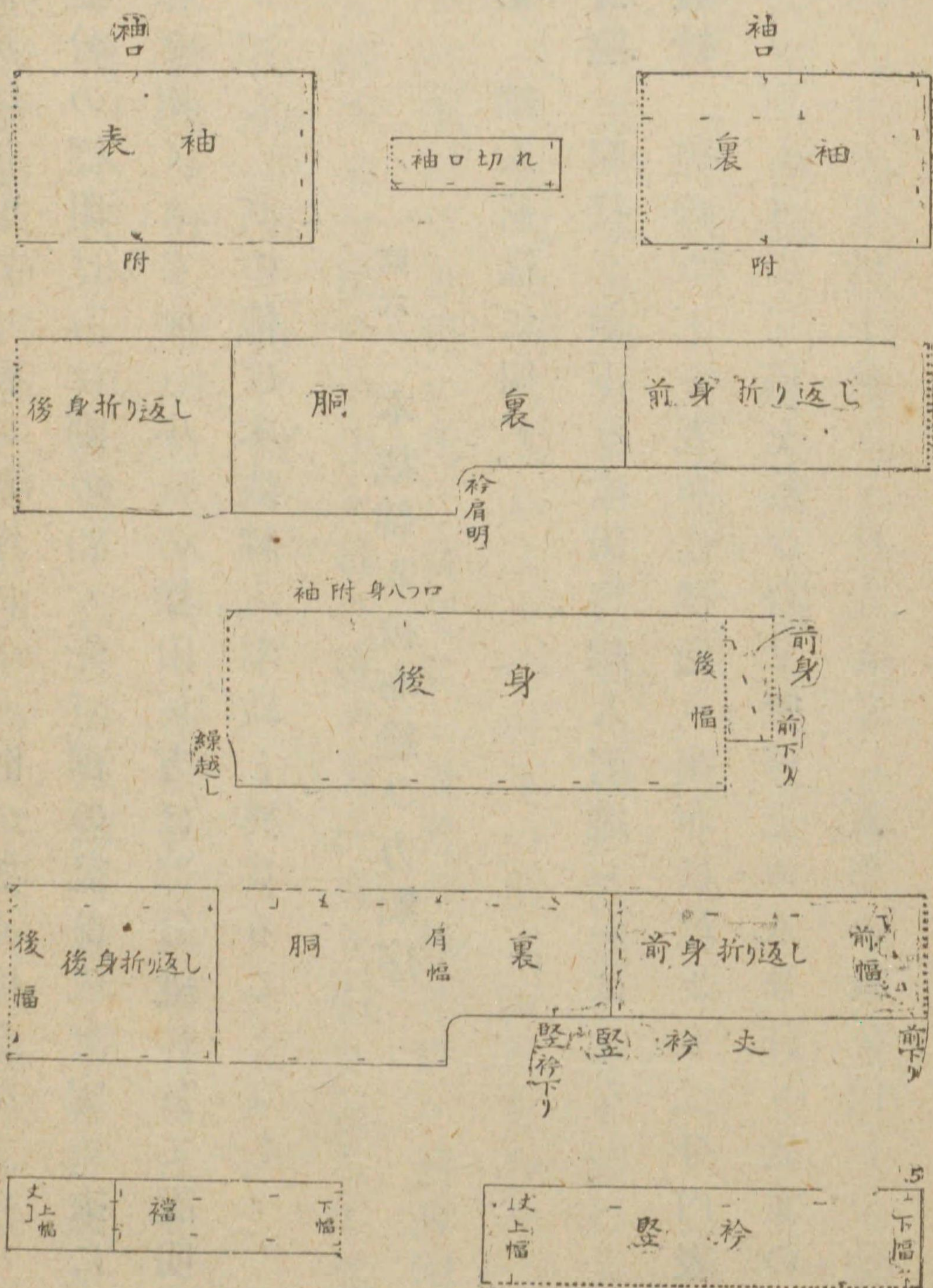
を折り返して、待針を打ち、

内心の一分五厘外廻りに

標をなし、表衿の此の標と、裏衿の此の標より二分内とを合せて、小針に縫ひ、平烙鋏をかけ、丸みの邊は適宜に縫ひ締めを施し置き、裏衿の方へ折りて、内心の形通りに、糸を引き締め、引き返して表を出し、裏衿を一分引きて、圖の如く躰をかけ、衿の折れ工合を見て、衿附を綴ち附くるなり。

第五 本裁綿入被布標附け方

本裁綿入被布標附け方



袖身頃・褶・堅衿・小衿の順序により、圖の如く標をなす。堅衿の標付け方は、圖の如く、先づ、裾の縫ひ代を定め、次に、丈幅の標を附くるなり。小衿の標付け方は部分縫に於て説明したるが如し。其の他は本裁綿入羽織と異なることなし。

第六 本裁綿入被布縫ひ方順序

- 一、袖 綿入羽織に同じ。
- 二、身頃 胴接ぎ・前下り・褶附等綿入羽織とかはりなし。
- 三、堅衿 堅衿の下を、表布は標通り、裏布は標より二分内(表布の折り返し寸の八倍)手前より、衿先までに、表布の縫ひ代を一分(表布の折り返し寸)深く縫ひ、裏の方へ折りを付け、引き返して、表を

出し、隠し躰をかけ、次に前身頃の表に堅衿を縫ひ合せ、尚ほ裾より五分程裏布を縫ひ廻し、堅衿の方へ折り、其れより、袖を附け、綿入羽織の如く疊みて、綿を入れる。

〔注意〕 地質の薄きときは堅衿に心を入れるをよしとす。

四、衿付け方 綿入羽織のときの如く、裾の假綴をなし、袖口・八つ口を衿付け、前褶を綴ち、其れより、小衿下の所は、表裏を合せて躰をかけ、堅衿下り標の所に留をなし、堅衿の縫ひ目を前身頃の裏に綴ち合せ、堅衿の上を縫ひ、裏の方へ折り、引き返して綿を整へ、堅衿の裏を衿付け附く。

五、小衿付け方 身頃にて小衿を挟む仕立の場合には、先づ小衿を拵へ、小衿附の所は綿を表身頃に綴ち置き、小衿の裏の中央を表身頃の脊に合せ、衿肩明の邊は平に、衿肩廻しの邊は小衿

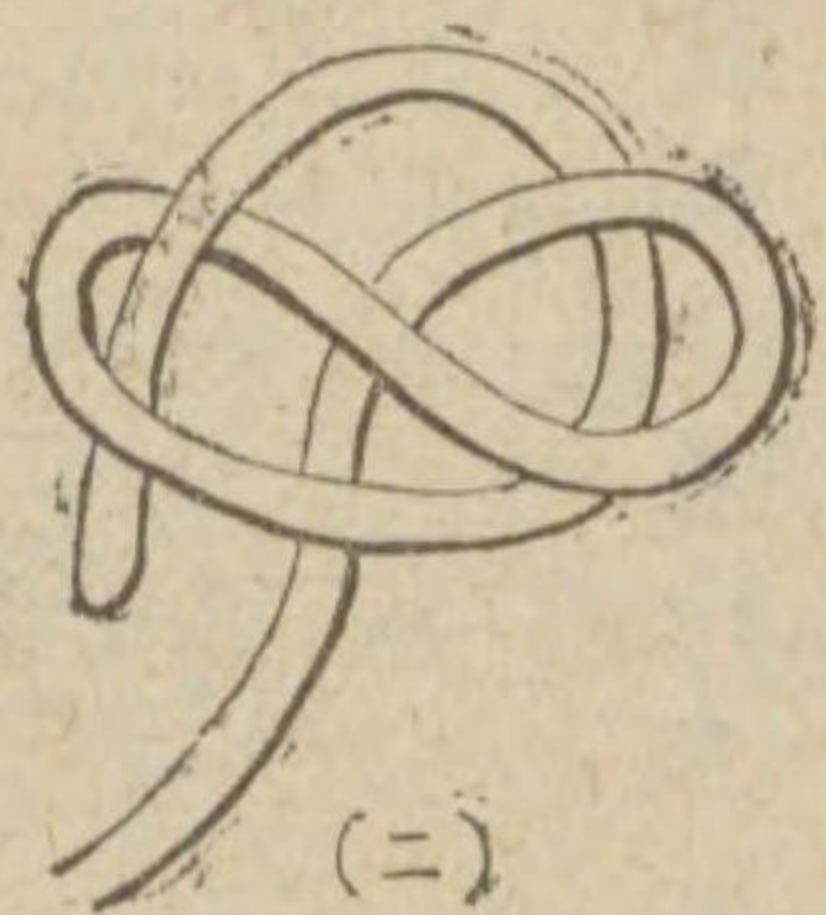
の方を稍弛めに、以下は平に待針を打ちて、之れを縫ひ付け、身頃の方へ折り、其の上に裏身頃を載せて、假綴をなし、小衿下より始めて衿廻すなり。

小衿にて身頃を挟む場合には、先づ小衿下を衿廻し、それより上は、身頃の表裏を綴ち合せ置き、小衿の表を裏身頃の方に合せて縫ひ付け、衿の方へ折り、裏衿を衿廻し附くるなり。

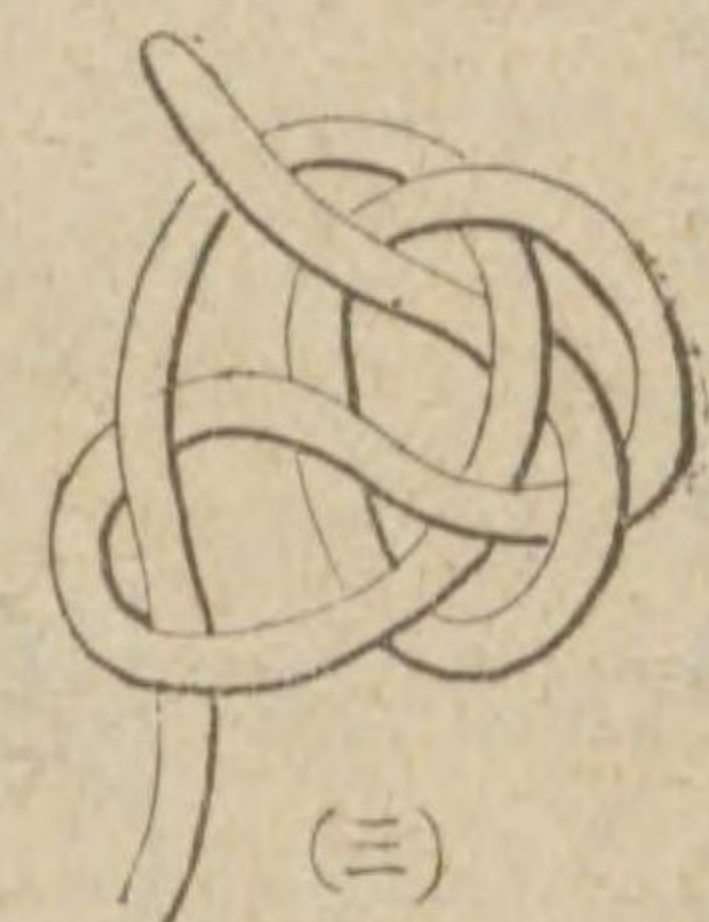
其れより、綿入羽織の如く脊綴をなし、豎衿の上部及び小衿下に火熨斗をかけ、後ち、飾紐を上前豎衿の上の両端と、前身の小衿下とに綴ち付け、下前豎衿の上の角にシヤカ結びの紐を付け、前身小衿下の裏に受け紐を附くるなり。

しやか結

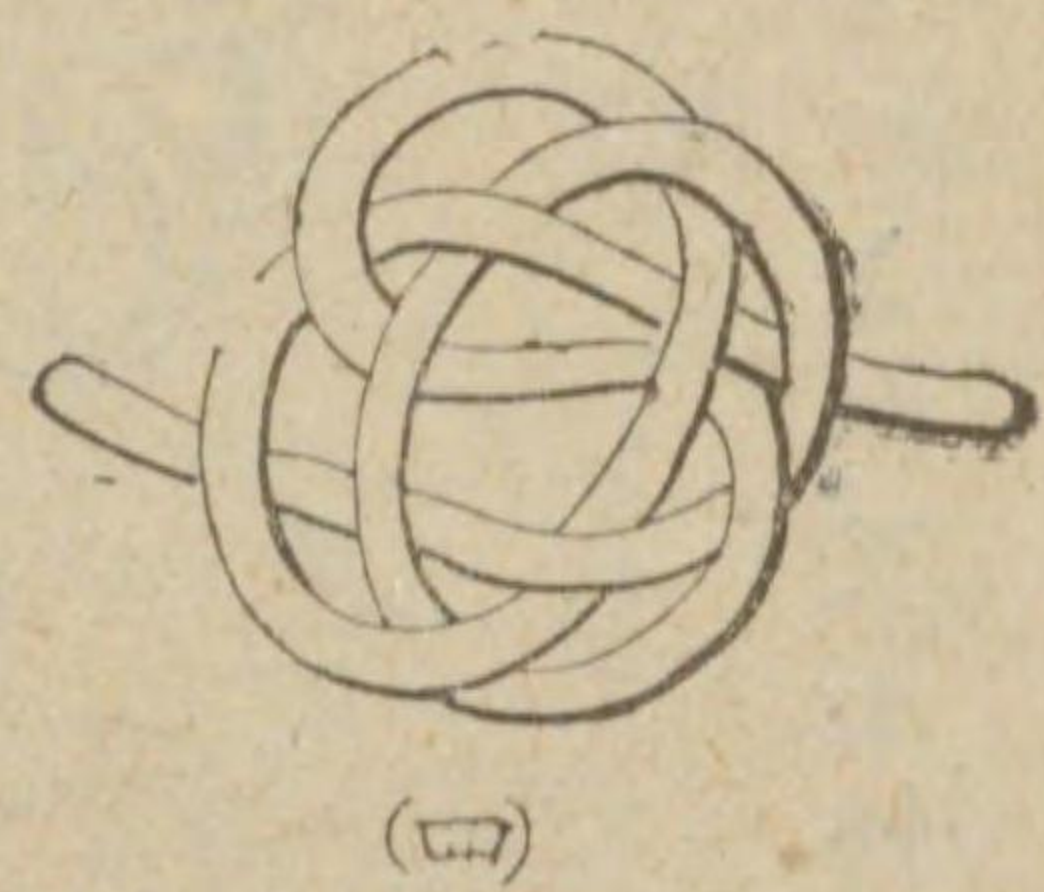
(一)



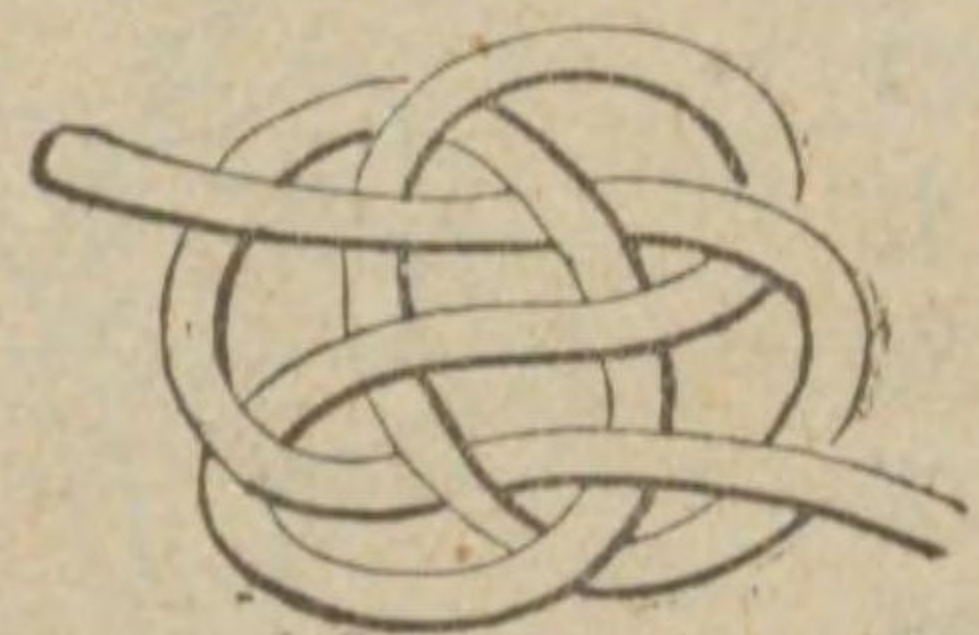
(二)



(三)



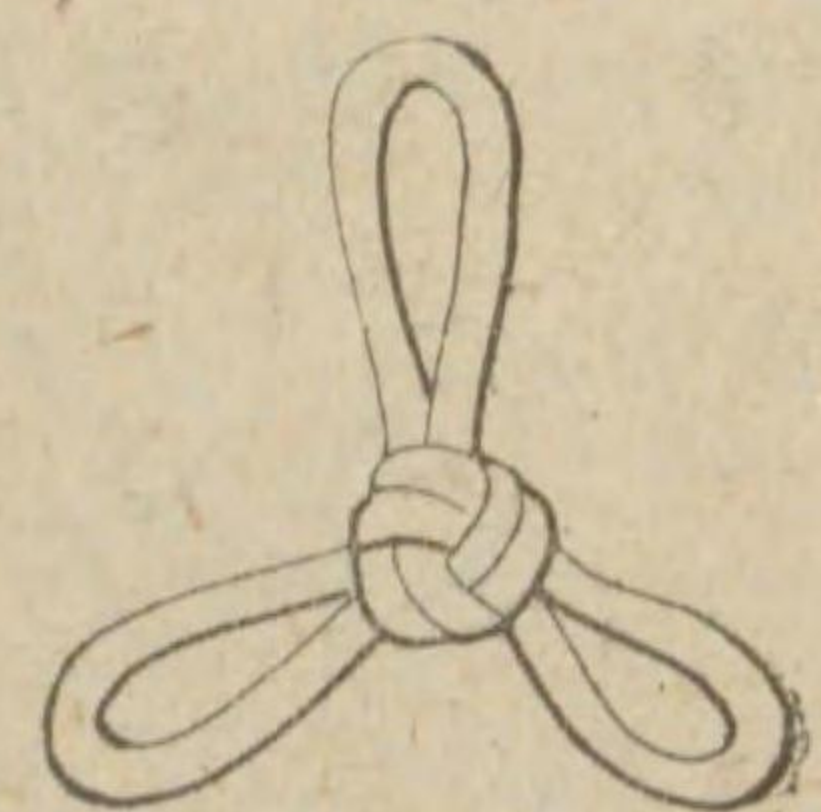
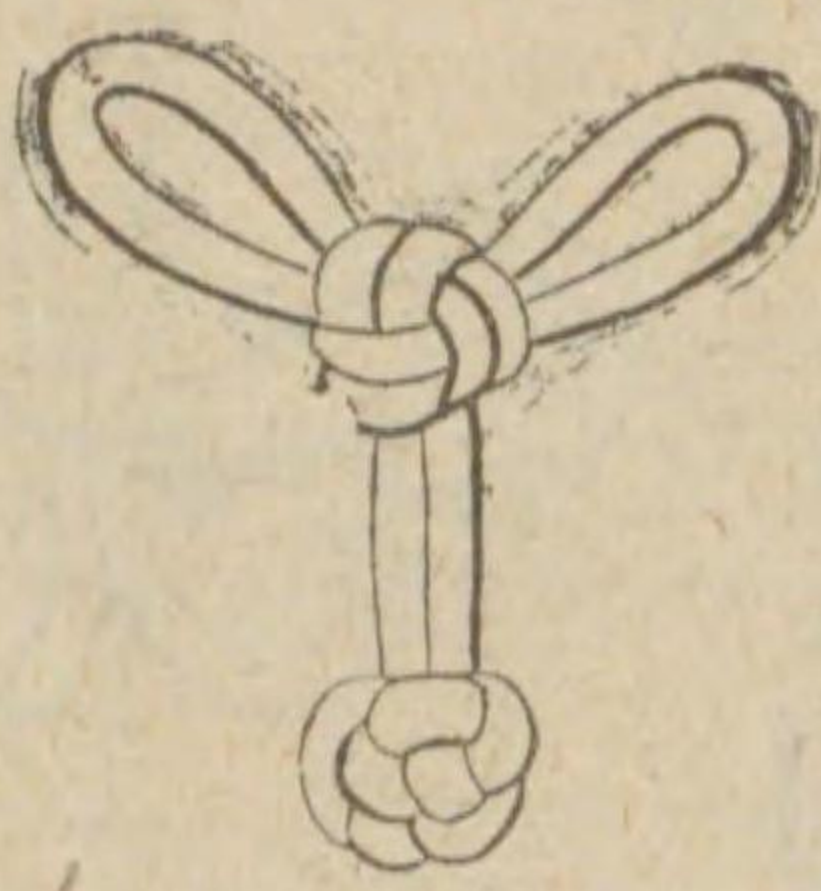
(四)



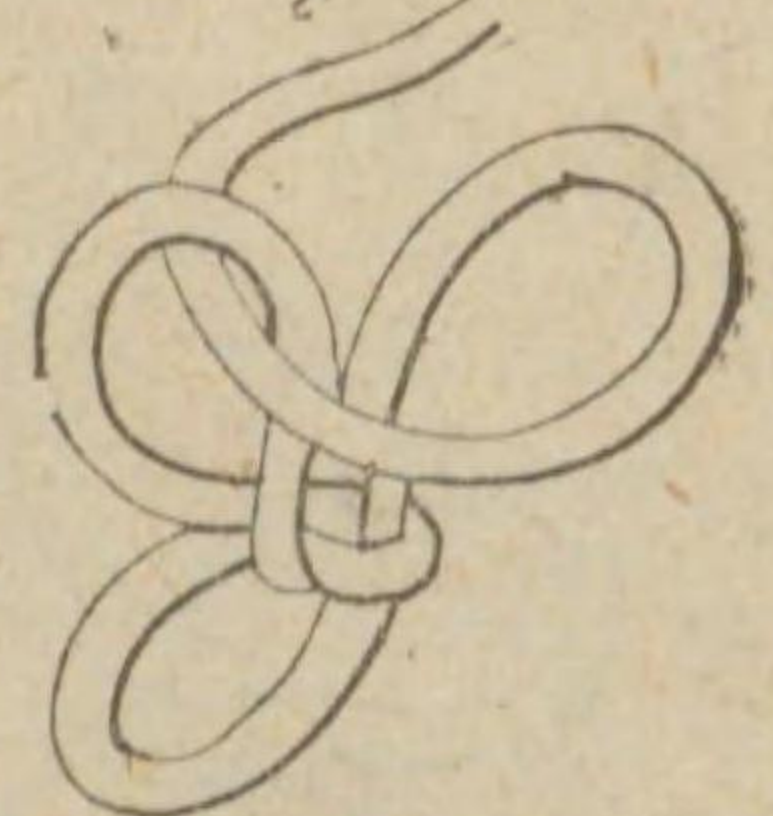
(五)



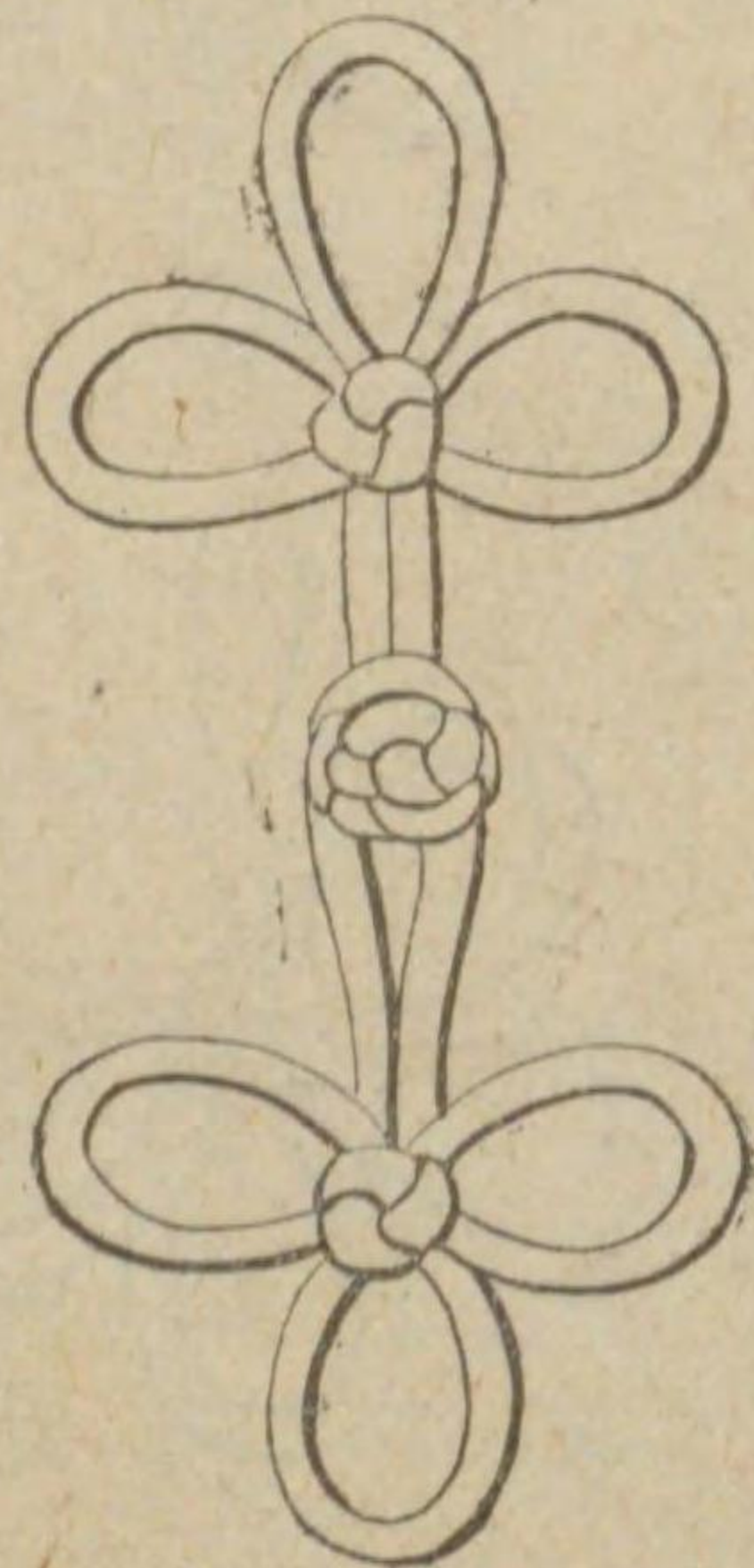
二輪結



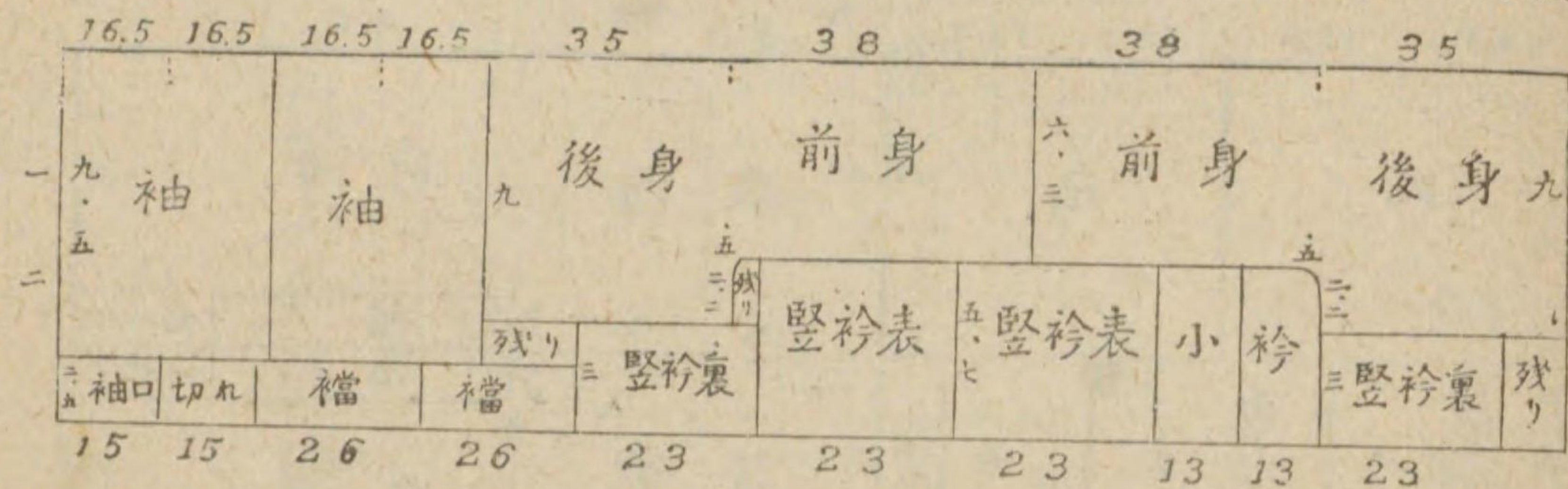
三つ輪結 (一)



(二)



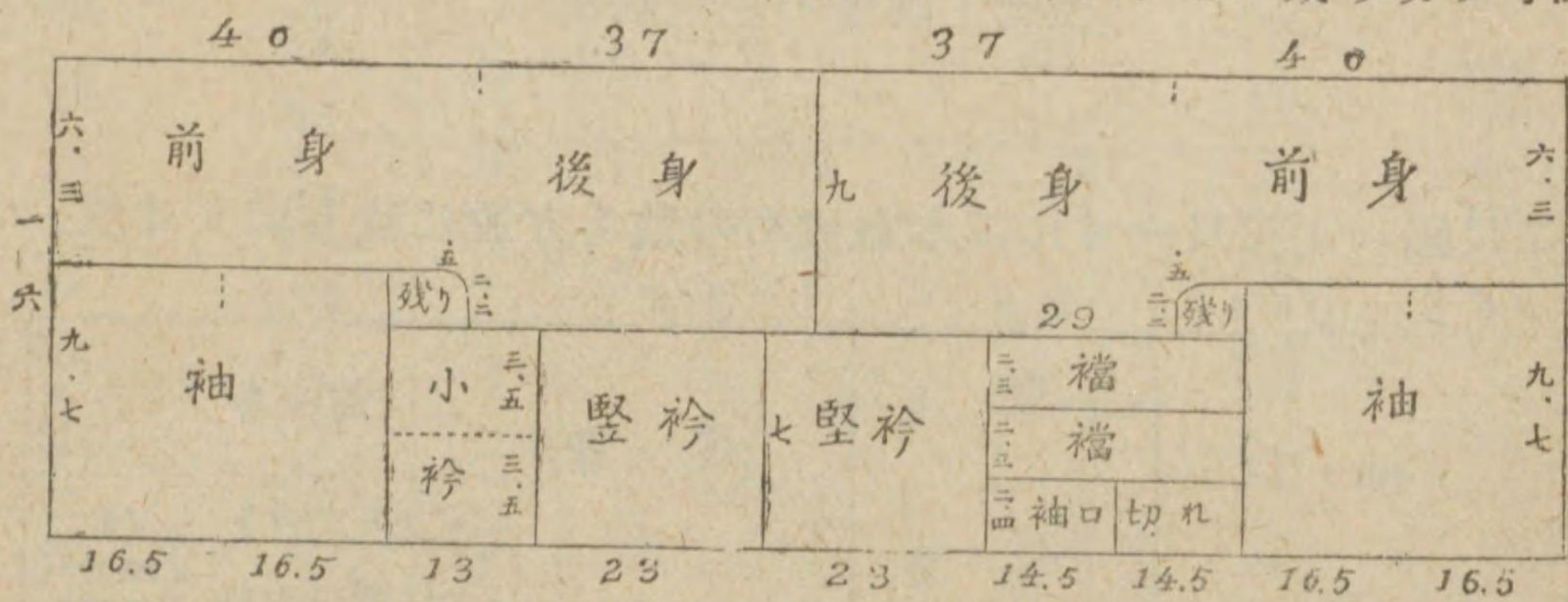
一尺二寸幅二丈一尺二寸にて本裁被布の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

用布の總尺 - (袖丈 × 4 + 前後の差 × 2) ÷ 4 = 後丈
 212 - (16.5 × 4 + 3 × 2) ÷ 4 = 35
 後丈 + 前後の差 = 前丈
 35 + 3 = 38

一尺六寸幅一丈五尺四寸にて本裁被布の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

用布の總尺 - 前後の差 × 2 ÷ 4 = 後丈
 154 - 3 × 2 ÷ 4 = 37
 後丈 + 前後の差 = 前丈
 37 + 3 = 40

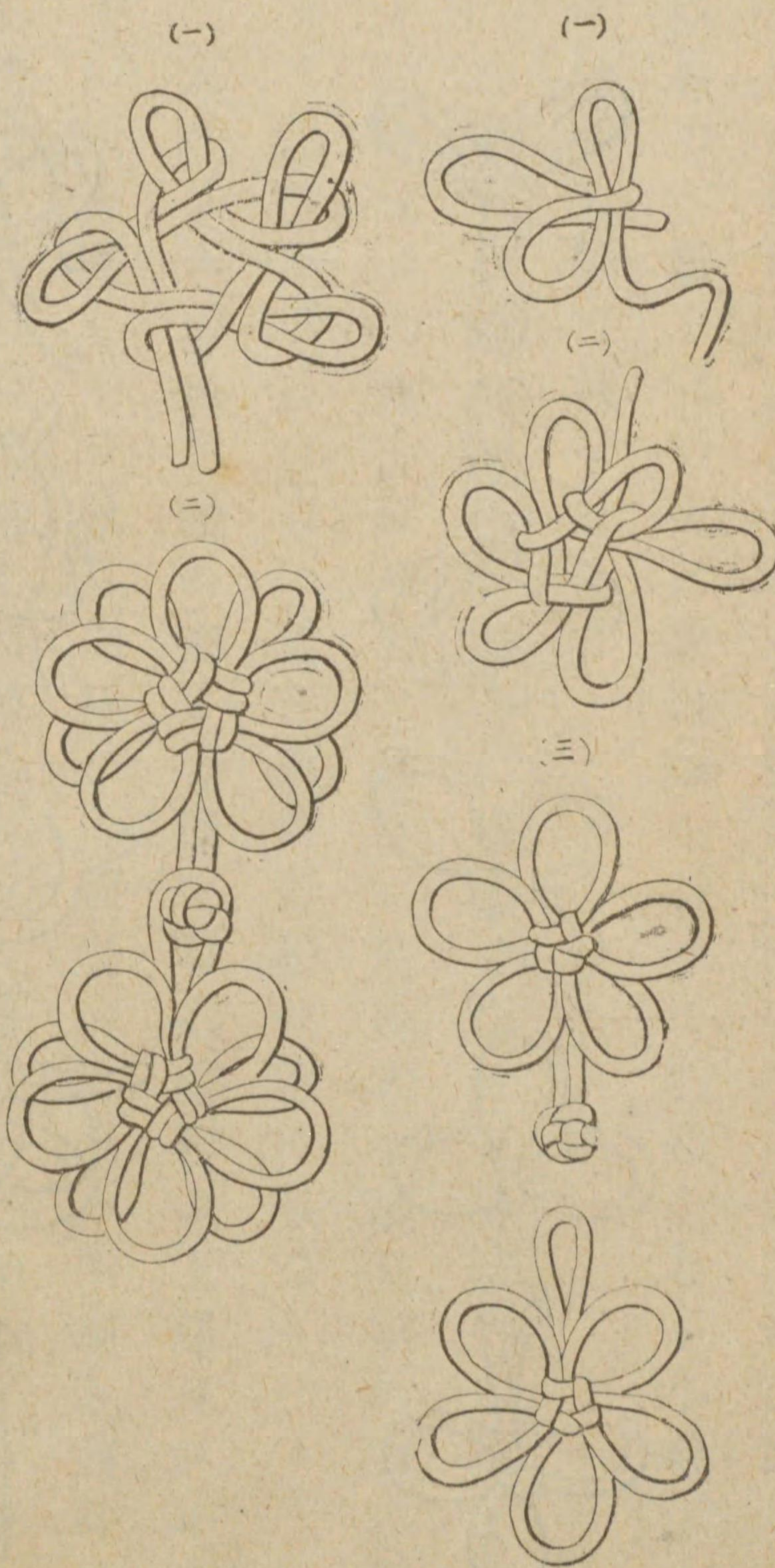
注意

第七 本裁被布各種裁ち方積り方
 幅不足なれば別に幅三寸丈二尺三寸程の切れを、縦衿裏に附くるものとす。

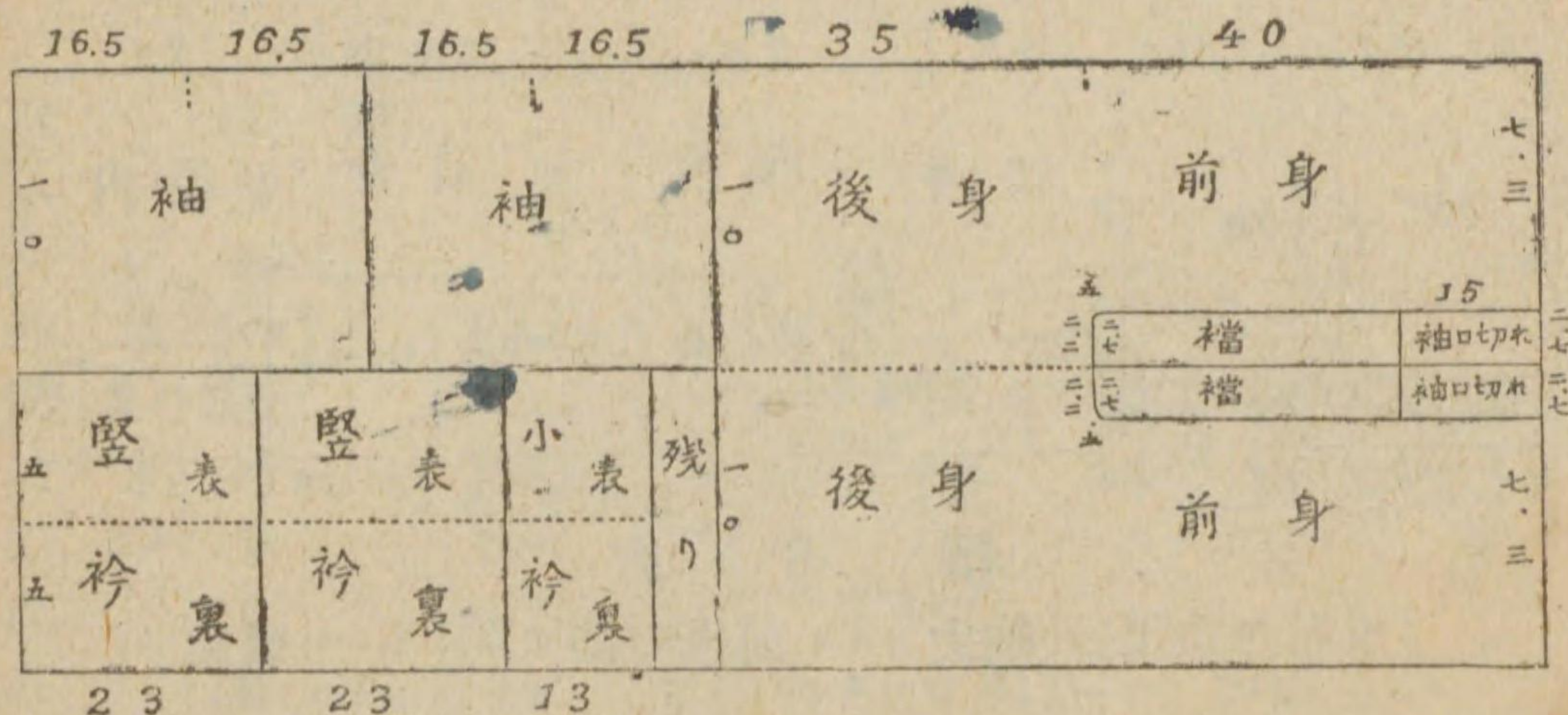
菊結 梅結

〔設問〕

(1) 被布の縦衿下りは何を標準とすべきか、又小衿の丈及び幅を定むるには如何にすべきか。
 (2) 小衿の形に二様あり、其の裁ち方を説明せよ。



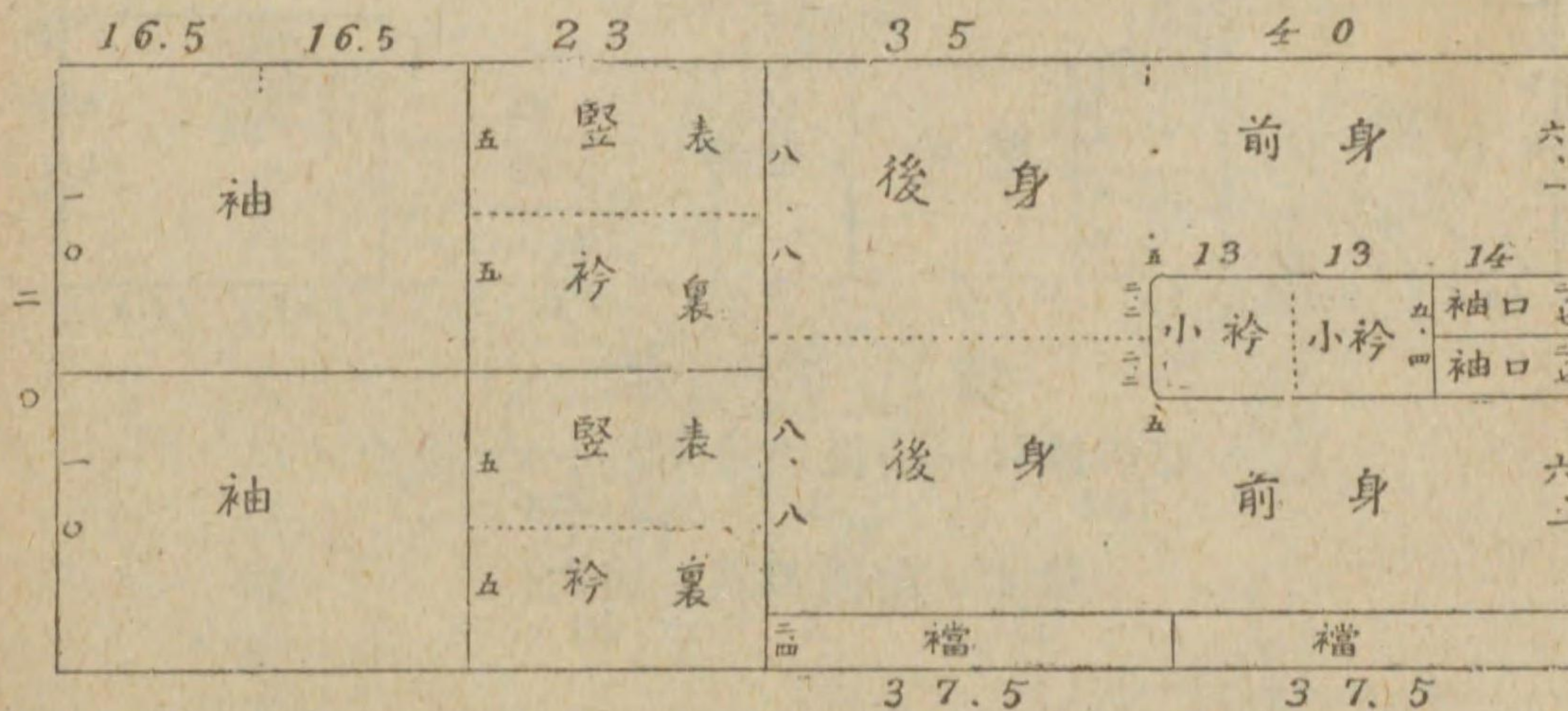
一尺幅一丈四尺一寸にて本裁被布の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

$$\begin{aligned} \{ \text{用布の總尺} - (\text{袖丈} \times 4 + \text{前後の差}) \} \div 2 &= \text{後丈} \\ \{ 141 - (16.5 \times 4 + 5) \} \div 2 &= 35 \\ \text{後丈} + \text{前後の差} &= \text{前丈} \\ 35 + 5 &= 40 \end{aligned}$$

二尺幅一丈三尺一寸にて本裁被布の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

$$\begin{aligned} \{ \text{用布の總尺} - (\text{袖丈} \times 2 + \text{縦衿丈} + \text{前後の差}) \} \div 2 &= \text{後丈} \\ \{ 131 - (16.5 \times 2 + 23 + 5) \} \div 2 &= 35 \\ \text{後丈} + \text{前後の差} &= \text{前丈} \\ 35 + 5 &= 40 \end{aligned}$$

第五章 中裁小裁被布

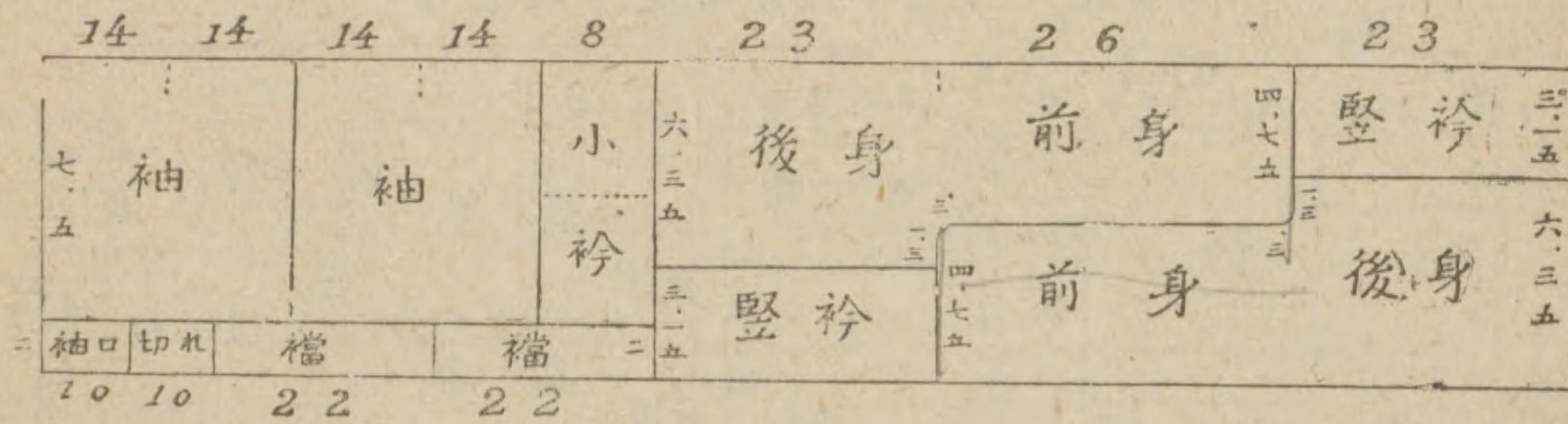
第一 中裁小裁被布普通仕立上げ寸法

小衿幅	小衿丈	縦衿幅	縦衿下り	四つ身	三つ身	一つ身	割出し方
三寸	九寸	上三寸三分 下三寸五分	四寸五分	三寸五分	三寸五分	三寸	衿下りに五分増し
二寸五分	七寸	上二寸八分 下二寸八分	三寸五分	二寸五分	二寸五分	二寸三分	衿幅より凡そ二分詰め
二寸三分	六寸	上二寸八分 下二寸八分	三寸	二寸三分	二寸三分	小衿丈の凡そ三分一	略と同寸
小衿丈の凡そ三分一	縦衿下りの凡そ二倍	上下衿幅より凡そ二分詰め	衿下りに五分増し	二寸五分	二寸五分	二寸三分	略と同寸

以上の外、總べて中裁小裁羽織の寸法に同じ。

第二 中裁小裁被布裁ち方積り方

並幅一丈三尺六寸にて三つ身被布裁ち方並に裁ち切り寸法
(袖丈一尺三寸五分身丈一尺七寸)



積り方

$$\{ \text{用布の總尺} - (\text{袖丈} \times 4 + \text{小衿} + \text{前後の差}) \} \div 3 = \text{後丈}$$

$$\{ 136 - (14 \times 4 + 8 + 3) \} \div 3 = 23$$

$$\text{後丈} + \text{前後の差} = \text{前丈}$$

$$23 + 3 = 26$$

裏布の積り方

$$\text{袖丈上り} \times 8 + \text{身丈} \times 6 + \text{小衿} + \text{總縫ひ代} - \text{表用布の總尺} = \text{裏用布の總尺}$$

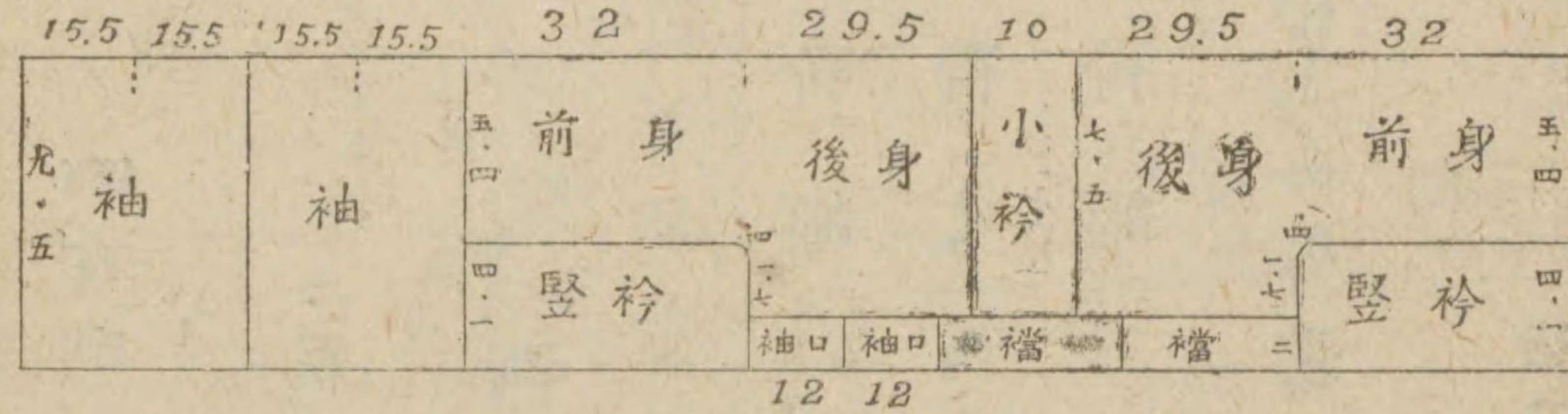
$$13.5 \times 8 + 17 \times 6 + 8 + 10.8 - 136 = 92.8$$

〔注意〕 總縫ひ代の見込み

左の如し

袖 …… 四寸
身 …… 三寸
前下り …… 二寸
三つ衿 …… 一寸八分
合計 …… 一尺八分

並幅一丈九尺五寸にて四つ身被布の裁ち方並に裁ち切り寸法
(袖丈一尺五寸身丈二尺二寸)



積り方

$$\{ \text{用布の總尺} - (\text{袖丈} \times 4 + \text{小衿} + \text{前後の差} \times 2) \} \div 4 = \text{後丈}$$

$$\{ 195 - (15.5 \times 4 + 10 + 2.5 \times 2) \} \div 4 = 29.5$$

$$\text{後丈} + \text{前後の差} = \text{前丈}$$

$$29.5 + 2.5 = 32$$

裏布の積り方

$$(\text{袖丈上り} + \text{身丈}) \times 8 + \text{小衿} + \text{總縫ひ代} - \text{表用布の總尺} = \text{裏用布の總尺}$$

$$(15 + 22) \times 8 + 10 + 15.2 - 195 = 126.2$$

〔注意〕 總縫ひ代の見込み

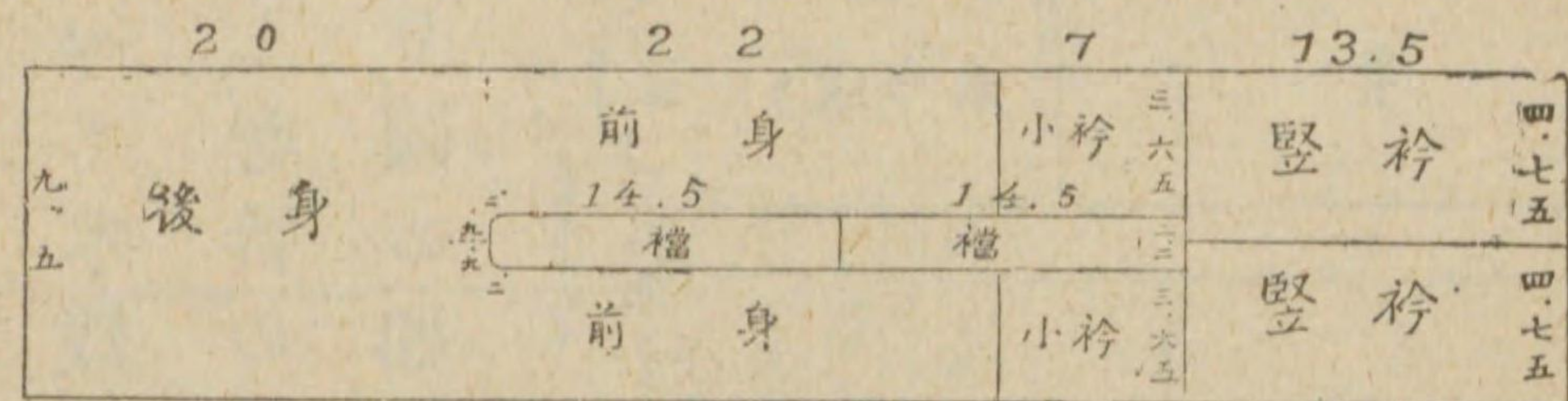
左の如し

袖 …… 四寸
身 …… 四寸
前下り …… 四寸八分
三つ衿 …… 二寸四分
合計 …… 一尺五寸二分

〔設問〕

並幅一丈八尺にて四つ身被布を裁つに、身丈を二尺三寸とし、袖丈を一尺六寸五分裁ち切りとせば、其他の裁ち切り寸法は何程なりや。又裏地の總尺は何程を要するか。

並幅六尺二寸五分にて一つ身袖無被布の裁ち方並に裁ち切り寸法
(身丈一尺五寸)



積り方

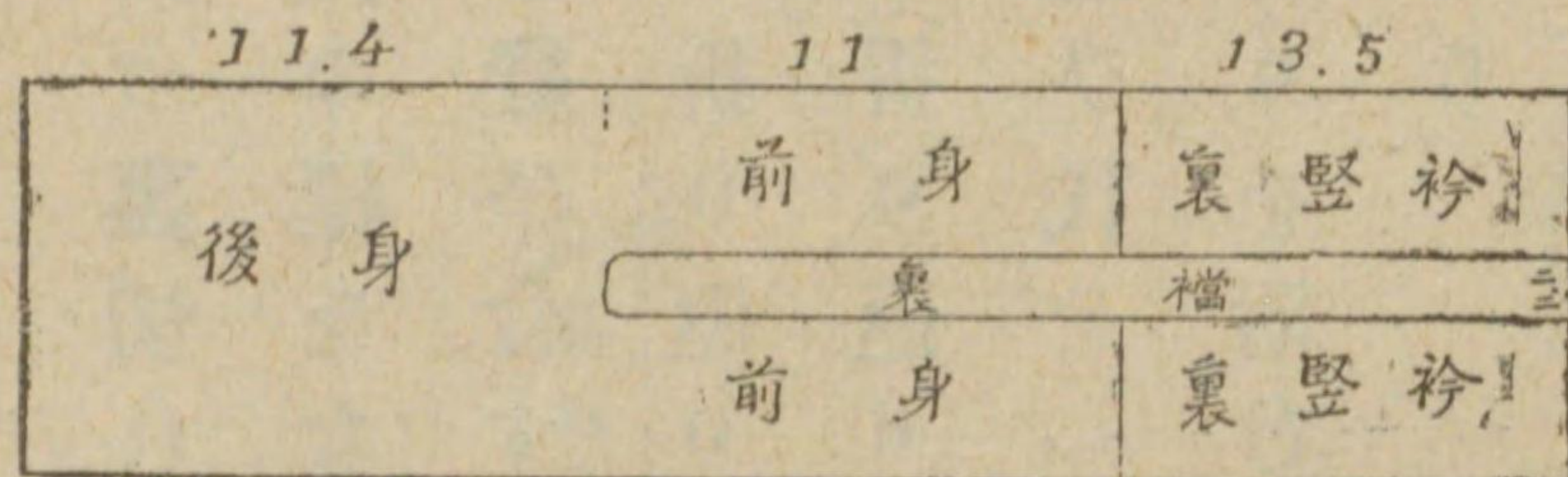
$$\{ \text{用布の總尺} - (\text{小衿丈} + \text{豎衿丈} + \text{前後の差}) \} \div 2 = \text{後丈}$$

$$\{ 62.5 - (7 + 13.5 + 2) \} \div 2 = 20$$

$$\text{後丈} + \text{前後の差} = \text{前丈}$$

$$20 + 2 = 22$$

裏布の裁ち方



積り方

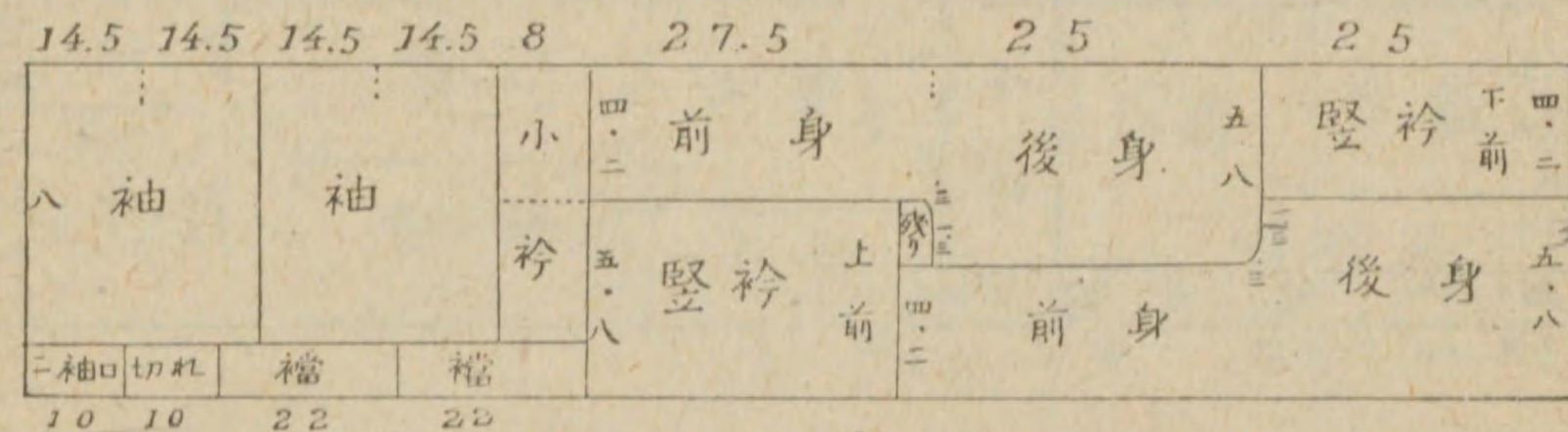
$$\text{身丈} \times 4 + \text{小衿} + \text{豎衿丈} \times 2 + \text{總縫の代} - \text{表用布の總尺} = \text{裏用布の總尺}$$

$$15 \times 4 + 7 + 13.5 \times 2 + 4.8 - 62.5 = 36.3$$

合 三 前 身 左 代
四 一 下 二 の の
寸 寸 一 頃 如 見
八 二 寸 寸 寸 寸 込
分 分 六 寸 寸 寸 込
分 分 分 寸 寸 寸 込

(注意) 總縫ひ

片面物一尺幅一丈四尺三寸五分にて、
三つ身被布の裁ち方並に裁ち切り寸法
(袖丈一尺三寸五分身丈一尺七寸)



積り方

$$\{ \text{用布の總尺} - (\text{袖丈} \times 4 + \text{小衿} + \text{前後の差}) \} \div 3 = \text{後丈}$$

$$\{ 143.5 - (14.5 \times 4 + 8 + 2.5) \} \div 3 = 25$$

$$\text{後丈} + \text{前後の差} = \text{前丈}$$

$$25 + 2.5 = 27.5$$

裏布の積り方

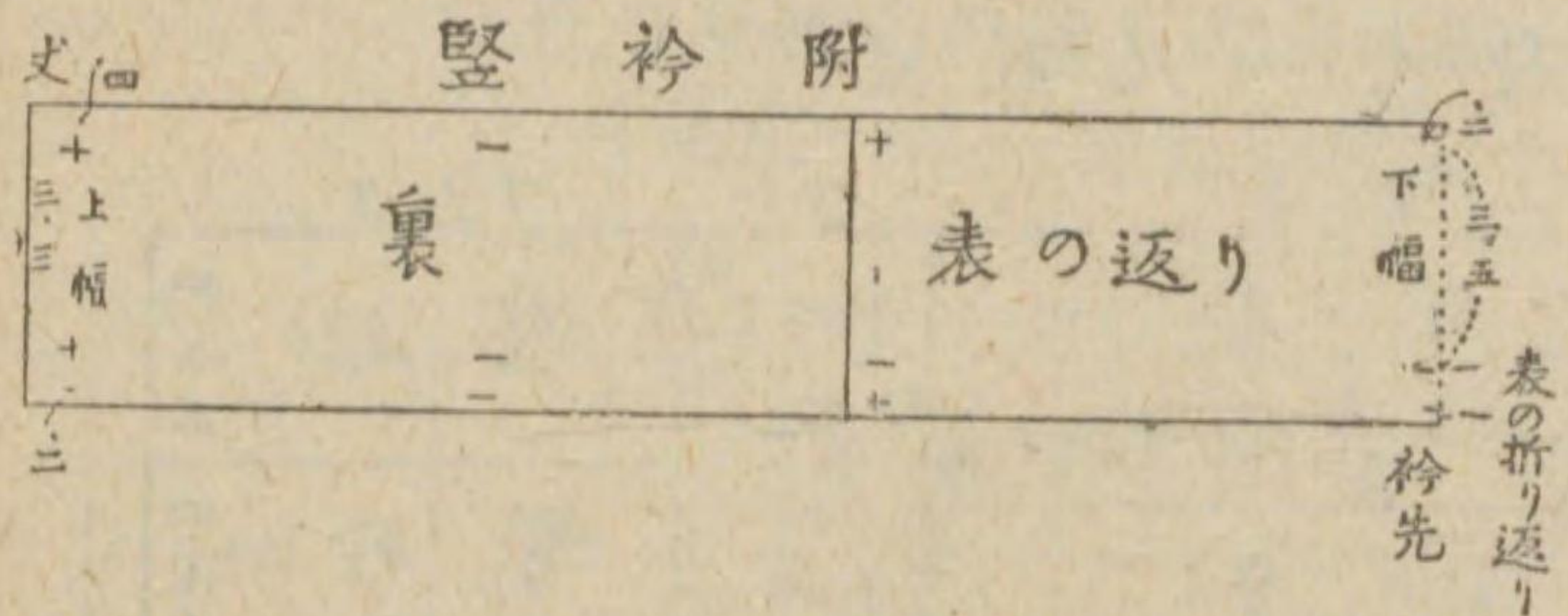
$$\text{袖丈上り} \times 8 + \text{身丈} \times 6 + \text{小衿} + \text{總縫の代} - \text{表用布の總尺} = \text{裏用布の總尺}$$

$$14 \times 8 + 22 \times 6 + 8 + 10.8 - 143.5 = 119.3$$

第三 中裁小裁被布標付け方及び縫ひ方順序
凡へて本裁被布に同じ。

但し、豎衿の標を附くるには、先づ裏切れを接ぎて、中表に二つに折り、圖の如く、丈幅及び縫ひ代の標をなすなり。

豎衿の附け方

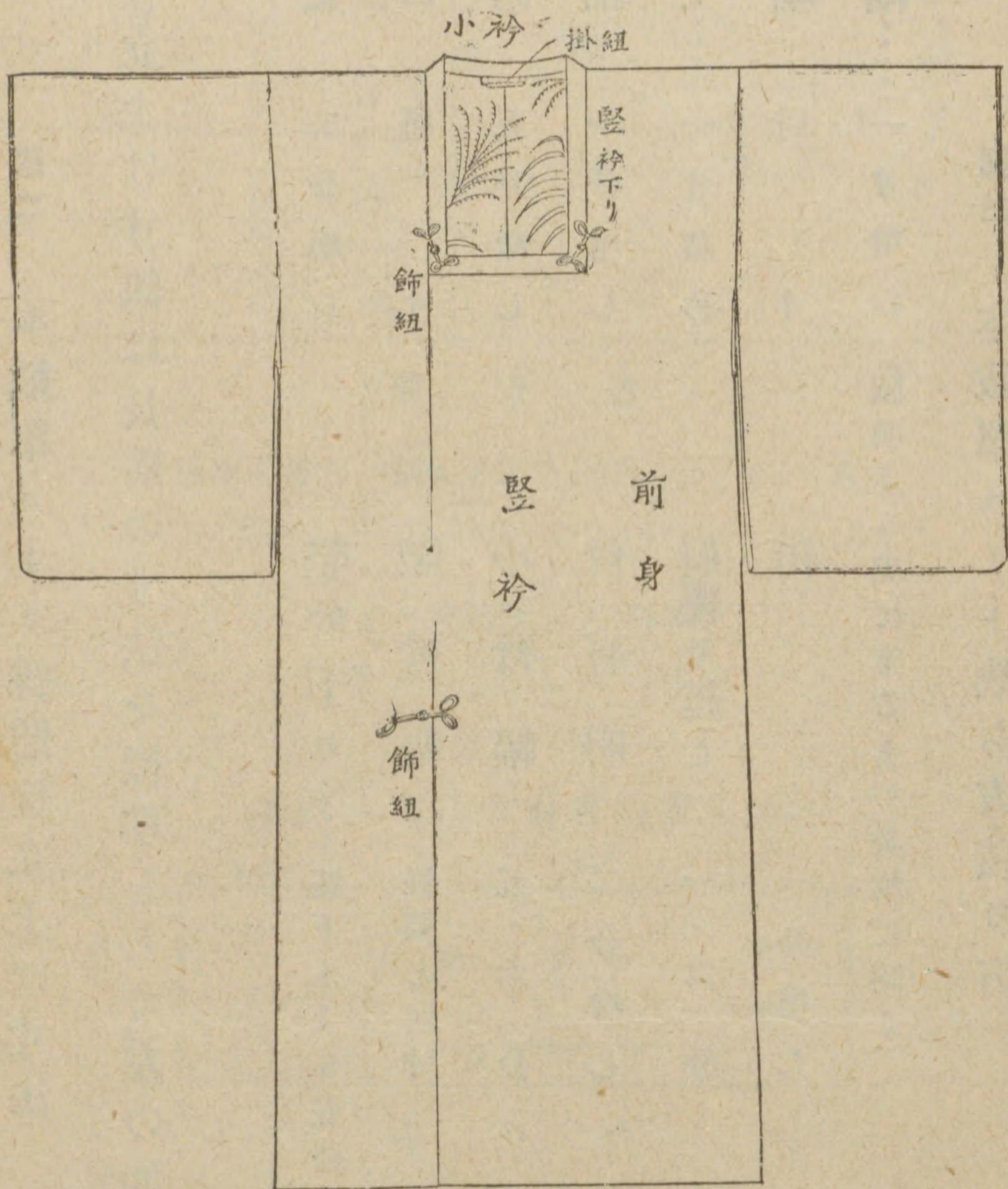


又豎衿の表裏を縫ひ合すには、表は標通り、裏は標より二分内(表の折り返し寸の二倍)を縫ひ合せ、豎衿先の八分許り(折り返し寸の八倍)手前より衿先までに、表布の縫ひ代を一分(表の折り返し寸)深く縫ひ、裏の方へ折りを附け、引き返して表を出し、隠し躰をかくるなり。

第六章 本裁單コート

第一 コート各部の名稱

コートの圖



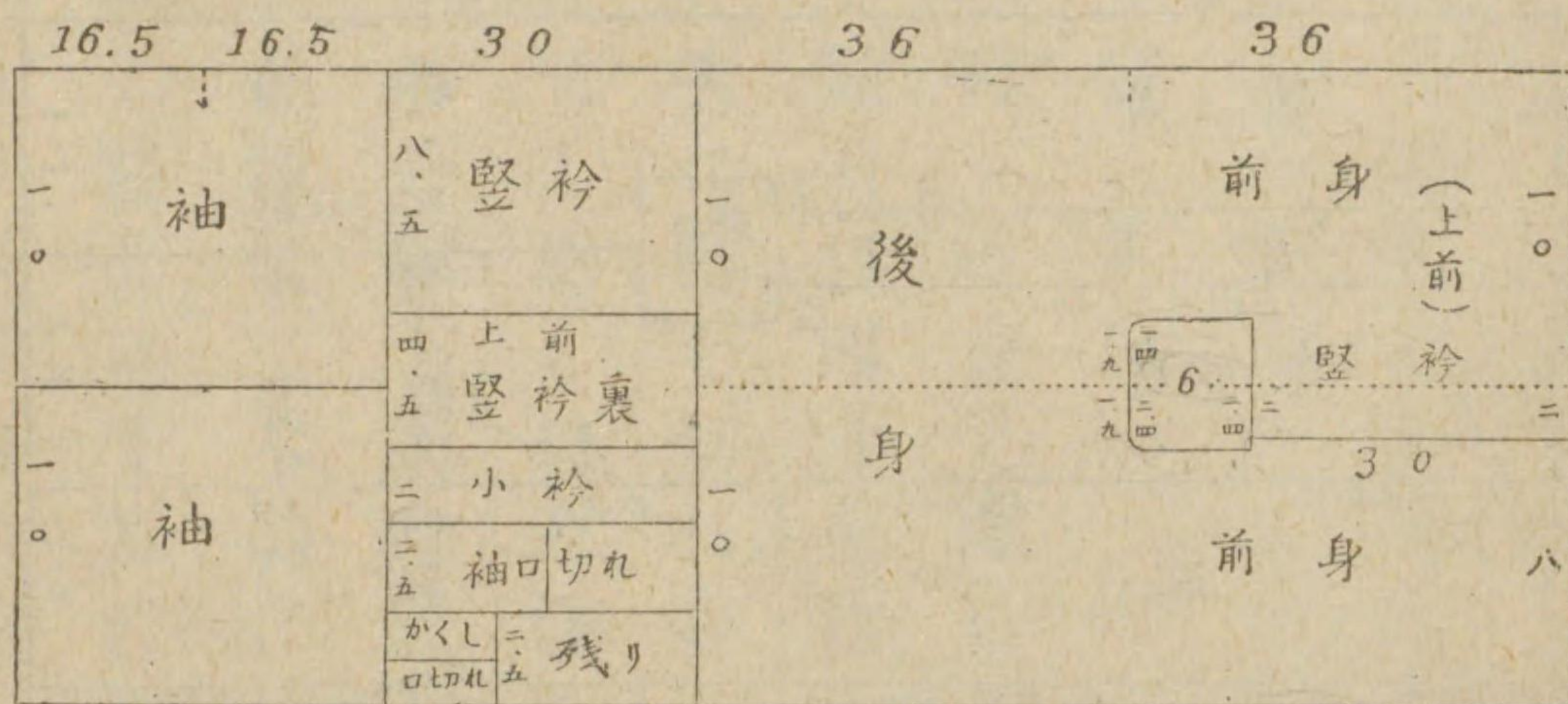
第二 本裁單コート普通仕立上げ寸法

普通仕立上げ寸法は長着の寸法を標準として、左の如く増減すべし。

- 袖丈……二分増し
- 袖口……同寸
- 袖附……五分増し
- 袖幅……一分増し
- 身丈……一寸詰め
- 後幅……同寸
- 前幅……一寸増し
- 縦衿下り……衿下りより五分増し
- 縦衿幅……衿幅と同寸
- 小衿幅……五・六分
- 衿肩明……二分増し
- 肩繰り越し……一・二分
- 衿……一分増し

第三 本裁單コート裁ち方・積り方

二尺幅一丈三尺五寸にて本裁單コートの裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

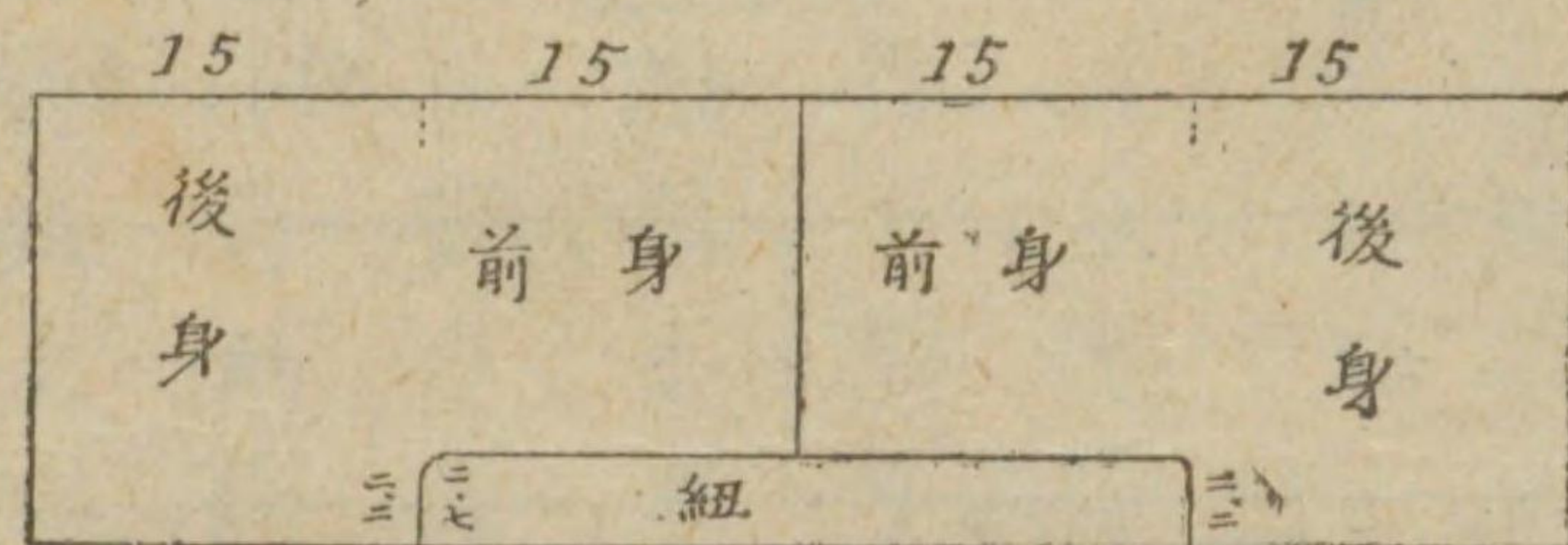
$$\{(用布の總尺 - 袖丈 \times 2) + 衿下り\} \div 3 = 身丈$$

$$\{(135 - 16.5 \times 2) + 6\} \div 3 = 36$$

$$身丈 - 衿下り = 衿丈$$

$$36 - 6 = 30$$

並幅六尺にて肩當の裁ち方

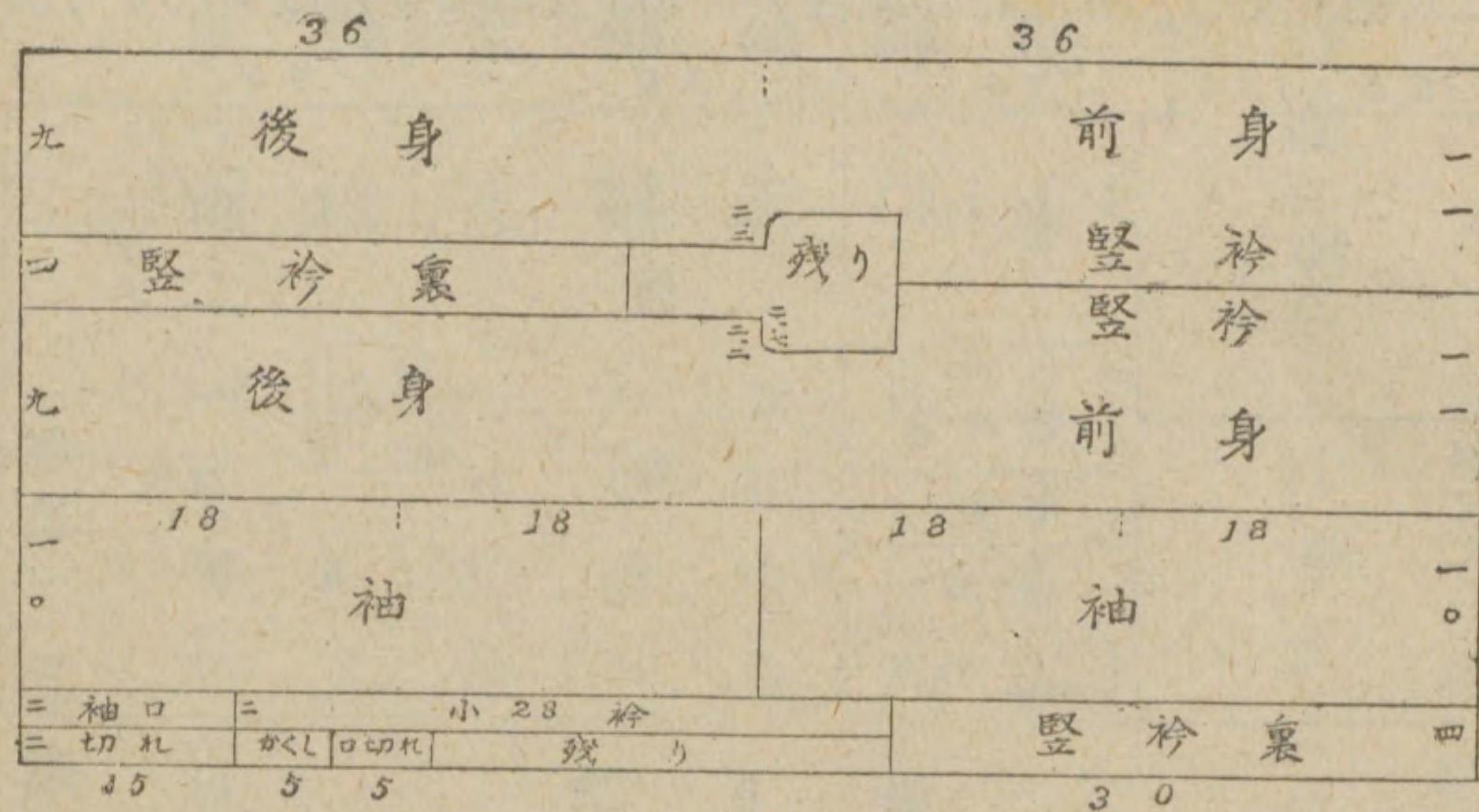


積り方

$$用布の總尺 \div 4 = 肩當丈$$

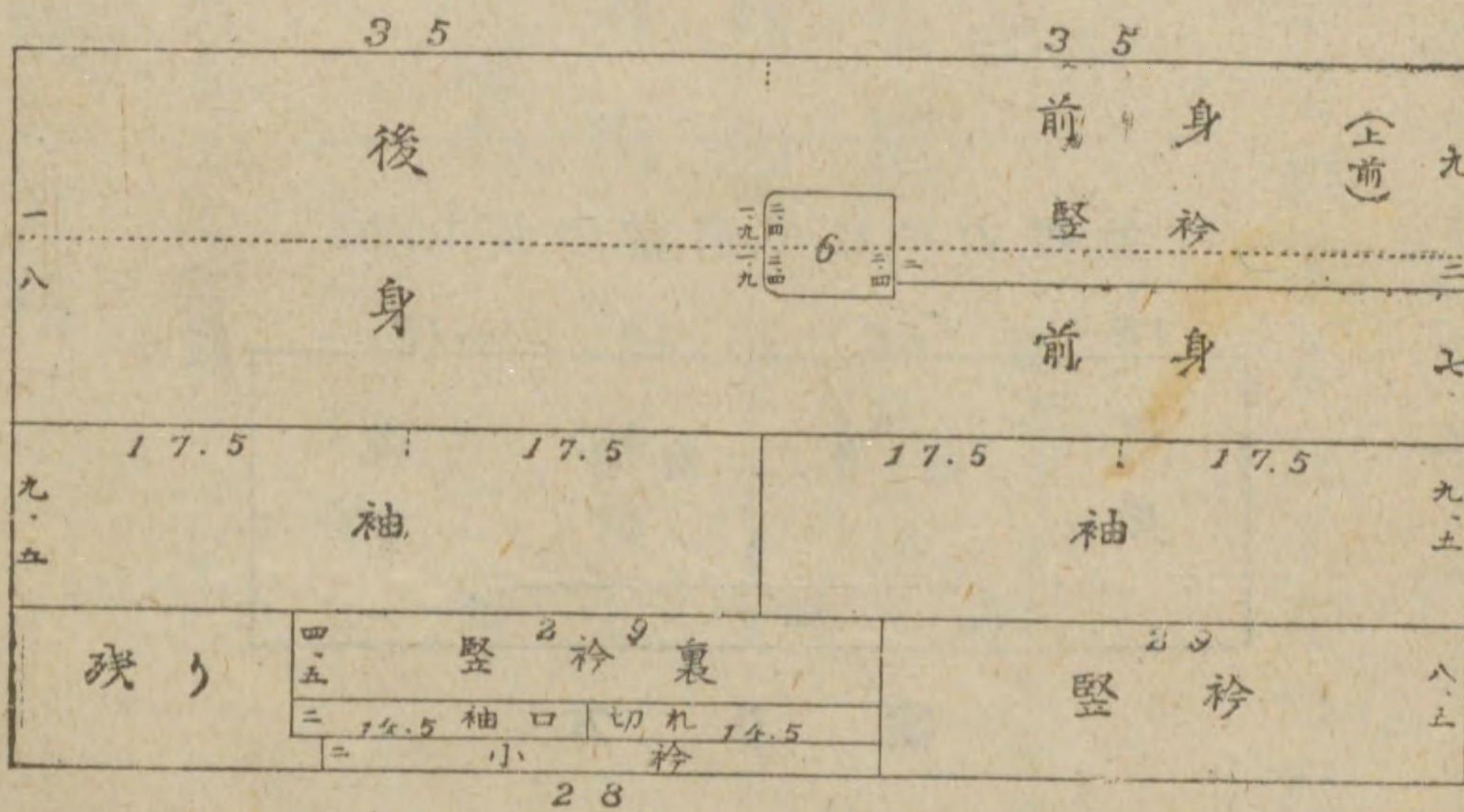
$$60 \div 4 = 15$$

三尺六寸幅にて本裁コートの裁ち方並に裁ち切り寸法



身丈×2=用布の總尺
36×2= 72

三尺六寸幅七尺にて本裁コートの裁ち方並に裁ち切り寸法



用布の總尺÷2=身丈
70 ÷2= 35

に入りて、圖の如く、額縁の標を附く。

二、縫ひ方

隠し切れの兩側に、上端より口切れを縫ひ付け、肩當

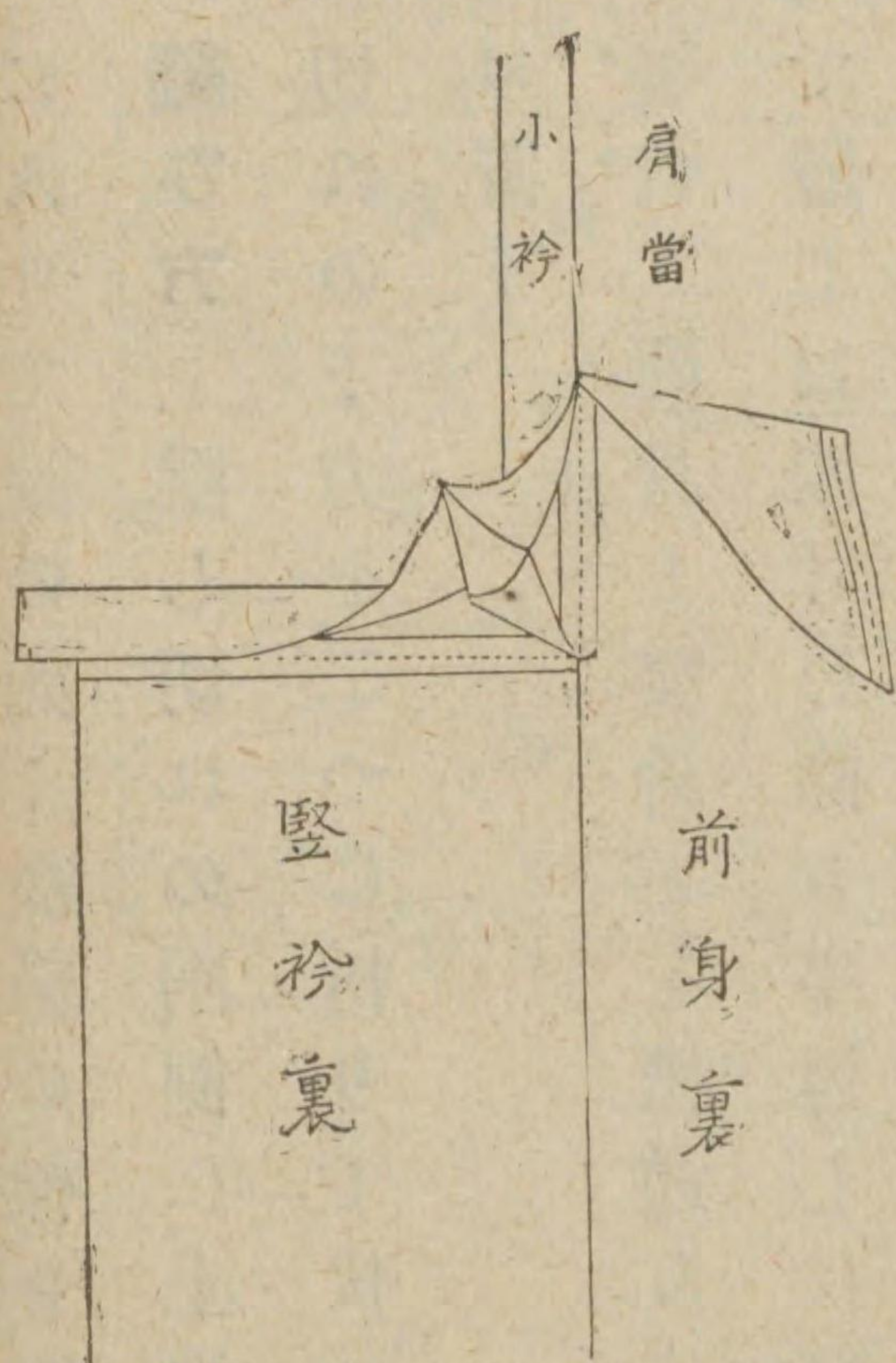
切れの下方を、二つに折りて伏せ縫をなし、前身の裏に綴ち附
け置く。

豎・襟 前身と豎襟とを標通りに合せ、裾より豎襟附の上端ま
で、隠し口四寸を除き、半返しに縫ひ、縫ひ目を割りて烙鏝をか
け、次に、隠し切れの一侧と豎襟隠し口の幅標より五厘外とを
合せて、隠し口を縫ひ合せ、隠し切れの方へ折り、又隠し切れの
他の一侧と前身隠し口の五厘外とを縫ひ合せ、前身の方へ折
りを付け、二本糸にて隠し切れの上下を縫ひ、上方を豎襟裏に
返し縫又は千鳥に綴ち、下方を豎襟附の縫ひ込みに綴ち付け、
其れより、前身の裾を三つ折りにしてまつり、豎襟幅(小襟附の

標より計るものとすを定め、豎衿下を表は標通りに、裏は附の方にて一分引き、衿先より次第に斜に折りて、肩を掛け、豎衿裏を身頃に當て、肩にて綴ち置き、豎衿先よりまつる。

小衿 小衿の額縁の標を小針に返し針に縫ひ、縫ひ目を割り置き、其れより、前身の豎衿下り標の所に切り込みを入れ、小衿附を標通り裏の方へ折りて、烙鋏をかけ、小衿の額縁の角を前身の豎衿下り標に合せて、一

小衿の附け方



針留め、角より縦横とも七八分程、裏より小針に返し、縮けになし、縫ひ代の折りを開き、小衿を見て、返し針に、其餘を縫ひ付け、縫ひ目を割りて

烙鋏をかけ、肩當及び豎衿裏を其の縫ひ込みに綴ち付け、小衿先を角又は隅切すみきりに縫ひ、裏をまつり付け、後ち、隠し口の上下にかんじきどめ門留をなす。

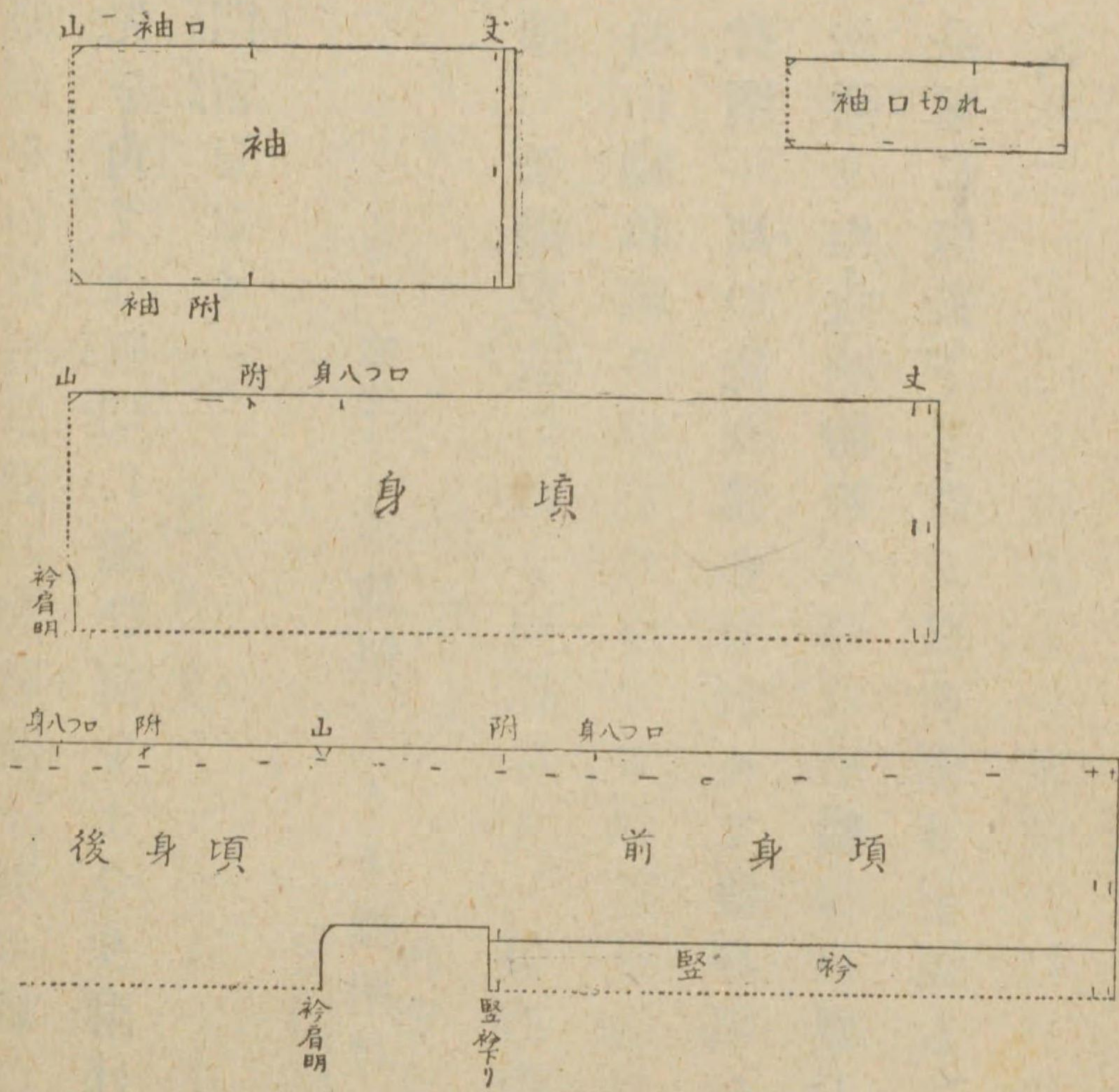
第五 本裁單コート標附け方

一、袖 毛織單衣の袖と同様なり。但し袖口切れは常の如く重ね、山・袖口・幅の標をなすなり。

二、身頃 肩の繰り越しを定めて、後身頃を前身頃に折り重ね、寸法通り山・丈・袖附・身八つ口・肩幅等を標し、次に、後身頃を開き、前身頃に豎衿下り・隠し口・前幅等を標し、後ち、後身頃に幅標を附く。

三、豎衿 上前の豎衿裏と下前の豎衿とを重ねて、丈を標し、下前

本裁單コート標付け方



の 縦衿に、隠し口の標をなす。

四、小衿 部分縫のときと同じ。

第六 本裁コート 縫ひ方順序

一、袖 袖口切れの下をスカラ縫になし、本裁女衿のときのように、袖口を縫ひ、四つ留めをなし、袖口

下より袖下を縫ひ廻し、幅標を付け、縫ひ目を折りて烙鋺をかけ、袖口を毛抜き合せに折りて、袖下まで躰をかけ、其れより、口切れの奥を、躰にて綴ちおき、千鳥或はまつり縫になし、又袖口下及び袖下の縫ひ込みを千鳥にて押へ置く。

二、身頃 肩當切れの脊を縫ひ合せ、前後の裁ち目を伏せ縫になし、之れを身頃に當て、脊、衿肩廻し、肩幅の所に假綴をなし、其れより、脇を縫ひ、縫ひ目を割り、縫ひ込みの端を折りて、躰にて身頃に綴ち附く。

三、 縦衿・裾 部分縫のときの如く、下前の縦衿及び隠しを付け、次に、上前の縦衿に裏切れを接ぎて、縫ひ目を割り、其れより、身頃の裾を三つ折りにして、千鳥又はまつり縫になし、部分縫のときの如く、縦衿の幅を定め、縦衿の下より始めて、縦衿裏を千鳥

又はまつり縫になす。

若し、裾切れを用ふる時は、之れを身頃の裾に縫ひ付け、裾切れの方へ折り、隠し躰をかけ、表の裾を二分程裏へふかせて假綴をなし、後ち、裾切れの上方を折りて、身頃に拵け附くるなり。

四、小衿 部分縫のときと同じく小衿を附け、其れより、丈一寸五分幅一分程の掛紐を拵け、脊の小衿附の縫ひ目に當て、兩端を綴ぢ附け、小衿先を縫ひ、小衿の裏を身頃にまつり附く。

五、袖附 ネル單衣のときと同様に袖を附け、袖と身頃の縫ひ込みに千鳥掛けをなし、次に、單衣のときの如く肩當を袖附に拵け附け、肩當の脊の左右二寸程を千鳥にて身頃に綴ぢ附け、其れより、袖附及び身八つ口に門留をなす。

六、飾紐 上の飾紐の附け方は被布に同じ。下の飾紐は、豎衿丈

の中程より約そ一寸程上りて、上前の豎衿端と、其れより前幅の約そ三分の一を隔てたる下前とに、之れを附け、尙ほ同じ高さの下前の豎衿端と一寸程上りたる上前の脇の縫ひ込みに、丈八寸ばかりの細き拵紐を附くるなり。

〔附言〕 ミシン縫のときには、總べての縫ひ込みの端を甲斐絹等の細き斜裁の切れにてくるみ、ミシンをかけ、之れを身頃に拵け附くることあり。

〔設問〕

(1) 本裁コートの仕立上げ寸法を説明せよ。

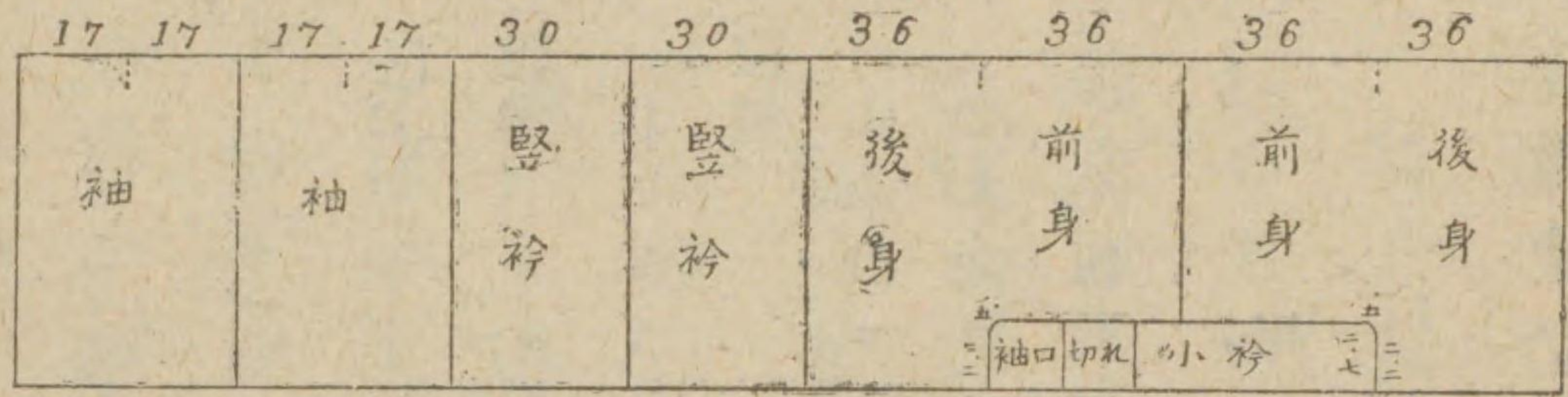
(2) 本裁單コートの身丈を三尺四寸、袖丈を一尺六寸五分上りとせば、二尺幅にて何程の用布を要するか。其の裁ち方を圖解し、裁ち切り寸法を記入せよ。

附 本裁單合羽

第一 本裁單合羽裁ち方・積り方

普通仕立上げ寸法は本裁單コートに同じ。

並幅二丈七尺二寸にて本裁合羽の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

(用布の總尺 - 袖丈 × 4 + 豎衿下り × 2) ÷ 6 = 身丈
 (272 - 17 × 4 + 6 × 2) ÷ 6 = 36

第二 本裁單合羽標付け方・縫ひ方順序

一、標付け方

袖 本裁單羽織に同じ。

身頃 本裁單コートに同じ。

豎衿 中表に幅を二つに折りて、之れを

重ね、本裁被布の豎衿と同じく、丈幅の標

幅は上下同寸をなし、豎衿附の方に、衿羽

織の衿の如く、合標を附く。

二、縫ひ方

袖 本裁單羽織に同じく袖を縫ひ、振り

を縮け置く。

身頃 本裁單衣の如く脊を二重縫ひになし、肩當を附け、次に

前身頃の裾を折りて假綴をなす。

豎衿 前身の豎衿附の縫ひ代を二分とし、表裏の豎衿にて之

れを挟み、丈及び合標を合せて、一針抜きに縫ひ、豎衿の下は、丈

標より一分先きを縫ひて、裏の方へ折り、縫ひ込みを豎衿附の

縫ひ目に綴ち附け、引き返して折り、正し、豎衿上の縫ひ代を、

表裏ともに、豎衿下り標より三角に、内へ折り込み置く。

小衿 本裁單コートの如く、小衿の幅を折り、其れより、小衿を、

下前の豎衿端より始め、豎衿下り標の所にて、少しく小衿の方

を弛めになし、上前の豎衿端まで一針抜きに縫ひ、小衿の方へ

折り、衿先を縫ひて、裏の方へ折り、引き返して、裏を縮け附け、豎

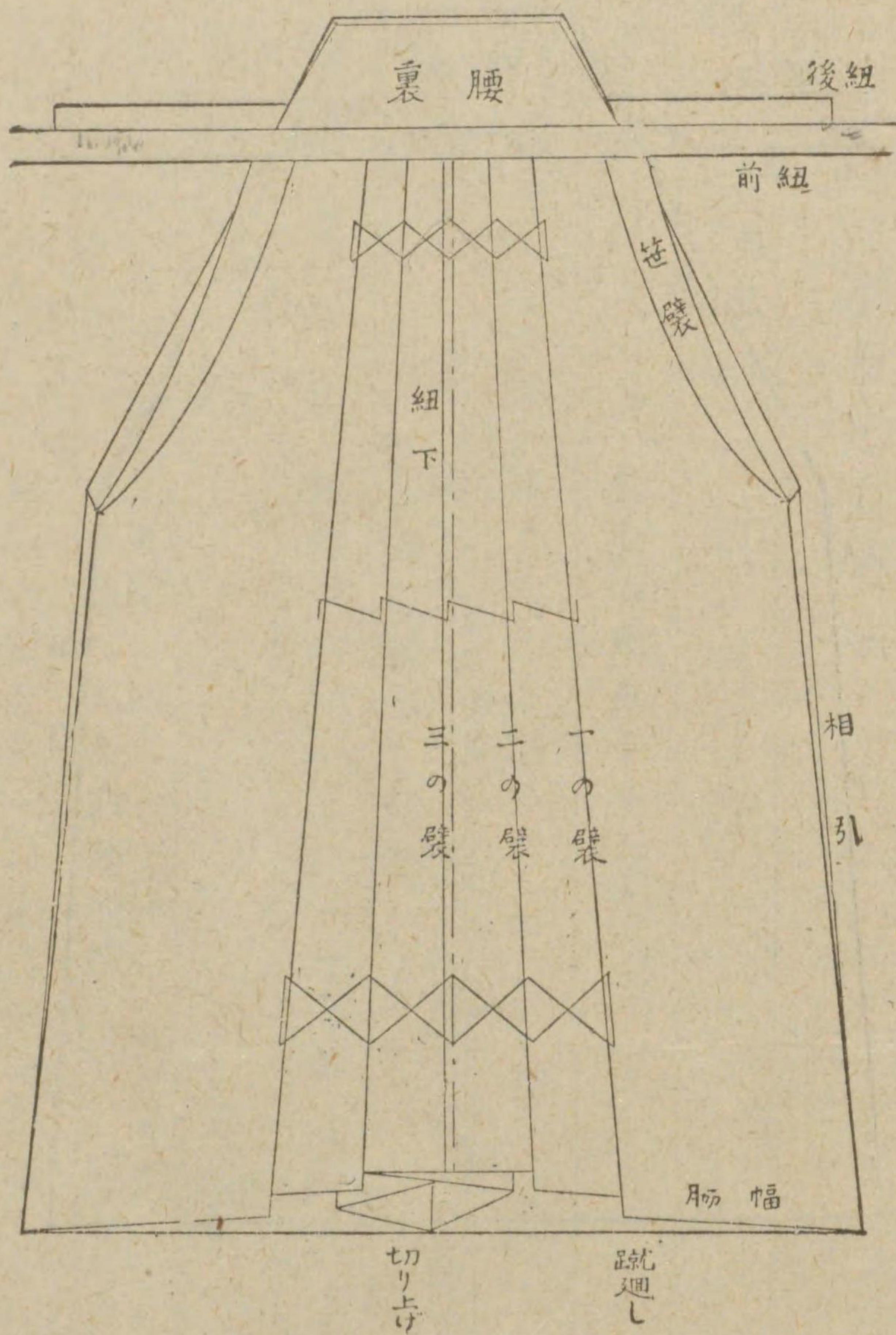
袴下りの角にて、小袴の裏を三角に摺みて、返し縫になし、豎袴の方へ折りて、まつり附く。

次いで脇を縫ひ、女單衣のときの如く縫ひ込みを綴ち、裾縮をなす。

袖附 袖附の始め終りを抄ひ留になし、身頃を見て縫ひ附け、身の方へ折り、身八つ口を縮け、肩當を袖附に縮け附け、終りて、本裁單コートの如く飾紐を附く。

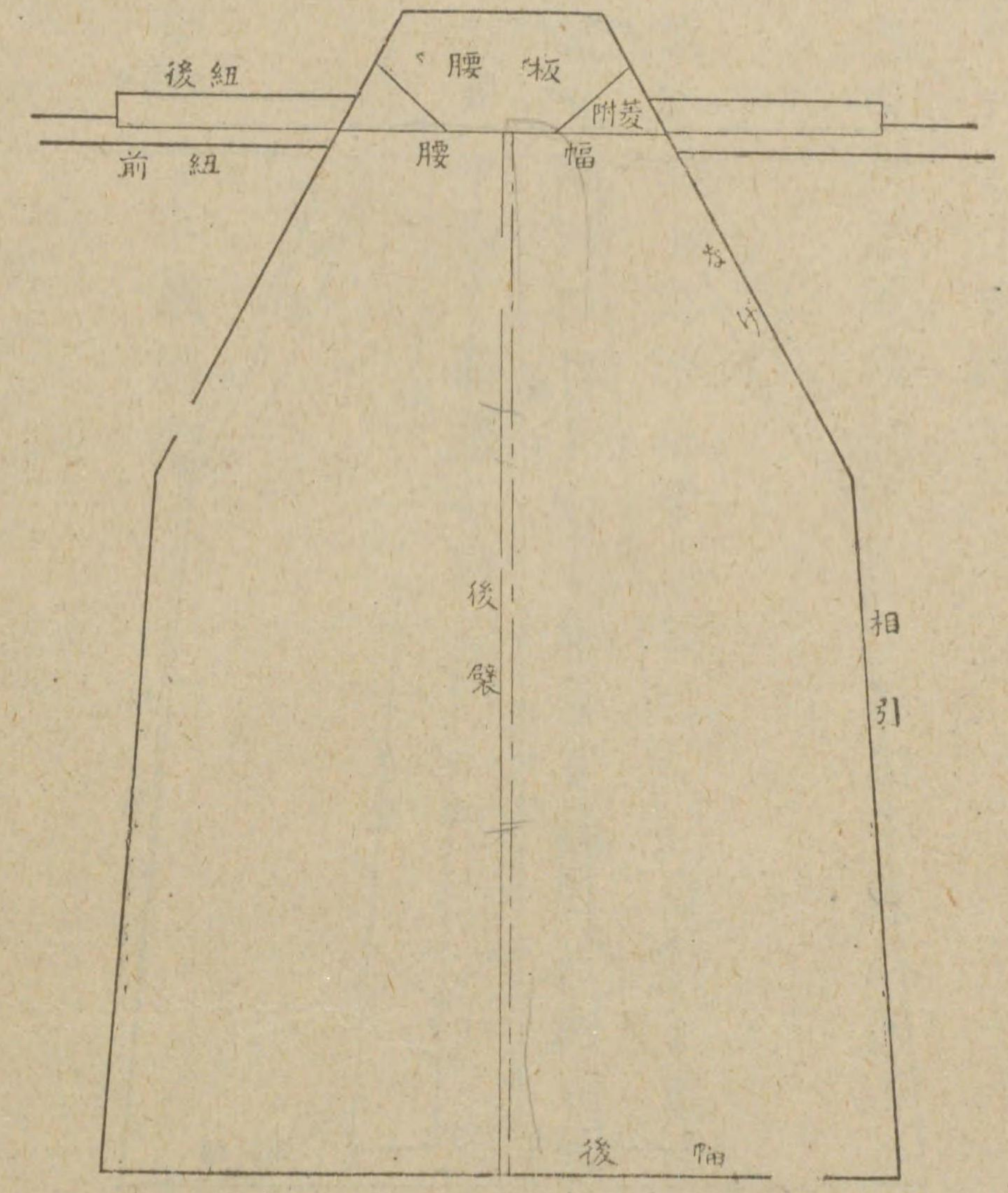
第七章 本裁男袴

第一 男袴各部の名稱



男袴(前)の圖

男袴（後）の圖

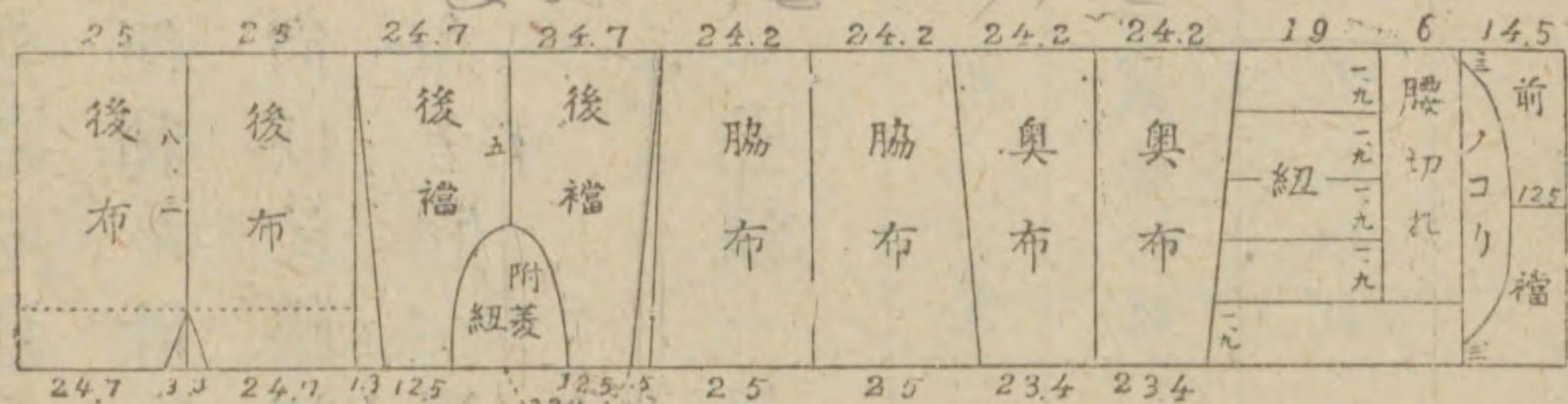


第二 本裁男袴普通仕立上げ寸法及び
割り出し方

各部名稱	普通仕立上げ寸法	割り出し方
紐下	二尺二寸	着丈の凡そ十分の六
相引	一尺四寸六分	紐下の凡そ三分の二
後幅	八寸	紐下の凡そ三分の一に八分許りを加ふ (着物の後幅と同寸)
腰幅	六寸五分	後幅の四分の三に五分を加ふ
後重ね幅	上、下、三一分寸	
腰板幅	上、六寸五分 下、四寸三分五厘	上、腰幅と同寸 下、腰幅の凡そ六分の四
腰板高さ	二寸三分	腰幅の三分の一に二分を加ふ
附菱幅	二寸四分	腰幅の三分の一に二分を加ふ
附菱高さ	一寸五分	腰板斜邊の二分の一に二分を加ふ

150 = 13.48

並幅二丈三尺五寸七分にて本裁男袴の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

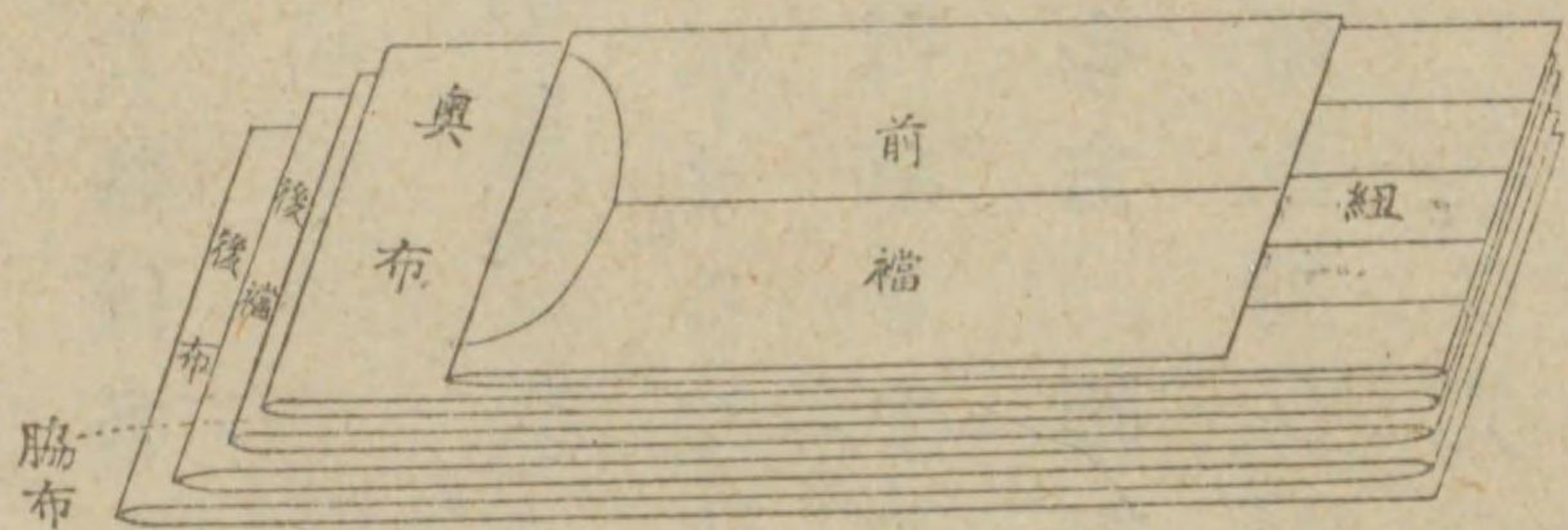
$$\{ \text{用布の總尺} - (\text{紐} + \text{腰切れ} + \text{前襠}) + \text{裁ち違ひ} \} \div 8 = \text{後丈}$$

$$\{ 235.7 - (19 + 6 + 14.5) + 3.8 \} \div 8 = 25$$

$$(\text{紐下} + \text{裁ち込み}) \times 8 - \text{裁ち違ひ} + \text{紐} + \text{腰切れ} + \text{前襠} = \text{用布の總尺}$$

$$(22 + 3) \times 8 - 3.8 + 19 + 6 + 14.5 = 235.7$$

用布の折り方



用布を積るには、後布の丈を標準とし、後布の切り上げ(後丈と後襠丈との差に當る)の二倍、即ち六分、脇布・奥布の切り上げの四倍、即ち三寸二分、合計三寸八分を裁ち違ひとして計算するなり。又裁

第三 本裁男袴裁ち方・積り方

前	後	三の襷深さ(懷襷)	切り上げ	乗間	襠の高さ	笹襷幅	前寄せ襷幅	前紐附幅	脇幅
紐	紐	二寸八分	一寸六分	九寸三分	一尺二寸	一寸二分	上、一寸八分 下、一寸六分	八寸	四寸八分
幅丈 七・九 分尺	幅丈 七・八 分寸		紐下の凡そ百分の七	紐下の十分の四に凡そ五分を加ふ	相引の高さより凡そ一寸を減す	脇幅の四分の一	上、後幅の十分の一 下、後幅の五分の一	後幅と同寸	後幅の凡そ五分の三

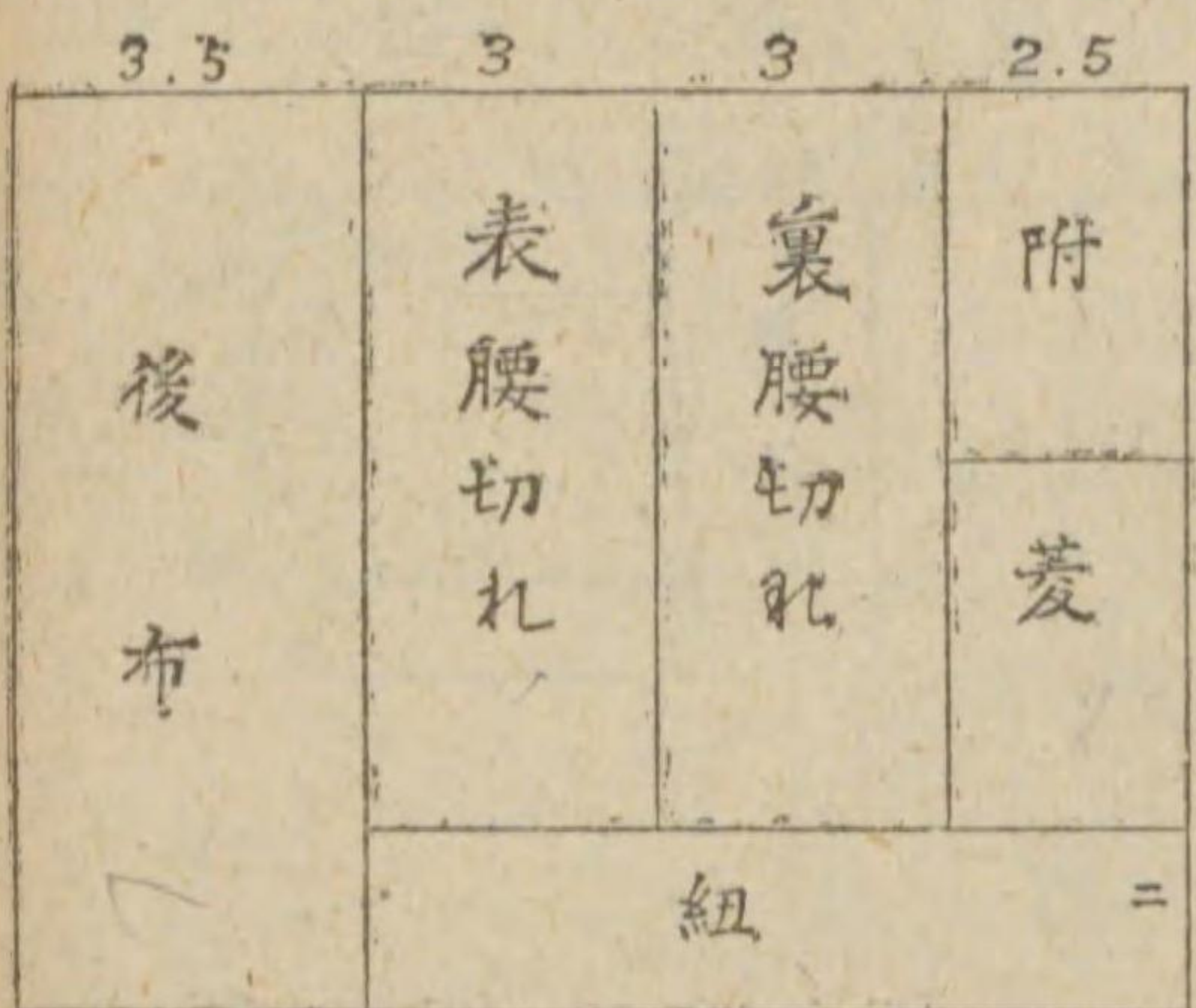
2.3
15.1

18
x 17
2.6

ち込みを通常三寸とすれども、用布に餘裕あるときは、仕立直しの便利を計り、成るべく多く見込み置くべし。
 尙ほ又腰切れは損じ易きものなれば、替へ腰の用として、餘分の布を貯へ置くをよしとす。

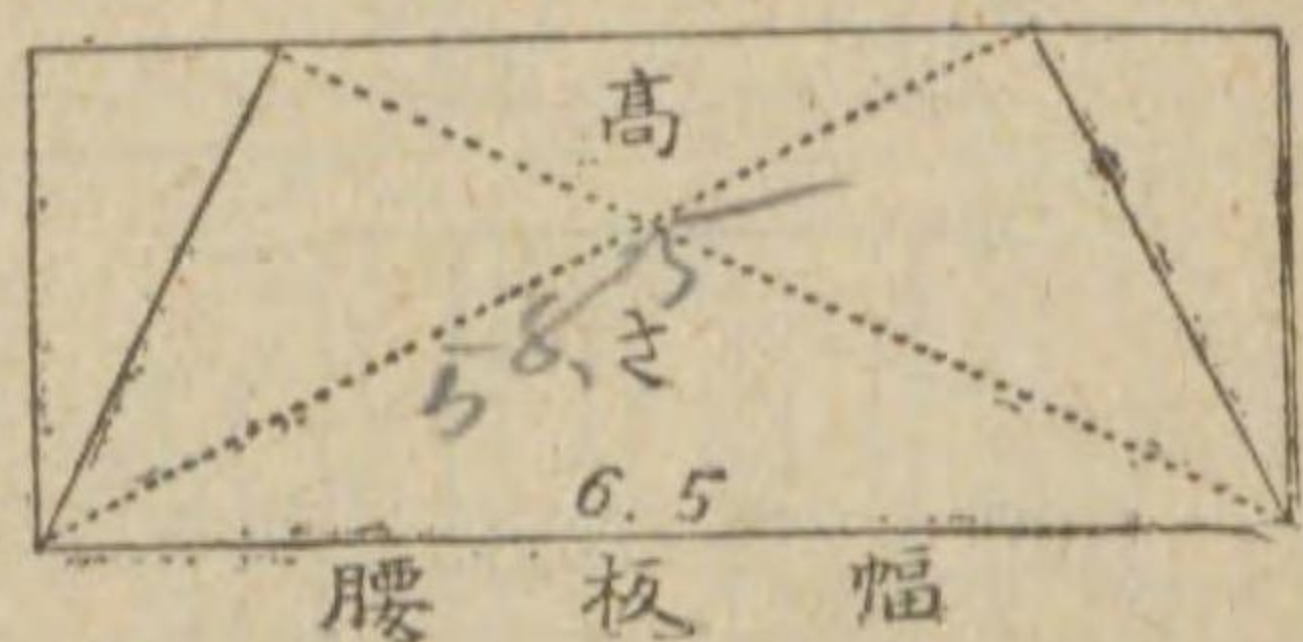
第四 部分縫 袴の腰板

並幅一尺二寸の縞布を圖に示せる寸法に従ひて裁ち切り、部分縫の練習をなすべし。

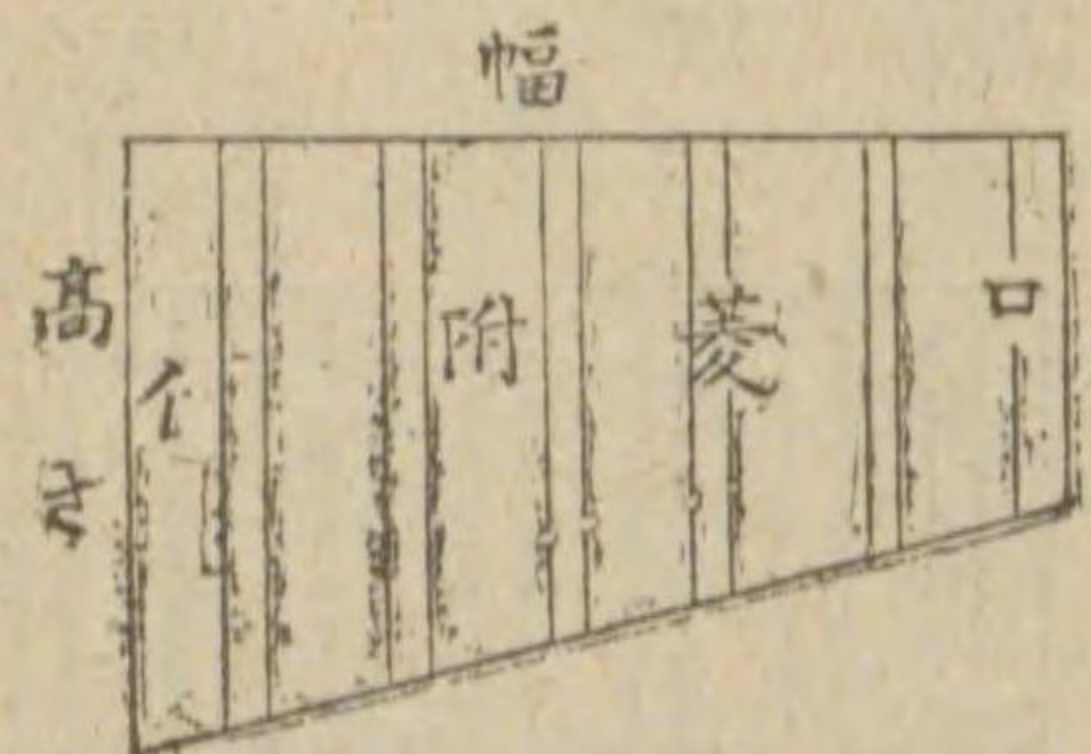


一、腰板紙の裁ち方 腰板紙には美濃紙二十枚程の板目紙を用ひ、前に掲げたる普通仕立上げ寸法に従ひ、先づ腰板の幅次に、高さを標し、腰板幅の兩端より、高さにかけて、腰板幅の十分の九を計りて、上幅の標をなし、圖

腰板紙の裁ち方



附菱の裁ち方



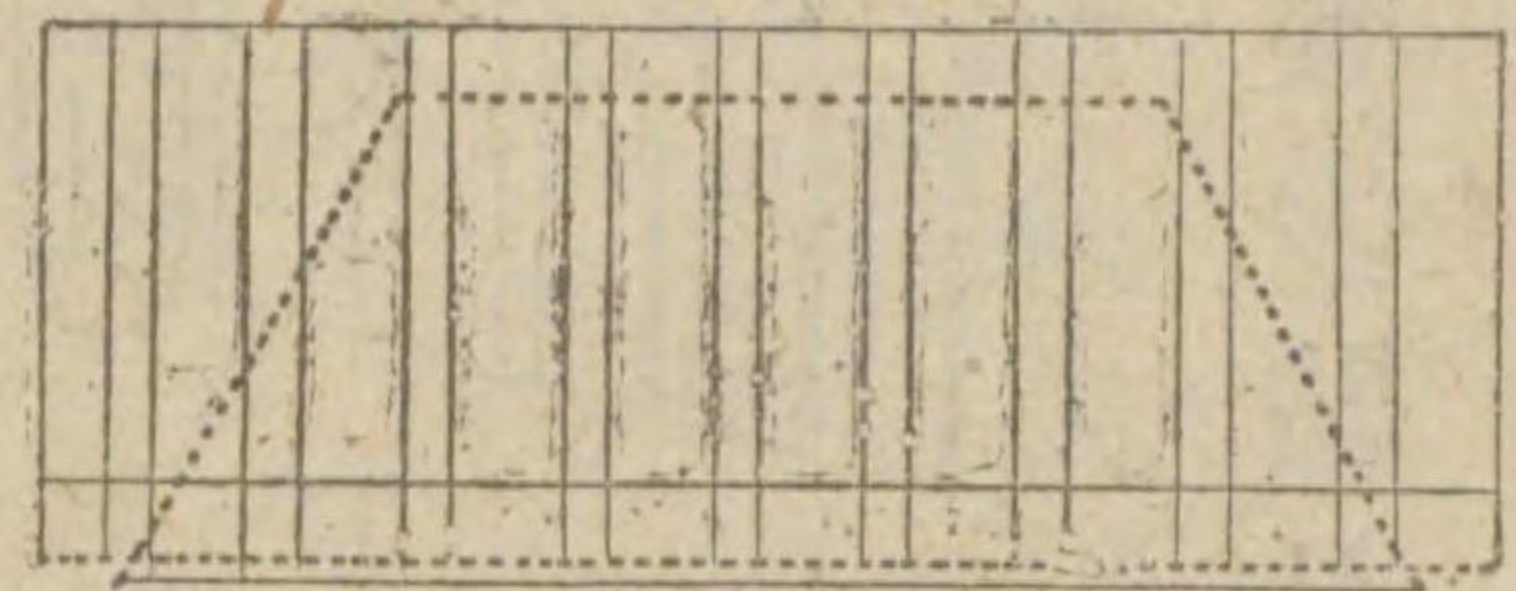
四、表腰の貼り方 表腰切れと腰板紙の表裏との幅の中央に標を付け、又表腰切れの下方を五分幅に折り置き、腰板紙の下方

の如く裁ち切るなり。又別に半紙を八分幅に切り、固く撚りて、腰幅の凡そ三分の二の長さに紙撚を作り置く。
 三、附菱の裁ち方 腰幅の二分の一を附菱の幅とし、腰板の高さに二分を加へたるものを一方の高さ(イ)とし、其の二分の一を、他方の高さ(ロ)として裁ち切る。

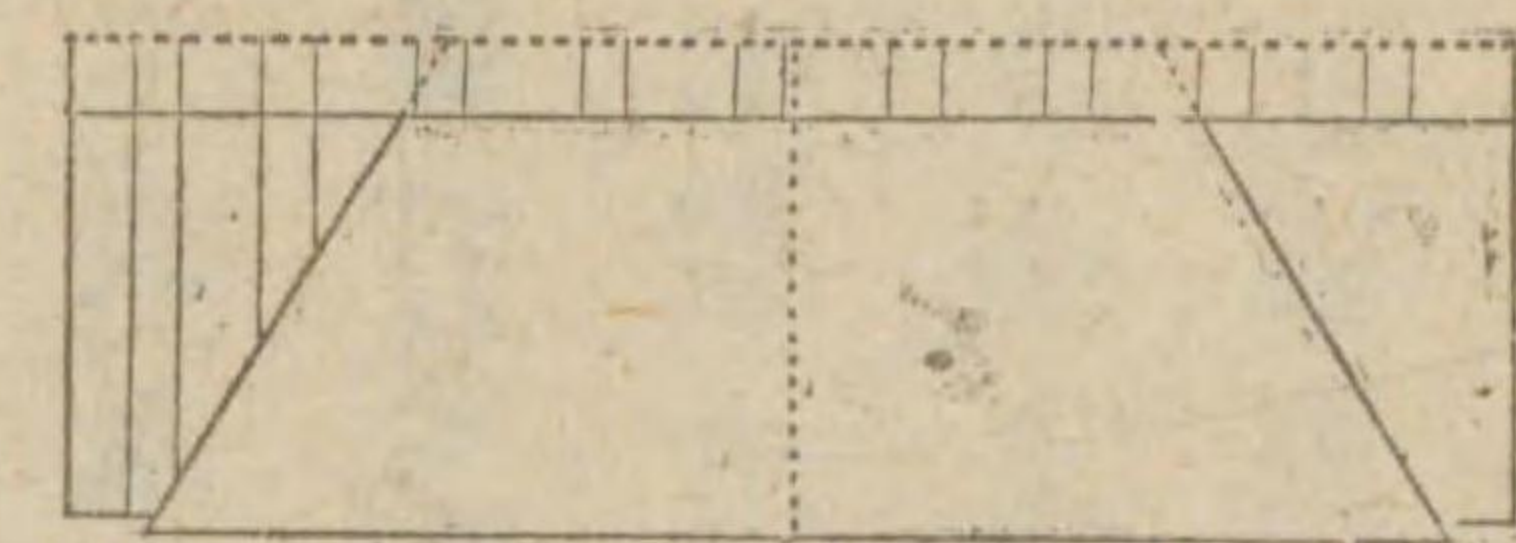
三、裏打ちの仕方 半紙を揉み、之れを烙鏝にて伸し置き、裏腰切れ、附菱切れの周圍に淺く淡き糊を引き、前の紙にて裏打ちをなす。

表腰の貼り方

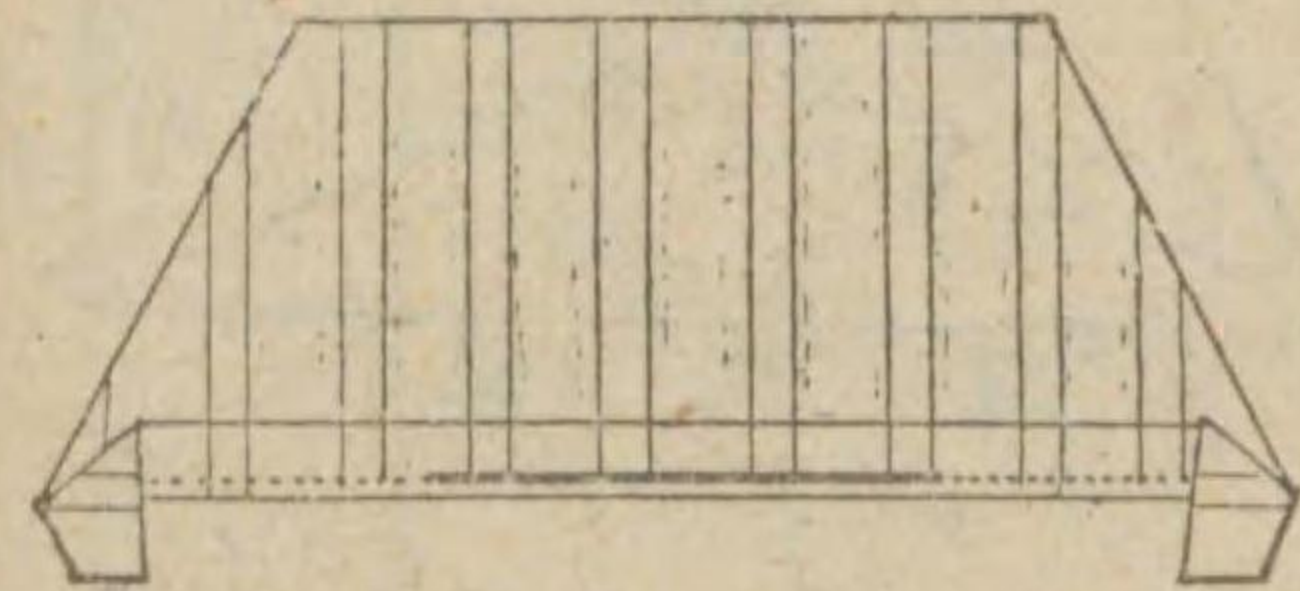
第一圖



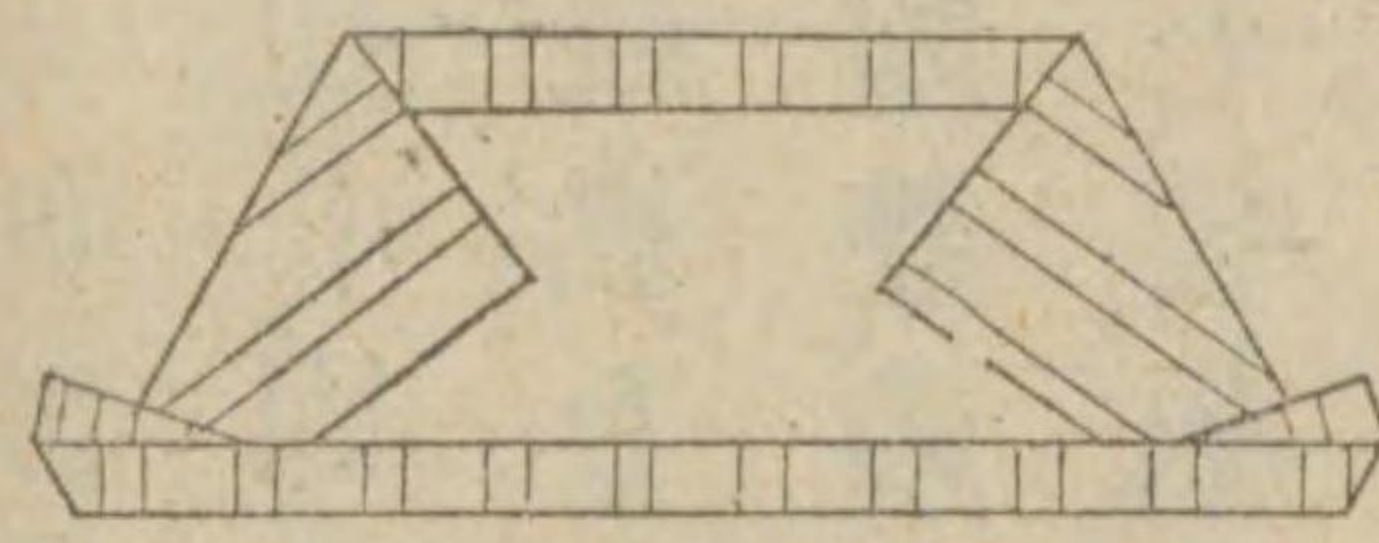
第二圖



第三圖



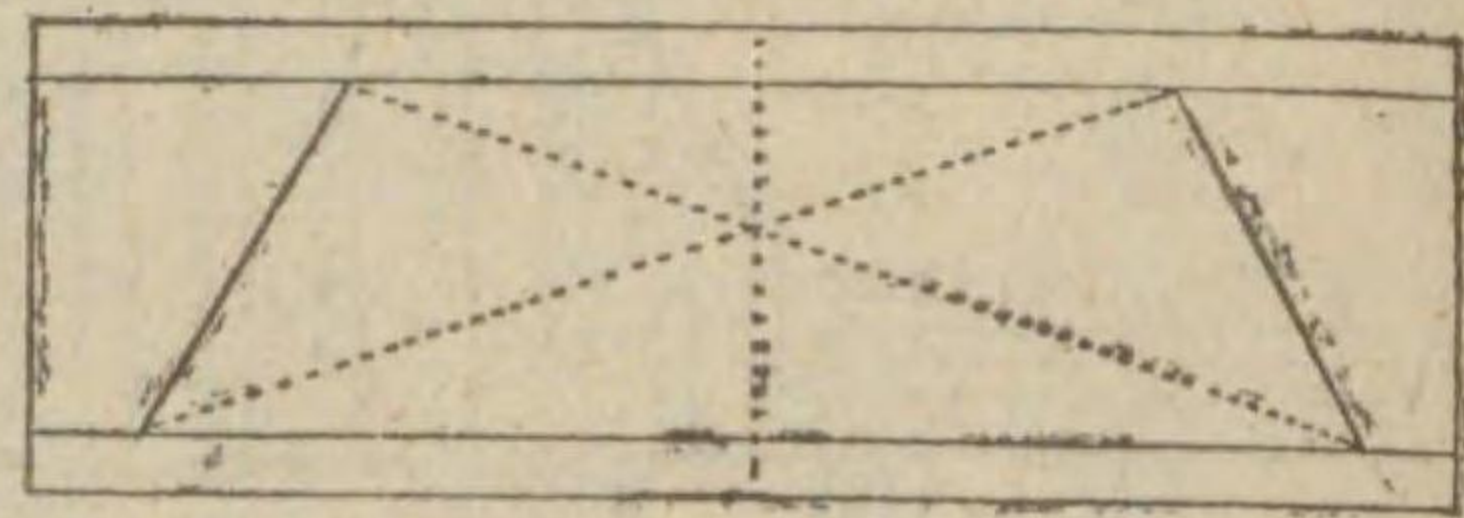
第四圖



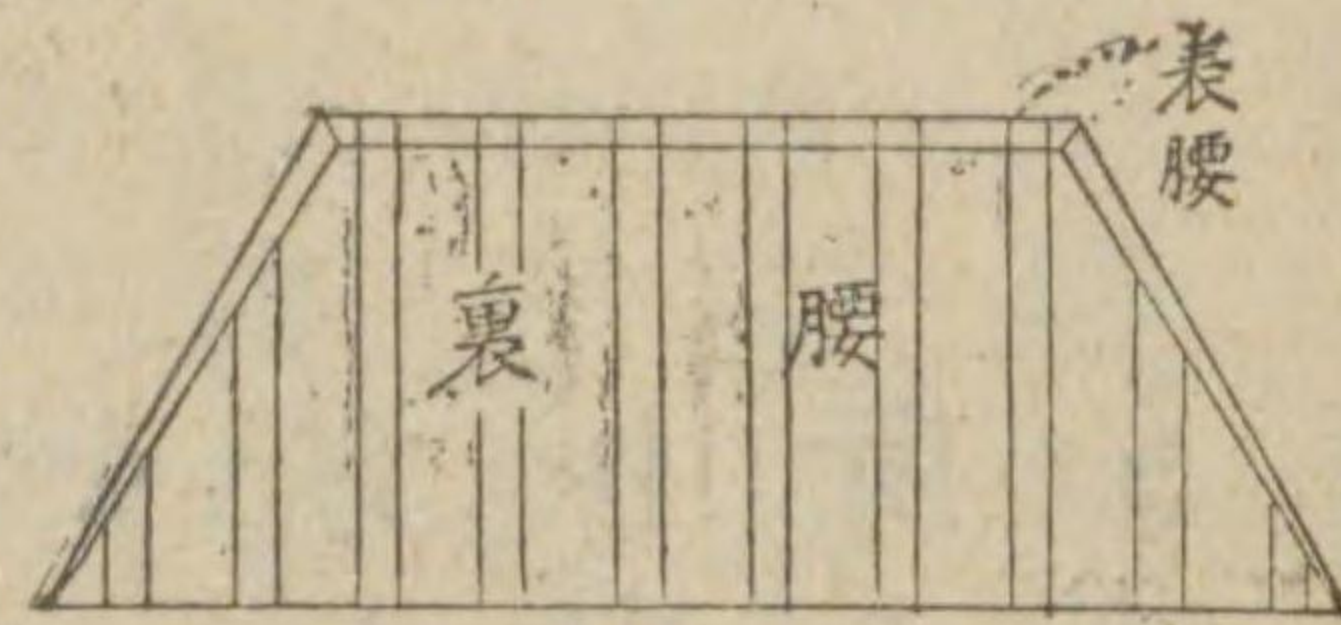
に三分程の幅に糊を引き、表腰切れの中央を腰板紙の中央に合せ、又表腰切れの折り目を腰板紙の下方より五厘上に合せて、第一圖の如く平に貼り、烙鏝をかけ、腰板紙裏の上方に二分程の幅に糊を引き、能く中央の標を引き合せ、第二圖の如く布目正しく之れを貼り、次に、第三圖の如く兩側を貼り付け、前の紙摺を取り、糊を引き、腰板紙の下方五厘の所に据ゑ、よく其の位置を整へ、腰板紙裏の下方に糊を引き、表腰切れの折りを開きて、第四圖の如く、紙摺の上より之れを貼り附く。

裏腰の折り方

第一圖



第二圖



五、裏腰の折り方

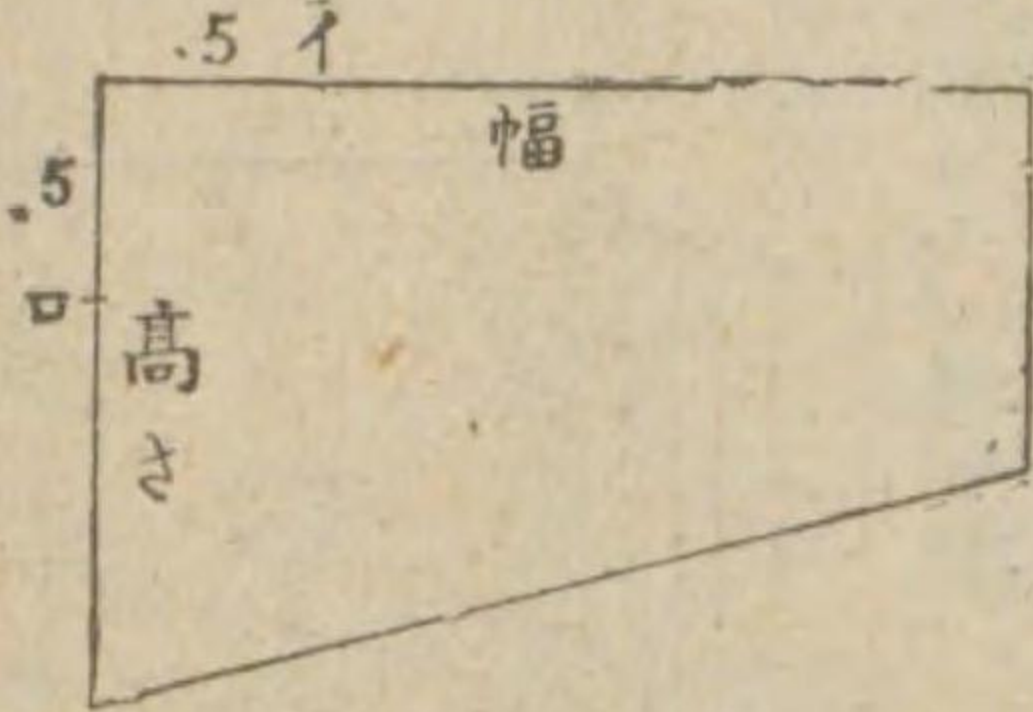
上部の折り代を三分、下幅を表腰と同寸とし、高さ及び上幅と下幅との對角線を一分づゝ詰めて第一圖の如く折り、之れを第二圖の如く表腰に重ね、能く表裏の縞目を合せ置く。

六、附菱の折り方及び付け方

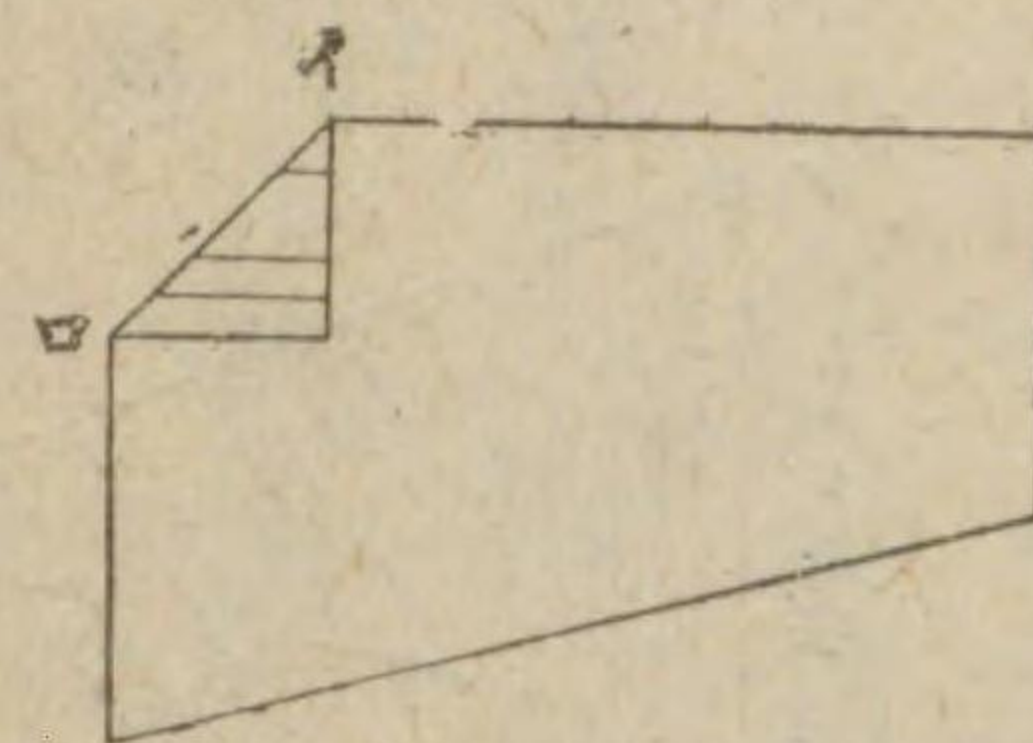
先づ第一圖の如く、附菱の高さと幅との双方に五分の標イ・ロを付け、第二圖の如く折り、第三圖

附菱の折り方

第一圖

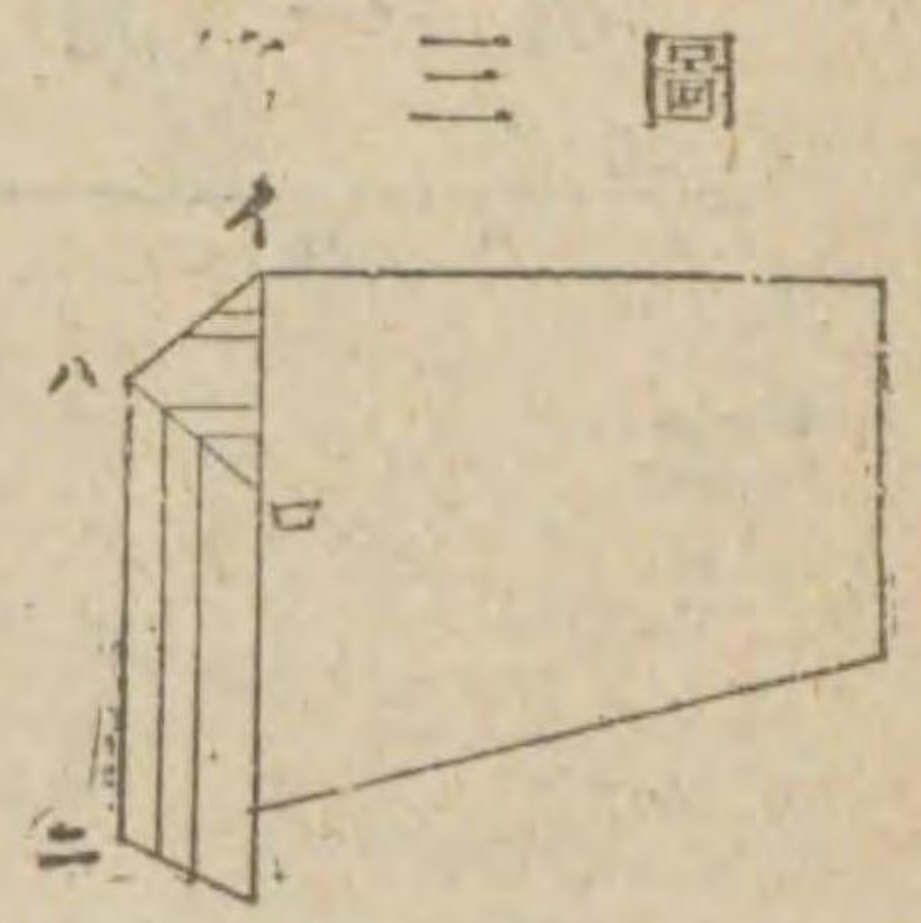


第二圖

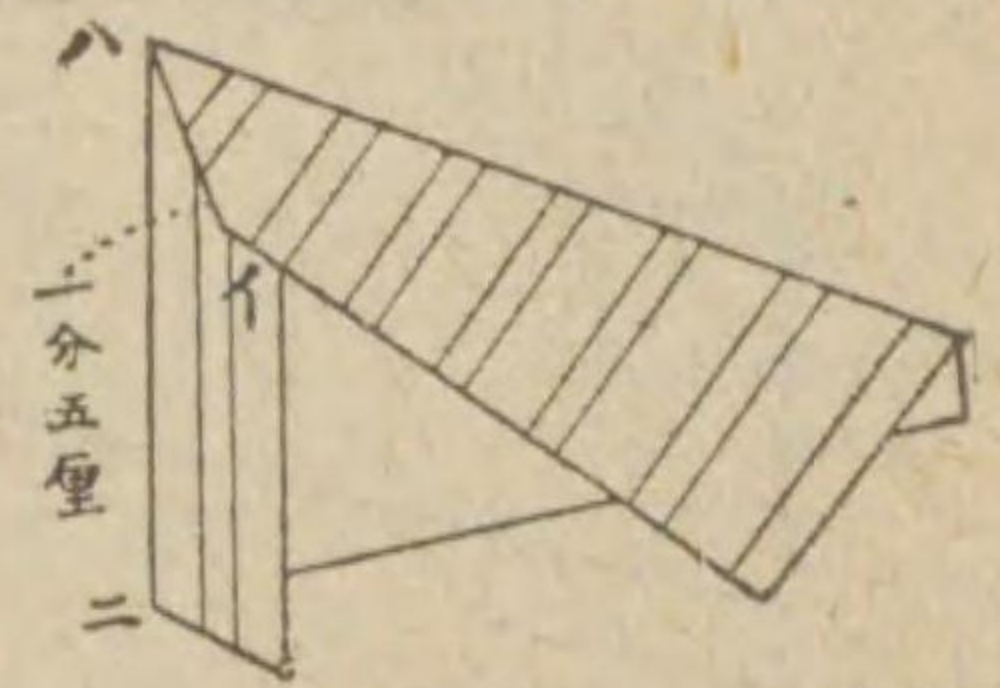


の如くロの方を二分五厘の幅に折り、第四圖の如く、イの方をハの角より斜に折り、イの角をハ・ニの折り目より一分五厘離し、次に、表腰に附

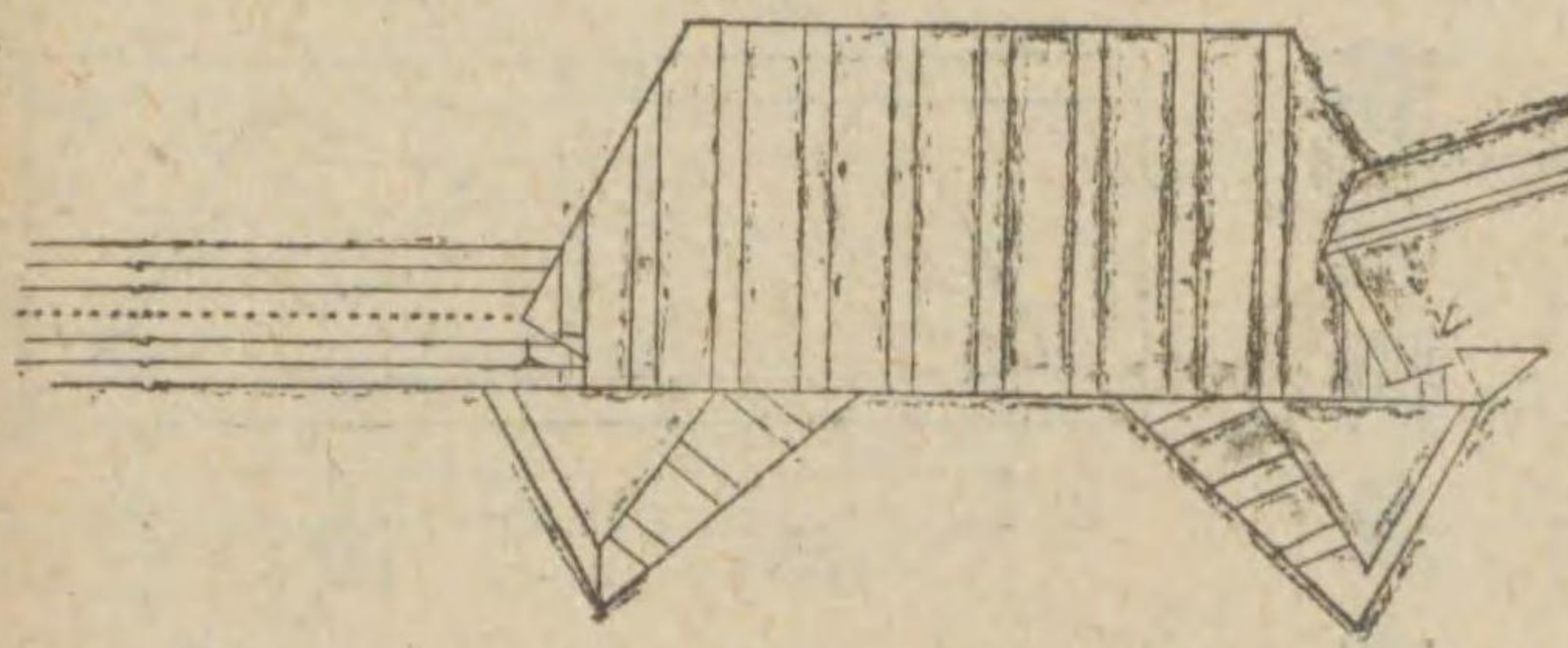
附菱の折り方



第四圖



後紐の折り止の留め方



後紐の付け方

後紐の表側の留め方

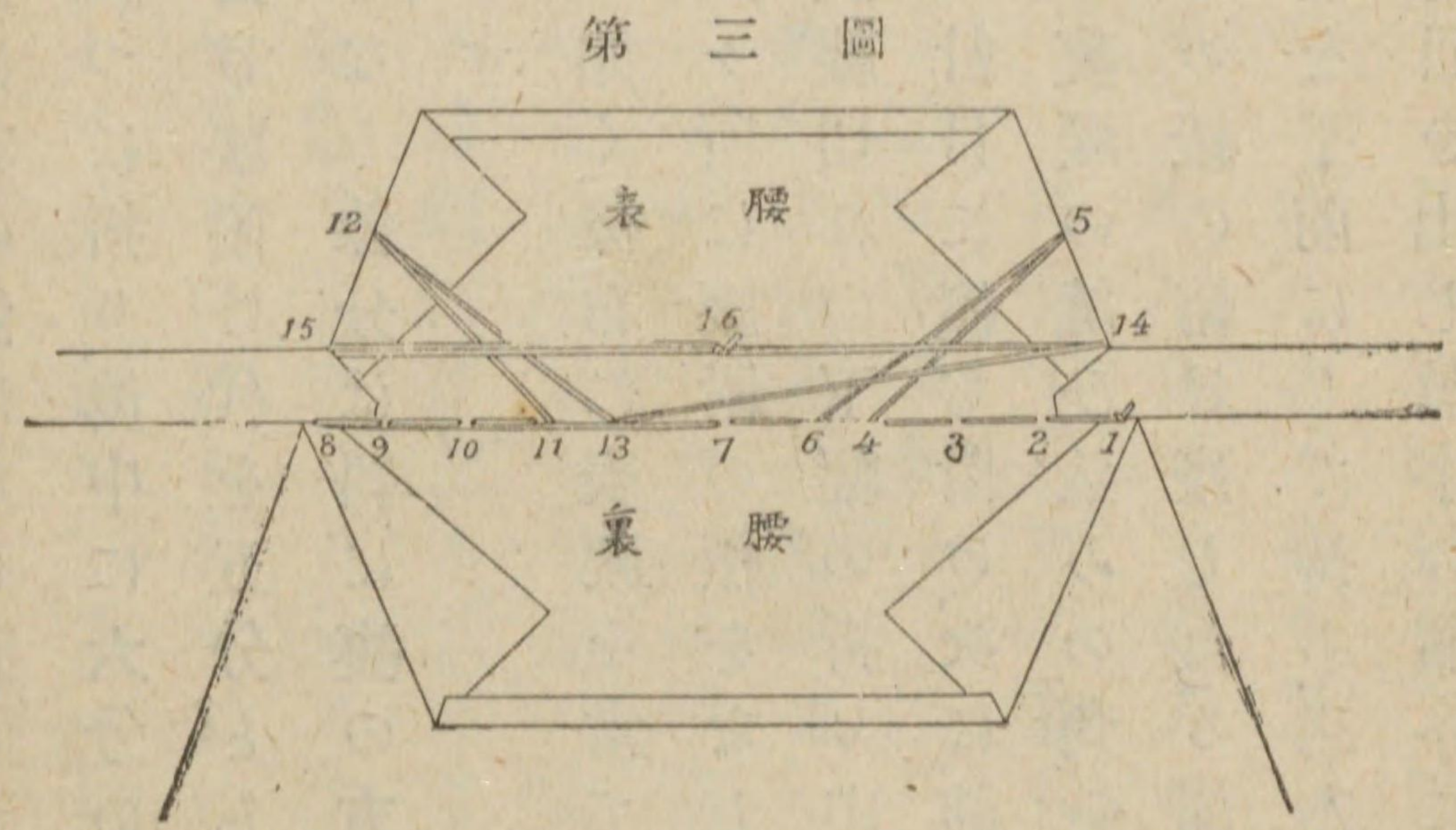
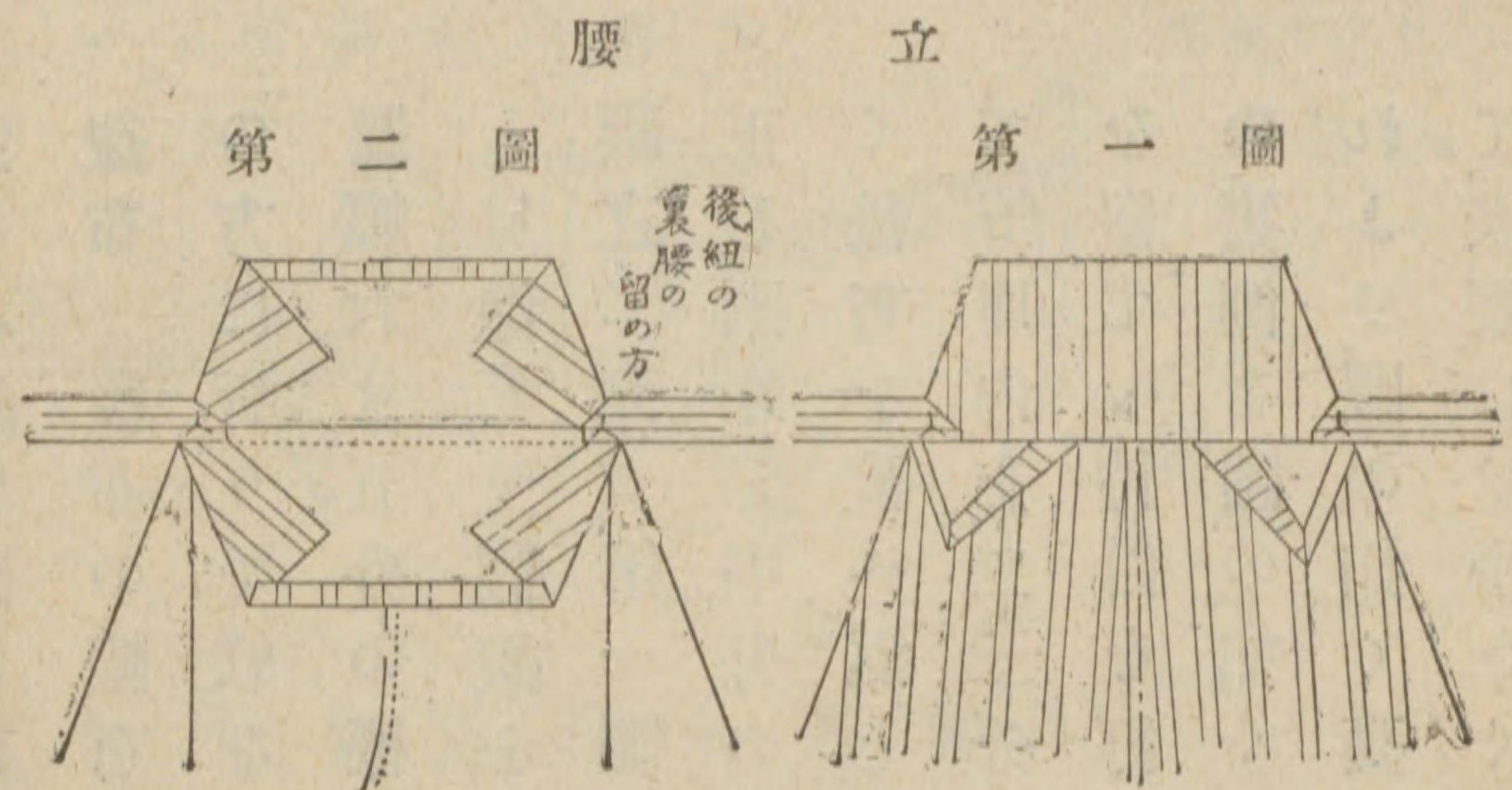
菱の寸法を標し、附菱を其の標に當てて、よく高さ及び幅を正し、後ち、之れに合せて他方の附菱を折り、表腰に當て、下方の裏に折り返る部分を腰板の裏に貼り附く。

七、後紐の紵け方及び附け方 一本の紐には、心こゝろを向ふへ、他の一本には手前にくるみて、終りを一寸五分程残して、紵け置き、次に、腰板の下方より紐幅だけ上り、其の五厘下に、紐幅の折り山を當て、心こゝろをくるめる方を表側とす。此の所より、二本の撚り合せ糸にて、腰板を一針抜き通して確と留め、下方へ折り返して、紐の表側にて表腰の縫ひ込みをくるみ、圖の如く表

側のみ綴ち附け、裏側は其の儘になし置く。

八、後布 後布の幅を二つに折り、真中に六分の後襷を摘み、右脚の方に折りて、襷を掛け、腰附け代を五分とし、襷を真中にして、腰幅六寸五分の標をなし、餘分は斜に裏の方へ折り、之れを投なと見倣して假綴をなす。

九、腰立 先づ、第一圖の如く、後布に表腰を當て、よく其の位置を正し、兩端と中央の三ヶ所に腰附の標をなし置き、第二圖の如く、後布を裏へ返し、裏腰切れの下幅の折り山を腰附の標に當て、五厘内を、二三分の針目に綴ち附け、次に、前の如く再び表腰を當て、待針を打ち、裏腰の縫ひ込みの角を紐の内に入れ、紐の裏側を圖の如く留め、紐の紵け残したる部分を紵け附け、其れより、圖の如く裏腰を手前にして持ち、二本の撚り合せ糸にて、表腰には小さく針目を出し、數字の順序に糸を掛けて、腰立

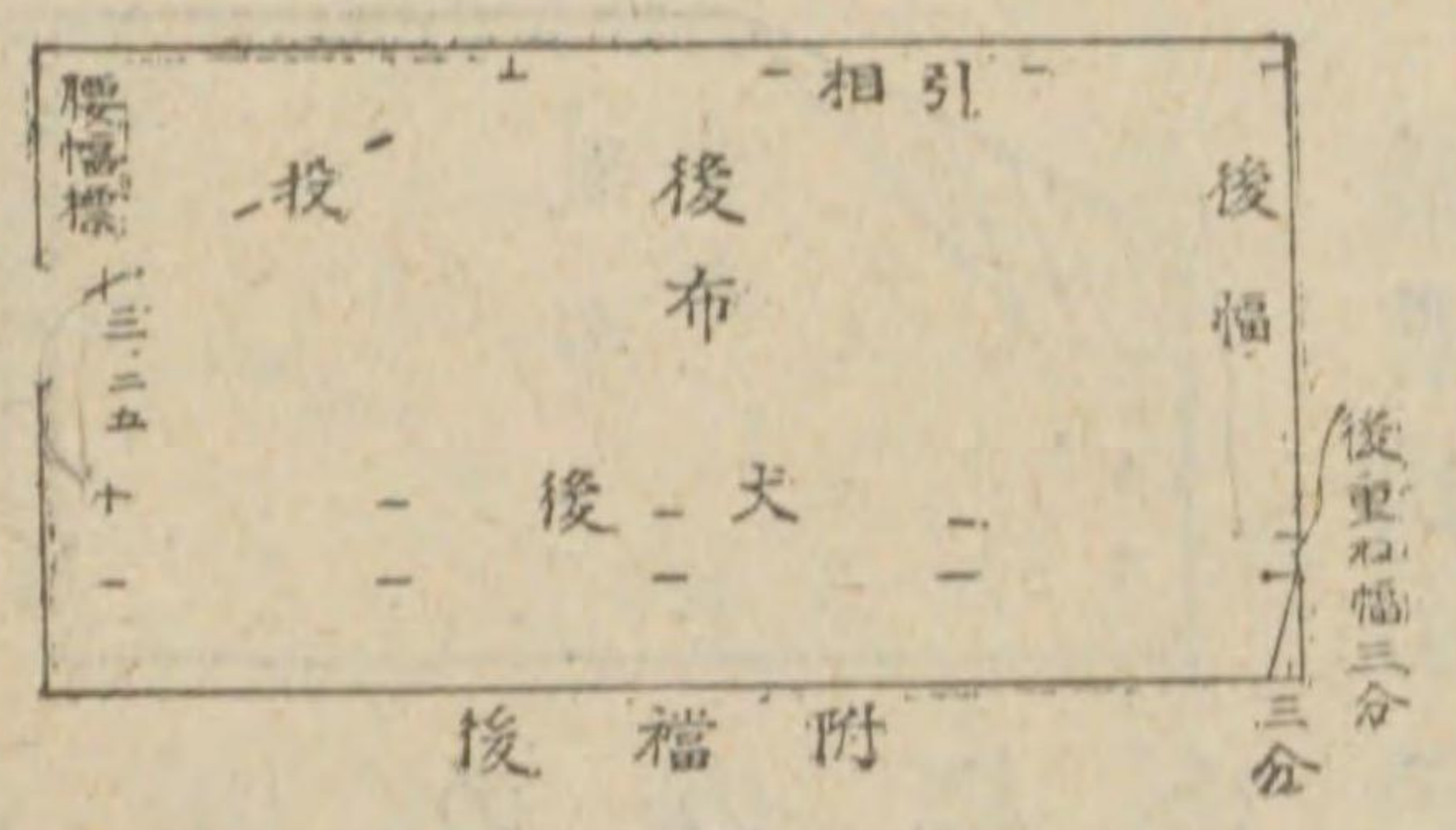


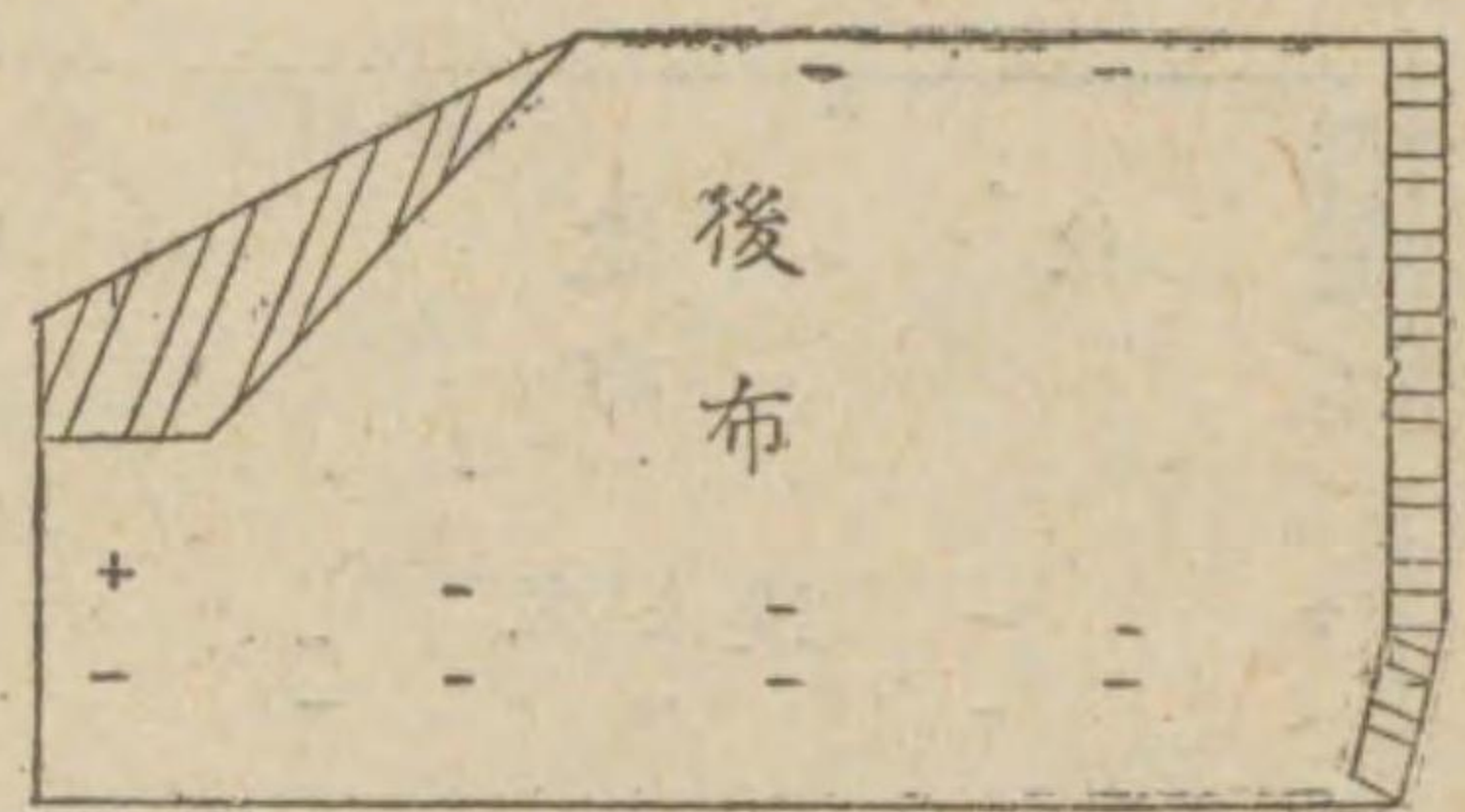
をなすなり。
 5と12との針
 は共に表腰の
 裏より表へ通
 し、附菱上角の
 裏を浅く抄ひ
 て、表腰の裏へ
 もどるなり。
 14と15との針
 は紐附際を、紐
 の裏側より腰
 板を通して紐

の表側へ出し、小針に紐裏に抜き通して、裏腰を縦に抄ひ、再び紐と腰板とを通し、附菱折り山の内裏を縦に抄ひ、斜に腰板を通して、内側へ抜き出すなり。又16の針は14より15に互れる糸に掛け、縫ひ込みの所を抄ひて留むるなり。終りに、裏腰の周囲に、二分程糊を引き、之れを表腰に貼り合すなり。

第五 本裁男袴標附け方

一、後布 二枚の後布を中表に重ね、裾を右に、相引を向ふにして、布を据ゑ、裾の方に、先づ、相引の縫ひ代を標し、次に、寸法通り後幅を標し、之れより後襠附まで、斜に切り上げの三分を裁ち落とし、後幅標より腰附の方にかけ、相引の方へ七分寄せ、斜に、紐下に裾折り代の五分と切り上げの一





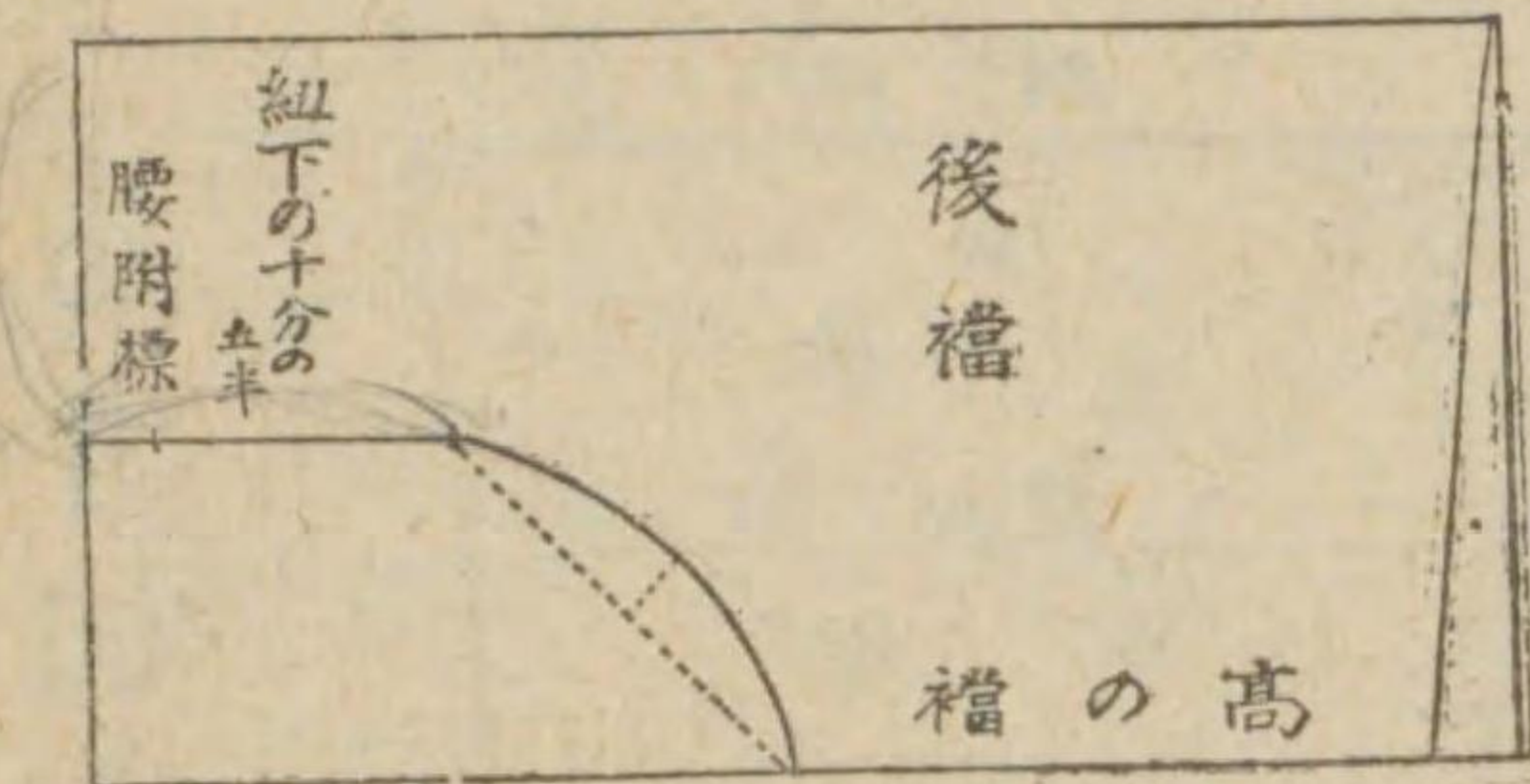
寸六分とを加へたる寸法を計りて、後丈を標し、又其の間の幅標を付け、後丈の標より布目を通して、腰幅の二分の一を計りて、腰幅標をなし、相引の寸法に裾の折り代を加へて、相引留の標をなし、此の標と腰幅標とにかけて、斜に投を標し、標通り裏の方へ折り、其の端を表布の縞目に沿ひて、正しく折り、躰をかけ、後幅標より三分離して、裾に後重ね幅の標をなし、左脚の後布には、其の縞目を通して上まで折りを付け、右脚の後布は後幅標の通り折り、後ち、裾の折り代を標し、後襠附の方に、縫ひ代の標をなす。

二、襠の割り方

前襠 布幅を中表に二つに折り、裾を右に、輪の方を手前に置



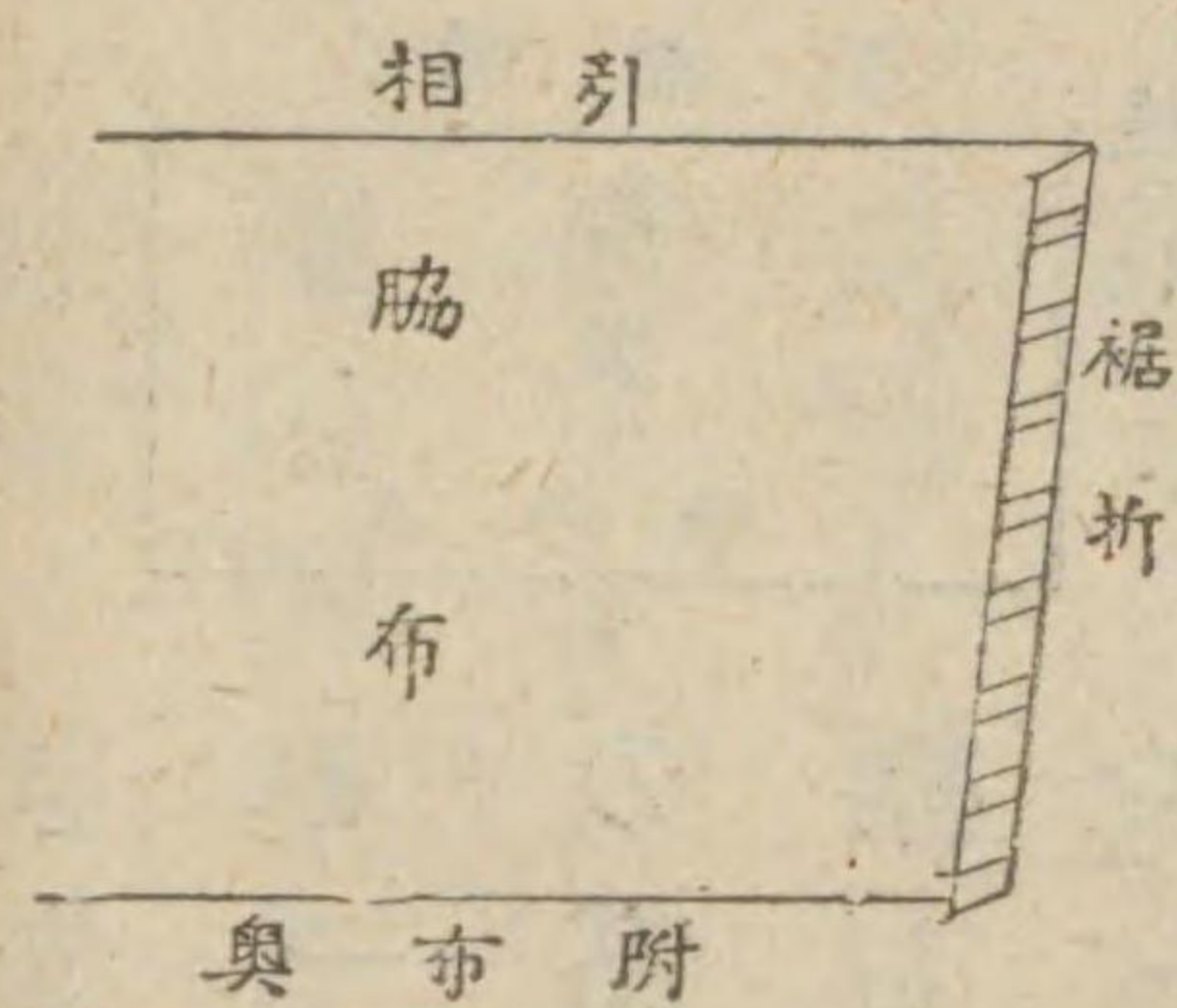
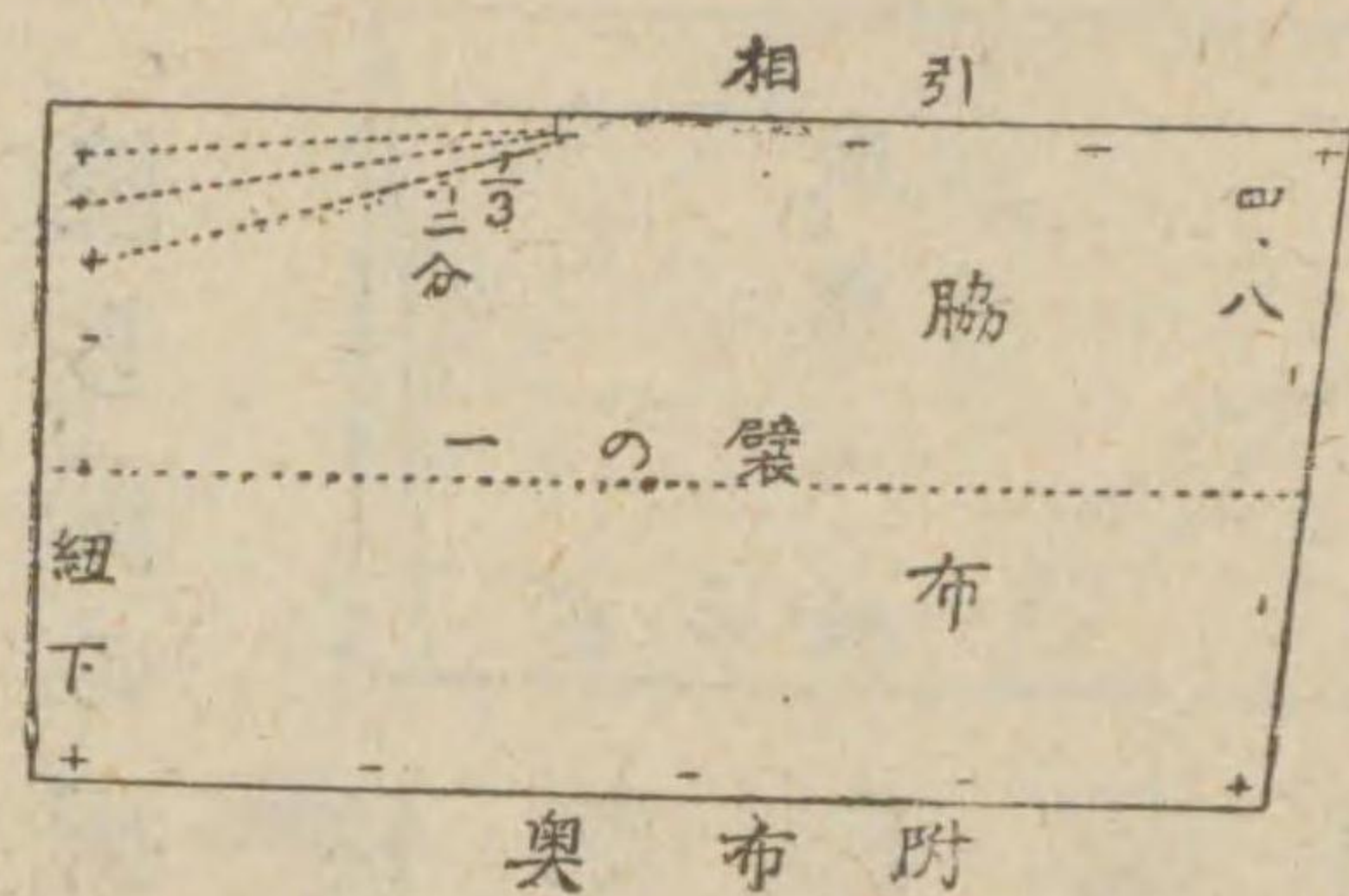
き、先づ、襠の出来上りの高さ(相引の寸法より切り上げと一寸とを減じたるもの)に五分を加へて、輪の方に、襠の高さを標し、次に、襠の上方に三分の奥布附縫ひ代を標し、兩標間の寸法を計り、中間に於て、其の十分の一より一二分多く内に入り、圖の如く恰好をつけ、割り落し、後ち、裾の折り代を標す。



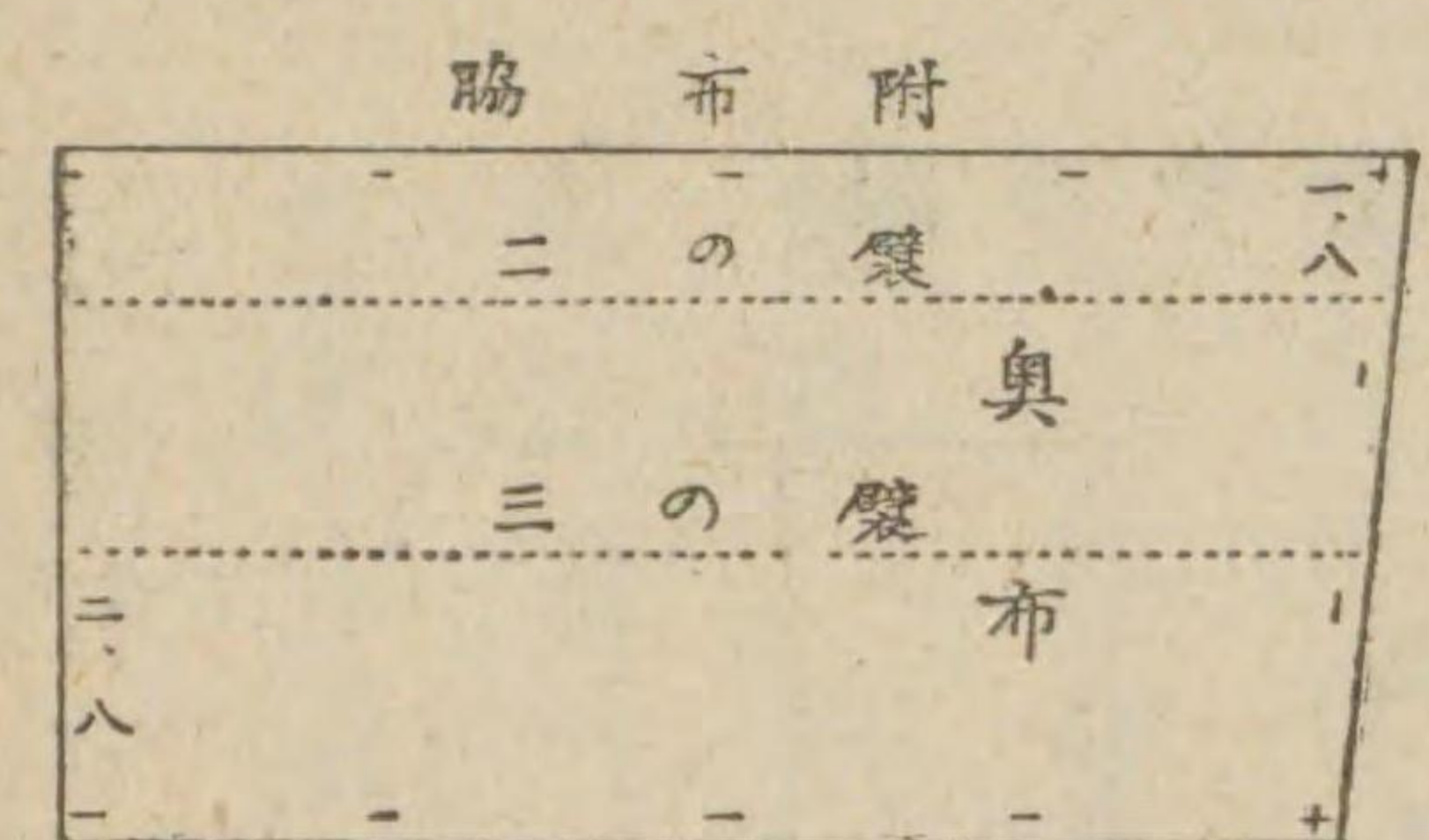
後襠 二枚の布を中表に重ね、裾を右にして、圖の如く据ゑ、後布の腰附標に従ひて、腰附の標をなし、前襠と同様に後襠の高さを標し、次に、乗間の寸法より前襠の幅を引きたる寸法を計りて、腰附の所に乗間を標し、紐下十分の一半まで、其の縞目を眞直に通じ、其の所より襠の高さの標までを斜に計り、中間にて其

の寸法の六分の一内に入り、圖の如く恰好をつけ、削り落とし、後ち裾の折り代を標す。但し、乗間の寸法は著用者の肥瘠により、多少の差異あるべければ、場合に應じて、適宜に斟酌を加ふべし。

三、脇布 二枚の布を中表に重ね、相引を向ふにして、後布の如く据ゑ、先づ、後布と同様に相引留及び相引の縫ひ代を標し、次に、脇幅の標をなし、之れを一の襷の折り山とす、更に相引の方にて、裾より上方に、後丈より三分を引きたる寸法を計りて、假に前紐附の高さを標し、其の布目を一の襷標まで通して紐下を定め、後ち、女袴のときの如く、笹襷の標を附く。但し、女袴にては、前紐附

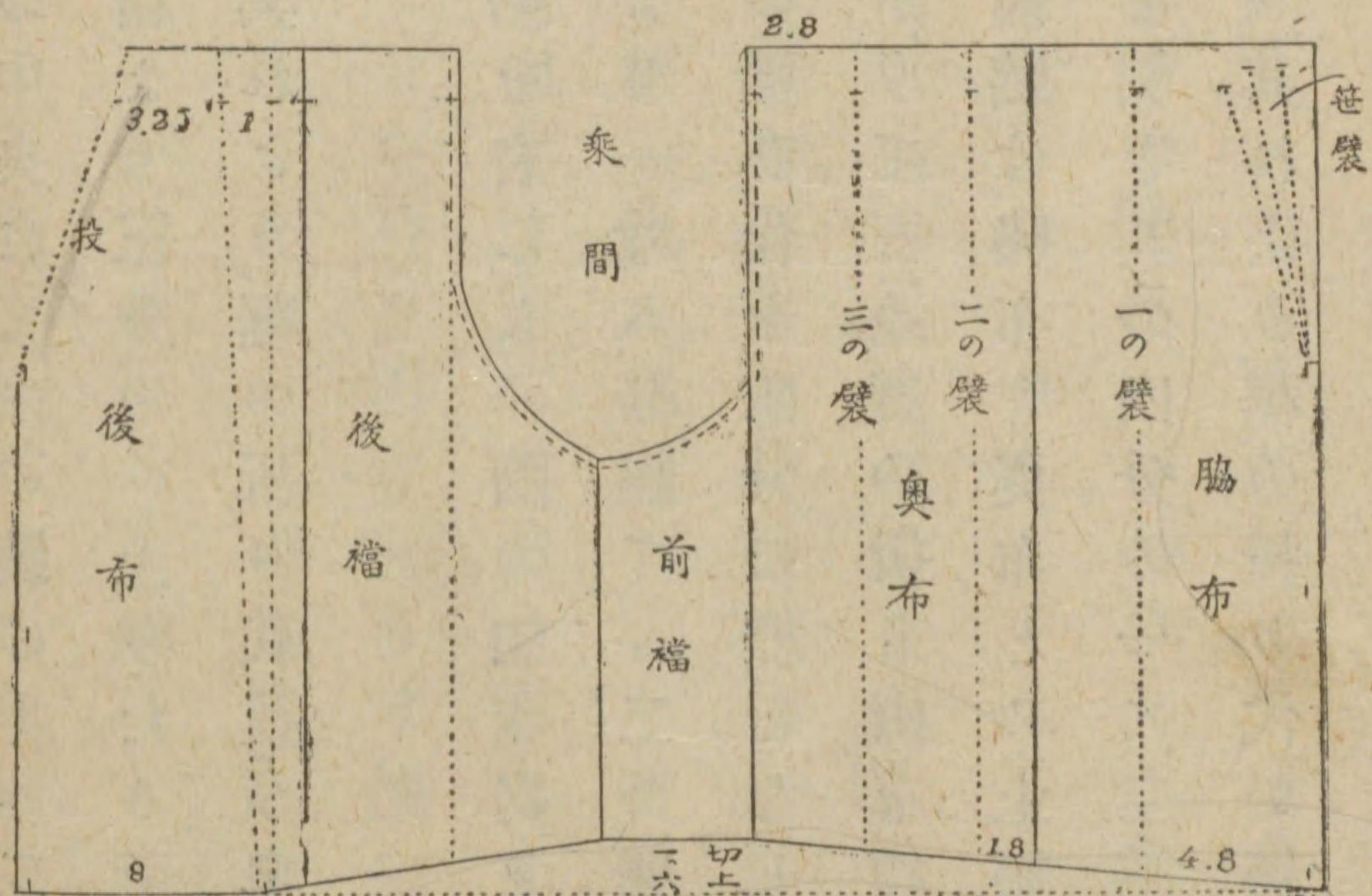
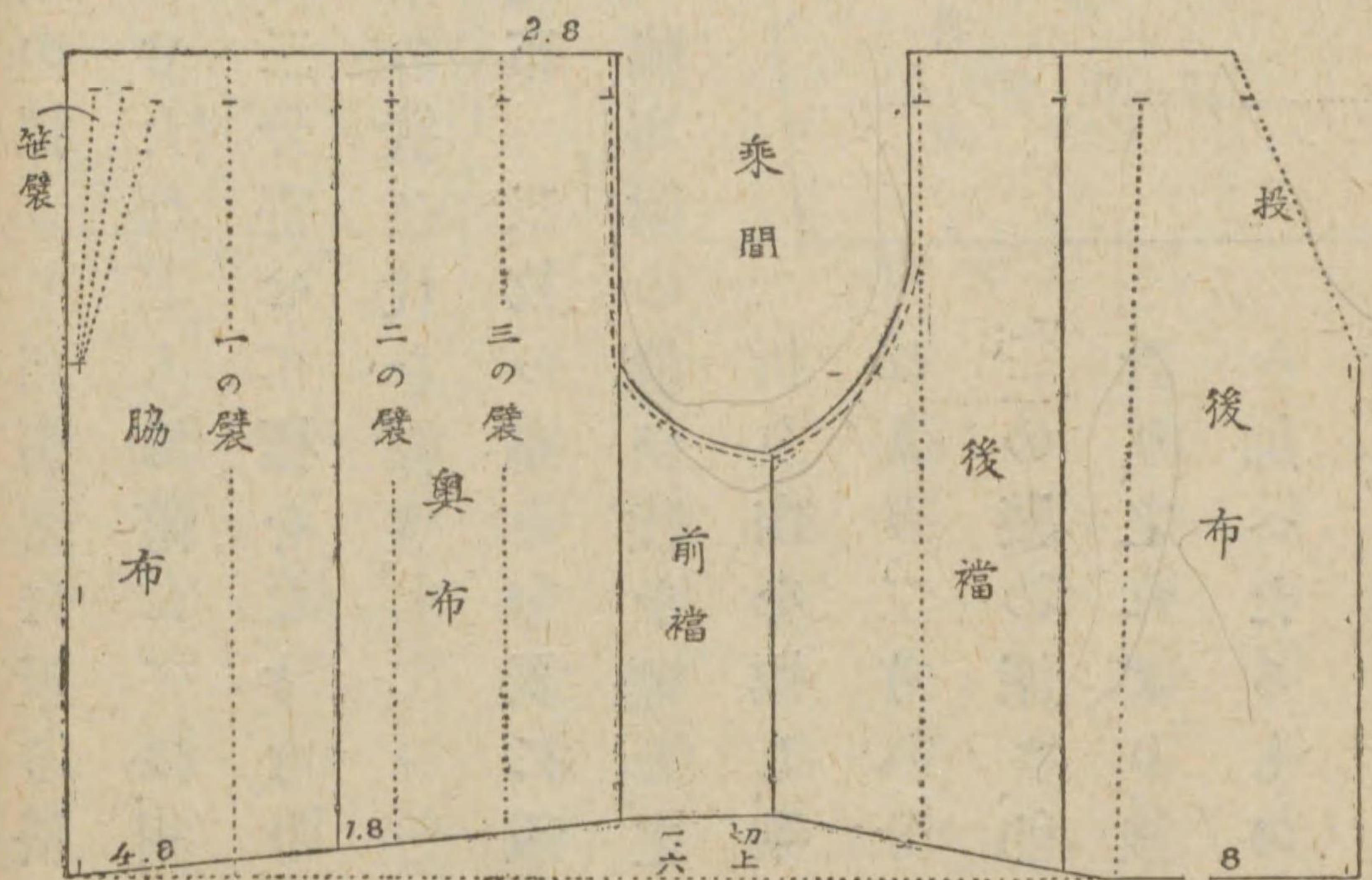


幅の標より相引留に至る斜線の中央にて、一の襷の方へ二分寄せたれども、男袴にては、相引留より三分の一上りたる所に、二分寄せて標をなすなり。其れより、裾の折り代及び奥布附の縫ひ代を標す。



四、奥布 二枚の布を中表に重ね、裾を右にして、圖の如く据ゑ、先づ脇布附の縫ひ代を標し、之れより一寸八分隔て、二の襷の折り山を標し、乗間の縫ひ代を四分に標をなし、之れより二寸八分を計りて、三の襷の折り山を標し、(三の襷の深さ、即ち懷襷は、脇布と奥布との上幅を計り、之れより後幅を引き、其の四分の一に二・三分を加へたるものなり)其れより、裾の折り代の標を附く。

本裁男袴縫ひ合せの圖



第六 本裁男袴縫ひ方順序

一、後布 投の折り目を、六・七分の針目に、表へは小針に出して縮
け付け、後布と後襠とを裾より縫ひ合せ、裾の縮け代を除く、襠
の方へ折る。

但し、絹布のときには、投の折り目の伸びざる様、五・六分幅の
真直の切れを、裏の方より折り目に當て、折り目より一分内を、
七・八分おきに、小針に布の縦目を抄ひて、綴ち附くべし。

二、前布 脇布と奥布とを裾より縫ひ合せ、裾の縮け代を除く、奥
布の方へ折り、同様に、奥布に前襠を縫ひ合せ、前襠の方へ折り
て、伏せ縫をなし、次に、後襠と前襠とを縫ひ合せ、前襠の方へ折
りて、伏せ縫をなす。

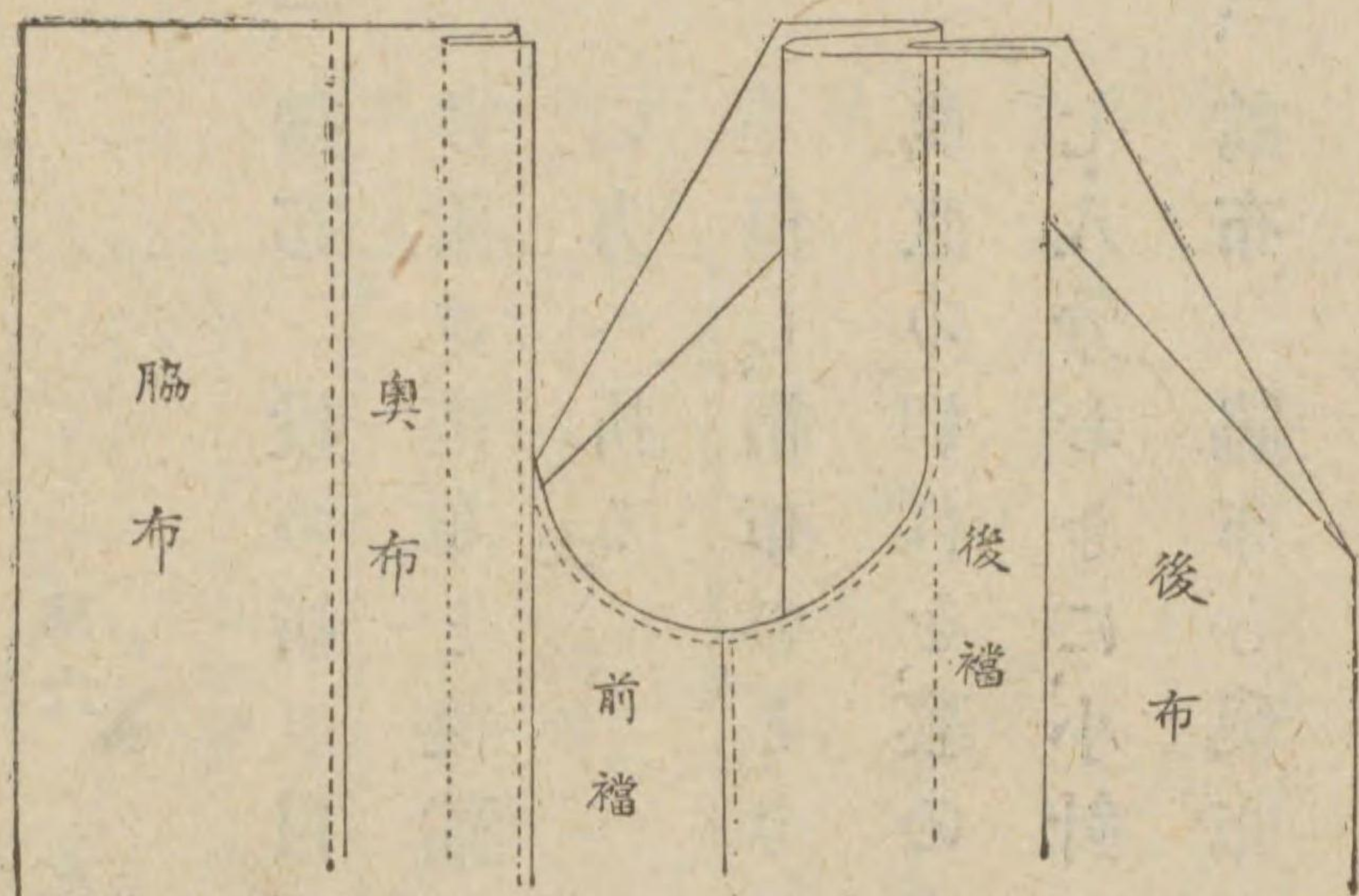
1.8
3.8
14.6
5.2
6.6

三、裾紘 裾を三つ折りになし、四分位の針目に紘け、相引の所を、前後とも一寸程紘け残り置く。但し、絹布のときは裾に六分

幅位の紙を入れて、三つ折りになすべし。

四、乗間 兩脚の布を揃へ、二本の撚り合せ糸にて、乗間を袋縫になす。

五、後襷 後襷胯上の縫ひ目に従ひ、眞直に裾まで通して、右脚の後襷を折り、之れを後布の中心とし、次に、左脚の後幅標を此の中心に合せて、左脚の後布を重ね、後ち、右脚の後布を、標通り其の上に重ね、よく内襷を整へて、一束に躰をか



六、前襷

右脚を下に、左脚を上にして、三の襷標を合せ、三枚に躰をかけ、三の襷の深さ(懐)を右脚の方へ二つに折り、三の襷標を後布の中心に合せて、能く襷を整へ、其れより、女袴のときの如く、順次に二の襷、一の襷を寄せ、上中下の三所に飾綴をなす。

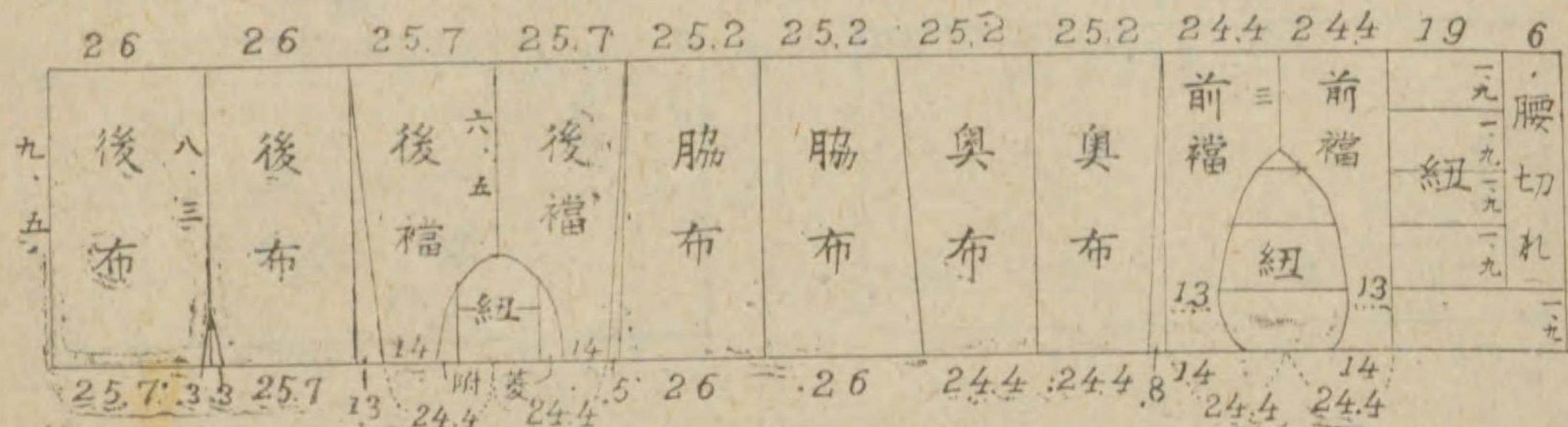
七、相引及び笹襷 女袴のときの如く、相引を縫ひ、裾紘の残りを紘け、相引に門留をなし、笹襷を取る。

八、前紐附 女袴のときの如く、前紐を紘け、紐附をなす。

九、腰立 部分縫につきて説明したるが如く、腰板を揃へ、腰立をなす。

右終らば引き延べたる眞綿又は布片にて、胯上の凡そ三分の一下より、乗間の縫ひ込みをくるみ、縫ひ目の外に出めやう、まとひ附け置くべし。

並幅二丈七尺八寸にて十布遣ひ男袴の裁ち方並に裁ち切り寸法

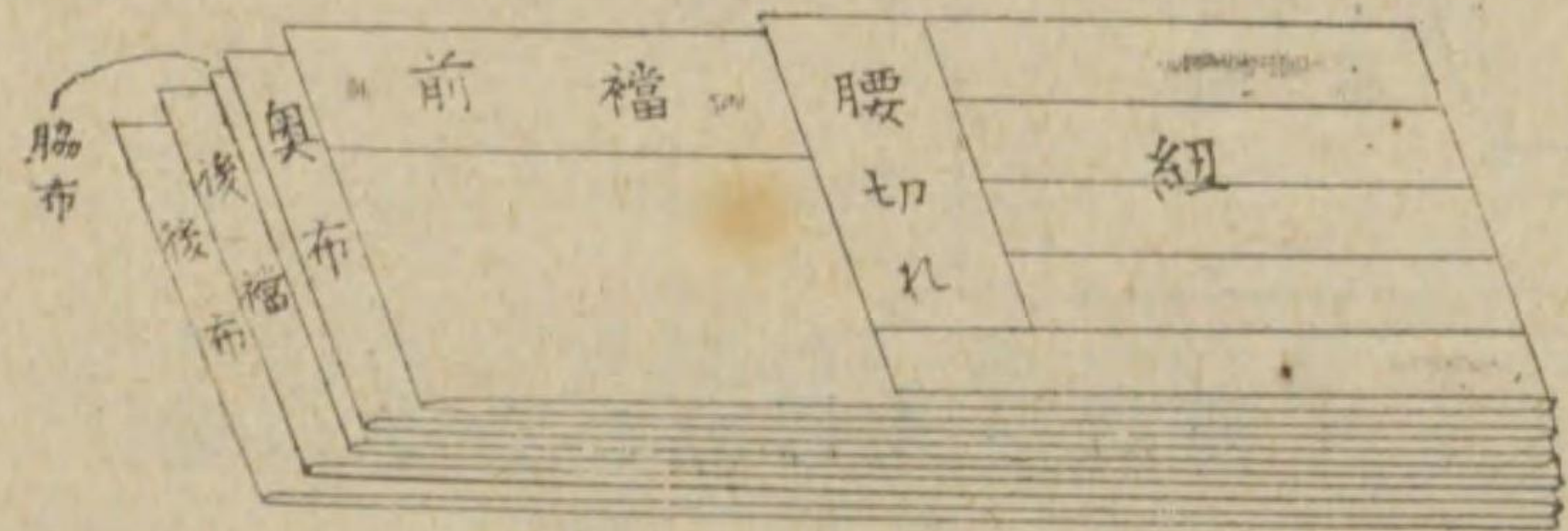


積り方

$$\{ \text{用布の總尺} - (\text{紐} + \text{腰切れ}) + \text{裁ち違ひ} \} \div 10 = \text{後丈}$$

$$\{ 278 - (19 + 6) + 7 \} \div 10 = 26$$

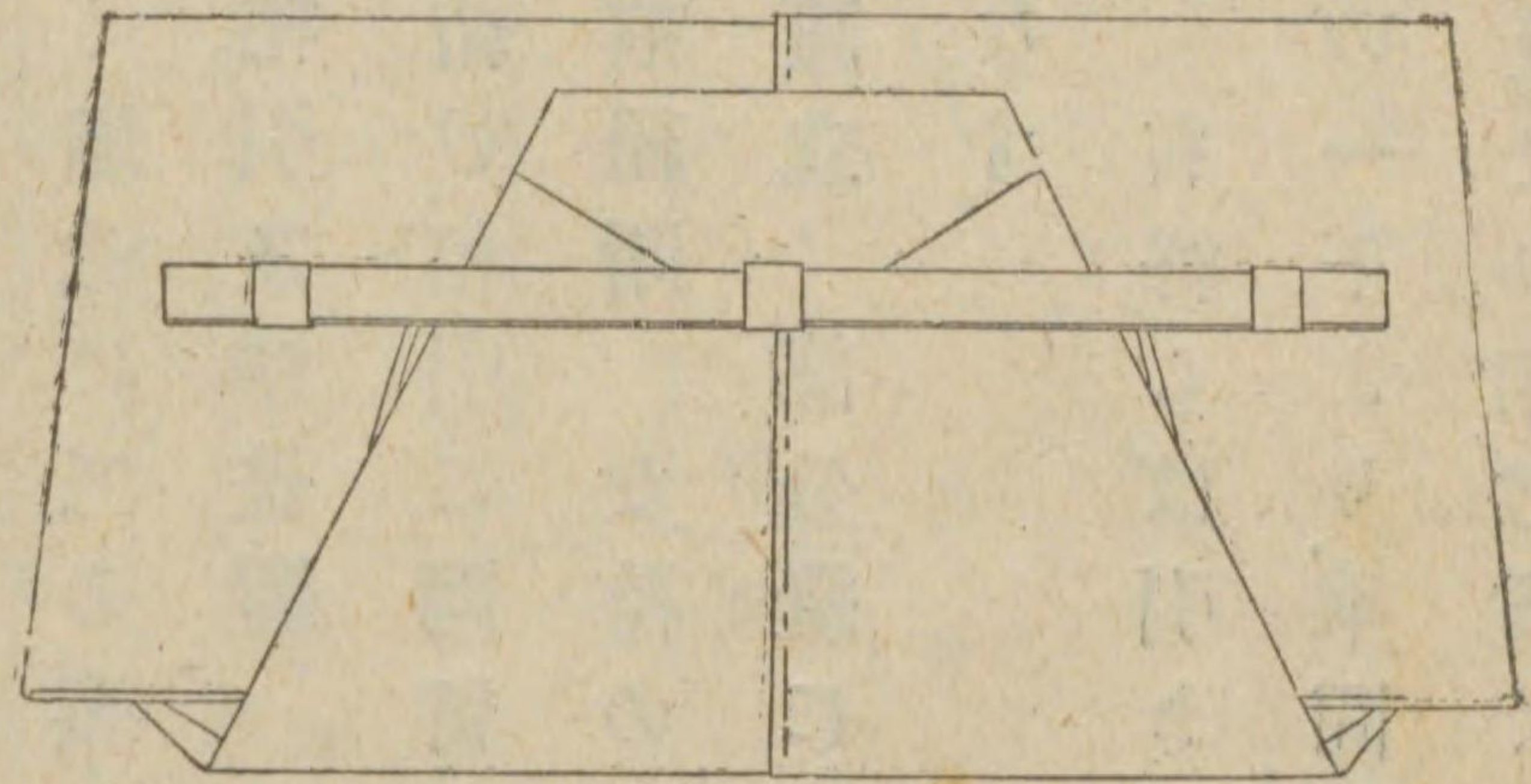
用布の折り方



男袴の蹴廻しを、特に廣く仕立てんとするには、此の裁ち方を用ふ。
 總切り上げは普通の如く一寸六分なれども、裁ち違ひは脇布・奥布に各、八分、前襠に各、一寸六分、後襠に各、三分合計七寸となるなり。

第七 十布遣ひ男袴

男袴の疊み方



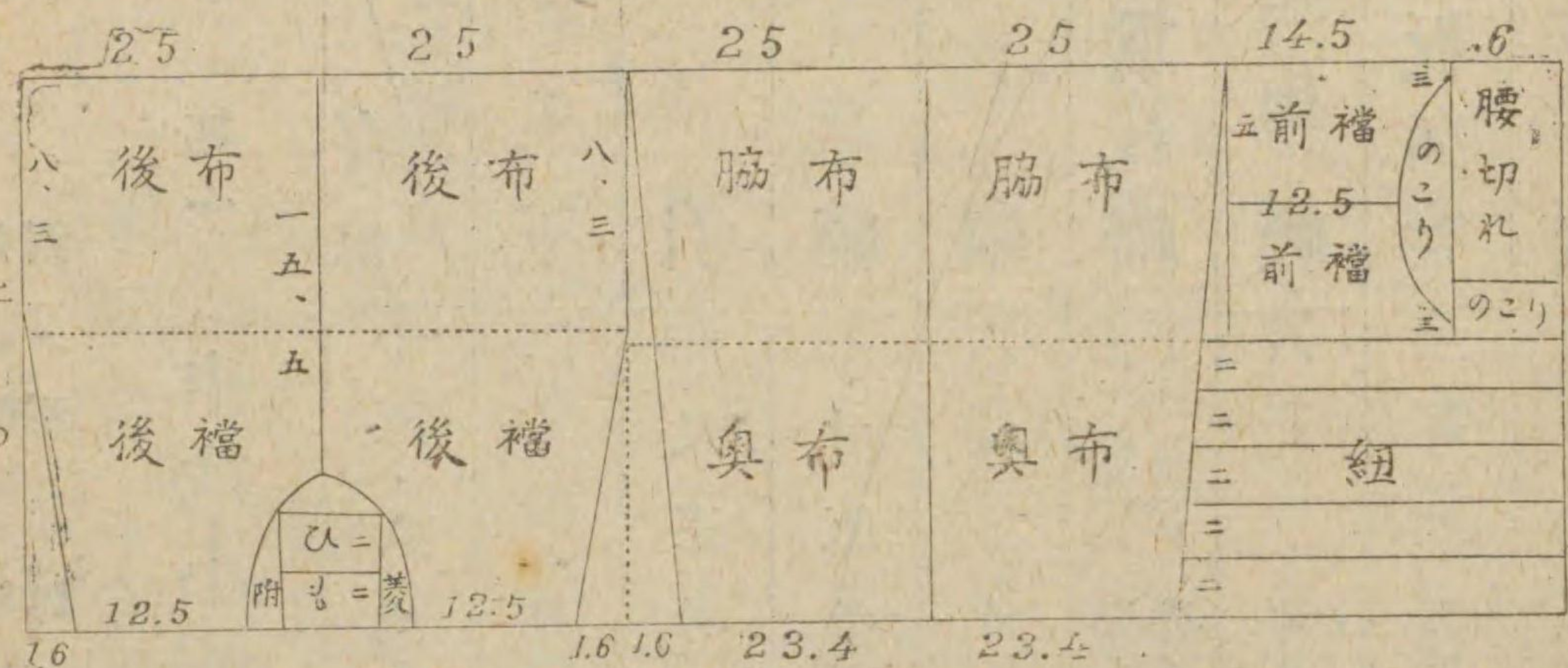
(2) 腰板の拵へ方及び腰立の順序を説明せよ。

(1) 男單袴の紐下を二尺二寸五分とせば、並幅にて、何程の總尺を要するか。

〔設問〕

一〇、仕上げ 木綿物には薄く霧を吹き、皺を伸ばし、絹物には白布を被ひ、其上より火熨斗をかけ、然る後ち圖の如く、相引の中央より一寸程上にて、裾を上方に折り、其の上に上部を折り重ねて、三つに疊み、前後の紐を揃へて左右交互に折り重ね、左右の端及び中央の三ヶ所に紙封をなすなり。

二尺幅一丈二尺五分にて男袴の裁ち切り寸法

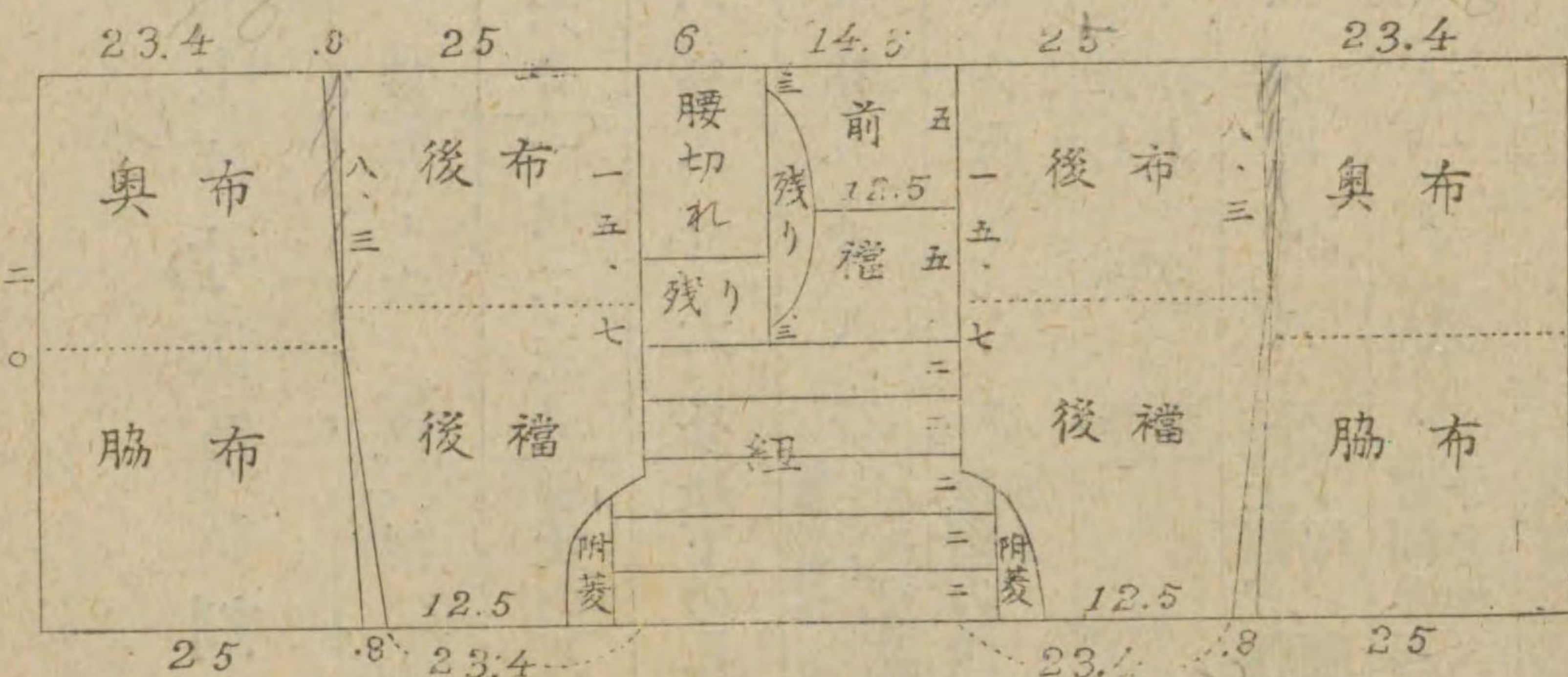


積り方

$$\{ \text{用布の総尺} - (\text{前襠丈} + \text{腰切れ}) \} \div 4 = \text{後丈}$$

$$\{ 120.5 - (14.5 + 6) \} \div 4 = 25$$

二尺幅一丈一尺八寸九分にて男袴の裁ち方並に裁ち切り寸法

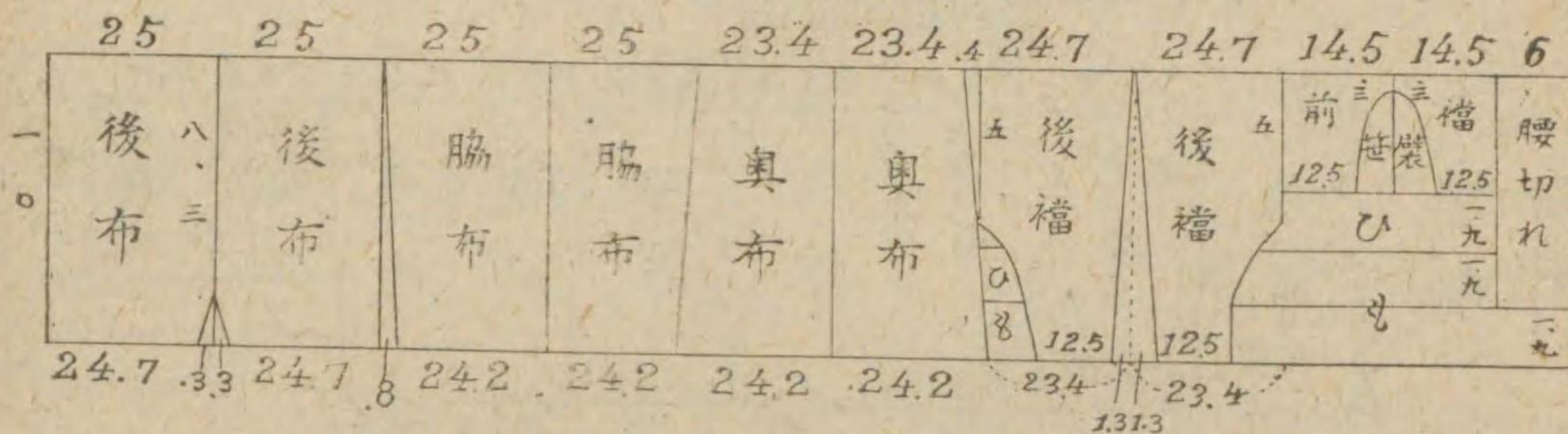


積り方

$$\{ \text{用布の総尺} - (\text{前襠丈} + \text{腰切れ}) + \text{裁ち違ひ} \} \div 4 = \text{後丈}$$

$$\{ 118.9 - (14.5 + 6) + 1.6 \} \div 4 = 25$$

博多(織獨鉷入)二丈三尺一寸六分にて男袴の裁ち方並に裁ち切り寸法



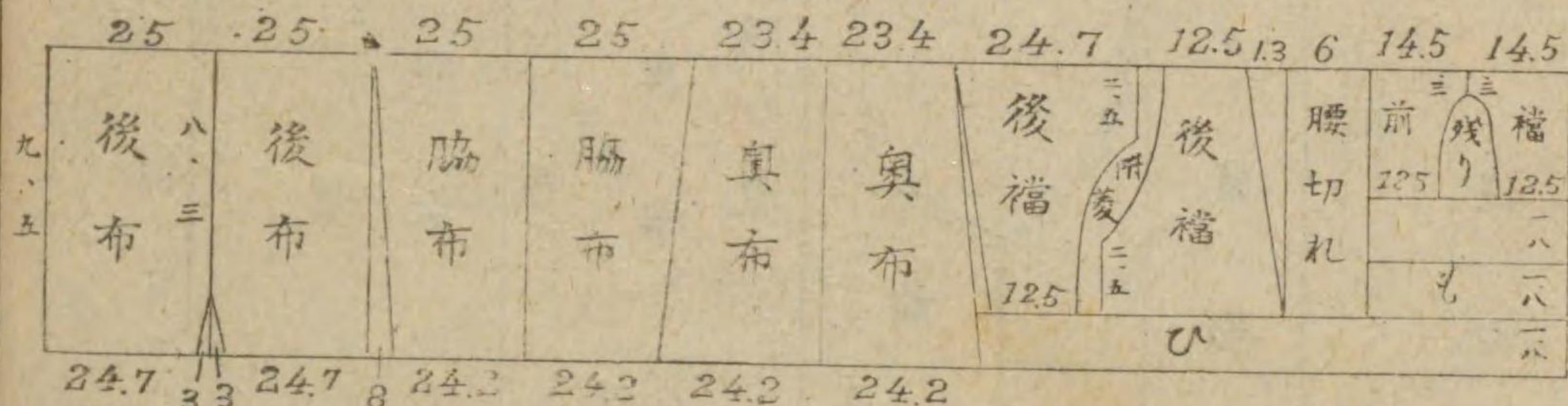
積り方

$$\{ \text{用布の総尺} - (\text{前襠丈} \times 2 + \text{腰切れ}) + \text{裁ち違ひ} \} \div 8 = \text{後丈}$$

$$\{ 222.8 - (14.5 \times 2 + 6) + 3.4 \} \div 8 = 25$$

〔注意〕
地に獨織を縫せり鉷出も其の部に紐取りをる

並幅二丈二尺二寸八分にて男袴の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

$$\{ \text{用布の総尺} - (\text{前襠丈} \times 2 + \text{腰切れ} + \text{後襠の高さ} + \text{切れ}) + \text{裁ち違ひ} \} \div 7 = \text{後丈}$$

$$\{ 222.8 - (14.5 \times 2 + 6 + 12.5 + 2.5 + 1.3) + 3.5 \} \div 7 = 25$$

第八章 中裁小裁男袴

第一 中裁小裁男袴普通仕立上げ寸法及び割り出し方

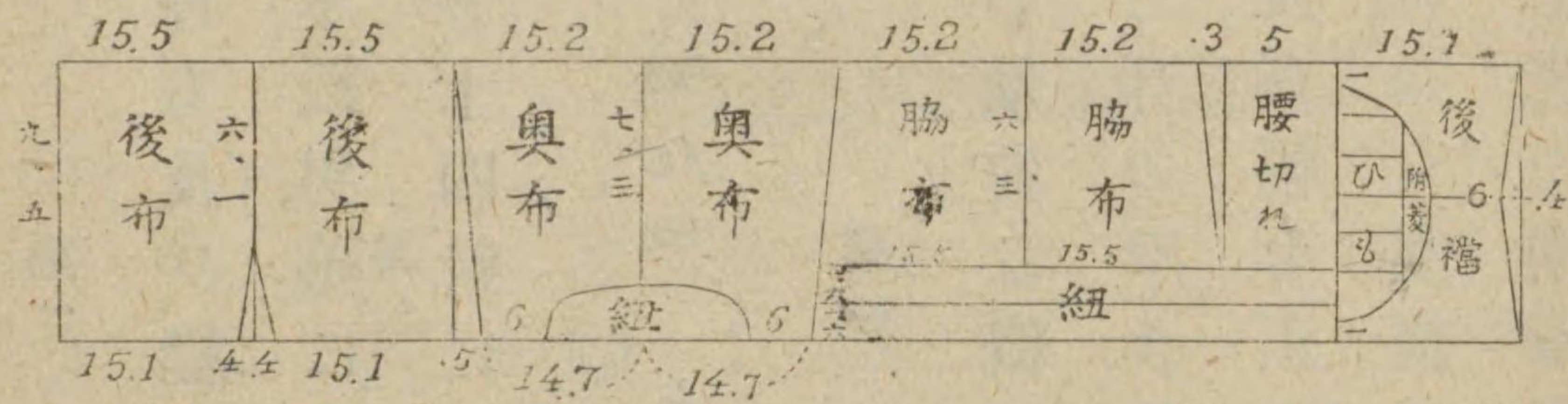
各部名稱	年齢		割り出し方
	十五・六歳	十二・三歳	
紐下	二尺	一尺七寸八分	一尺五寸六分
相引	一尺三寸一分	一尺二寸一分	一尺六分八寸六分
後幅	七寸五分七分	七寸五分七分	紐下の凡そ三分の二
腰幅	六寸五分八分	六寸五分五分	紐下の凡そ三分の二に一寸許りを加ふ (着物の後幅と寸)
後重ね幅	上九寸三分 下八寸三分	上八寸三分 下七寸三分	後幅の四分の三に五分を加ふ
腰板幅	六寸	五寸八分五分	上幅、腰幅の六分の四 下幅、腰幅と寸
腰板高さ	二寸二分二寸一分	二寸二分	腰幅の三分の一に一寸二分を加ふ
附菱幅	二寸二分二寸一分	二寸二分	腰幅の三分の一に二分を加ふ

附菱高さ	一寸四分五厘	一寸三分五厘	一寸二分五厘	一寸一分五厘	腰板斜邊の二分の一に二分を加ふ
脇幅	四寸五分四分	四寸二分三分	三寸九分三分	三寸五分五分	後幅の五分の三
前紐附幅	七寸五分七分	七寸五分五分	七寸五分五分	八分	後幅と同寸
前寄襷幅	上七分五厘 下七分五厘	上七分 下四分	上六分五厘 下三分	上五分五厘 下五分	上幅、後幅の十分の一 下幅、後幅の五分の一
笹襷幅	一寸一分一寸五厘	九分	八分	八分	脇幅の四分の一
襷の高さ	一尺九寸	一尺八寸	一尺六寸	一尺四寸	相引の高さより凡そ二寸を減ず
乗間	八寸	七寸五分	六寸五分	六寸	紐下の十分の四に五分を加ふ
切り上げ	一寸四分一分	一寸二分一分	一寸二分	一寸二分	分紐下の凡そ百分の七
三の襷深さ	二寸五分二分	二寸二分二分	二寸二分二分	二寸二分	前布の上幅より後幅を減じ其の四分の一に二三分を加ふ
後紐	丈一尺七寸七分	丈一尺六寸七分	丈一尺五寸七分	丈一尺四寸七分	
前紐	丈七寸八分	丈七寸五分七分	丈六寸七分	丈六寸五分	

第二 中裁小裁男袴裁ち方・積り方

並幅一丈一尺二寸二分にて

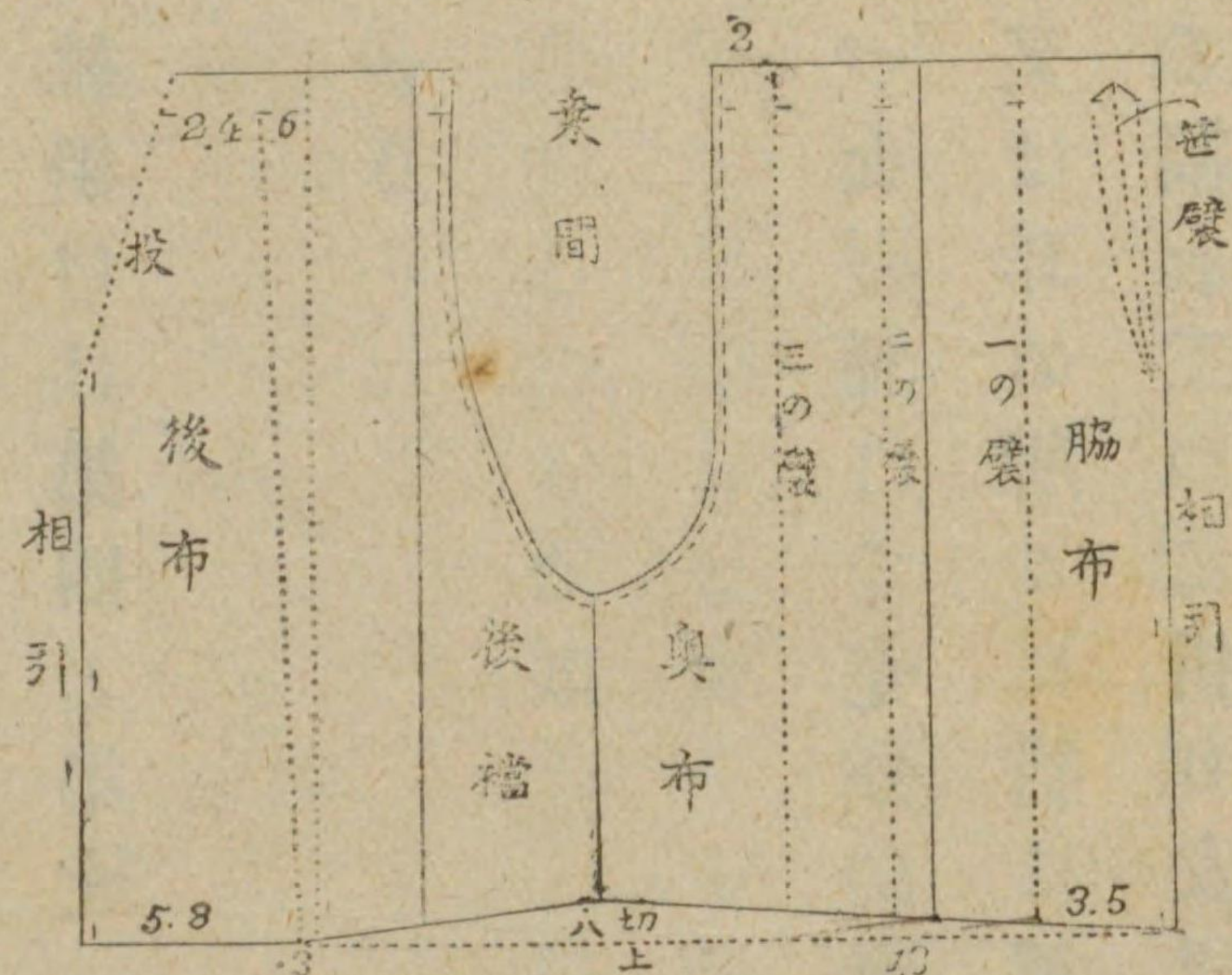
五・六歳用男袴の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

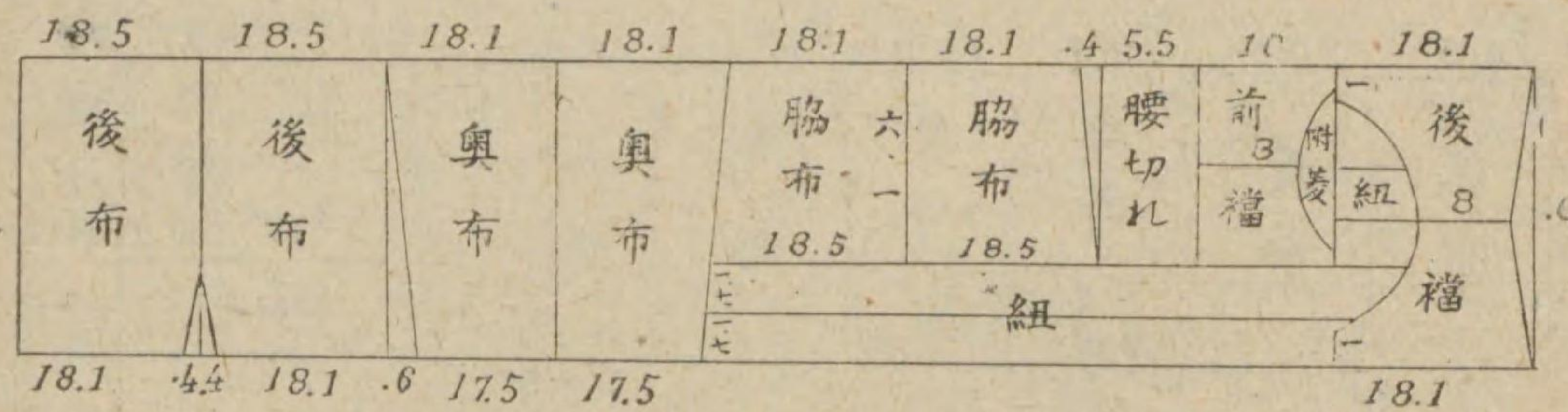
$$\begin{aligned} & (\text{用布の總尺} - \text{腰切れ} + \text{裁ち違ひ}) \div 7 = \text{後丈} \\ & (112.2 - 5 + 1.3) \div 7 = 15.5 \end{aligned}$$

縫ひ合せの圖



並幅一丈四尺三寸四分にて

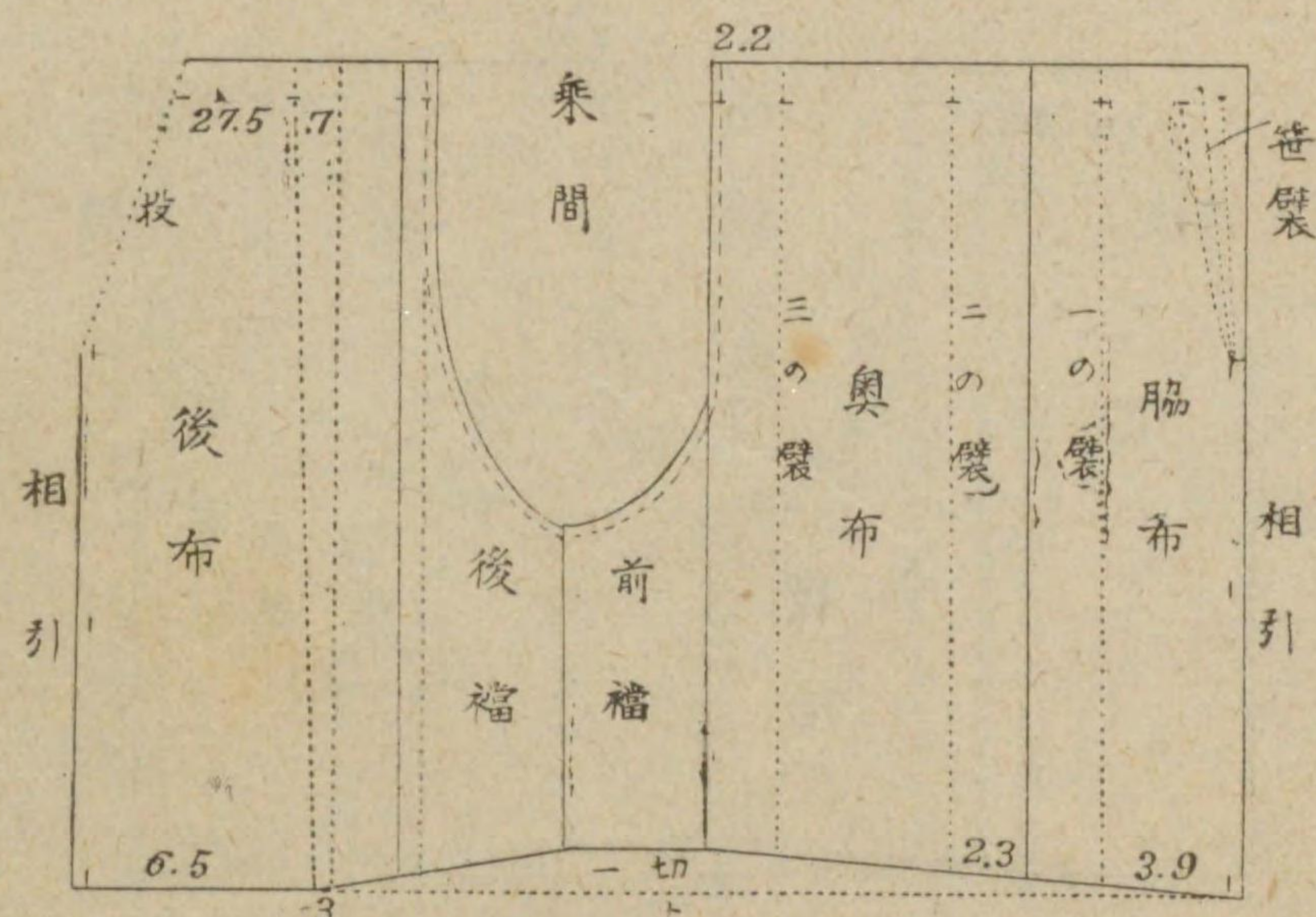
八・九歳用男袴の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

$$\begin{aligned} & \{ \text{用布の總尺} - (\text{腰切れ} + \text{前襠}) + \text{裁ち違ひ} \} \div 7 = \text{後丈} \\ & \{ 143.4 - (5.5 + 10) + 16 \} \div 7 = 18.5 \end{aligned}$$

縫ひ合せの圖



第三 中裁・小裁男袴標付け方・縫ひ方順序

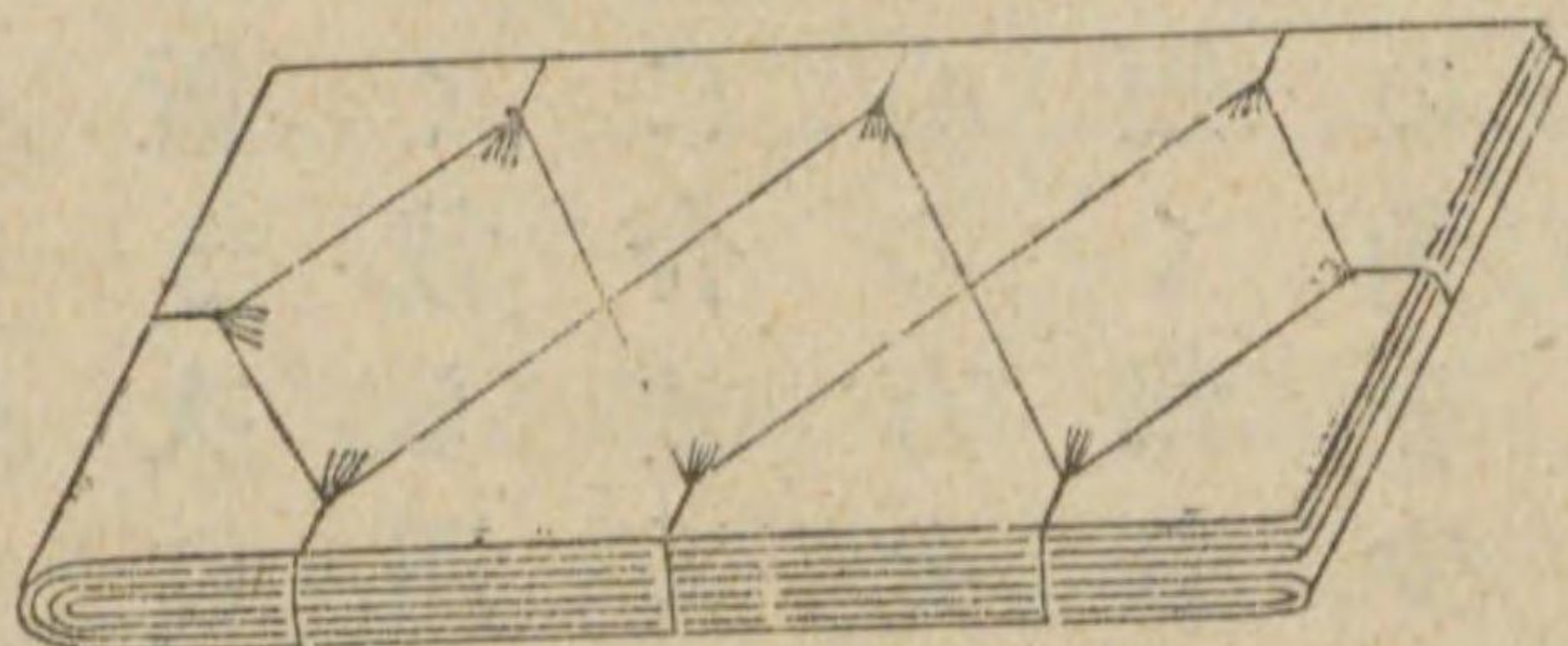
標付け方及び縫ひ方順序は唯其の寸法に差異あるのみにて、
總べて本裁男袴に同じ。但し、腰立の絲掛は第四と第十一の
針を省き、十四針にて絲を留むるなり。

第九章 丸帯及び男帯

第一 丸帯

丸帯の地質は概して厚地なれば、先づ火熨斗にて充分に地伸
しをなし、耳の厚き品は耳を裁ち落とし、又は耳の所々に斜に鉄を
入れ、丈及び幅を正し、次に、表を中にして幅を二つに折り、女兒帯
のときの如く假躰をかけ、丈を標し、上り幅より五厘廣くして幅
標をなし、先づ兩端を縫ひ、角の所は腹合せ帯のときの如く縫ひ

丸帯飾絲の掛け方



て、折りを附け、次に、上り幅と同寸に心地を裁ち切
り、其の片側かたがはに眞綿を引き、之れを帶側の上に載せ、
心の方を稍弛めにして、縫ひ込みに綴ち附け、又其
の上に眞綿を引き、縫ひ残したる所より引き返し
て、表を出し、よく角を整へ、縫ひ残しを小針に縮け、
躰をかけ、八つに疊み、綴をなし、壓しをかくる等總
べて腹合せ帯につきて説明したるが如し。終り
て、圖の如く飾絲をかくるなり。

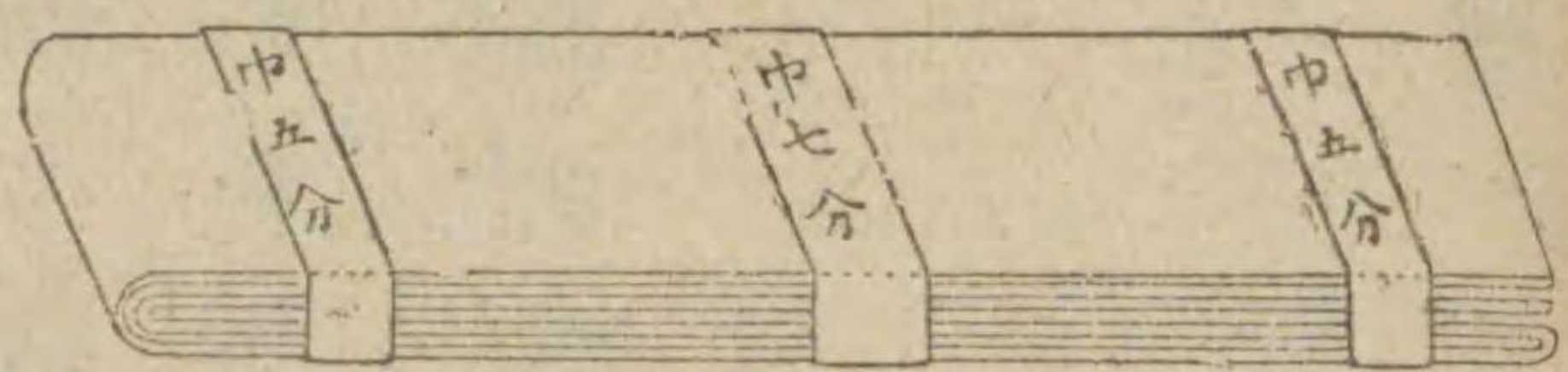
第二 男帯

男帯を仕立つるには、丸帯のときの如く、先づ充分に地伸しを
なすべし。

男帯の仕立方には、縮け仕立と縫ひ仕立との二様あり。

一、縮け仕立 帯側の表を中にして、幅を正しく二つに折り、所々に針を打ち、幅及び丈の標をなし、双方の縮け代を折り、先づ、両端及び丈の角より一寸許りを半返しに縫ひ、角の縫ひ方は腹合せ帯のときに同じ。一端の縫ひ込みを五厘の被せに折り置き、次に、心地を帯幅より五厘狭く裁ち、其の一端を布目正しく裁ち切り、其の端を、帯側縫ひ込みの折り山の内方に、一ばいに合せて、縫ひ込みに綴ち付け、其れより、帯側の上に心を据ゑ、心の方を稍、弛めにして、待針を打ち、心の他端を帯丈より五厘短く裁ち切り、前の如く、之れを帯側の縫ひ込みに綴ち付け、心の角を少しく三角形に裁ち落とし、引き返して表を出し、能く兩端の角を整へ、一方の縮け代にて心をくるみ、双方の縮け代の

男帯出来上りの圖

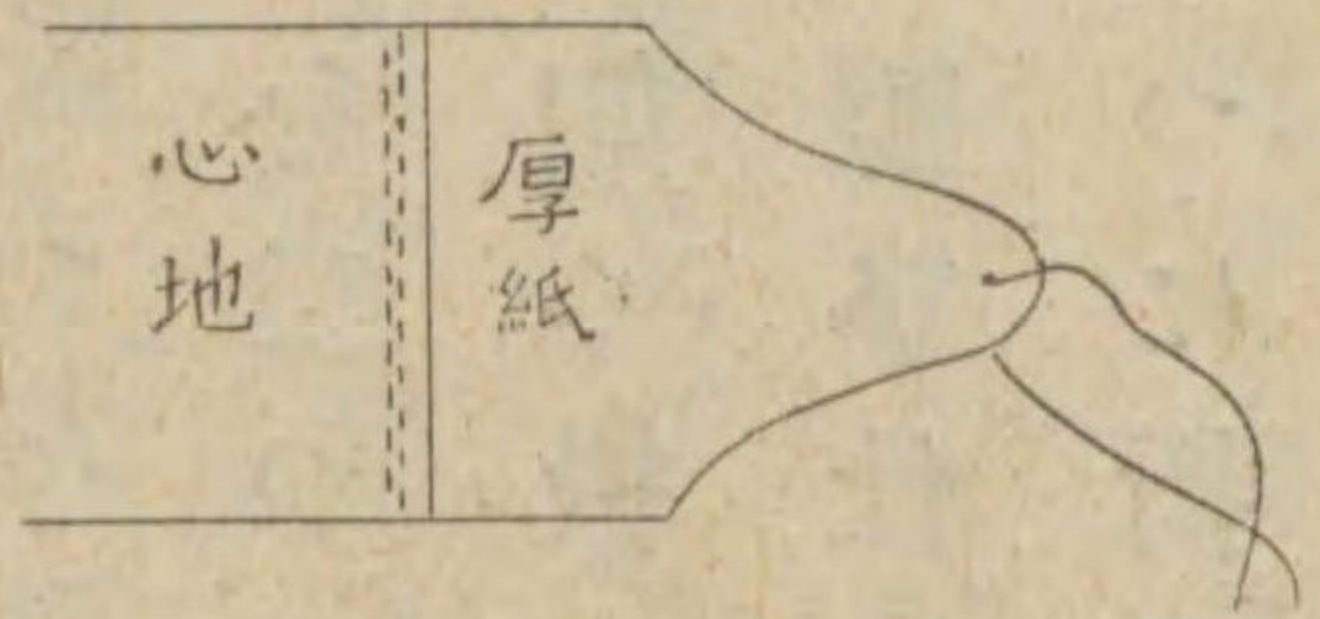


折り山を合せて、假躰をかけ、心をくるめる方に向ふにし、極めて細かく縮け上げ、終りて、假躰を除き、火熨斗をかけて、仕上げをなし、後ち、八つ折り又は十折りに畳み、西の内紙にて兩端を五分、中を七分の幅に、三ヶ所を封じ、壓しをおくなり。

二枚心を作るには、一枚心の二倍幅より縮け代を引き、其の幅に心地を裁ち、縮け代だけずらして、之れを二つに折り、輪の方を帯側の輪の方に當て、一枚心のときの如く扱ふなり。

二、縫ひ仕立 縮け仕立のときの如く、表を中にし、正しく幅を二つに折りて、假躰をかけ、先づ、帯幅より五厘廣く幅標をなし、次に、丈を標し、丈標より四寸許り兩端を残して、幅を標通り一針

抜きに縫ひ、又はミシンにて縫ふ。假躰を除きて、烙鋺を掛け、折りを付けて表に返し、其れより、帶幅と同寸に心地を裁ち切り、厚紙を圖の如く裁ちて、之れを心地に綴ち附け、厚紙に紐を通して、心地を帶の内引き込み、帶側の縫ひ込みに之れを含ませ、縮け仕立のときの如く、兩端及び角より一寸許り、裏を出して縫ひ、縫ひ込みを折りて、心地を之れに綴ち附け、引き返して、縫ひ残しを縮け上げ、前と同じく仕上げをなすなり。



第九章 本裁女小袖

第一 本裁女小袖裁ち方、積り方及び標附け方

總べて本裁女綿入と同様なり。

但し、裏布の標を附くるには、表裏地質の硬軟に應じて、寸法を加減し、仕立上げて後ち、表裏の一致する様注意すべし。

第二 本裁女小袖縫ひ方

綿布のときの如く、表裏の袖を縫ひ、袖幅の標をなし、縫ひ目を折り、引き返して、躰を掛け、表裏袖下の縫ひ目及び袖幅の標を合せ、始め終りを袖附標より一分づゝ控へて、振りを一針抜きに縫ひ、(袖下縫ひ目の前後一寸程は、裏袖の方を稍、張り加減になす。)平烙鋺を掛け、裏布の方へ眞綿を當て、縫ひ目に綴ち附け、引き返して表を出し、被せを定めて、表裏一束に躰を掛く。

綿布のときの如く、表裏の脊脇、衿、裾を縫ひ、裾を縫ひ合せ、次に本裁女袴のときの如く、身八つ口の表裏を留めて、振りと同様に

縫ひ合せ、眞綿を綴ち附け、躰をかけ、袖附をなす。袖附の留め方、縫ひ方は總べて本裁女袴のときに同じ。其れより、裏を出し、表裏の後身頃の中に、前身頃を入れて、疊み置く。

一、綿入れ方 袖綿の作り方は本裁女綿入のときに述べたるが如し。

小袖の綿には眞綿を用ひ、其の量目は約そ二十匁内外を普通とす。

先づ、表布の後身を上にして、身頃に綿を引き、袖綿を包みて、前身の方へ綿を折り込み、肩より手を差し入れ、裾口の兩脇と袖綿とを持ちて引き返し、裏布の前身を上にし、袖及び前身頃に綿を引き、表を被ぶせ、常の如く引き合せをなすなり。

二、紵け方 總べて綿布のときと同様なり。

三、袖口を縫ふ仕立方 先づ、本裁女袴の如く、表裏の口明標を合せ、標より袖口袖の二倍程、兩端を残して、口明を縫ひ、平烙鏝をかけ、裏袖の方に眞綿を當て、縫ひ目に綴ち附け、引き返し、被せ及び袖口袖を定め、表裏一束に躰をかけ、袖口留めをなす。袖口留めの仕方は最初外袖の袖山に裏より針を出し、表外袖の被せ山、表内袖の被せ山、内袖の袖山を順次に抄ひ、元に戻りて、外袖の袖山の裏に針を出し、絲を結び合すなり。其れより、常の如く、袖口下及び袖下を表裏別々に縫ひ、幅標をなし、縫ひ目を折り、引き返して躰をかけ、振りを縫ひ、後ち、袖口袖の綴をなすなり。

第十一章 本裁女小袖重ね

女小袖重ねには二枚重ね三枚重ねの別あり。縞物類には裾廻し袖口に別布を使用すれども、紋附類には多く共布を用ふ。之れを無垢と稱す。下着の表は胴抜きとなすことあり。

第一 本裁女小袖重ね下着寸法の詰め方

- 袖丈……二三分詰
- 袖口……一分詰
- 袖附……〔一・二・三分詰
男物は三分詰〕
- 袖幅……一分詰
- 身丈……一分詰
- 袖肩明……一分詰
- 後幅……一分詰
- 前幅……二分詰
- 衿下……同寸
- 衿丈……二分詰
- 衿幅……同寸

〔注意〕三枚重ねのときは、中着を普通寸法とし、右の割合に準し、上着と下着との寸法を増減すべし。

第二 本裁無垢の裁ち方・積り方

並幅四丈二尺八寸にて

上着の表と下着表廻りの裁ち方並に裁ち切り寸法

16.5	16.5	16.5	16.5	40	40	40	40
袖	袖	身	頃	身	頃		
			二五		二五		
35	35	24	24	15	13	14	14
衿	衿	下着表	下着表	袖口	振り	下着表裾	下着表裾
		共衿	共衿	共衿	切れ		
48	48	185	185				

積り方

$$\left[\frac{\text{用布の総尺}}{\text{尺}} - \{ (\text{袖丈} + \text{身丈}) \times 4 + (\text{衿} + \text{下着表裾}) \times 2 + \text{袖口} + \text{振り} \} \right] \div 4 = \text{下着表裾}$$

$$[428 - \{ (16.5 + 40) \times 4 + (35 + 24) \times 2 + 15 + 13 \}] \div 4 = 14$$

下着表胴の裁ち方並に裁ち切り寸法

16.5	16.5	16.5	16.5	27	27	27	27	12
袖	袖	身	頃	身	頃			衿先
			二五		二五			切れ

積り方

$$(\text{袖丈} + \text{身丈} - \text{下着表裾}) \times 4 + \text{衿} - \text{下着表裾} + \text{縫ひ代} \times 5 = \text{表胴の総尺}$$

$$(16.5 + 40 - 14) \times 4 + 35 - 24 + 1 \times 5 = 186$$

一尺二寸幅四丈二尺六寸にて上着無垢一枚と下着廻り無垢の裁ち方並に裁ち切り寸法

16.5	16.5	16.5	16.5	24	12	13	14	14	40	40
袖	袖	下着表	振	下着表	裾廻し	裾廻し	前身	後身		
口		切	切	裏	裏	裾				
12		25		25		35		48		

14	14	13	13	14	14	40	40	14	14	13
裾廻し	裾廻し	下着表	下着表	裾廻し	裾廻し	後身	前身	裾廻し	下着表	裾
		裾	裾	裾	裾	裾	裾	裾	裾	裾
48		20		45		35		25		25

積り方

〔用布の総尺 - (袖丈 + 下着表裾) × 4 + 裾廻し × 8 + 下着表振切〕 ÷ 4 = 身丈
 [426 - (16.5 + 13) × 4 + 14 × 8 + 24 + 12] ÷ 4 = 40

一尺六寸幅三丈二尺八寸にて上着無垢一枚と下着廻り無垢の裁ち方並に裁ち切り寸法

13	14	14	40	40	14	14	13
下着表	裾廻し	裾廻し	前身	後身	裾廻し	下着表	下着表
袖		共	下着	裾	裾	下着表	裾
16.5	16.5	22	24	24	24	23	23

13	14	14	40	40	14	14	13
下着表	裾廻し	裾廻し	後身	前身	裾廻し	裾廻し	裾
袖		裾	裾	裾	裾	裾	裾
35		35		48		16.5	16.5

積り方

〔用布の総尺 - (下着表裾 + 裾廻し × 2) × 4 + 裾先切れ〕 ÷ 4 = 身丈
 [328 - (13 + 14 × 2) × 4 + 4] ÷ 4 = 40

裾廻し二枚分の裁ち方並に裁ち切り寸法

15	15	15	15	15	15	15	15	25	25	15	55
裾廻し	裾廻し	裾廻し	裾廻し	裾廻し	裾廻し	裾廻し	裾廻し	裏	裏	袖	裾先
								裏	裏	口	先
								裏	裏	切	切
								裏	裏	れ	れ

積り方

裾廻し × 8 + (裏裏 + 裾先切れ) × 2 + 袖口切れ = 裾廻しの総尺
 15 × 8 + (25 + 5) × 2 + 15 = 195

胴裏二枚分の裁ち方並に裁ち切り寸法

16.5	16.5	16.5	16.5	16.5	16.5	16.5	16.5	28	28	28	28
袖	袖	袖	袖	胴	裏	胴	裏				

28	28	28	28	42	13	13
胴	裏	胴	裏	裏	裾先	裾先
				裾	切	切
					れ	れ

積り方

(袖丈 + 身丈 - 裾) × 8 + 裾先 - 裾先 × 2 + (裾 - 裏裏) × 2 + 裾 × 20 + 縫代 × 12 = 胴裏総尺
 (16.5 + 40 - 15) × 8 + 48 - 5 × 2 + (35 - 25) × 2 + 5 × 20 + 2 × 12 = 424

二尺幅一丈七尺六寸にて無垢一枚の裁ち方並に裁ち切り寸法

16.5	16.5	16.5	16.5	4	13	40	40	13
袖	袖	衿先	裾廻し	衿先	後身	前身	裾廻し	裾廻し
衿	衿	共衿	残り	袖口	袖口	縦裷	縦裷	
35	35	22	裾廻し	15	15	26.5	26.5	
衿	共衿	後身	前身	裾廻し				
48	22							

積り方

$$\begin{aligned} & \{ \text{用布の總尺} - (\text{袖丈} \times 4 + \text{衿先切れ}) \} \div 2 - \text{裾廻し} = \text{身丈} \\ & \{ 176 - (16.5 \times 4 + 4) \} \div 2 - 13 = 40 \\ & \text{袖丈} \times 4 + \text{衿先切れ} + (\text{身丈} + \text{裾廻し}) \times 2 = \text{用布の總尺} \\ & 16.5 \times 4 + 4 + (40 + 13) \times 2 = 176 \end{aligned}$$

並幅八丈八尺四寸にて上着無垢一枚と下着廻り無垢二枚との裁ち方並に裁ち切り寸法

16.5	16.5	16.5	16.5	15	40	40	15	15	40	40	15
袖	袖	裾廻し	身	頃	裾廻し	裾廻し	身	頃	裾廻し		
衿	衿	衿	共衿	共衿	共衿	振切	全	全	全	全	袖口
35	35	24	24	25	25	25	25	25	25	25	55
衿	衿	下着表裾	下着表裾	裏裾	全	全	全	全	全	全	衿先
15	15	55	29	29	29	29	29	29	29	29	
袖口	衿先	裾廻し	下着表裾	下着表裾	裾廻し	全	全	全	全	全	全
切れ	切れ	裾廻し	裾廻し	裾廻し	裾廻し	全	全	全	全	全	全

積り方

$$\begin{aligned} & (\text{袖丈} + \text{身丈} + \text{裾廻し}) \times 4 + \text{下着表裾} \times 8 + \text{裾廻し} \times 12 + (\text{衿丈} + \text{共衿} + \text{袖口}) \times 3 + \text{衿先} \times 2 = \text{用布總尺} \\ & (16.5 + 40 + 26) \times 4 + 14 \times 8 + 15 \times 12 + (48 + 21 + 15) \times 3 + 5 \times 2 = 884 \end{aligned}$$

第三 本裁女小袖重ね標付け方

女小袖重ねの標付け方は一枚の小袖のときと別段に異なりたる所なし。上着の標を付け終らば直に下着の標をなすをよしとす。

下着の衿には、常の如く丈衿下衿下の拵け代衿幅相裷幅を標し、其れより先づ、上着衿附の寸法より一分詰めて、衿附の標をなし、後ち、常の如く衿附の標をなすべし。

若し、裾廻しの表布と引き續きなるときは、裾口を摘み縫ひになすものとして、標をなすべし。

下着寸法の詰め方は、前に掲げたれども、上着と下着の地質に、硬軟の差違あるときは、宛も小袖の裏布の如く、多少其の寸法を

斟酌するを要す。されば、先づ、用布を平に置いて、其の寸法を計り、次に、之れを垂下して、再び寸法を檢し、其の差を標準として、各部の寸法を増減すべし。

模様物は豫め其の模様を合せ、縫ひ標をなしおき、標附けの際多少寸法を加減し、模様を損せざる様注意すべし。

第四 本裁女小袖重ね縫ひ方順序

總べて女小袖のときに同じ。但し、模様物は衽附を先にし、脇縫を後にすることあり。

第十二章 本裁單衣重ね

並幅三丈八寸にて單衣重ね上着の裁ち方並に裁ち切り法

16.5	16.5	16.5	16.5	40	40	40	40	8	20	14
袖	袖	身	頃	身	頃	衿	共衿	袖口切れ		
			二五		二五	社	社	残り		
						35.5	35.5	13		

積り方

{用布の總尺-(袖丈×4+衿丈+共衿+袖口切れ)}÷4=身丈

{用布の總尺-(身丈×4+衿丈+共衿+袖口切れ)}÷4=袖丈

第一 本裁單衣重ね裁ち方積り方

〔注意〕 下着の裁ち方積り方は總べて上着と同様なり。但し、裏衿二枚は別布を用ふるを通常とす。又袖口切れに別布を用るときは、上着の裁ち方は普通の棒衽裁ち方に依るべし。

第二 本裁單衣重ね標附け方

一、袖 上着下着共に常の如く据ゑ、寸法通りに標し、袖口切れには單羽織と同様に標をなすなり。下着袖の詰め方は女衿の裏袖に同じ。
二、身頃 上着は普通の單衣と同様に標し、

下着の身幅は前後共裾口にて少しく詰むべし。

三、衽 上着下着の四枚を重ねて、常の如く標をなす。

四、衿 表裏四枚を別々に折り、之れを重ねて、常の如く標を附く。

第三 本裁單衣重ね縫ひ方順序

一、袖 上着の袖に袖口切れを合せ、袖口明だけ縫ひ、袖口標を四つ留めになし、口下を袖口切れの一寸程下まで縫ひ置き、次に、袖口を毛抜き合せにして、躰をかけ、口切れの奥を耳衿になし、口切れの下方を其の儘になし置く。

下着の口切れの下方を伏せ縫になし、上着と同じく一寸程下まで縫ひ、口切れの奥を縮け附く。

上着の裏に下着の表を合せ、口切れ下より袖下まで、女衿の

如く縫ひ、幅標をなし、折りを附け、引き返して躰をかく。

振りを布幅一ばいに縫ひ、袖下にて、縫ひ込みを一針留め、表に返し、折りを整へ、躰をかく。

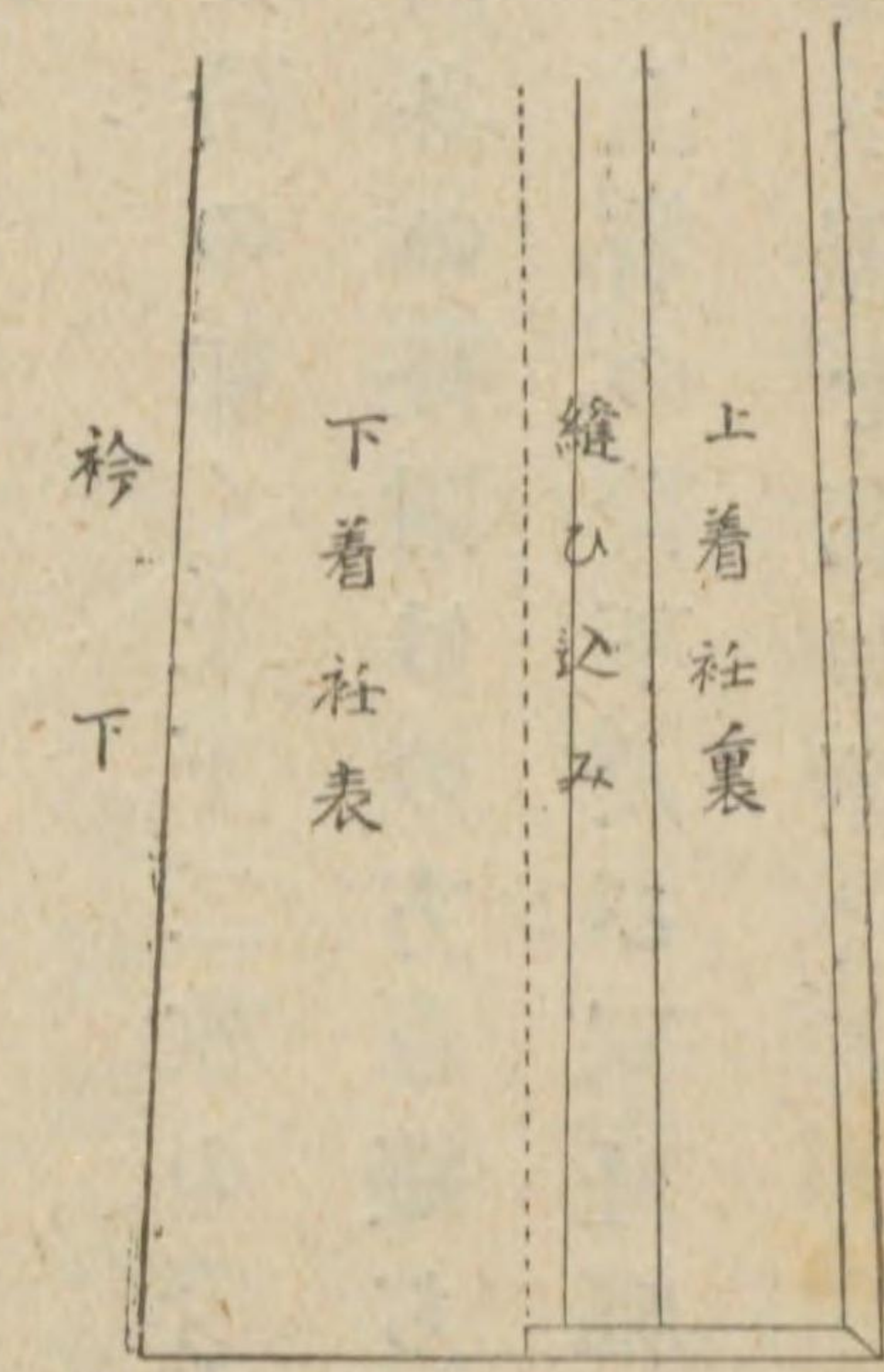
二、身頃 上着の脊脇を縫ひ、常の如く折りを附け、次に、裾を縮け附く。

下着の四裾を各、裏の方へ折りて縮け、表を見て脊脇を縫ひ、裾口の所は脊脇の縫ひ込みを三角に折り込みて、之れを縮け附く。

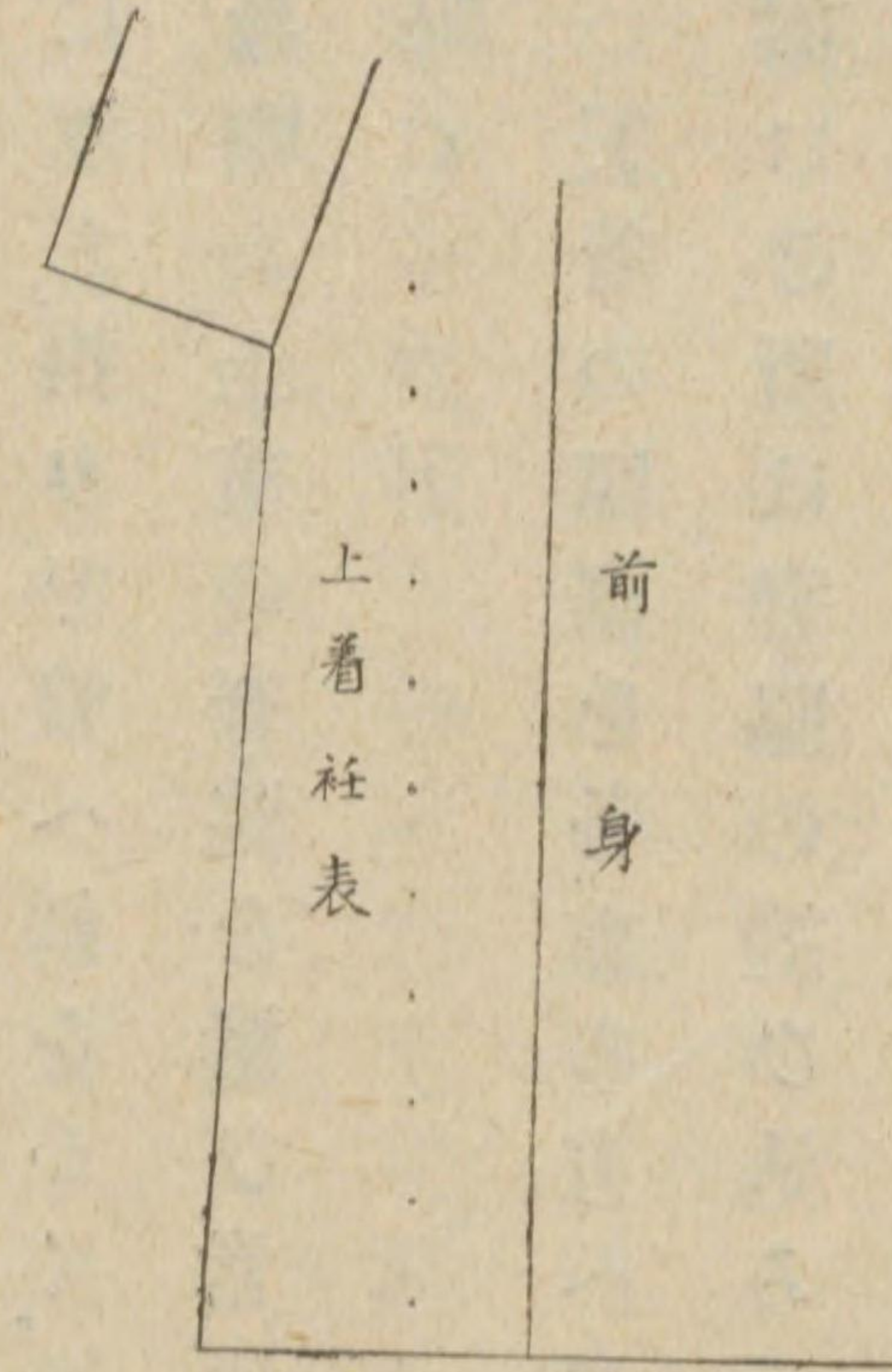
女衿の如く上下二枚の脊脇を綴ち、身八つ口を縫ひ、袖を附け、前身の衽附けの方を綴ち合せ、前幅の標をなす。

三、衽 上着の衿下及び裾(衽幅の中程まで)を縮け、次に、下着の衿下及び裾を縮け附く。

衽縫ひ込みの包み方



衽縫ひ込みの綴ち方



表裏の衽を合せ、衽先を縫ひ、折りを附けて表に返し、下着の表衽の方に、上着の裏衽を重ねて、三枚を綴ち合す。

衽の附け方は女衽の如く四つ縫ひになし、其れより、圖の如く、上着衽の裾にて前身と衽との縫ひ込みを包みて、裾の残りを拵け、次に、前身の縫ひ込みに沿ひ、裾口一寸五分程上より相裓の邊まで、一寸五分許の針目にて、上下の衽を小針に抄ひて綴ち附く。

四、衽 下着の表衽に心を入れ、

上着の表衽を標の通り上着の方に當て、待針を打ち、次に下着の裏衽を下着の方に當て、身頃を挟み、上着の標に倣ひて針を打ち、一針抜きに縫ひ附く。衽先の縫ひ方其の他の扱ひは常の如し。

衽幅は下着の方を寸法通りとし、上着の方を三つ衽の所に一分詰め、衽縮をなすなり。

〔附言〕 半重ねとは袖衽を本重ねと同じくし、下着の身頃及び衽を上着身丈の二分の一より二三寸上まで重ねたるを云ふなり。其の積り方は重ねを略せる部分の用布を省くのみにて、本重ねと同様なり。

縫ひ方も亦本重ねに同じ。下着の身頃及び衽の上端は之れを折りて、上着に拵け附くるなり。

〔設問〕

(1) 本裁單衣重ねの袖の縫ひ方順序を述べよ。

並幅にて比翼裏の裁ち方並に裁ち切り寸法

16.5	28	28	28	28	41	12	12	4
袖	袖	身	頃	身	頃	衿	衿先切れ	振切れ
							衿先切れ	振切れ
								燧切れ
								残り

積り方

表身丈 - 裾廻し + 袴 × 2 + 縫ひ代 = 胴裏

40 - 14 + 5 × 2 + 1 = 28

表衿 - 衿先切れ × 2 + 縫ひ代 = 裏衿

48 - 4.5 × 2 + 2 = 41

表衿 - 堅襖 + 袴 × 2 + 縫ひ代 = 衿先切れ

35 - 25 + 5 × 2 + 1 = 12

袖丈 × 4 + 胴裏 × 4 + 衿 + 衿先切れ + 振切れ + 燧切れ = 裏用布の總尺

16.5 × 4 + 28 × 4 + 41 + 12 + 12 + 4 = 247

第二 本裁比翼標 附け方

並幅六丈物にて本裁比翼の裁ち方並に裁ち切り寸法

16.5	14	40	40	14	14	40	40	14	35	48	23	
袖	袖	裾廻し	身	頃	裾廻し	裾廻し	身	頃	裾廻し	衿	衿	共
										衿	衿	衿

24	25	25	15	15	14	14	13	13	13	13	14	14
下看	裏堅	裏堅	袖口切れ	袖口切れ	後裏裾廻し	後裏裾廻し	後表裾	後表裾	前表裾	前表裾	前裏裾廻し	前裏裾廻し
表堅襖	袴	袴	振切れ	衿先	裾廻し	裾廻し	裾	裾	裾	裾	袖口	切れ
			12	4.5					12	12	15	15

積り方

用布の總尺 - (袖丈 × 4 + 身丈 × 4 + 衿 + 衿 + 共衿 + 下着表堅襖 + 裏堅襖 × 2 + 袖口切れ × 2 + 袴 × 2 × 8) ÷ 12 = 表裾

600 - (16.5 × 4 + 40 × 4 + 35 + 48 + 23 + 24 + 25 × 2 + 15 × 2 + 5 × 2 × 8) ÷ 12 = 13

表裾 + 袴 × 2 = 裾廻し
13 + 5 × 2 = 14

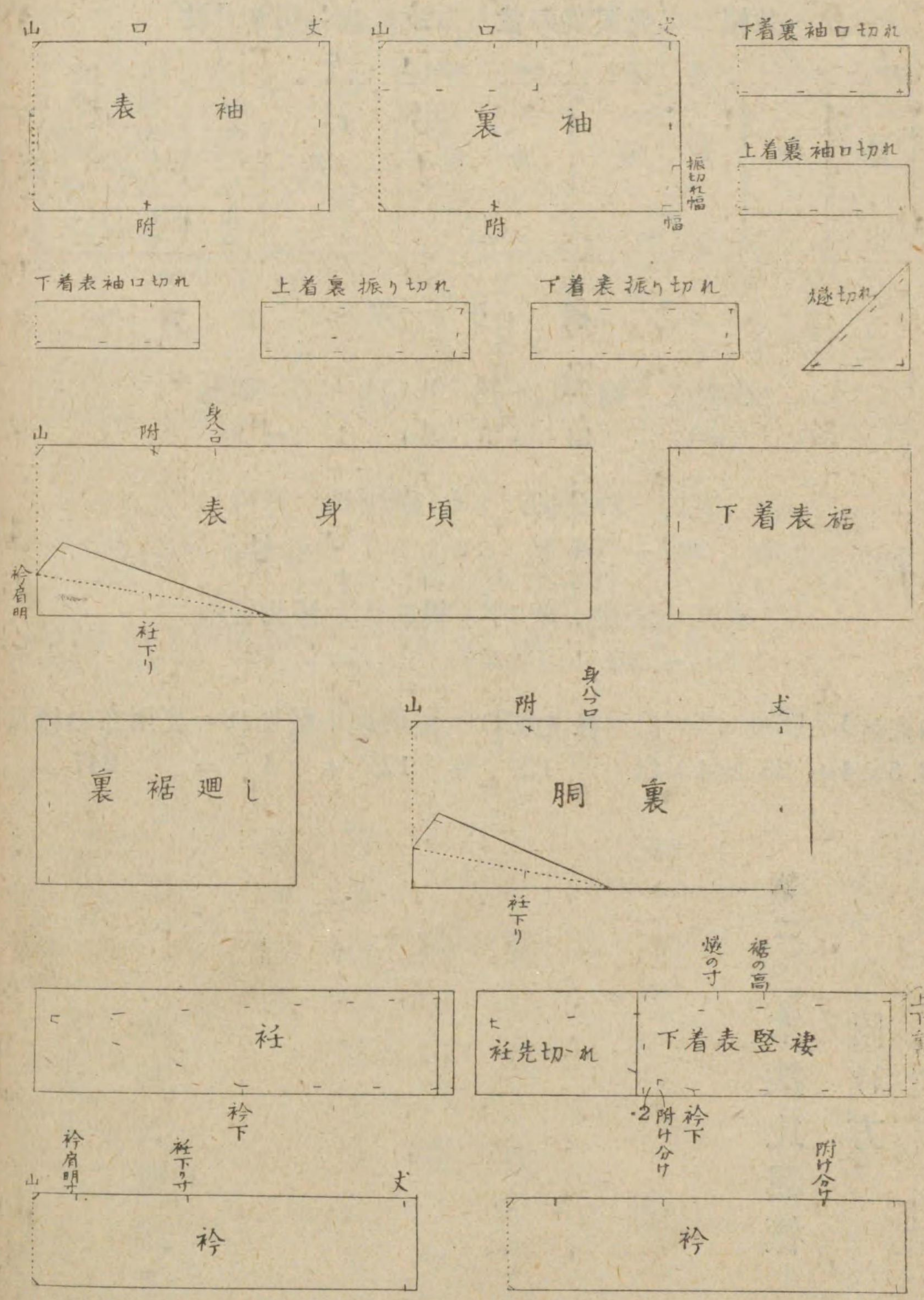
第一 本裁比翼裁ち方積り方

比翼とは、一枚の小袖にて、總べての廻りを、二枚重ねの如く、仕立てたるをいふ。

第十三章 比翼

(2) 単衣半重ねの身丈を四尺、袖丈を一尺七寸上りとせば、下着の用布は何程を要するか。

本裁比翼標付け方



一、袖 表袖二枚を中表に重ね、丈を二つに折り、常の如く山・丈・口・附を標す。

次に裏袖二枚を同様に折り、常の如く山・丈・口・附及び袖口切れ附の標をなす。但し、袖口明は表袖より一分詰め、丈は振りの方にて三分詰め、振り切れの附く所より斜に標をなす。

二、袖口切れ 下着の裏袖口切れを二枚中表に重ね、丈を二つに折り、常の如く山・丈・幅を標し、上着の裏袖口切れ二枚を同様に折り、山・丈・幅の標をなし、下着の表袖口切れを亦同様に折り、山・丈・口の標を付け、裏袖口切れの幅より、衿の二倍だけ狭くして幅の標をなす。

三、振り切れ 上着の裏振り切れを、二枚づつ中表にして、四枚を重ね、幅を標し、丈を振りの方にて一分詰めて、斜に標を付け、下

着の表振り切れ四枚も、上着の裏振り切れと同様に重ね、幅を標し、丈を振りの方にて二分詰めて斜に標をなす。

四、表身頃 常の如く折りて、山・丈・附・身八つ口・脊・衽下り等の標をなす。

五、燧切れ 表裏の燧切れ四枚を中表に重ね、圖の如く標をなす。

六、裾廻し及び下着の表裾 下着の表裾四枚を中表に重ねて、丈を標し、上下の裾廻し八枚を中表に重ね、下着表裾より施の二倍だけ長くして、丈の標をなす。

七、胴裏 常の如く、折りて、山・丈・袖附・身八つ口・脊・衽下り等の標をなす。

八、衽 表衽・上着の裏堅褌・下着の表裏堅褌を各二枚つゝ中表に合せ、下着の裏堅褌と衽先切れとを常の如くに据ゑ、其の上に

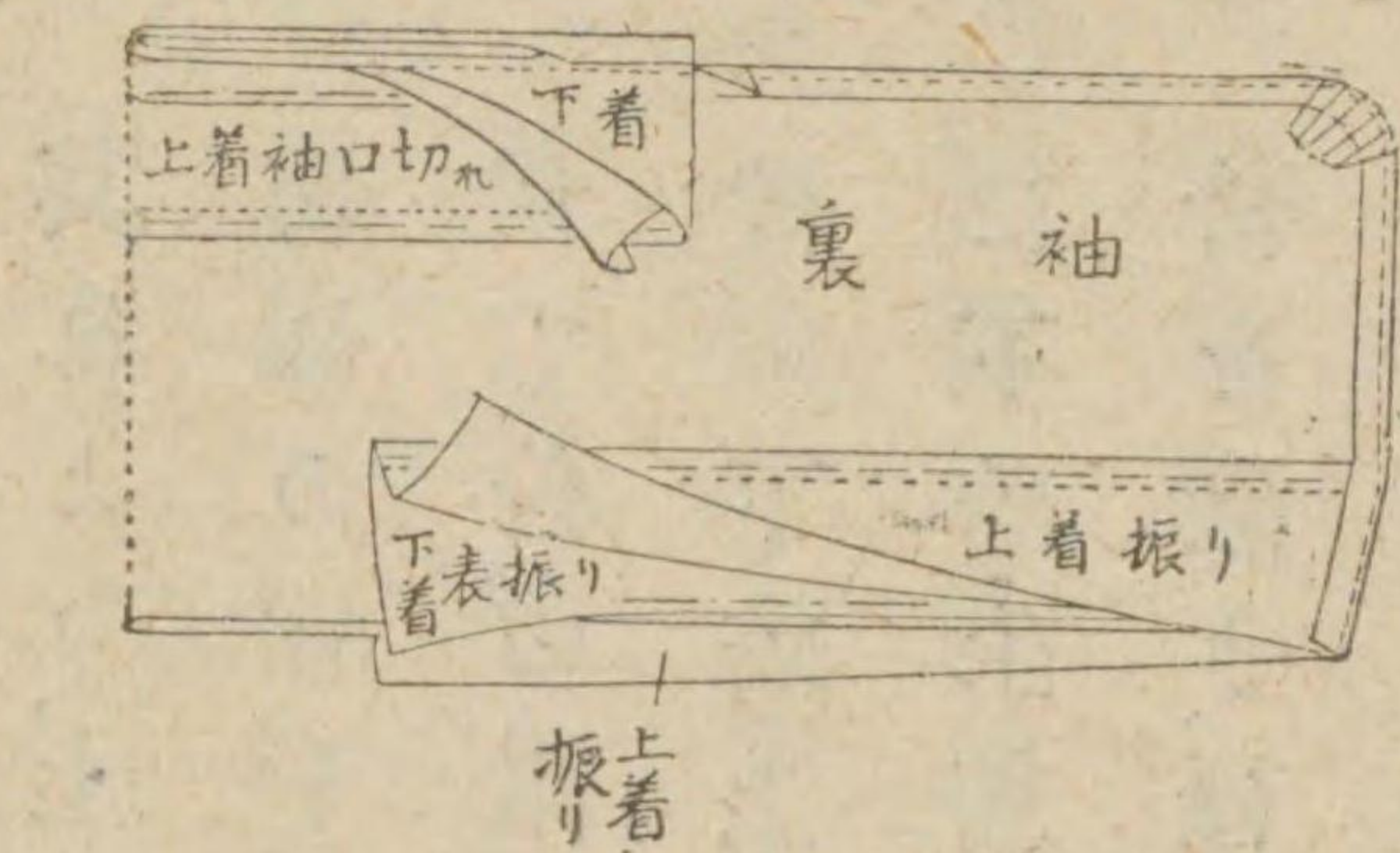
上着の裏堅褌を又其の上に施の二倍だけ引きて下着の表堅褌と上着の表衽とを載せ、常の如く丈・幅・衽下・衽附の標をなし、其れより、上着の表衽二枚を除き、附の方に裾廻しの高さと燧切れの寸とを標し、又衽先の接ぎ標を附け、此の標より二分下りて、衽の附け分けの標を附く。

九、衽 下着・上着の裏衽及び衽先切れを、常の如くに据ゑ、其の上に着・上着の表衽を載せ、山・衽肩明・衽下り・丈を標し、上着の表衽を除き、衽の衽下標より衽の附け分けの標までの寸法を計り、此の寸法を、衽丈標より上に移して、衽の附け分け標を附く。

第三 本裁比翼縫ひ方順序

一、袖 表袖を常の如く縫ひ、幅標をなし、躡をかけ、次に、裏袖に常

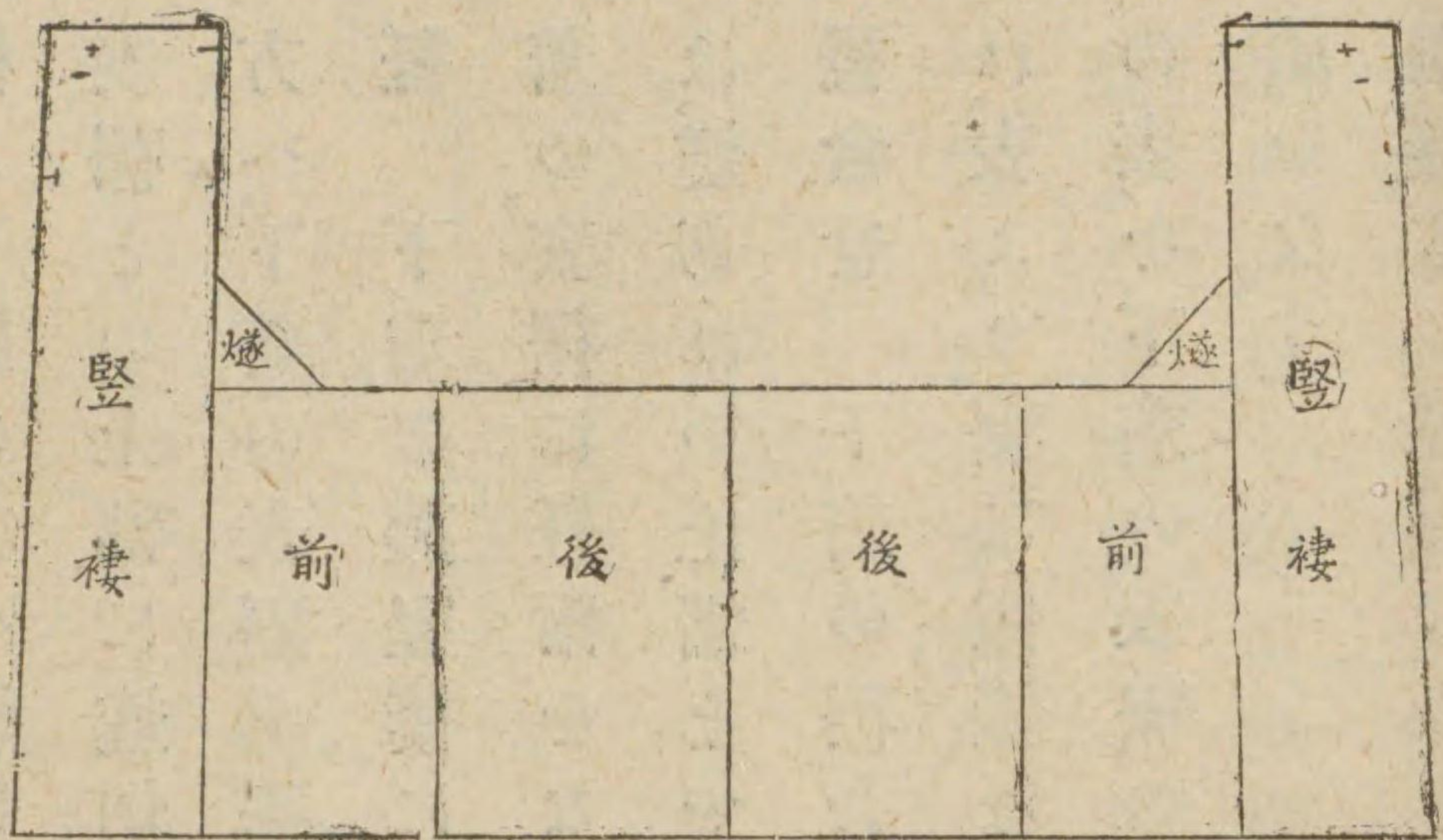
の如く袖口切れを付け、袖口下及び袖下を縫ひ、幅標をなし、折りを付け、其れより、袖口に綿を含め置く。



下着の表袖口切れと上着の袖口切れとの奥を合せ、上着の袖口切れを、山の所にて一分程摘み、標通りに奥を縫ひ合せ、下着の表袖口切れの口下を縫ひ、躰をかけ、下着の袖口を拵け合せ、引き續きて、口明下を表裏綴ち合せ、其れより、口切れの奥を裏袖の口切れ附の所に綴ち付け、上着の袖口切れに綿を含め、口切れ下を下着の表袖口切れに縫ひ附く。

上着の振り切れと下着の表振り切れとの袖下を縫ひ、奥を標通りに縫ひ合せ、下着の表振り切れを裏袖に合せて、女小袖

四 裾と燧・竪 褌



着と同寸とし、裾口を後幅に一分、前幅に二分詰めて、標をなすなり。

のときと同様に振りを縫ひ、綿を綴ち付け、表より躰をかけ、振り切れの奥を裏袖に綴ち付け、次に、上着の振り切れを表袖に合せて振りを縫ひ、綿を綴ち付け、躰をかく。

二、上着の表布 常の如く脊・脇・衽・衿を縫ふ。

三、胴裏・裾廻し 胴裏・上着・下着の裾廻し及び下着の表裾とも各、脊を縫ひて後幅を標し、脇を縫ひて前幅の標をなす。但し、下着の幅は上部を上

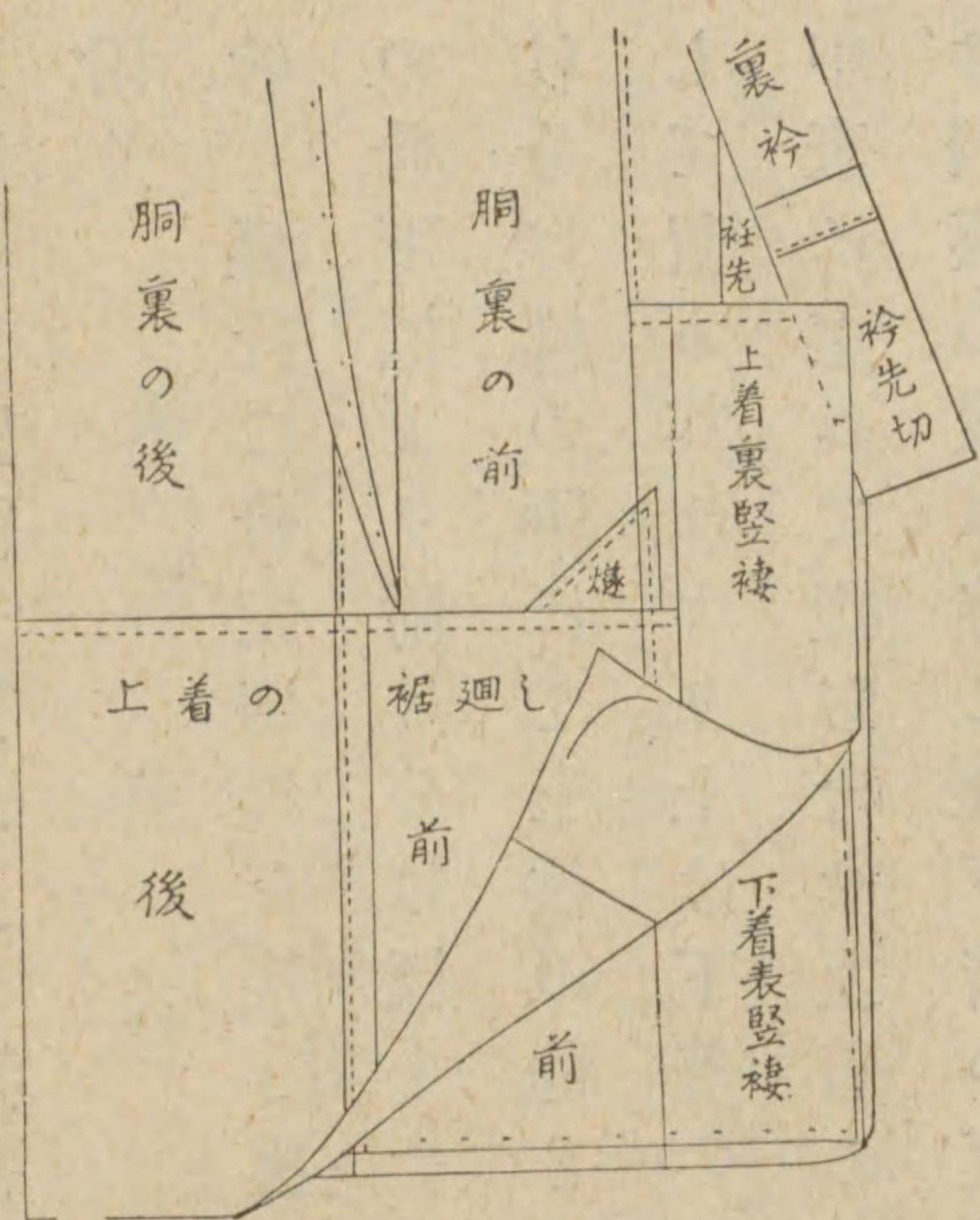
四、燧切れ 上着・下着の裾廻し及び下着の表裾の上部に、衽附の標より脇の方へ、燧切れ附の標をなし、上着の裾廻しと下着の表裾との上部に、燧切れを縫ひ付け、上着の裾廻しを燧切れの方へ、下着の表裾を裾の方へ折りて、躰をかく。

五、衽 下着の裏豎褌に衽先切れを接ぎ、上着・下着の裾廻しと下着の表裾に衽附をなす。但し、上着の裾廻しと下着の表裾とは、燧切れの上端まで縫ふなり。

六、裾合せ 下着の裾合せをなし、表の方へ折り、躰をかけ、綿を入れ、表より裾に假綴をなし、脊脇の縫ひ目を綴ち、上着の裾廻しの表を下着の表裾の方に重ね、上部の丈標を合せ、三枚にて假綴をなす。

七、胴接ぎ 胴裏の表を下着の裾廻しの方に合せ、四枚とも丈標

裏の前下



を揃へて、待針を打ち、燧切れの所は、左右とも折り目の順序に針を通して留め、兩燧切れの間を四つ縫ひになし、其れより布端までは、胴裏と下着の裾廻しとを縫ひ合せ、胴裏の方へ折りて躰をかけ、胴裏に衽を付け、其れより、下着の衽附を裾より燧

切れの上端まで、表裏綴ち合せ、燧切れの上端にて、布の重りの順序に従ひ、總べての布に針を通して留をなし、燧切れの斜邊を縫ひ合せ、次いで、上着の裏豎褌と下着の表豎褌と、附の方の標より一分内を縫ひ合せ、縫ひ目を割りて、

下着の表豎褌一枚だけを裏衽附の縫ひ目より五厘外に綴ち附く。

八、衿 裏衿に衿先切れを接ぎ、裏衿の方へ折り、三枚の衿を豎褌の衿下標より附け分け標まで、別々に縫ひ附け、折りをなし、附け分け標の所にて、三枚の衿と豎褌とを、重りの順序に針を通して留め、其れより上は下着の表衿と上着の裏衿との二枚を中表に重ねて、綴ち合せ、上着の裏衿の方を胴裏の裏の方に合せ、胴裏の表の方には下着の裏衿一枚を合せて、四つ縫ひになし、折りを附く。

上着の裏豎褌と下着の表豎褌との上部を縫ひ合せ、上着の裾合せをなし、表の方へ折り、襷をかく。

九、袖附 本裁女小袖と同様に身八つ口を縫ひ、袖附をなす。袖

附けの留め方は、表袖・表身頃・上着裏袖・下着表袖・下着裏袖・胴裏の順序に針を通し、元に戻りて留むるなり。

上着の裏振り切れと下着の表振り切れとの上部を縫ひ合せ、袖附留めより上を裏袖附の縫ひ目に綴ち附く。

二、綿入れ方・紵け方 總べて女小袖に同じ。

〔附言〕 附け比翼とは、下着の廻りだけ別に縫ひ置き、之れを上着に紵け附け、本比翼の體裁に仕立てたるをいふ。此の場合には上着は普通の小袖に仕立て、下着廻りの袖口振りの奥裾廻しの上端及び衽衿の附け方は、表を五厘引きて裏をふかせ、其の折り山を上着各所の縫ひ目に合せて、紵け附くるなり。

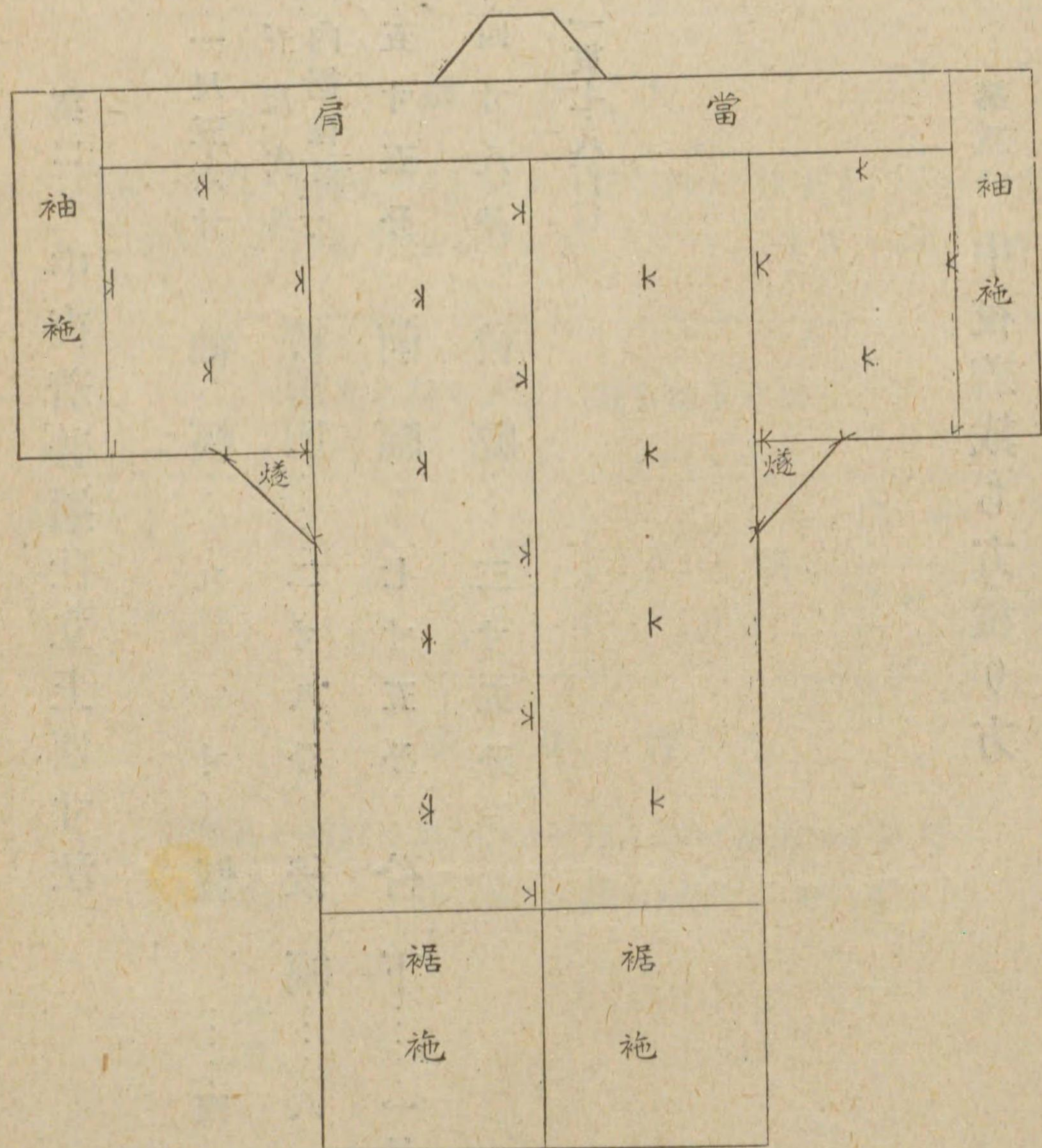
第十四章 夜着蒲團

第一節 夜着

第一 夜着各部の名稱

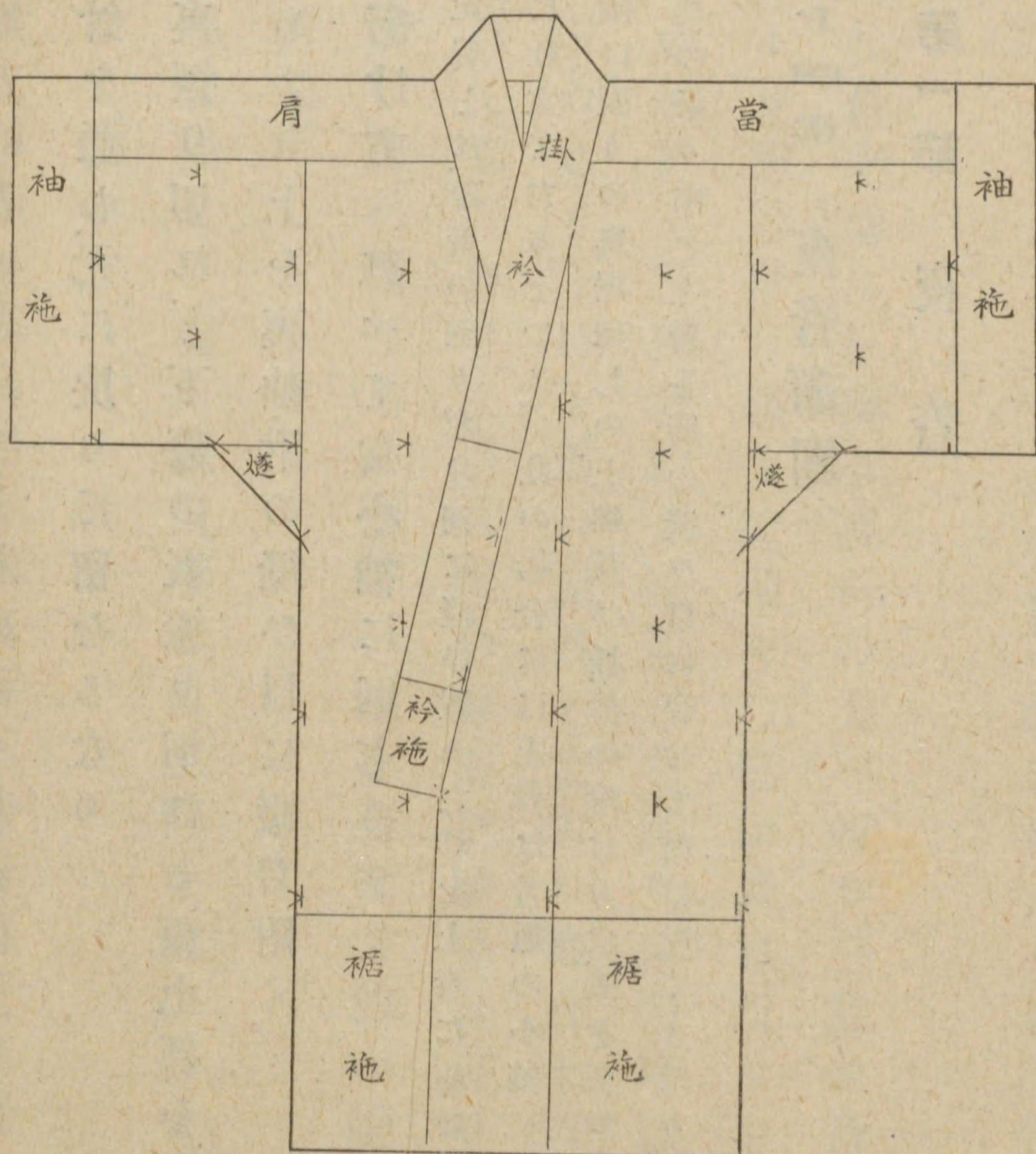
夜着の圖

(後)



夜着の圖

(前)

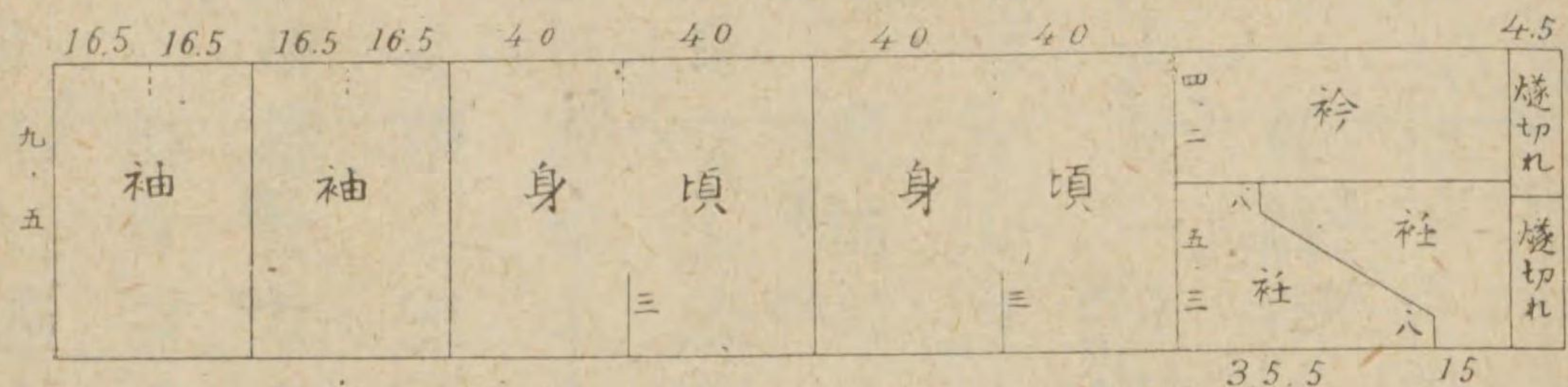


第二 中夜着普通仕立上げ寸法

綿	衿	衿	身	袖
……一貫七八百目	幅……四寸八分	下り……五寸五分	丈……五尺内外 内裾襖二尺	丈……一尺五六寸
	衿	前	衿	袖
	幅……三寸五分	幅……七寸五分	肩明……二寸八分	幅……九寸
		衿	後	燧
		下……一尺七八寸	幅……八寸五分	……四寸

第三 中夜着裁ち方積り方

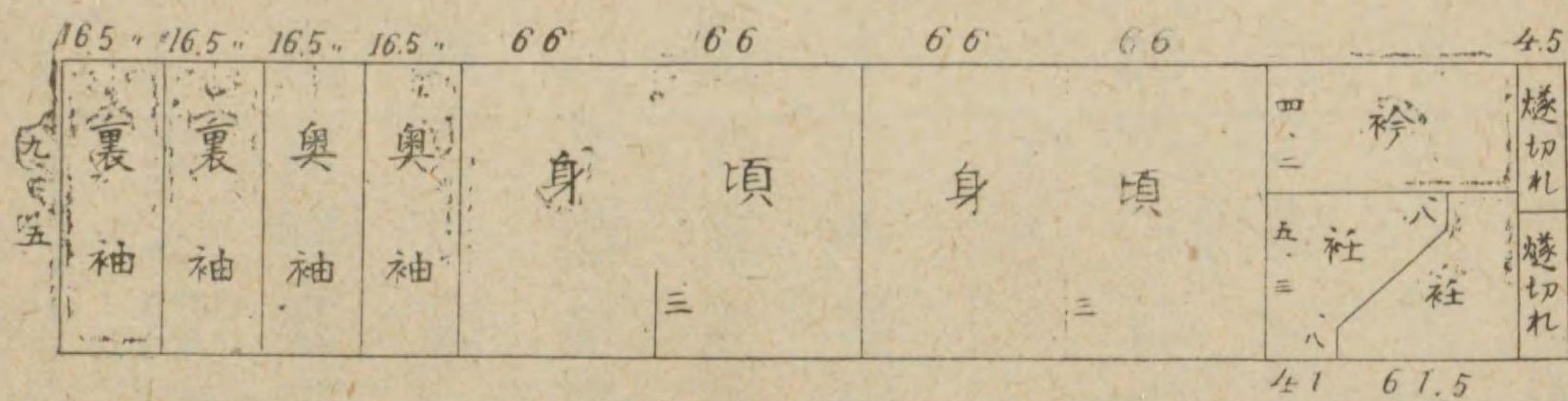
並幅二丈八尺一寸にて夜着の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

{用布の總尺-(袖丈×4+鉤下+燧切れ)+衿下り}÷5=身丈
 { 281 -(16.5×4+ 15 + 4.5)+ 4.5 }÷5= 40

裏布の裁ち方並に裁ち切り寸法



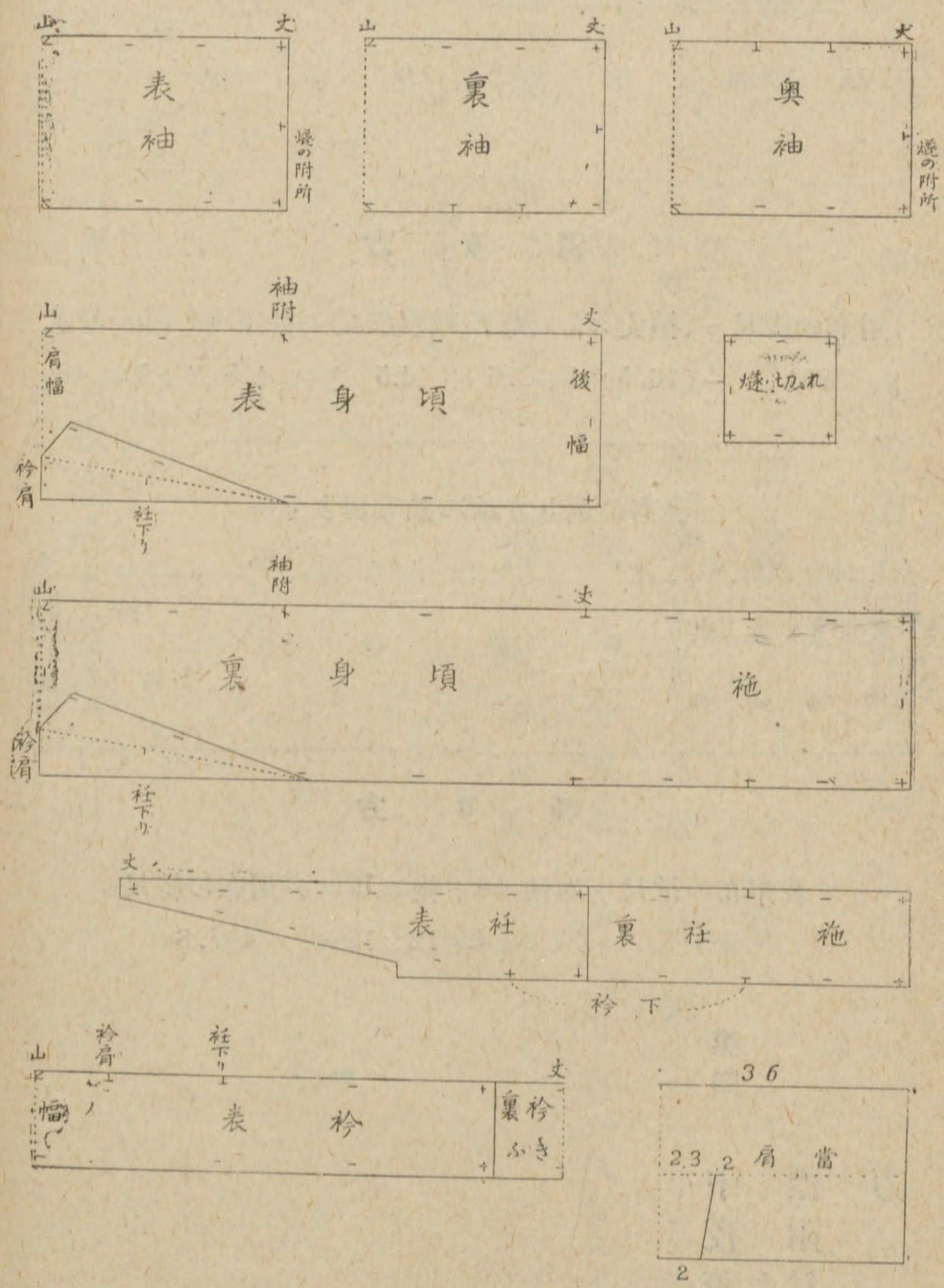
積り方

表用布の總尺+奥袖×4+襖×12=裏用布の總尺
 281 +15.7×4+12×12= 487.8

第四

中夜着
標
附
け
方

中夜着標附け方



一、袖 先づ燧切れに寸法通り標をなし置き、表袖には丈幅を標し、袖下に附の方より燧の寸法を標す。

裏袖には幅を標し、丈は衤の表に出づる部分の幅だけ、表袖より一分引きて、標をなし、奥の方にて八分詰め、衤山より斜に標をなす。

奥袖には、裏袖の丈の詰めたる寸法と同寸に丈を標し、幅標をなし、表袖の如く、袖下に附の方より燧の寸法を標し、其れより、裏袖の奥と奥袖の端とに、合標を附く。

二、身頃 表身頃には山、丈を標し、袖丈に燧の寸法を加へて、袖附の標をなし、其れより、脊、肩幅、後幅、衤下り、前幅の標をなす。

裏身頃には山を標し、表身丈と同寸に丈の假標をなし、衤の寸法を標し、奥袖丈に燧の寸を加へて、袖附を標し、其れより、脊

肩幅・後幅・衽下り・前幅・袴の部分は裾口と同寸の標をなす。

三、衽 裏衽の上に袴の二倍だけ引きて表衽を重ね、表裏の裾の縫ひ代・袴山・丈・衽下・袴山より計る。衽幅を標し、衽丈標まで二・三分斜に、衽附の標をなし、其れより、衽下標と衽先標との中程にて、三分許り張り出し、程よく恰好を付け、衽附の標をなす。

四、衿 裏衿を常の如く二つに折り、衿丈を標し、餘りを折り返し、山を揃へて、表衿を其の上に乗せ、山・衿肩明・衽下り及び袴・衿袴は袴袴の凡そ二分の一を相当とす。を標し、幅標(上り幅より三分廣く)をなす。

五、肩當切れ 丈を二つに折り、幅の中央にて、輪の方より二寸三分と標し、又前にて、輪の方より二寸と標し、兩標の間を切り放し、圖の如く二分の切り込みを入れ置く。

第五 中夜着縫ひ方順序

一、袖 表裏の袖口を縫ひ合せ、表袖の方へ折り、外袖の袖下に燧切れの布目を合せて、縫ひ付け、袖の方へ折り、次に、内袖の袖下に燧切れを縫ひ付け、袖の方へ折り、燧切れの角を留め、引き續きて、表裏の袖下を縫ひ、内袖の方へ折る。

奥袖にも亦同様に燧切れを付け、袖下を縫ひ、奥袖の端を折りて、躰を掛け置く。

二、身頃・衽 表裏の脊(表の脊は、衿肩明より三寸許り下を、三尺ばかり縫ひ残す。)脇衽を縫ひ、常の如く折り、其れより、表裏の裾を縫ひ合せ、表の方へ折り、衽下を縫ひ、表の方へ折る。

三、衿 表裏の衿丈標を縫ひ合せ、表の方へ折り、左右とも衿の袴

山を衿下の標に合せ、衿にて表裏の衽を挟み、留をなし、表裏の衿を附け廻し、衿の方へ折り、其れより、表衿の幅は標通り、裏衿の幅は標より表の折り返りの二倍(四分)だけ引きて、縫ひ合せ、衿先の所は自然に恰好を附けて、斜に縫ひ、裏の方へ折る。

四、袖附 表裏の袖を附け、表裏とも袖の方へ折る。

以上縫ひ目には、總へて六七分の針目に、隠し躰をかく。

五、綿入れ方 裏を出して疊み、前身を下に、後身を上置き、後身及び袖に眞綿を引き、其の上に綿を平に延べて、(裾口は衤山より約そ一尺二寸、袖口は衤山より七・八寸長く、綿を延べ置く。厚味を加減し、裾袖口には別に衤綿を入れ、延べ置きたる綿にて包み、又全體に眞綿を引き、次に、綿と共に返して、前身を上にし、後身同様に綿を引き、衿下及び衿には較、厚く綿を置き、袖口を

整へ、其の上に眞綿を引き、襦先、裾の脊、脇、衽の縫ひ目、衿先、衿下、三つ衿、衽下りに綿の引き糸を附け、表布の脊より引き返し、總體に能く綿を含ませ、後ち、合標を合せて、裏袖と奥袖とを拵合せ、(縫ひ合すことあり)表布の脊を小針に拵け、其れより、一寸許りの綴ち目にて綴糸をかく。

六、肩當掛衿 肩當切れの兩脇を伏せ縫になし、前後を折りて躰をかけ、其れより、身頃に前後を拵け附け、後ち、掛衿の兩端を伏せ縫になし、拵け代を折りて躰をかけ、掛衿を拵け附く。

第六 大夜着・小夜着

大夜着・小夜着の裁ち方・積り方及び縫ひ方は總へて中夜着と同じ。但し、奥袖の丈は表袖より、大夜着には一寸、小夜着には五

分許り詰めるものとす。

一 大夜着小夜着普通仕立上げ寸法

大夜着 小夜着

袖丈	一尺七八寸	一尺四五寸
袖幅	いっばい	八寸五分
身丈	五尺四・五寸 内裾襖一尺四・五寸	四尺七八寸 内裾襖八・九寸
衿肩明	三寸三四分	二寸六七分
後幅	いっばい	八寸
衿下り	六寸	五寸
前幅	いっばい	七寸
衿下	二尺	一尺五六寸
衿幅	五寸	四寸五分

衿幅	三寸五分	三寸
燧	四寸五分	三寸
綿	二貫目	一貫四五百目

第二節 蒲團

三布蒲團 四布蒲團 五布蒲團

丈……凡そ四尺八寸……凡そ五尺……凡そ五尺
 綿……一貫四五百目……一貫二三百目……一貫五六百目

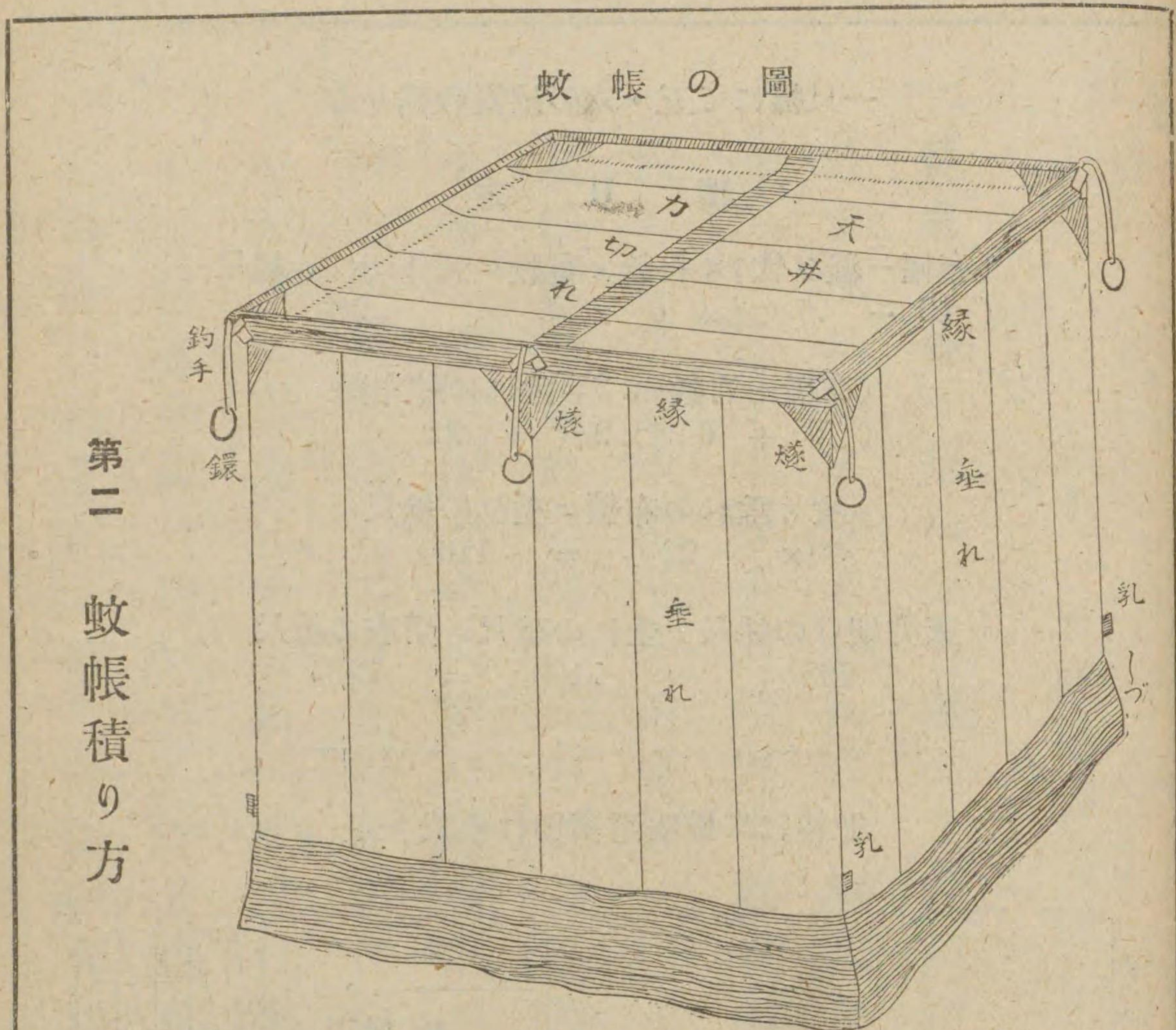
一、敷蒲團 並幅一反を三布に裁ちて、之れを三幅に縫ひ合せ、裏の方の縫ひ目を、一ヶ所四尺ばかり縫ひ残す。一方へ折り、隠し躰をかけ、丈を二つに折りて、三方を縫ひ廻し、表の方へ折り、隠し躰に隠し躰を掛け、表布の裏を出し、其の上へ眞綿を引き、上輪

の方)を較、厚くして、綿を延べ、又其の上に眞綿を引き、四隅及び幅に二ヶ所、丈に三ヶ所の引き絲を附け、其れより、新聞紙二枚許りを中央に延べ、此の所へ四隅より巻き合せ、縫ひ残したる口より引き返して、紙を除き、能く丈幅を引き合せ、縫ひ残したる部分を、小針に紉け、綴絲を掛くるなり。

二、掛蒲團 表裏各、一反宛を用ひて、五布に裁つを普通とす。敷布團と同じく縫ひ、綿を入れ、綴絲をかけ、終りて、並幅三尺五寸許りの掛衿をかくるなり。

第十五章 蚊帳

第一 蚊帳各部の名稱



室の大きさ	蚊帳の布數	蚊帳の丈
三疊	五六	五尺
四疊半	六七	五尺
六疊	七八	五尺五寸
八疊	八十	六尺
十疊	九十	六尺

第二 蚊帳積り方

一尺幅にて五・六の蚊帳の積り方

積り方

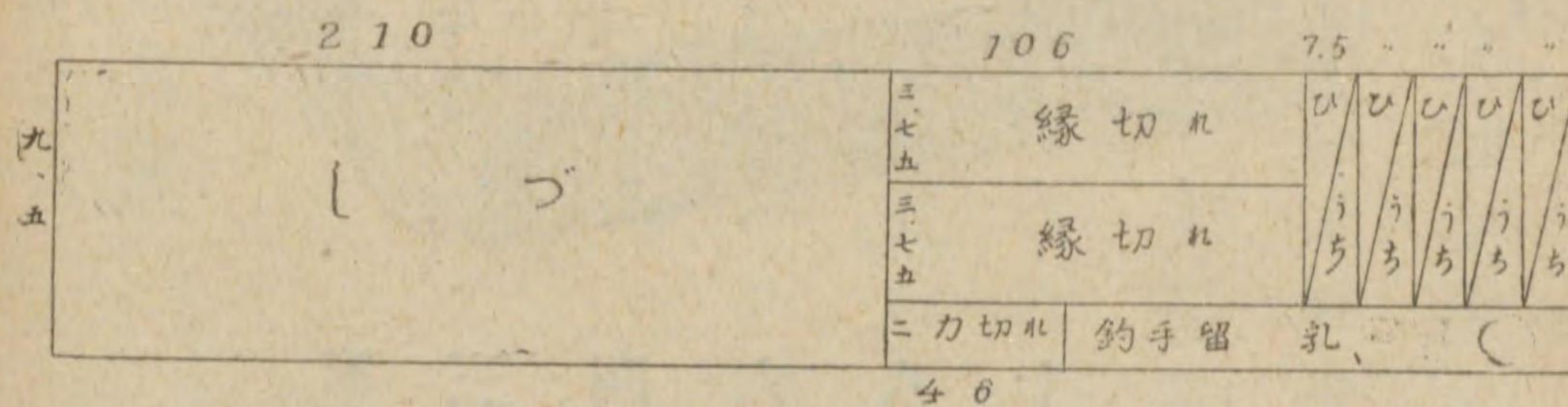
(布幅-縫ひ代)×布數×布數=天井切れの總尺
(10 - .5) × 6 × 5 = 285

(布數+布數)×2=垂れの總布數
(5 + 6) × 2 = 22

丈×垂れの布數=垂れの總尺
50 × 22 = 1100

天井切れの總尺+垂れの總尺=用布の總尺
285 + 1100 = 1385

並幅にて蚊帳附屬切れの裁ち方



積り方

(布幅-縫ひ代)×垂れ總布數+縫ひ代=しづの總尺
(10 - .5) × 22 + 1 = 210

しづ總尺の半數+縫ひ代=縁切れの總尺
105 + 1 = 106

燧切れ×5=燧切れの總尺
7.5 × 5 = 37.5

しづ切れ+縁切れ+燧切れ=附屬切れの總尺
210 + 106 + 37.5 = 353.5

第三 蚊帳縫ひ方順序

一、垂れ天井 垂れを各裾より縫ひ合せ、(四隅の所は、裾より一寸許り上に、縁と同じ切れにて、幅八分長さ一寸程の乳を挟みて縫ふ。) 折りは皆手前の方へ附け、次に、天井切れを縫ひ合せ、亦同じく手前へ折りを附け置く。

二、燧切れ力切れ 燧切れ力切れに、共色の紙又は布にて裏打ちをなし置き、天井の四隅に燧切れの斜裁ちの方を縫ひ附け、隅の方へ折り返し、二方を天井切れの端に綴ち附け、次に、力切れを天井の中央に於て横一文字に据ゑ、一方を縫ひ附け、折り返して他方を拵け附け、其れより、垂れの上部に於て、五布と六布との縫ひ目及び六布の方の中央に燧切れを附く。其の仕方

は燧切れの斜裁ちの方を除きて、他の二方を二分許り折り置き、縁の上り幅の五分程内に、斜裁ちの方を据ゑて、綴ち付け、他の二方を拵け附く。

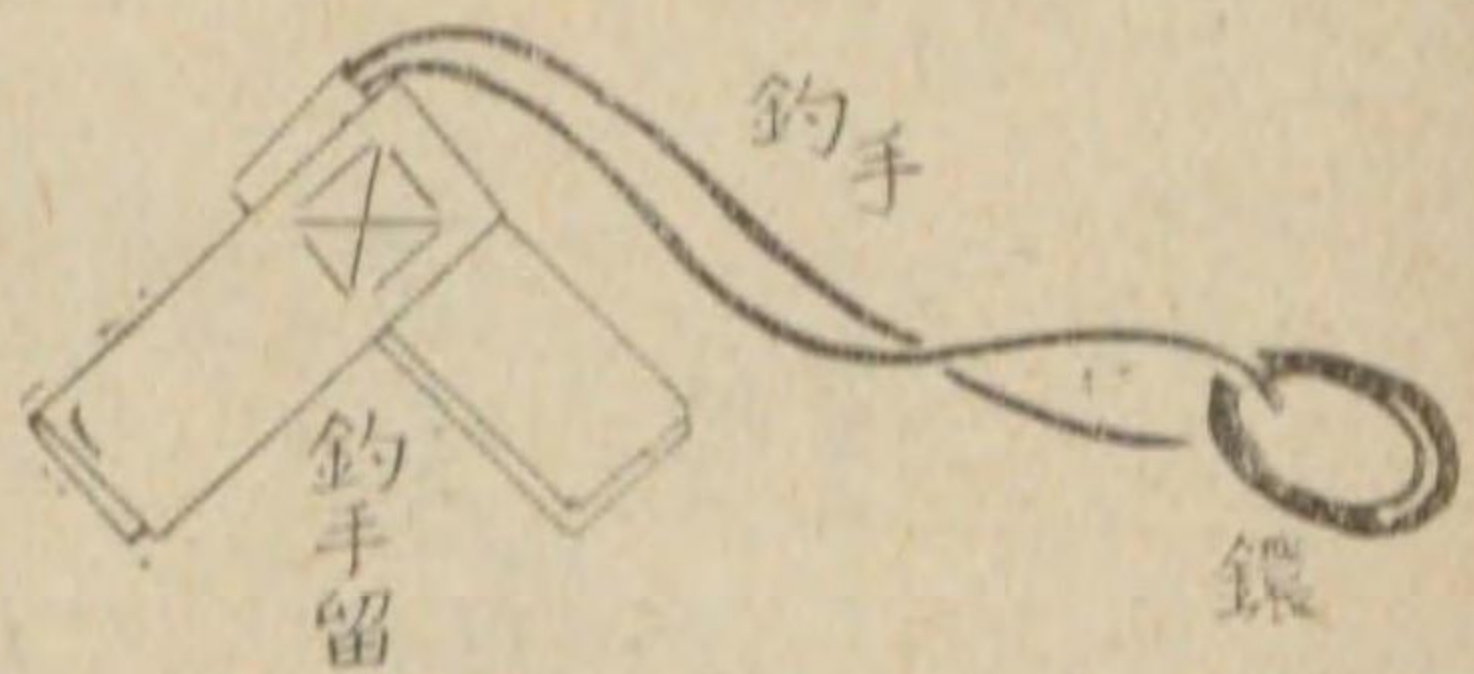
三、垂れと天井 垂れと天井切れと裏を合せ、表の方より假綴をなす。

四、縁切れ 縁切れに前の如く裏打をなし、縫ひ代を折り、縁幅の三分の一を天井の方に當て、縫ひ廻し、隅の所にて、縁の弛みを内へ折り込み、縁の縫ひ込みの内に、三つ撚りの細き麻緒を入れ、粗らく縫ひ込みの端にまとひ付け、縁を垂れの方へ折り返し、天井切れと共に拵け、隅の所は、垂れの半幅程、天井切れを除きて、拵け附く。

五、しづ 裾口にしづを二分程控へて縫ひ付け、しづの方へ折り、

縫ひ込みを包みて、拵け附く。

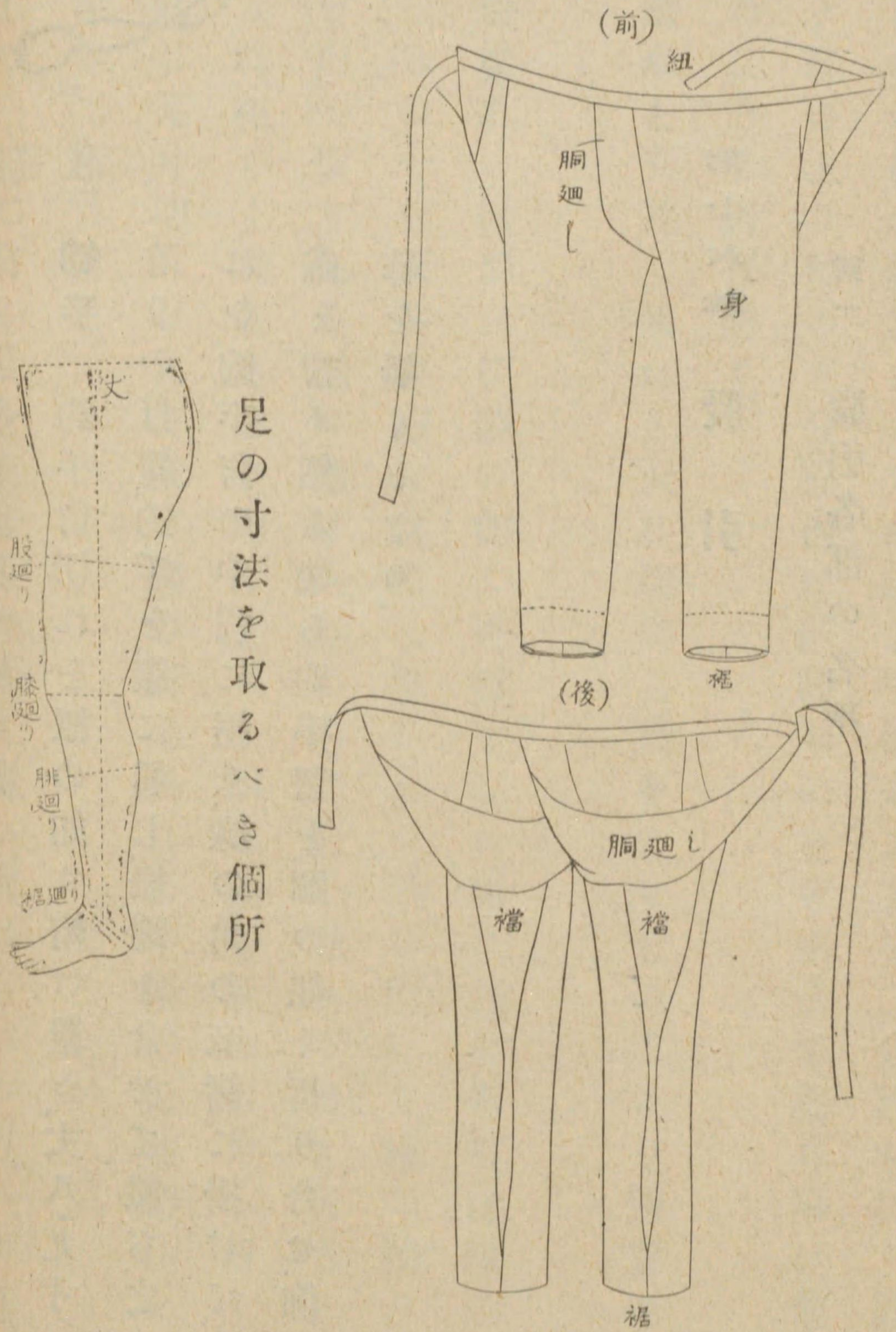
六、釣手 釣手留切れを紐の如く拵け置き、丈八・九寸許りの打紐(釣手)を環に通し、紐端を合せて綴ち、之れを釣手留の中程に据ゑ、縁の角の麻緒に掛けて、確と留め、然る後ち、釣手留を、圖の如く折り合せ、飾絲を掛くるなり。



第十六章 股引

第一 股引各部の名稱

股引の圖



足の寸法を取るべき箇所

第二 本裁股引普通裁ち切り寸法及び
割り出し方

各部の名稱	取り寸	裁ち切り寸法	割り出し方
脇丈(腰骨より外踝まで)	二尺三寸六分	二尺四寸	取り寸に縫ひ代を加ふ
胯上	八寸	八寸	脇丈の三分の一
胯下		一尺六寸	脇丈の三分の二
膝		七寸二分	胯より胯上の十分の九下
股廻り	一尺二寸七分	一尺四寸五分	取り寸に弛み一寸縫ひ代八分を加ふ
膝廻り	八寸五分	一尺三分	同前
腓廻り	八寸七分	一尺五分	同前
裾廻り	八寸	八寸四分	取り寸に縫ひ代四分を加ふ
上		六寸四分	股廻り取り寸の凡そ二分の一

紐	胴廻し前幅	胴廻し後幅	胴廻し丈	襠幅				身幅 股・膝・腓
				裾	腓	膝	股	
								各九寸五分
	二寸七分	八寸	二尺	四・五分	一寸	八分	五寸	八寸四分
	幅並幅五つ割							裾廻りと同寸
								股廻り裁ち切り寸より身幅を減す
								膝廻り裁ち切り寸より身幅を減す
								腓廻り裁ち切り寸より身幅を減す
								裾廻りの縫ひ代と同寸
								股廻り取り寸二倍の凡そ五分の四
								股廻り取り寸二倍の凡そ三分の一
								胴廻し後幅の三分の一

〔注意〕 股引の類は通常曲尺にて計るものなれども、爰には便宜に従ひて鯨尺を用ひたり。

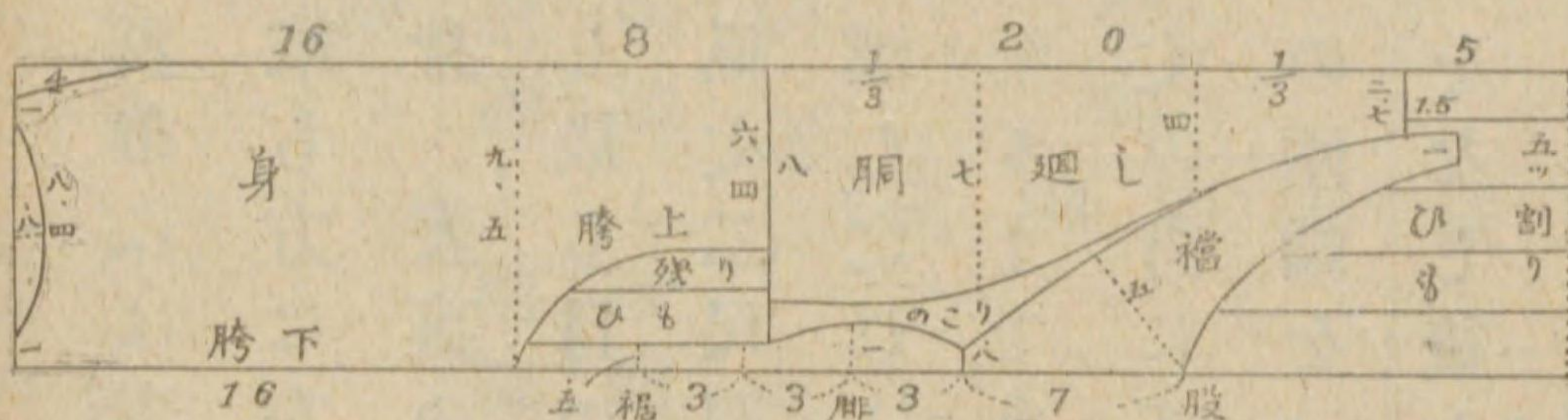
第三 本裁股引(袷)裁ち方・積り方

表布には青縞みくらじま裏布には淺黄木綿を用ふるを通常とす。裁ち方は左の如し。

一、身 表裏の丈を各中表に二つに折り、裏布を下に表布を上にし、裁ち目の方を四枚揃へ、輪の方を右に置き、裁ち目の方より脇丈二尺四寸、胯下一尺六寸の標をなし、身の上幅六寸四分を標し、之れより裾の方へ、胯上三分の二までは眞直に、以下胯に至るまで丸みを附けて、標をなし、次に、襠幅八寸四分を標し、脇丈の方にて、裾より四寸程上まで、斜に少しく丸味を附け、裾幅の両端を一寸づつ残し、中央にて八分程内に入り、圖の如く標をなし、後ち、標通り裁ち切る。

二、胴廻し 胴廻しの丈を二尺と標し、幅は一端を八寸、他端を二

並幅にて本裁給股引の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

$$(身丈 + 腰廻し + 紐) \times 2 = \text{用布の總尺}$$

$$(24 + 20 + 5) \times 2 = 98$$

裏布の積り方

$$(身丈 + 腰廻し) \times 2 = \text{用布の總尺}$$

$$(24 + 24) \times 2 = 88$$

寸七分とし、丈を三分して、其の所に七寸、四寸の幅標をなし、圖の如く恰好を附けて裁ち切る。

三、襠 先づ襠の裾を五分幅に取り、之れより上方へ、一尺六寸の胯下を標し、其の所にて股幅五寸、下方へ七寸下りて、膝幅八分を標し、以下裾口までを三分し、三分の一下りて、腓幅一寸を標し、裾より三分の一までは、裾幅と同寸とし、

次に、襠の上幅一寸の標をなし、其れより、圖の如く恰好を附けて裁ち切る。

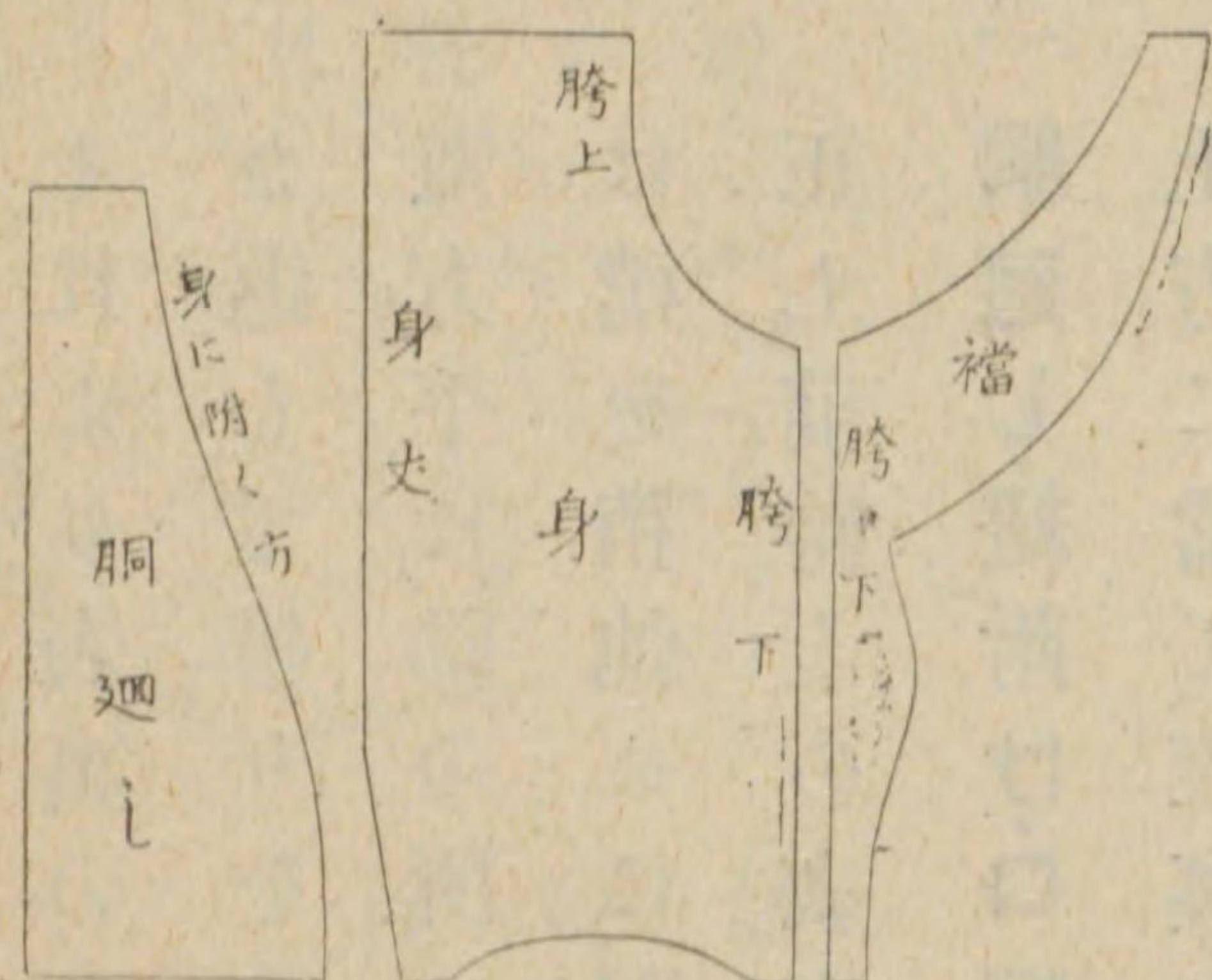
殘餘の布は五つ割幅に裁ちて、紐切れとなすなり。

第四 本裁股引(給)縫ひ方順序

一、身及び襠 縫ひ方は、總べて二本の撚り合せ絲を用ひ、細かく

一針抜きに縫ふなり。

先づ、襠の表裏の裾を合せ、裏を一分出して縫ひ、裏布の方へ折り、引き返して、表布を五厘ふかせ、襠の表裏を合せて、廻りに假綴をなし、次に、身の表裏の裾を襠と同様に縫ひ合せ、縫ひ込みのつれざる様適宜に切り込みを入れ、裏布の方へ折り、



それより、表裏の身にて内襠を挟み、裾より四つ縫ひになし、引き返して折りを整へ、又外襠を挟みて、裾より三寸程上までは、双方平に、腓の所は襠を稍弛めに、膝の所は身を弛めに、股の邊は襠を稍弛めに、裾より四つ縫ひに付け、表へ返して、折り目を正し、前脰上の表裏を合せて、假綴をなす。

二、**胴廻し紐付け口縫ひ** 胴廻しの斜裁ちの幅狭き方を、前身の上方に當て、表裏にて身を挟み、脰上を後まで四つ縫ひになし、引き返して、折りを整へ、胴廻し丈の眞直なる方は、裏布を一分出して、表裏を縫ひ合せ、裏布の方へ折り、引き返して、表を五厘ふかせ、次に、胴廻し前の左を上、右を下に四・五寸重ねて、假綴をなし、其れより、左脚の方に七・八寸出して紐を付け、後ち、裾口より二寸程上り、裾の前半に、極小針にて表裏の布にかけ、口縫

ひをなす。

三、**畳み方** 霧を少しく吹き、襠の中央より身幅を二つに折り、能く押へて、皺を伸し、次に、丈を二つに折り、胴廻しを其の上に折り重ね、紐を廻し、紐端を挟み置く。

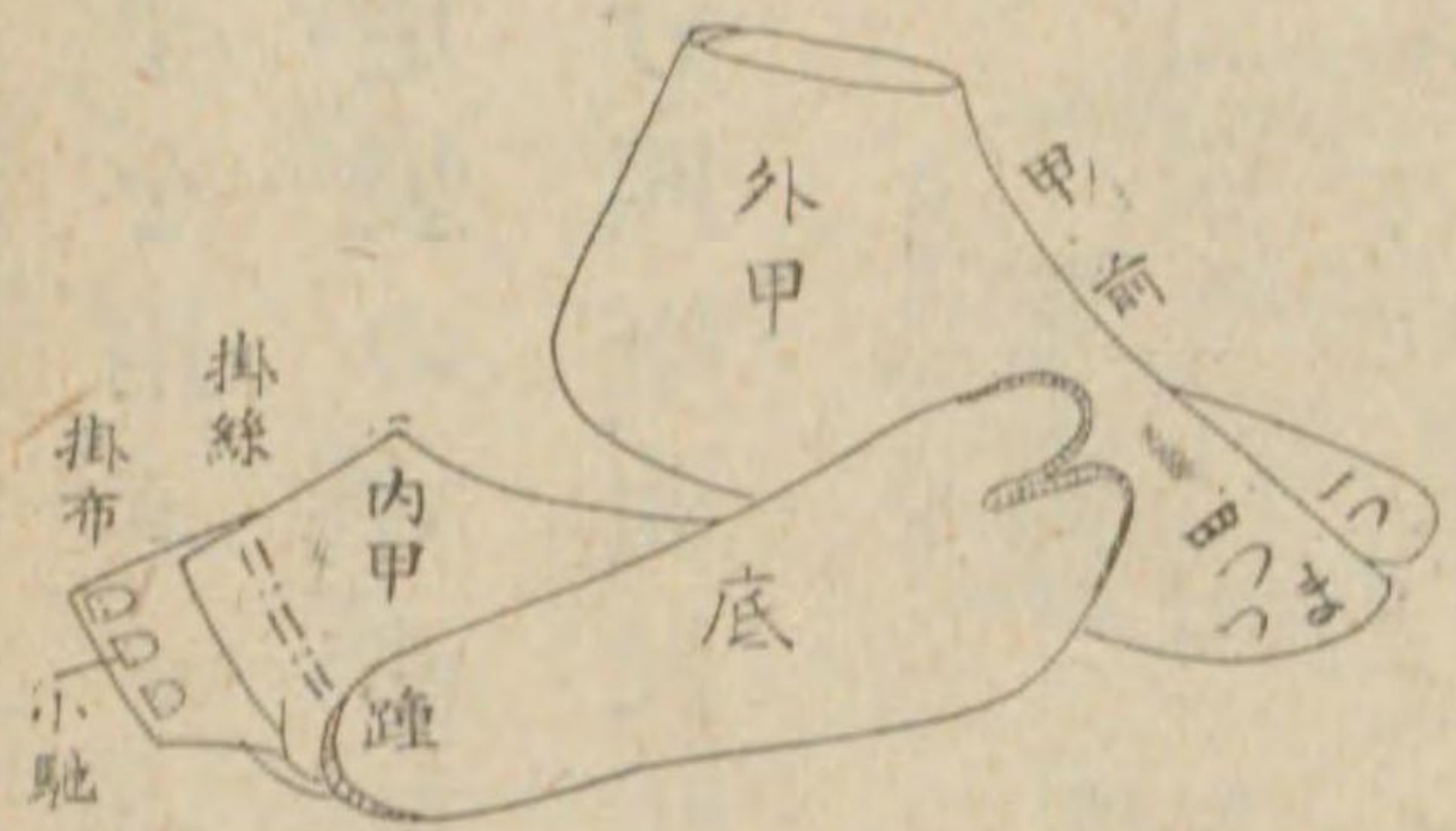
第十七章 足袋

第一 足袋の裁ち方

足袋の材料 表布には眞岡木綿・キヤラコ・絹布の類、裏布には晒木綿・綿ネルの類、底布には雲齋石底・小倉などを用ふ。

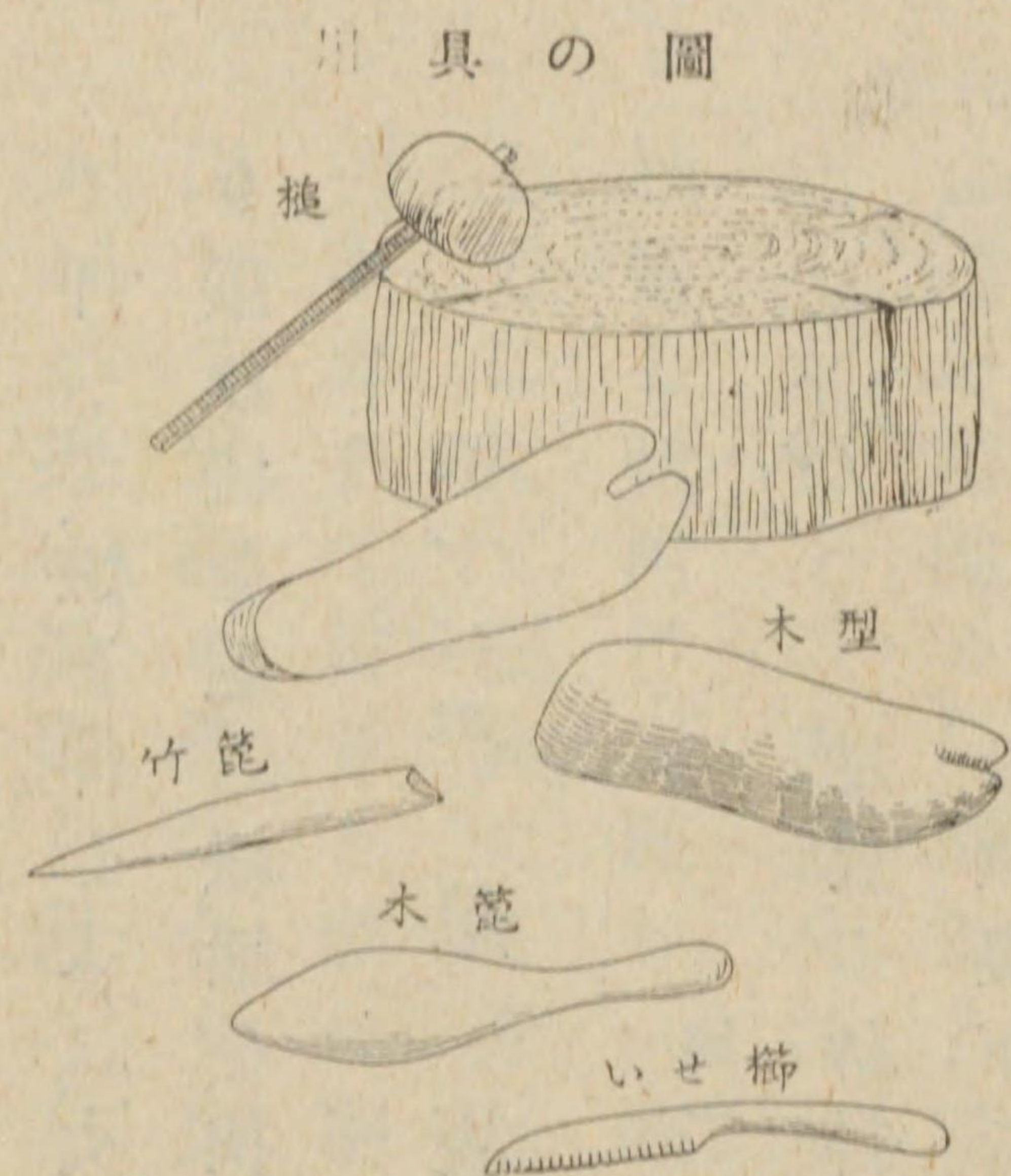
縫針にはメリケン六番掛絲、付けには同じく一番を使ひ、縫絲には中細の三子掛絲、掛けには晒の

足袋の圖



四子を用ふ。

足袋の寸法を計る尺度は所謂文尺にして、其の一文は鯨尺の六分四厘、曲尺の八分に相當す。



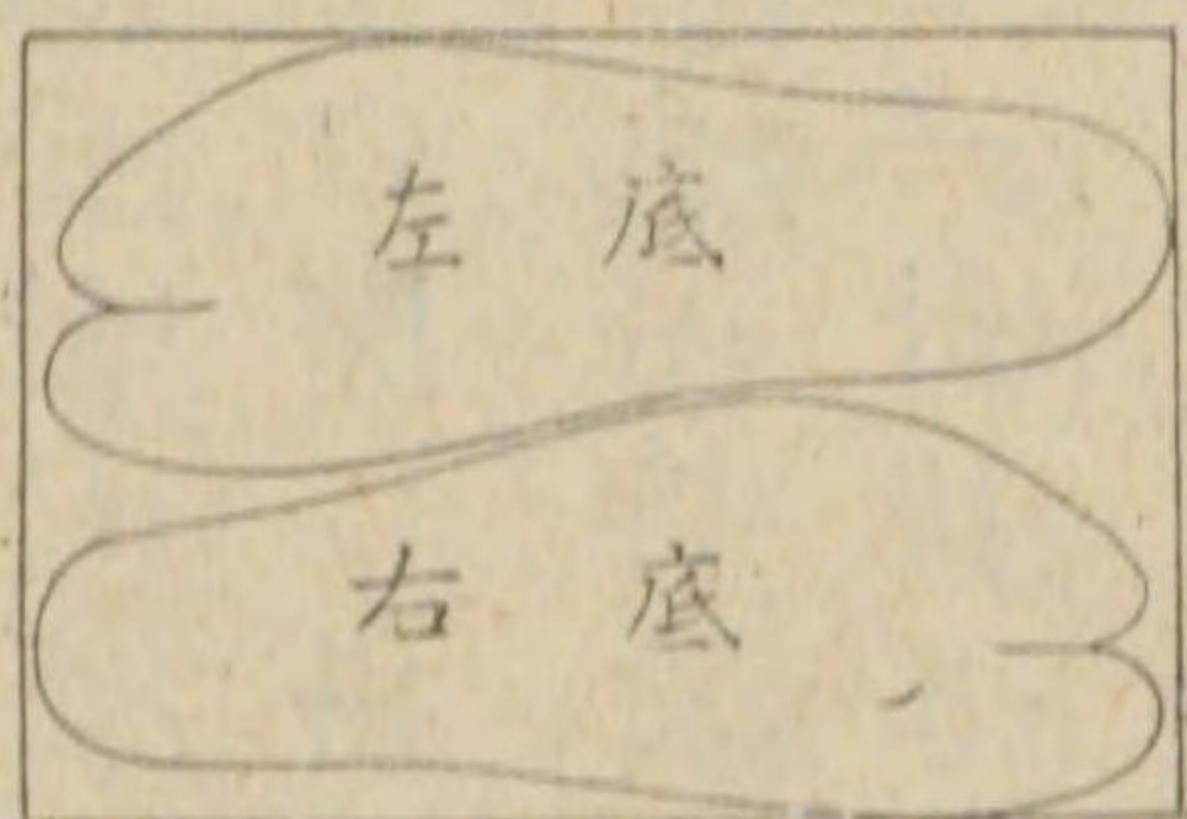
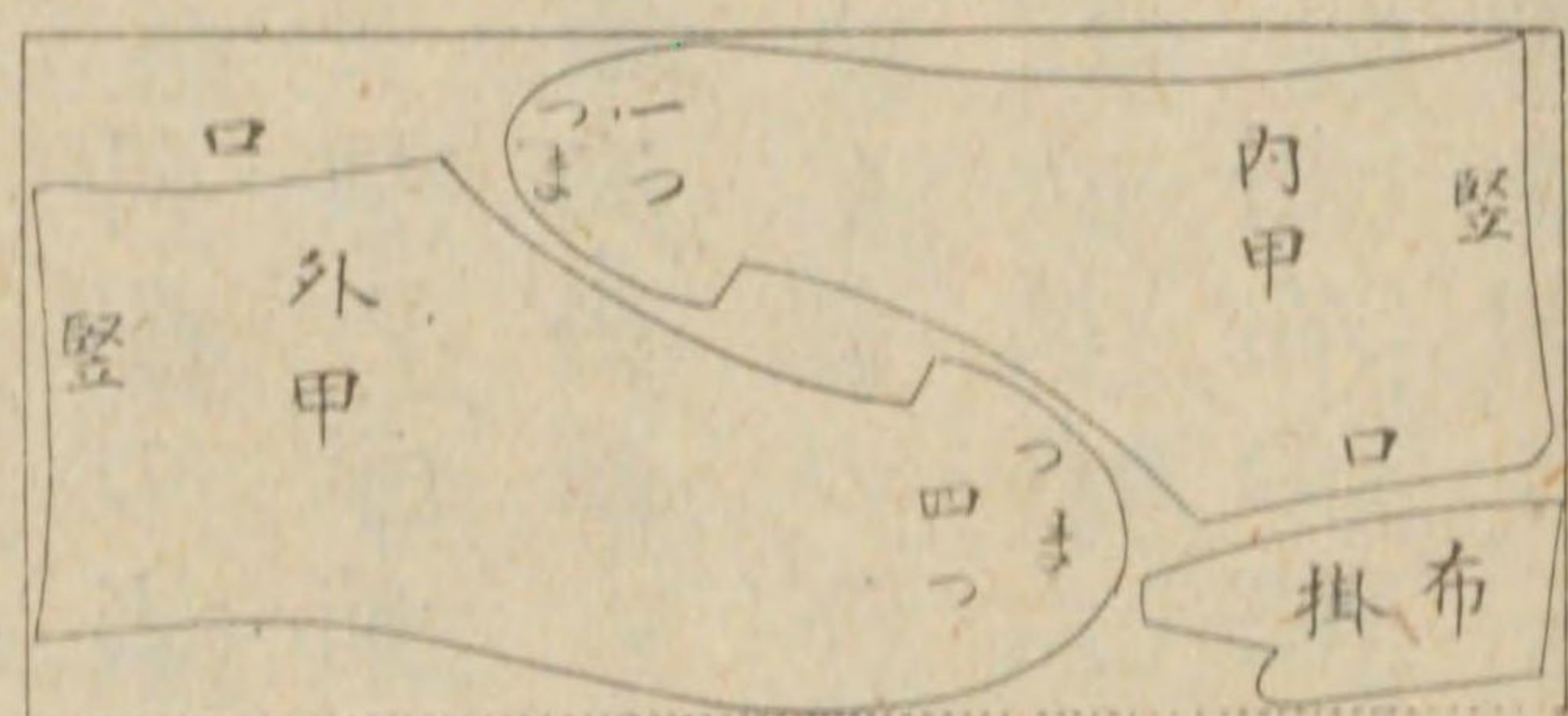
そ六分の増減を生ずるなり。

足袋の寸法割り出し方は甚だ複雑なれば、成るべく恰好よき

型紙を選び、之れに據りて、布を裁ち切るをよしとす。

其の裁ち方は、表布裏布ともに、表を中にして幅を二つに折り、之れを重ねて、圖の如く型紙を置き、底布にも亦圖の如く型紙を置き、て籠にて型を寫し、之れを裁ち切るなり。

型紙の置き方



第二 足袋縫ひ方順序

一、掛布 裏掛布の丈の短き方を二分程裏へ折り返し、表掛布を合せて、其の間に大人には三枚、子供には二枚の小馳を挟み、一

分の縫ひ代に返し針にて縫ひ付け、表掛布の丈の短き方を折りて、縫ひ込みに被ふせ、表裏の丈の長き方を揃へて、上下の幅を縫ひ、上幅は糸を稍締め加減になし置き、表に返し、折りを正す。

二、内甲・外甲・甲前　内甲の表裏を合せ、口より始めて、豎の方は下を八分許り残して縫ひ、裏の方へ折りて、表に返す。

外甲の表裏を合せて、口を縫ひ、裏の方へ折り、外甲にて内甲を挟み、甲前を極小針にて、一針抜きに四つ縫ひになす。

三、掛布・掛糸　外甲の豎に掛布を挟み、甲を稍弛み加減に、一針抜きに縫ひ、下方を九分許り縫ひ残り、其の所に縫ひ残したる内甲を挟み、六枚を一針抜きに縫ひ付け、引き返して折りを正す。

掛布の幅を内甲へ折り重ね、小馳の位置に倣ひて、内甲に掛糸を附く。

四、底付け　踵の真中と豎の縫ひ目とを合せて、甲と底とを重ね、踵の所は甲を少しく張り、爪先の邊は甲をいせ、其の他は平に、左足は脛の四つの方より、右足は脛の一つの方より始め、底を手前にして、一針抜きに縫ひ、三針目位に裁ち目をまとひ附く。

(爪先を除く。)

以上縫糸には、口縫ひの外、總べて二本の撚り合せを用ふ。

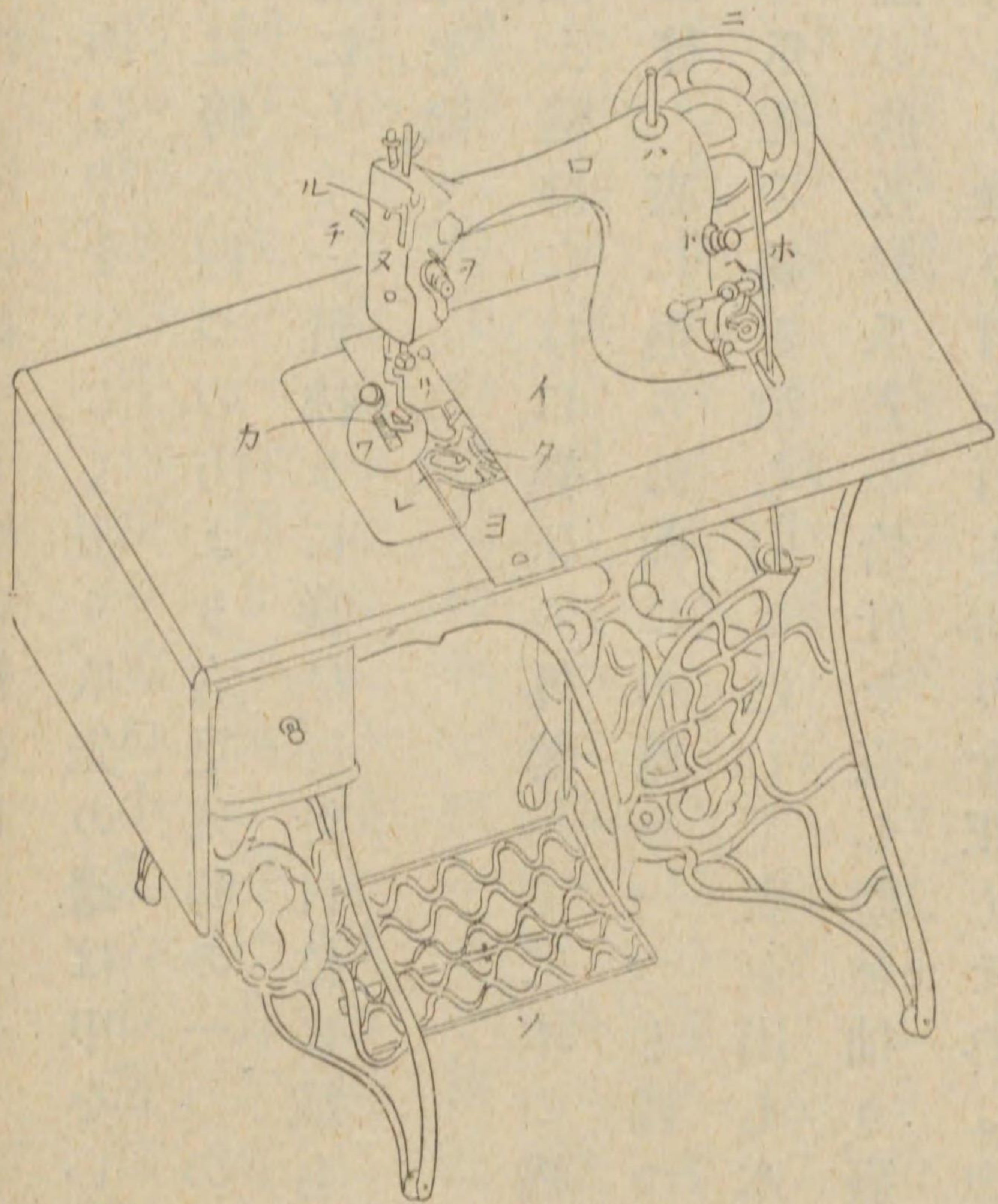
五、仕上げ　表に返さぬ前に、木篋を一つと四つとに入れ、いせ櫛にて爪先の皺を消し、引き返して表を出し、木型を入れ、竹篋にて趾の脛及び爪先の恰好を直し、型を抽き、臺に上せ、槌にて底の方より縫ひ目を打ち、折りを正し、それより、各内甲を底に折り重ね、帯封をなすなり。

(注意) 底の拵へ方は、生麩糊を稍濃く溶きて、底布の裏面に塗り、其の上に裏布を

貼り付け、乾きたる後ち、押しをかくるなり。

第十八章 ミシン使用法(シンガー丸舟踏ミシン)

ミシンの圖



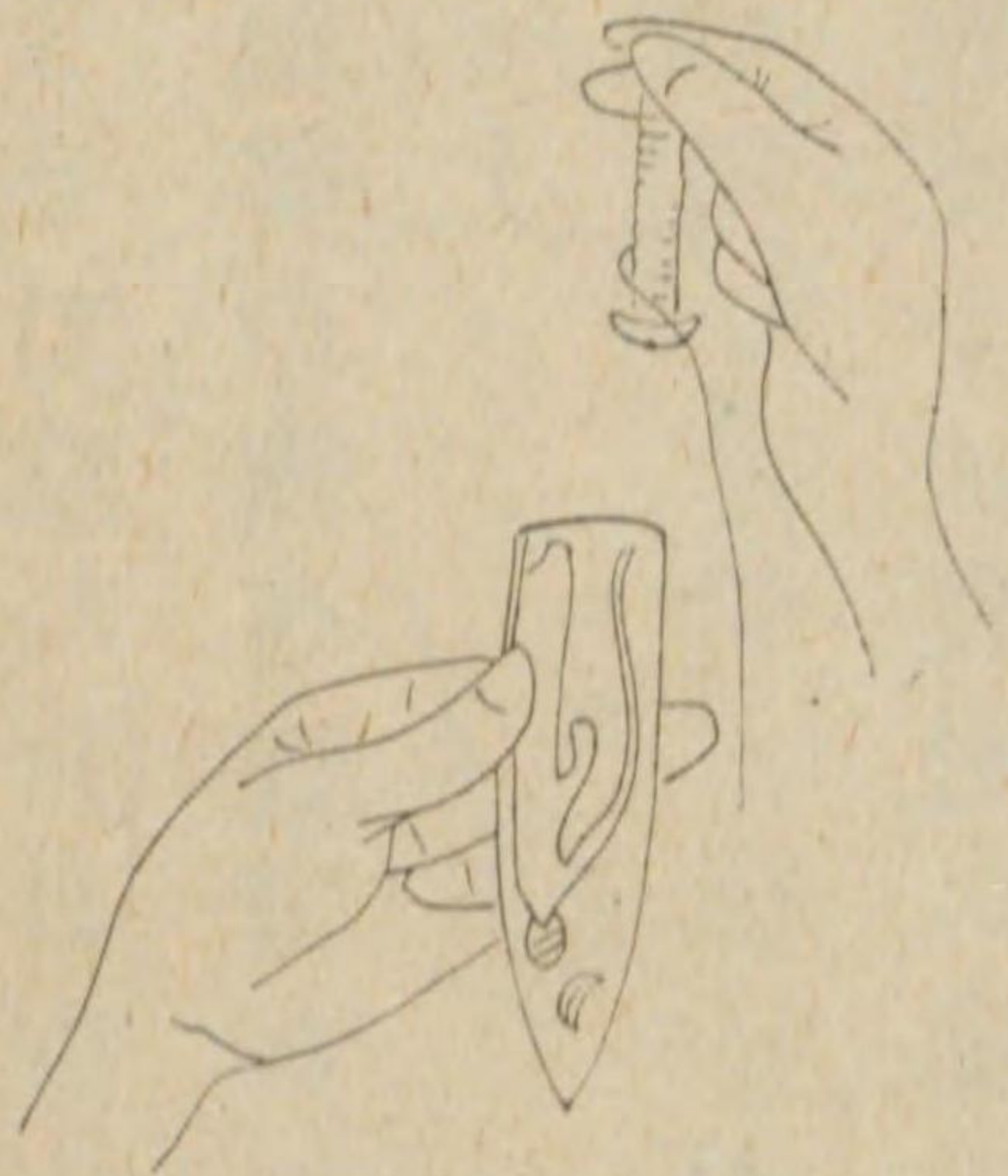
ソ	レ	タ	ヨ	カ	ワ	ヲ	ル	ヌ	リ	チ	ト	ヘ	ホ	ニ	ハ	ロ	イ
踏	梭	梭	滑	送	喉	上	天	面	針	押	針	糸	調	は	糸	腕	縫
板	運	板	り	り	の	の	秤	板	棒	へ	目	器	革	づ	立	床	床
	び		板	金	板	の			の	金	の			み			
						螺					螺			車			
						旋					旋						

一、足踏の練習 はづみ車の心棒の螺旋を手前へ廻して、縫床の運轉を止めおき、右手にて、はづみ車を手前へ廻し、向ふへ廻すべからず踏板的運動に連れて、足踏の調子を習ひ、はづみ車の逆轉せざる様練習すべし。

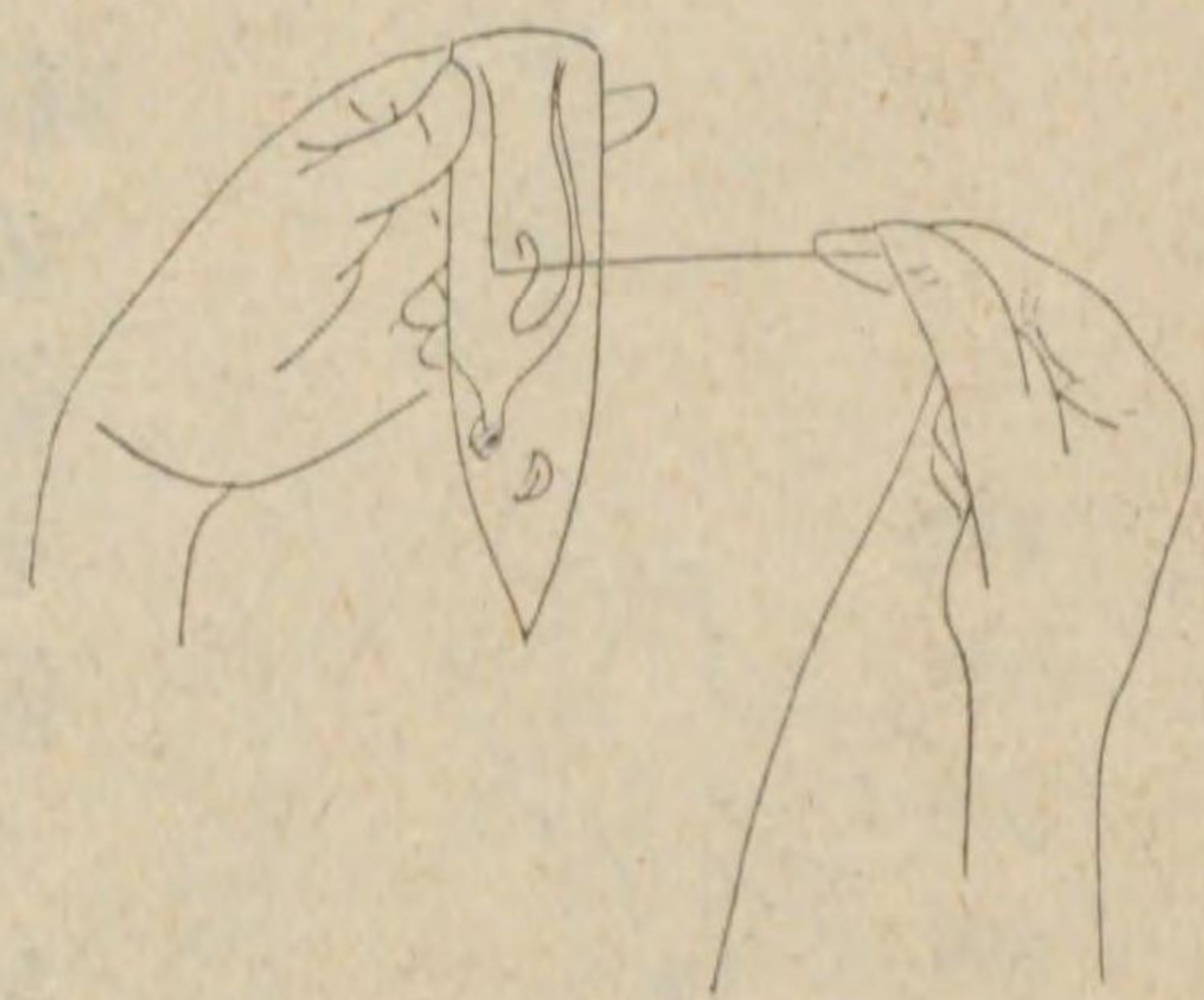
二、下絲の管に絲の捲き方 はづみ車の心棒の螺旋を緩めて、足踏練習のときの如く、縫ひ床の運轉を止め、絲捲器を起して、下絲の管を箝め、絲をかけて廻轉をなし、平に絲を捲き、捲き終らば、絲捲器を元の位置に直し置くべし。

三、梭(舟)に下絲の管の入れ方 左手にて舟の尖端を下方に、バネを手前にして持ち、右手にて管を縦に持ち、絲端を左方へ引けば、管絲は右方へ解くる様に

梭に下絲の管の入れ方(一)



梭に下絲の管の入れ方(二)



なし、之れを舟に挿入し、絲端を口元の溝より下方へ引き込み、再び掬ふ様にして、上方へ引き戻すべし。

四、梭運びに梭の入れ方 滑板を開き、舟の尖端を手前に向け、バネを上向きになして、梭運び(蟹足)に挿入すべし。

五、縫針の挿し方 はづみ車の心棒の螺旋を向ふへ廻して、固く緊め、縫床の運轉を附け、針棒を高く上げ、針止めの螺旋を弛め、針元の平面の方を右に、針溝の長き方を左に向け、充分に挿し込み、螺旋を緊むべし。

六、上絲の掛け方 絲卷立より絲端を取、面板の手前の上なる刻み目に掛け、下方の平圓板の間に、右方より挿み、下より廻して左方へ引き上げ、平圓板の鈎に引き掛け、上方天秤の孔に通し、其れより、面板下部の鈎、針棒の鈎に掛け、後ち、絲を左方より針孔に通すべし。

七、縫ひ方 左手にて、上絲の端を緩く取り、右手にてはづみ車を徐に廻すときは、針は下り、下絲をすくひて出づべし。此のとき、上下の絲を向ふへ引き出し、針を上方へ上げ置き、先づ、試し切れを取りて、送り金の上に据ゑ、針を下げ、押へ金を下して、運轉をなし、機械の調子を試み、然る後ち、縫ひ方に移るべし。縫ひ終らば、押へ金を上げ、布絲共に向ふへ引き出して、絲を切るべし。

八、縫絲の緩め方、緊め方 上絲と下絲と緊張の力能く調和するときは、縫ひ目は表裏とも美しく整ふものなり。概して上絲

より下糸の稍張り加減なるをよしとす。上糸の緩きときは、上糸の螺旋を右方へ廻し、張るときは左方へ廻すべし。又下糸の緩きときは、舟のバネの螺旋を、小さき螺旋廻しにて、右方へ廻し、張るときは、左方へ廻すべし。

九、器械の保存方 使用後には、必ず各部の塵を拂ひ、油布巾にて、器械の要部を拭ひ置くべし。滑板の下に當れる所、各部の孔、その他摩擦の個所には、時々油を注ぎ、數十回迅速に運轉し、油を全體に行き渡らしむべし。

〔注意〕 ミシンに使用する針、糸並に地質の釣合は大略左表に示せるが如し。

ミシン針	○	印	B	印	二分の一印	一番より五番まで
カタン糸	八十番より 百番まで	六十番より 七十番まで	四十番より 五十番まで	八番より 三十番まで	外に羽二重糸	外に木綿糸、麻糸

地質薄地類	セル・ネルの類	綿布・麻布の類	厚地類
-------	---------	---------	-----

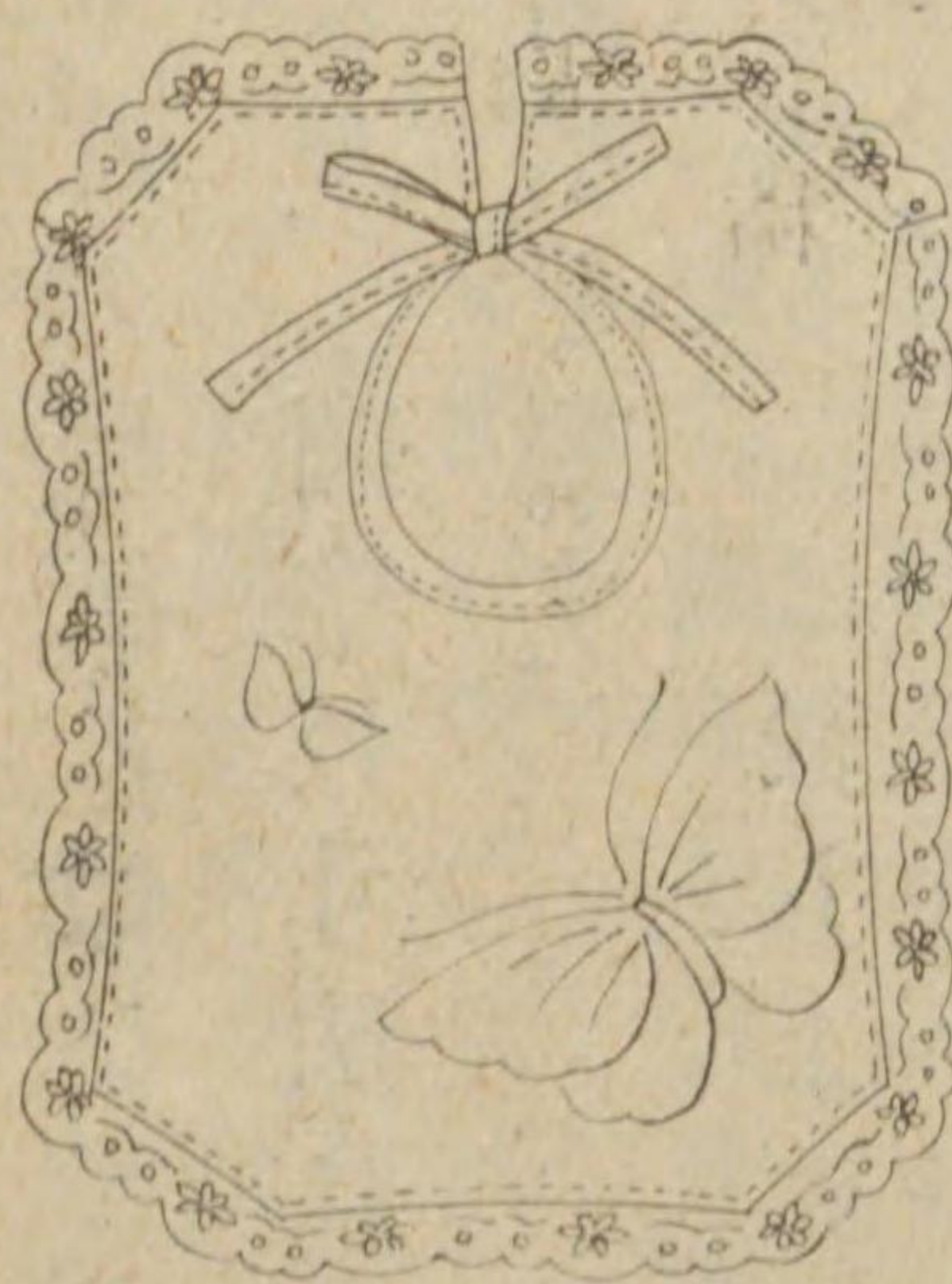
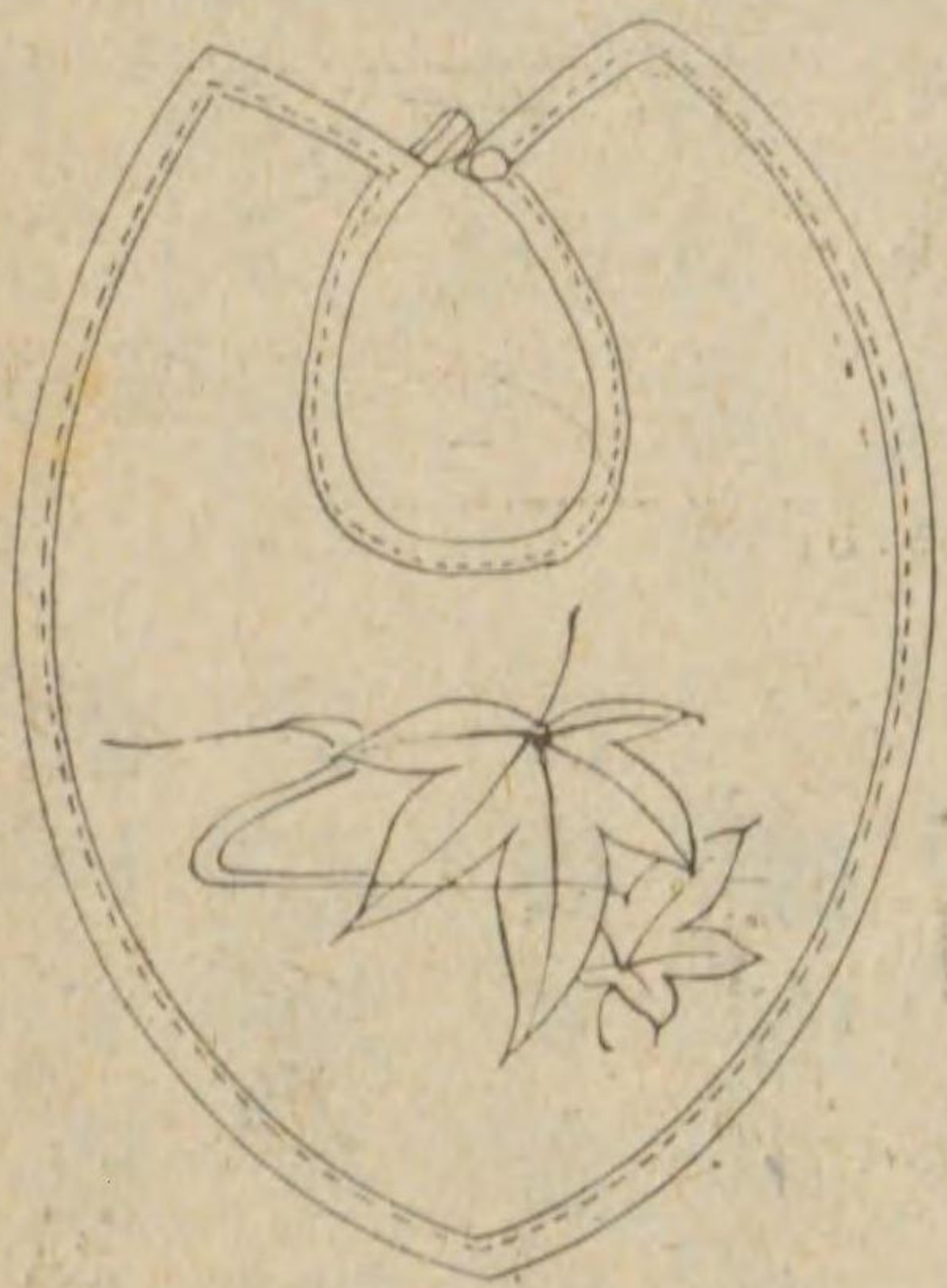
第十九章 涎掛

第一 涎掛裁ち方

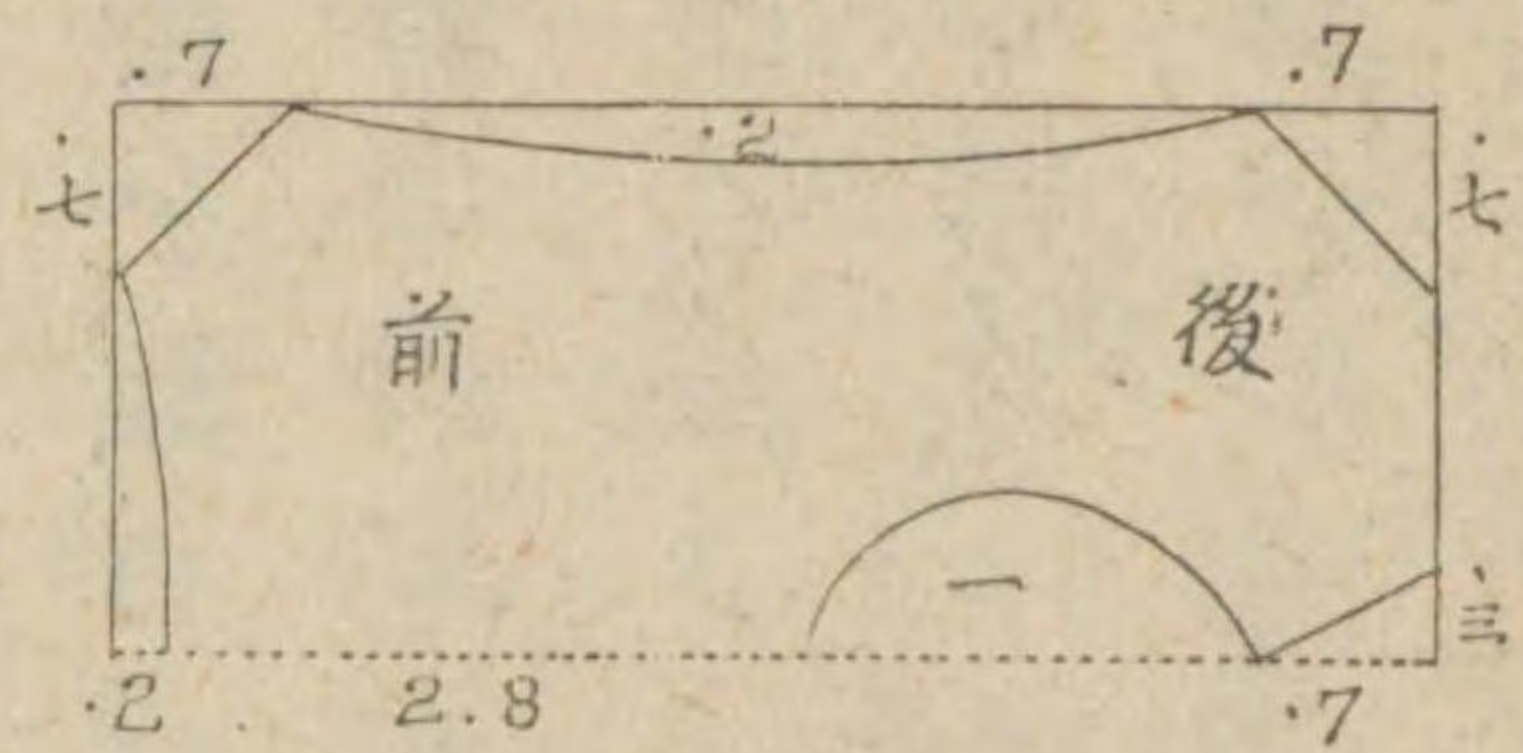
用布はキヤラコ・ネル・絹布の類とし、心地には綿ネル・紋羽の類、縁飾にはレース・繡取テップ又は布帛を用ふ。

涎掛を裁つには、先づ紙を用ひ、幅を二つに折り、圖の如く、標を

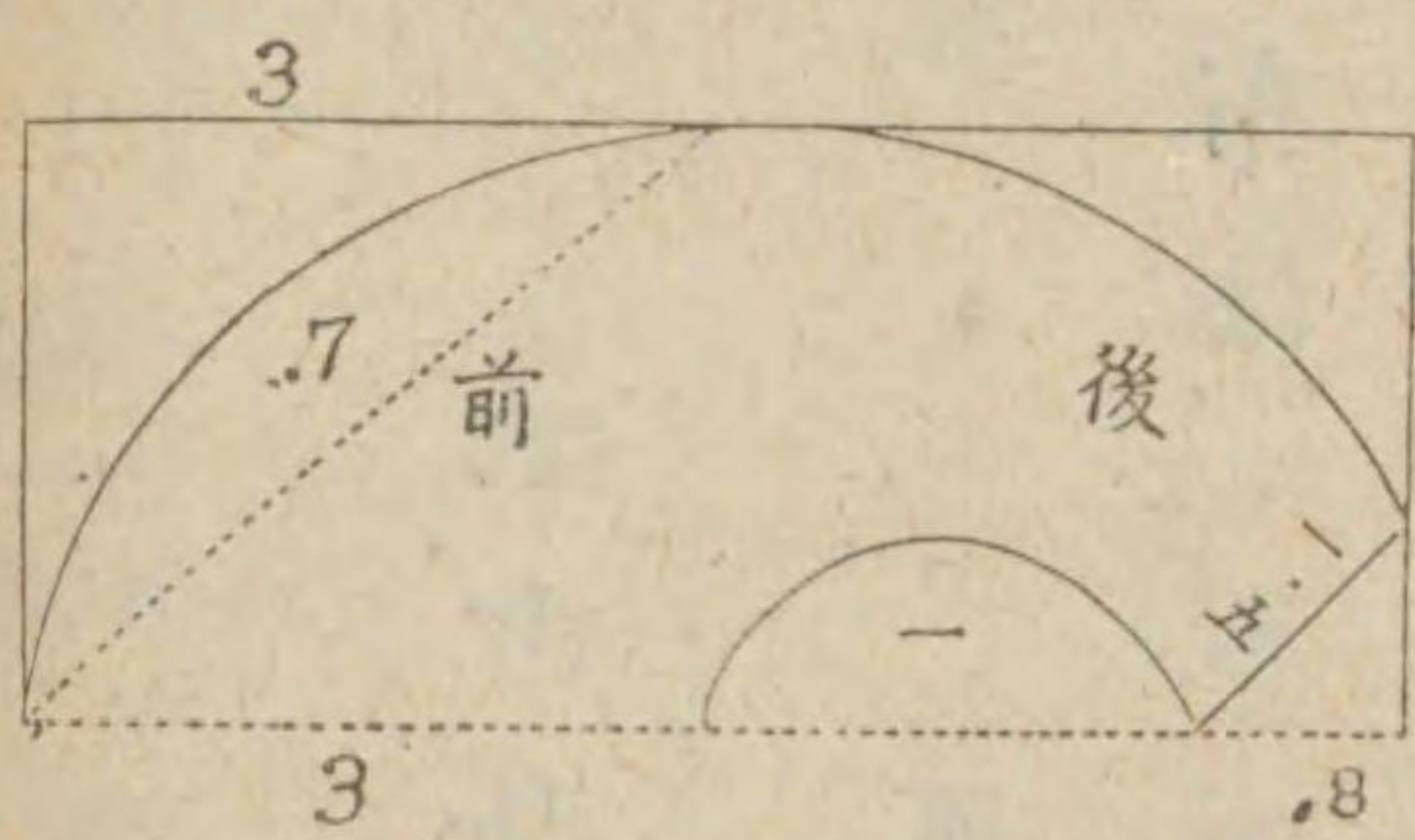
涎掛の圖



幅五寸五分丈六寸五分の布にて涎掛の裁ち方



幅四寸五分丈六寸の布にて涎掛の裁ち方



附けて裁ち切り、此の型紙に倣ひて、表裏の布及び心地を裁つなり。(圖中の寸法は、幼兒の體格に依り多少の斟酌を要す。)

縁飾の總尺を積るには、裁ち上げたる涎掛の外廻りを計り、之れを標準とし、縫ひ縮めになすには、其の一倍半、三重襷になすには、其の三倍を見込むべし。出來上りの幅は何れも六七分なり。

紐の丈は一尺七八寸、幅は三分位を通常とす。

第二 涎掛縫ひ方順序

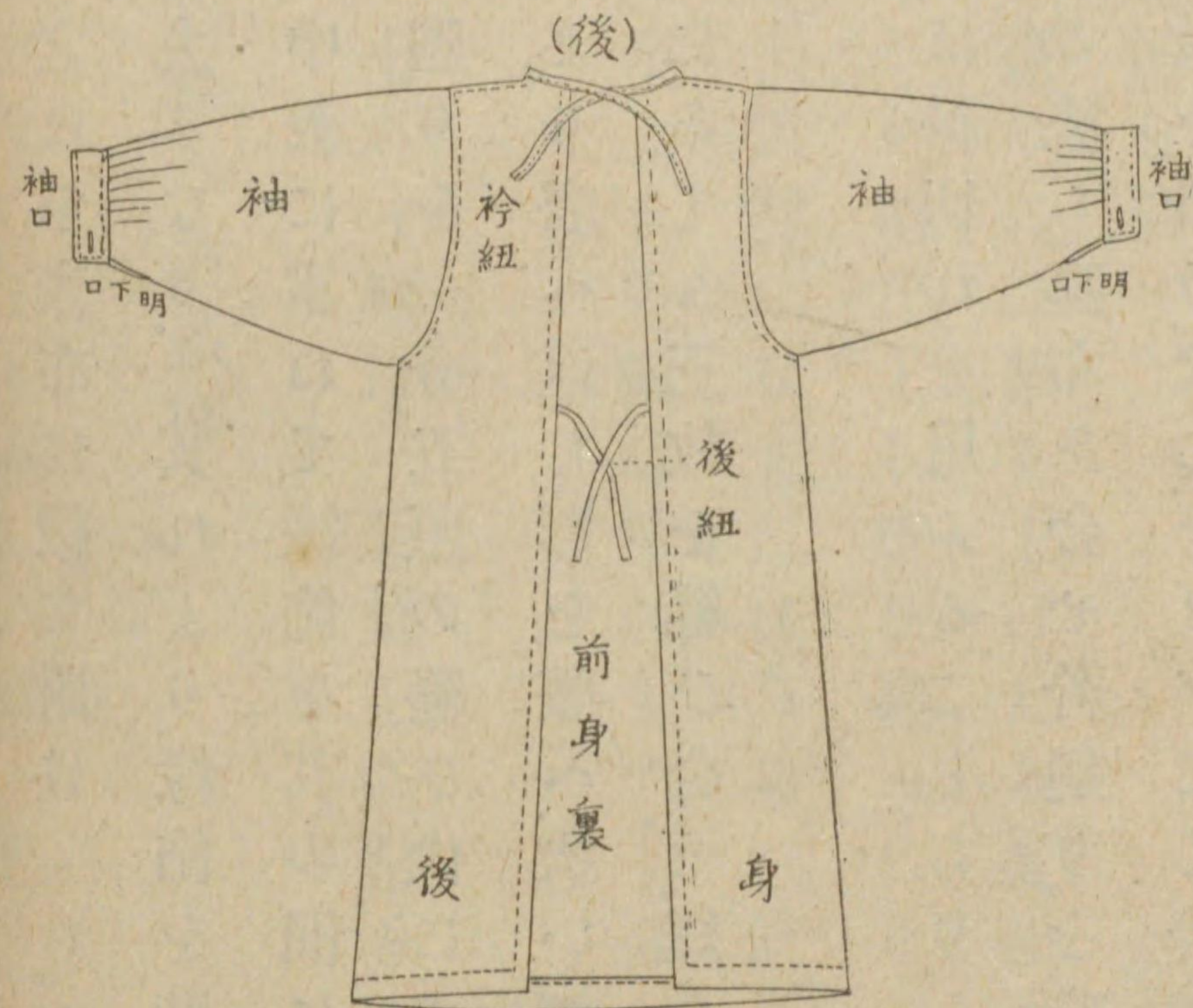
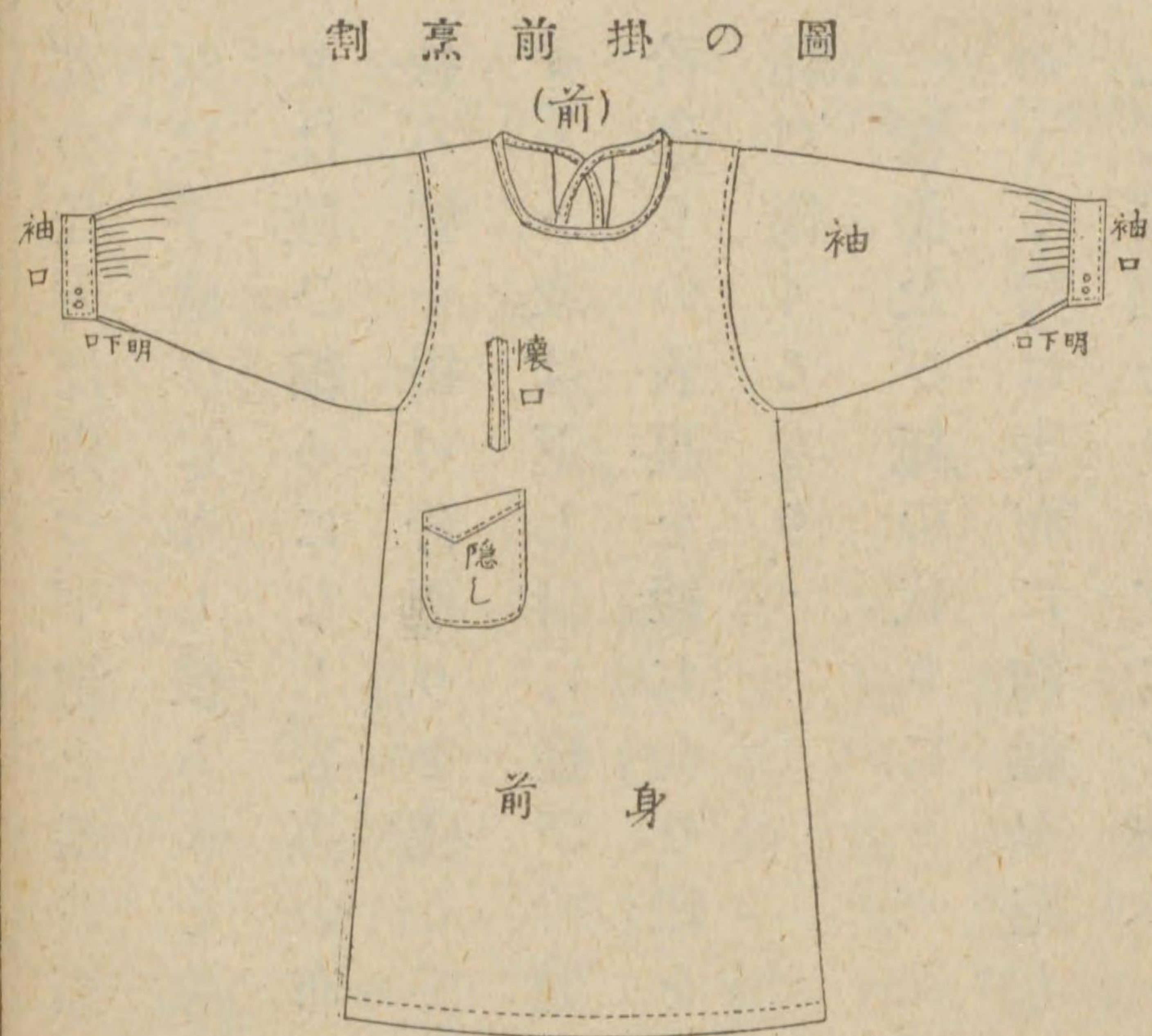
表布に心地を合せ、廻りを綴ち、かきぬひ飾縫を施す。

其の仕方は、先づ下繪を紙に描き、之れを表布に綴ち附け、ミシン又は手縫ひになし、後ち、紙を除き去るなり。其れより、縁飾を襷又は縫ひ縮めになし、表裏の布を中表に重ねて、縁飾を其の間に挟み、襷を掛け、衿廻りを残して、外廻りを一分五厘の縫ひ代にて、ミシン或は返し針に縫ひ、衿廻りより表へ返し、形を整へ、次いで衿廻りの表裏を綴ち合せ、紐を表にあて、三枚を縫ひ合せ、紐を締り附くるなり。

縁飾及び紐の代りに、テップ或は斜切れを用ふることあり。かゝる時は、表布に飾縫を施したる後ち、裏布を合せ、衿廻りを残して、周圍をテップにて挟み、ミシンを掛け、次に、テップにて衿廻りを挟みて、ミシンを掛くるなり。又衿廻りのみ、テップにて挟み、端を乳に作り、釦掛けになすことあり。

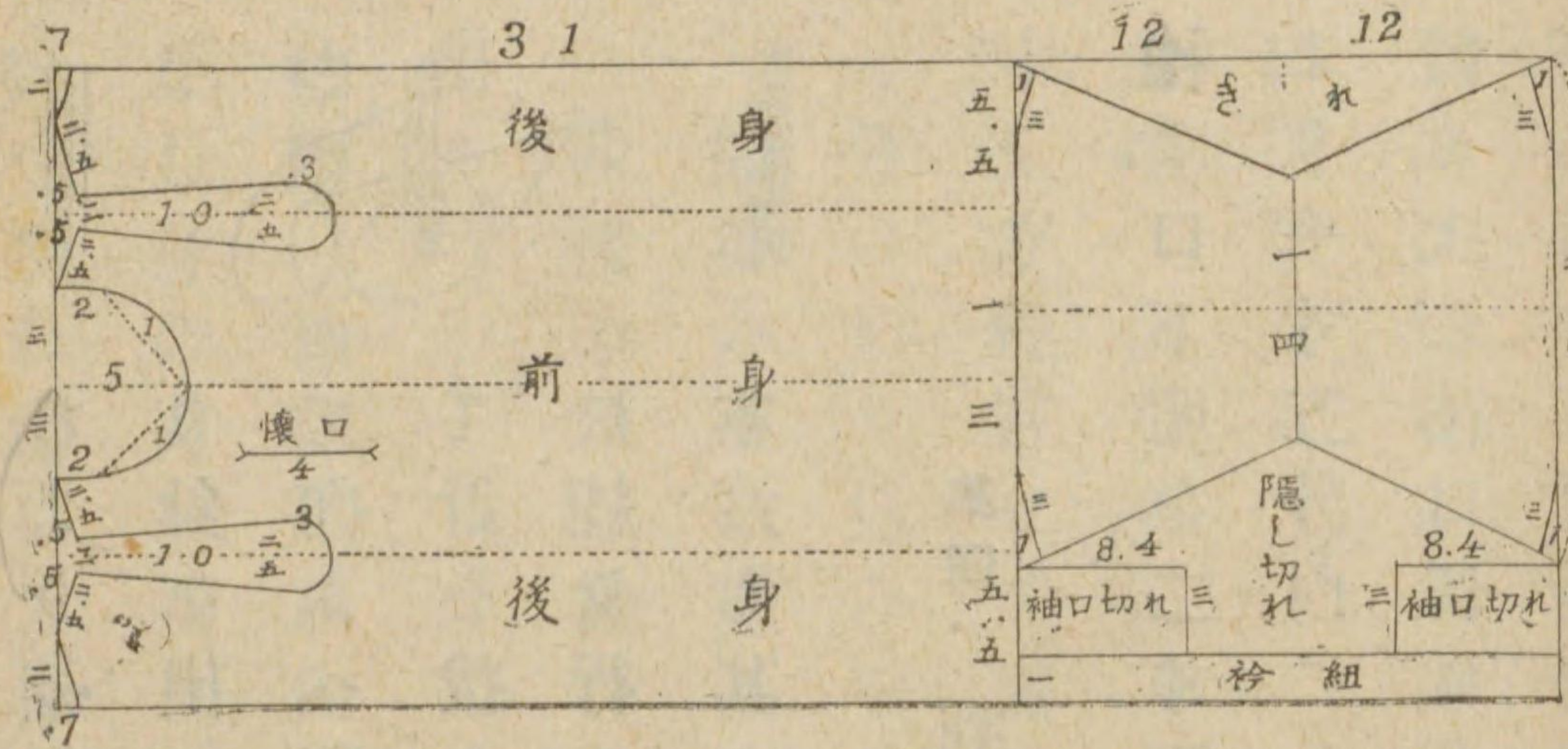
第二十章 割烹前掛

第一 割烹前掛各部の名稱



割烹前掛の圖

幅二尺四寸丈五尺五寸にて割烹前掛の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

身丈+袖丈×2=用布の總尺
 31 + 12 × 2 = 55

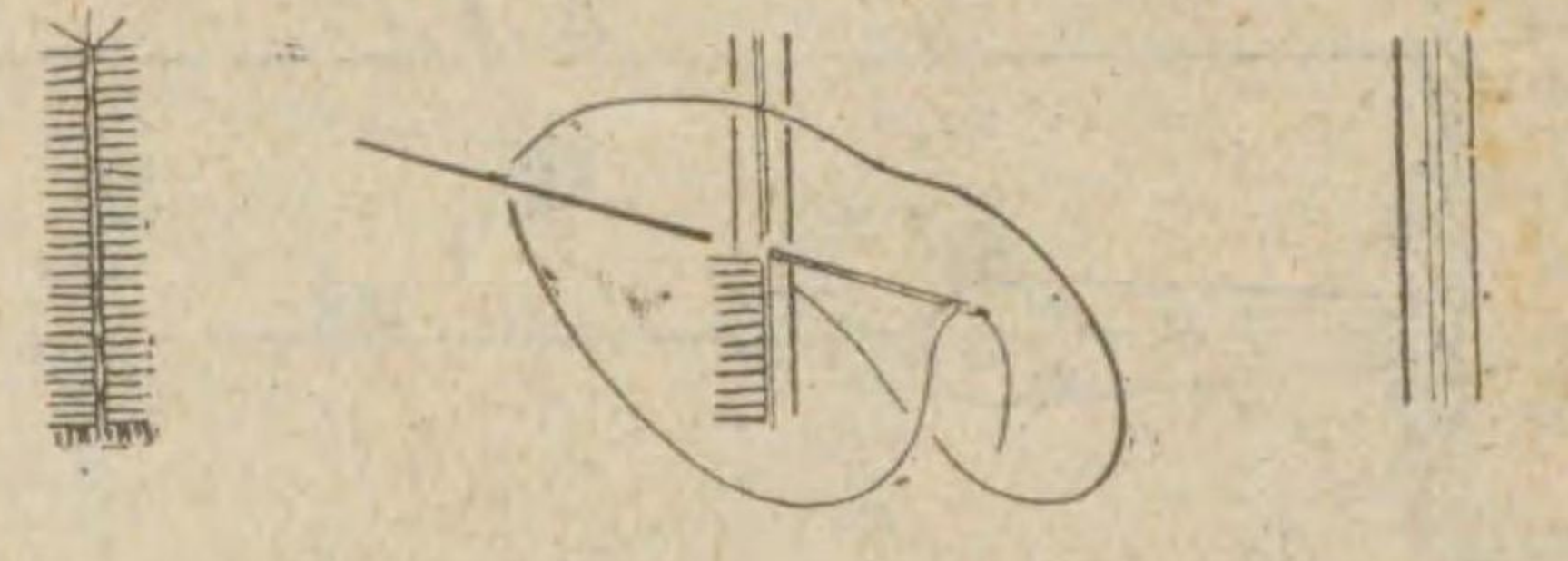
第二 割烹前掛裁ち方

積り方

第三 孔縫り

三寸四方許りの布を三枚重ね、
 其の廻りを綴ち、穿孔臺に紙を敷
 き、其の上に之れを載せ、鑿^{のみ}にて孔
 を穿つ。
 縫り糸には三十番のカタン糸
 を用ひ、先づ裏より針を出し、孔の
 兩側に心糸を渡し、其れより、手前
 の左側、孔の際に針を抜き出し、之

鈕孔の縫り方



れより縫り、始むるなり。縫り方は心絲の外へ、裏より針を出し、針孔に近き絲を取り、針の下をくぐらせて、向ふへ廻し、左の拇指にて針目の際を押へ、右手にて針を抜き、左右にて加減しつつ、絲を引き締め、順次に縫り行き、端の所は三針出し、終りには、横に絲を二本渡し、其の絲を縫りて、留め置くなり。

第四 割烹前掛縫ひ方順序

一、袖 口下明を二寸程、細く三つ折りにまつり置き、袖幅の兩端より一寸五分内に入りて、袖幅の弛みを、袖口寸法だけに縫ひ締め、次に、袖口切れと袖幅との真中を合せ、二分代に縫ひ、口の方へ折り、五厘程内に、表よりミシンを掛け、袖口切れの兩端を

中表に折り、之れを縫ひ、表へ返し、袖口裏をまつり付け、其れより、袖口切れの三方にミシンを掛け、袖下を袋縫になし、口下明に門留をなす。

二、身頃 前身の右方に於て、肩より七寸程下り、袖附より前へ二寸五分程寄せて、四寸の懐口を切り明け、其の上下の左右に、各一分の切り込みをなし、テツプにて口を包み、廻りにミシンを掛く。後身の端と裾とを三つ折りになして、ミシンを掛く。前後の肩を縫ひ合せ、後身の方へ折り伏せ、表よりミシンを掛く。

三、袖附 袖山と肩山とを合せ、袖の方を一分五厘出して、袖附をなし、身の方へ折り、縫ひ込みを折り伏せ、表よりミシンをかく。
四、衿 胸の邊にて、身の弛みを縫ひ締め置き、衿を紐の如く折り、

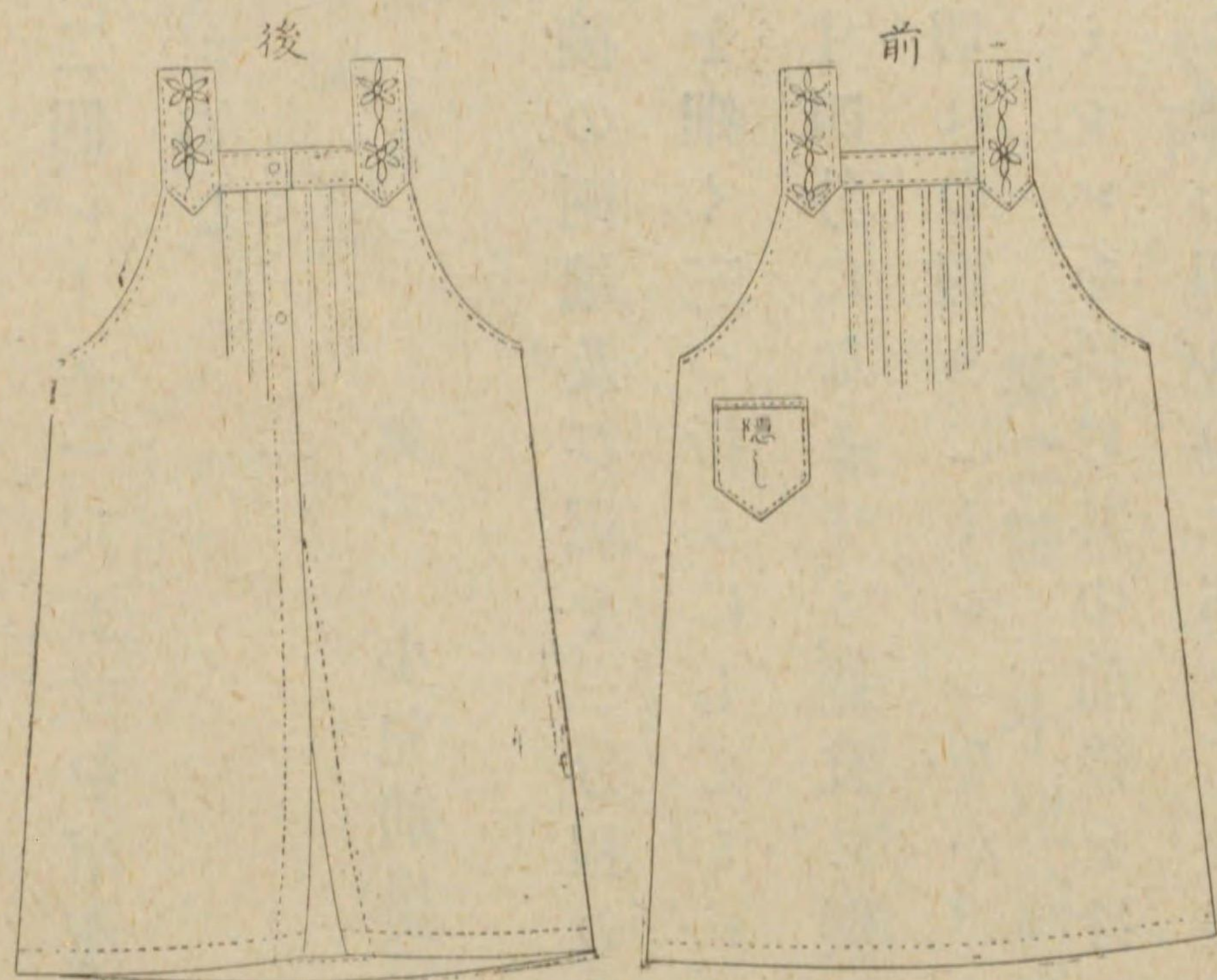
衿附を挟みてミシンを掛く。
 五、隠し 隠し切れを、程よき恰好に裁ち、口切れを付け、懐口の一寸程下、適宜の所に縫ひ附く。
 六、後紐釦孔門留 後身の衿より一尺一寸許り下りて、左右の端に、七寸五分許りのテツブを付け、次に、外袖口の幅の中央にて、端より三分程内に入り、横に孔を穿けて、紐を穿けて、内袖口の方に二個の紐を綴ち付け、其れより、隠し口・懐口に門留をなすなり。
 七、畳み方 仕上げ終らば、衿を左方に、後身を上にし、脊の通りへ、袖と共に兩脇を折り合せ、其れより、丈を折りて、前を上になし置く。

第二十一章 小兒前掛

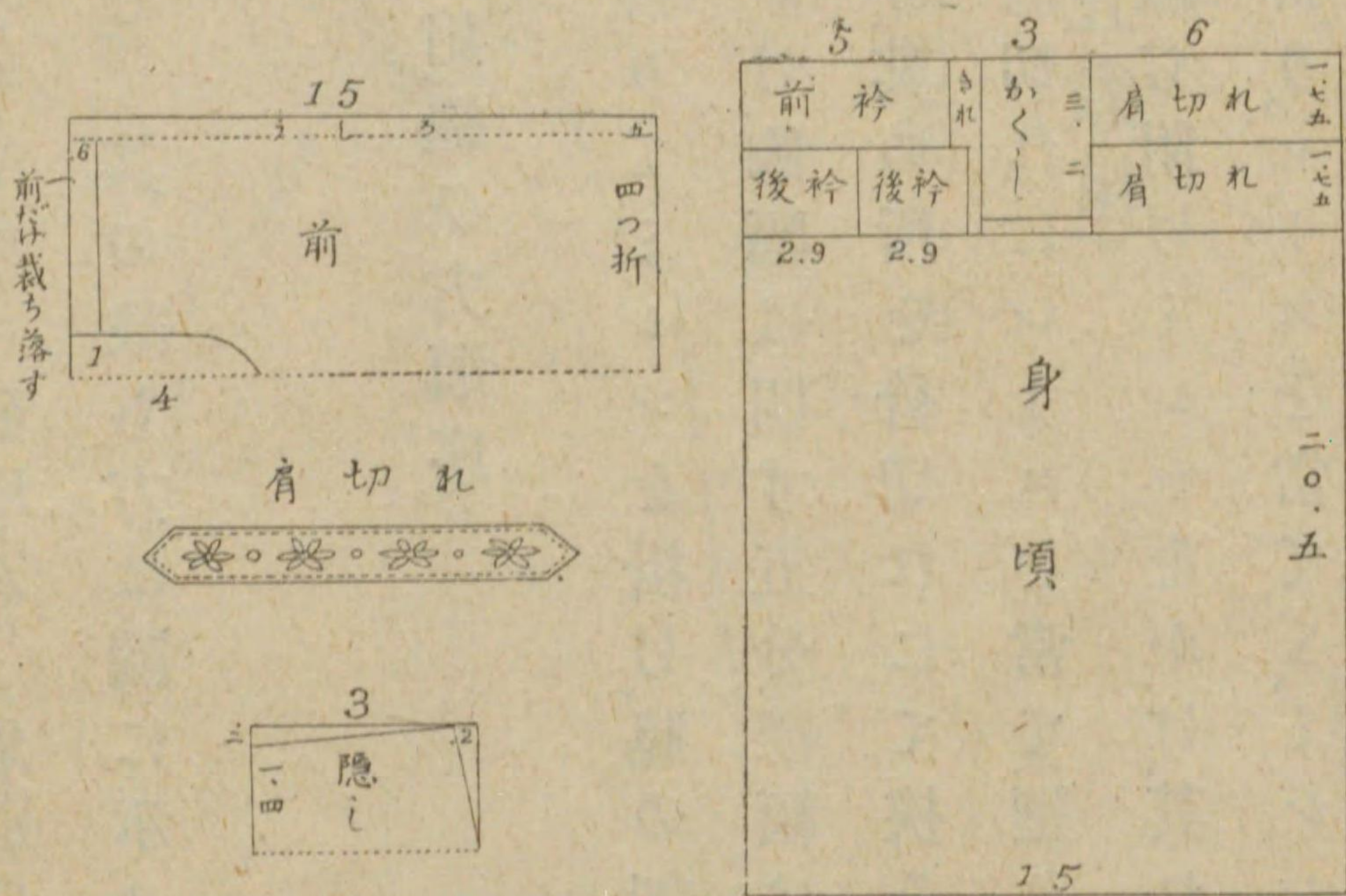
第一節 小兒前掛(二・三歳用)

第一 小兒前掛(二・三歳用)裁ち方

小兒前掛(二・三歳用の圖)



幅二尺四寸丈一尺五寸の布にて
小兒前掛(二・三歳用)の裁ち方並に裁ち切り寸法



用布は幅二尺四寸長さ一尺五寸のキヤラコを用ふ。又別に
釦二個、レース一尺五寸を用意すべし。其の裁ち方は圖に示せ
るが如し。

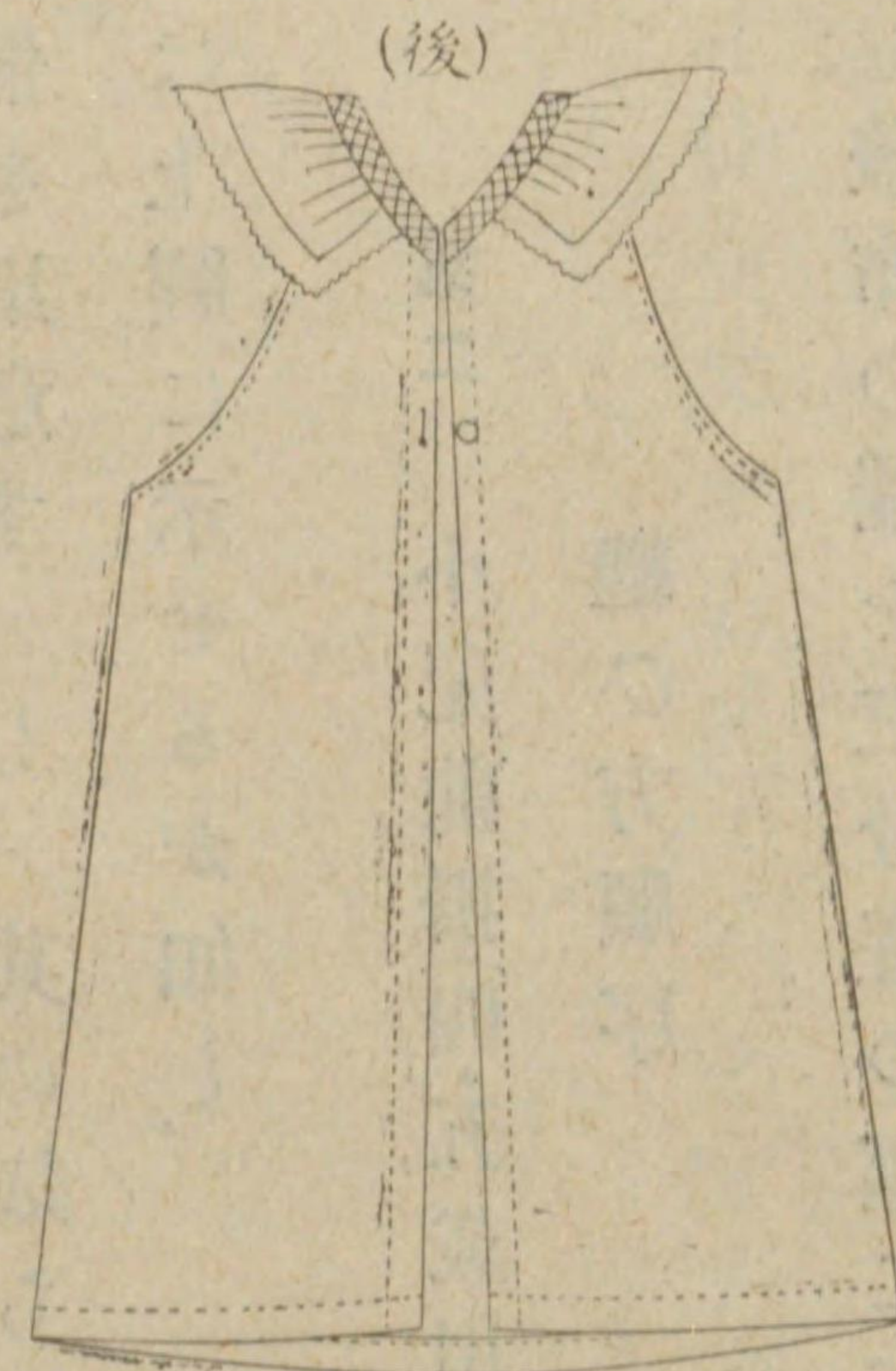
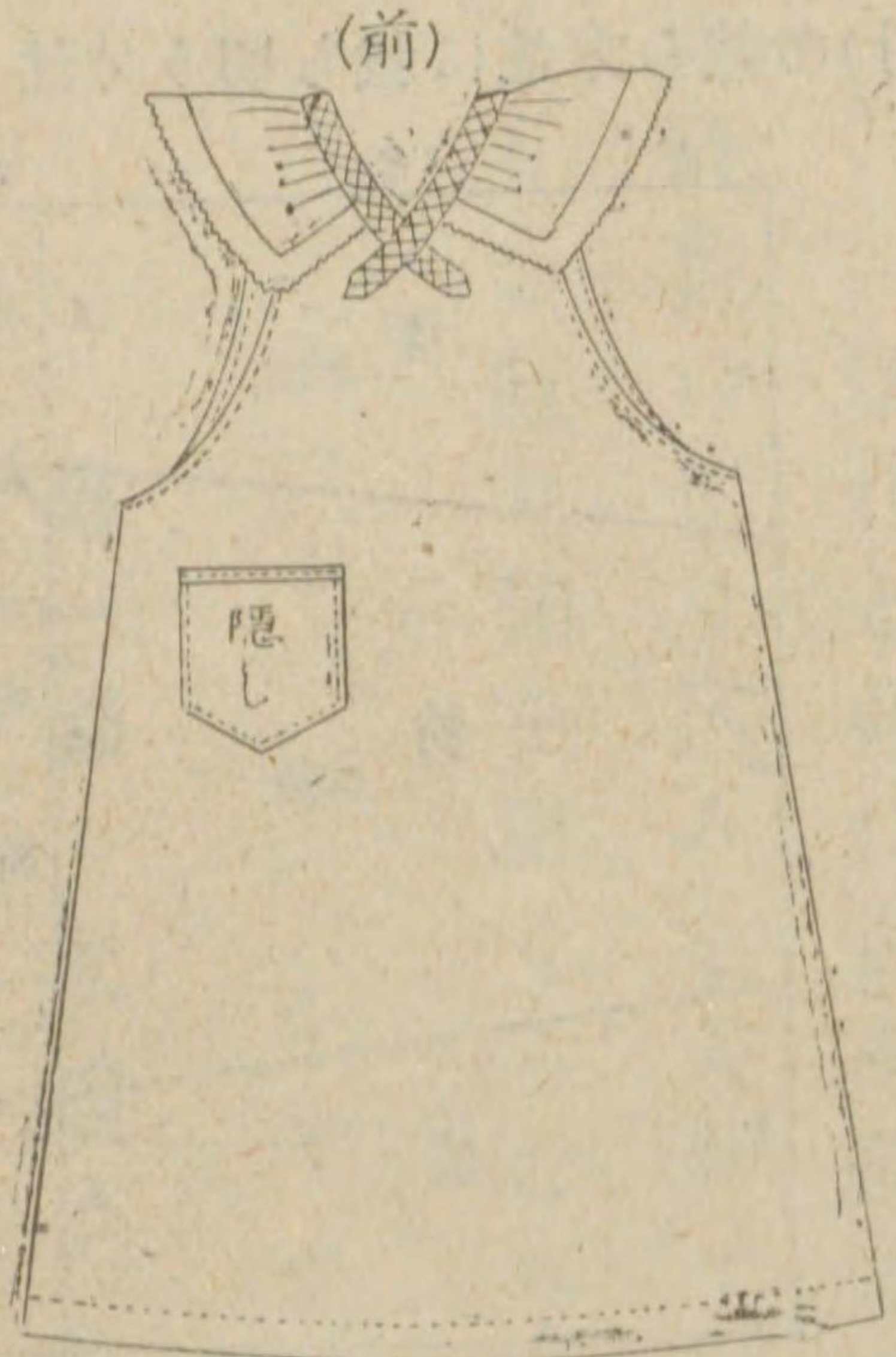
第二 小兒前掛(二・三歳用)縫ひ方順序

後の兩端及び裾を、三分程の幅に折りて、ミシンを掛け、脇の割
りを細く三つ折りにして、ミシンを掛け、胸幅は四寸五分、後幅は
二寸四分になるやう、適宜に襞を取り、其の所を衿切れにて挟み、
衿切れの廻りにミシンを掛け、次に、肩切れにレースを當て、廻り
にミシンを掛け、其の前後を身頃に綴ち附け、ミシンを掛け、其れ
より、隠し切れの上部を二分程表へ折り、レースを當て、ミシン
を掛け、三方を二分程に折りて、右脇下凡そ一寸五分の所に當て、
ミシンを掛け、終りて、後の一端に、二個の孔を穿けて、紐、他端に
釦を附くるなり。

第二節 小兒前掛(四・五歳用)

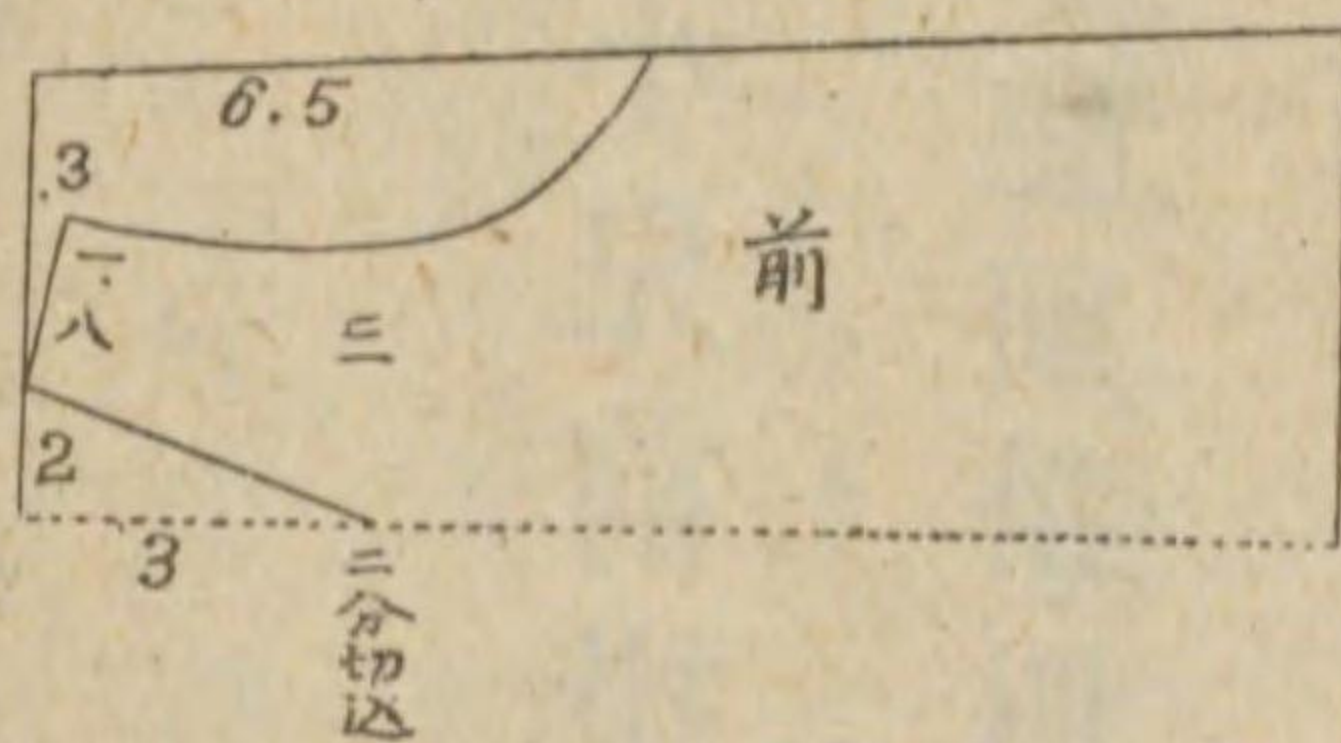
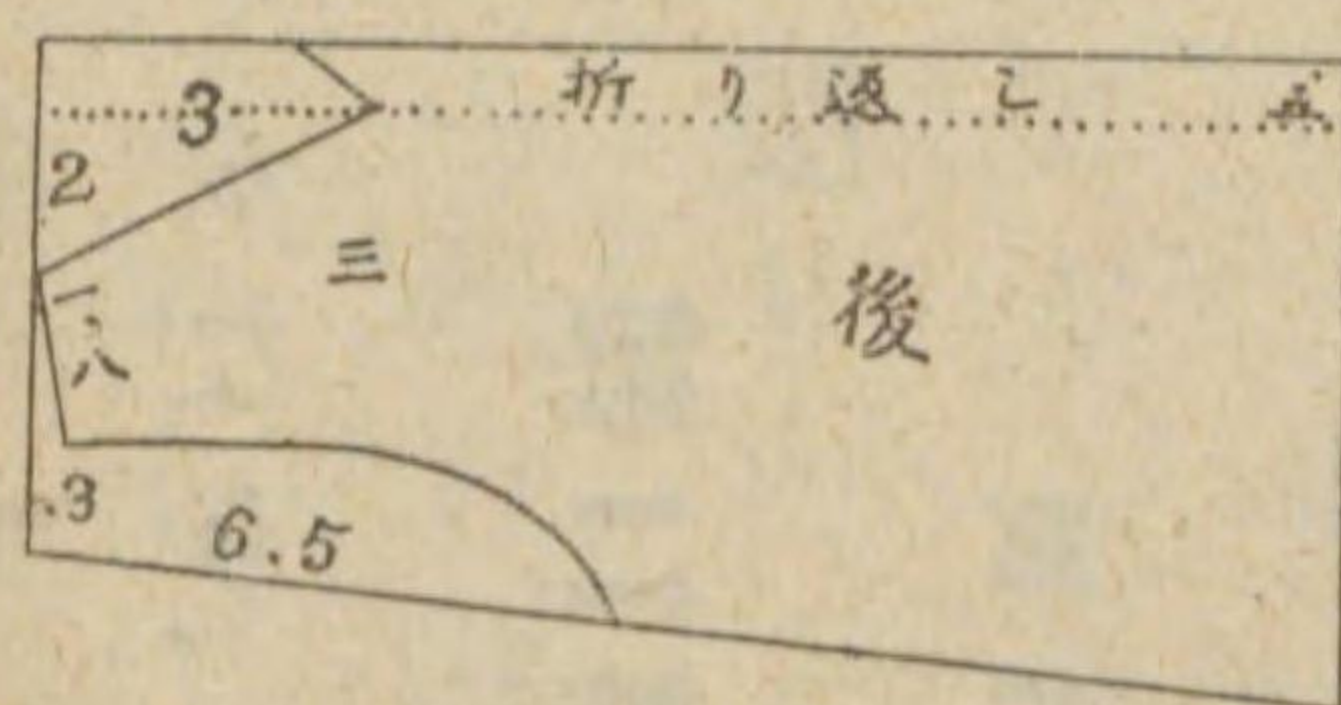
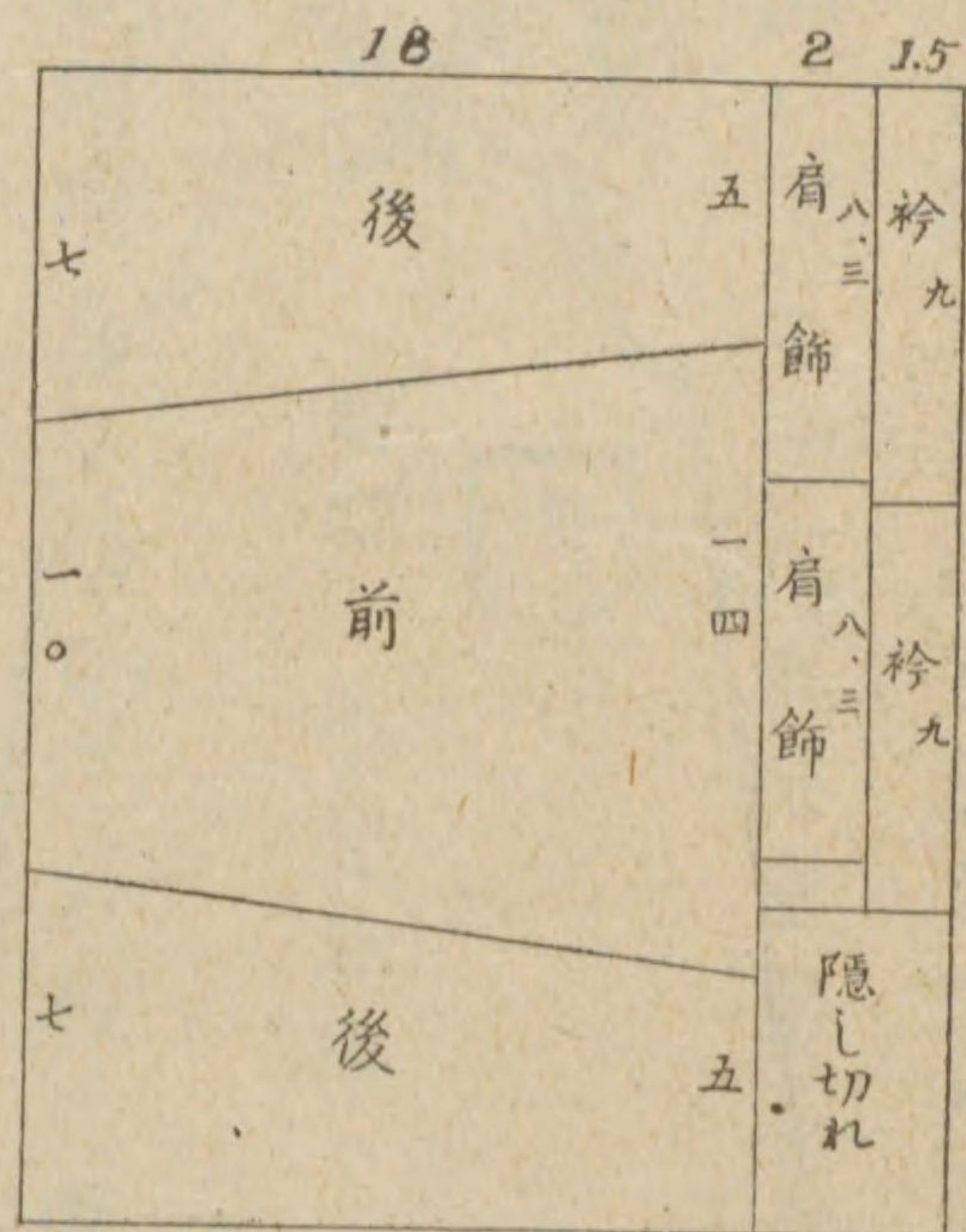
第一 小兒前掛(四・五歳用)裁ち方

小兒前掛(四・五歳用)の圖



用布は幅二尺四寸丈二尺一寸五分のキヤラコを用ひ、外にレ

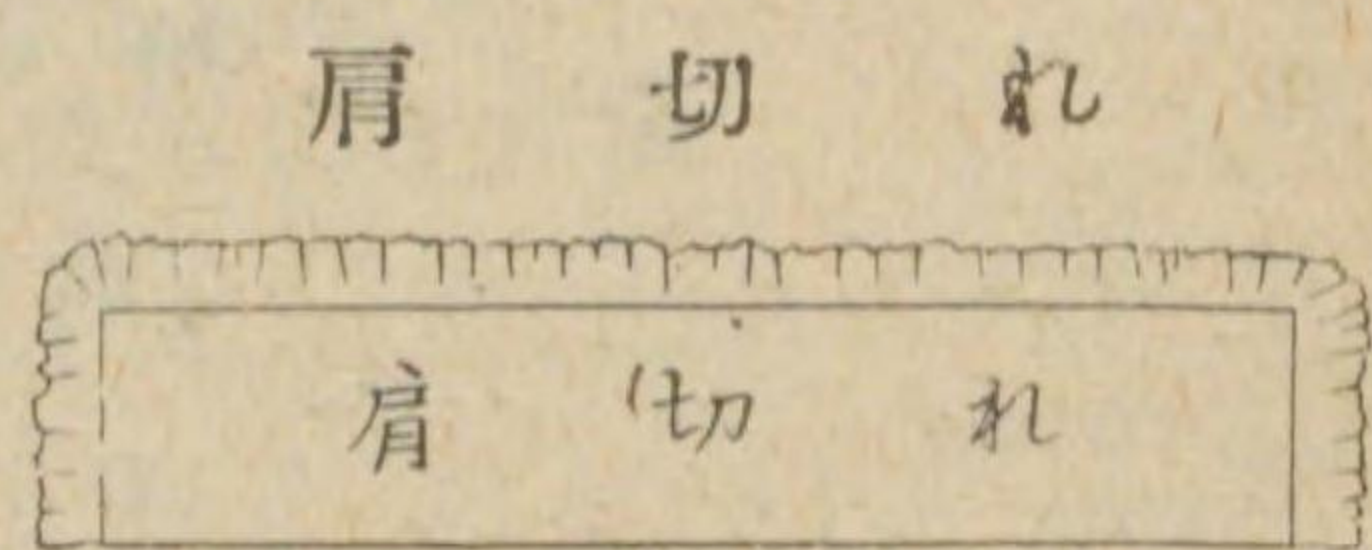
幅二尺四寸丈二尺一寸五分の布にて
小兒前掛(四・五歳用)の裁ち方並に裁ち切り寸法



1 ス三尺、繡取テツブ二尺、釦二個を用意すべし。其の裁ち方は上圖に示せるが如し。

第二 小兒前掛(四・五歳用)縫ひ方順序

後布の端を三分程の幅に折りて、ミシンをかけ、前後の肩を合せ、後の方へ折り、表より飾ミシンをかけ、脇を細く三つ折りになして、ミシンをかけ、脇下を袋縫になし、後の方へ折り、其れ



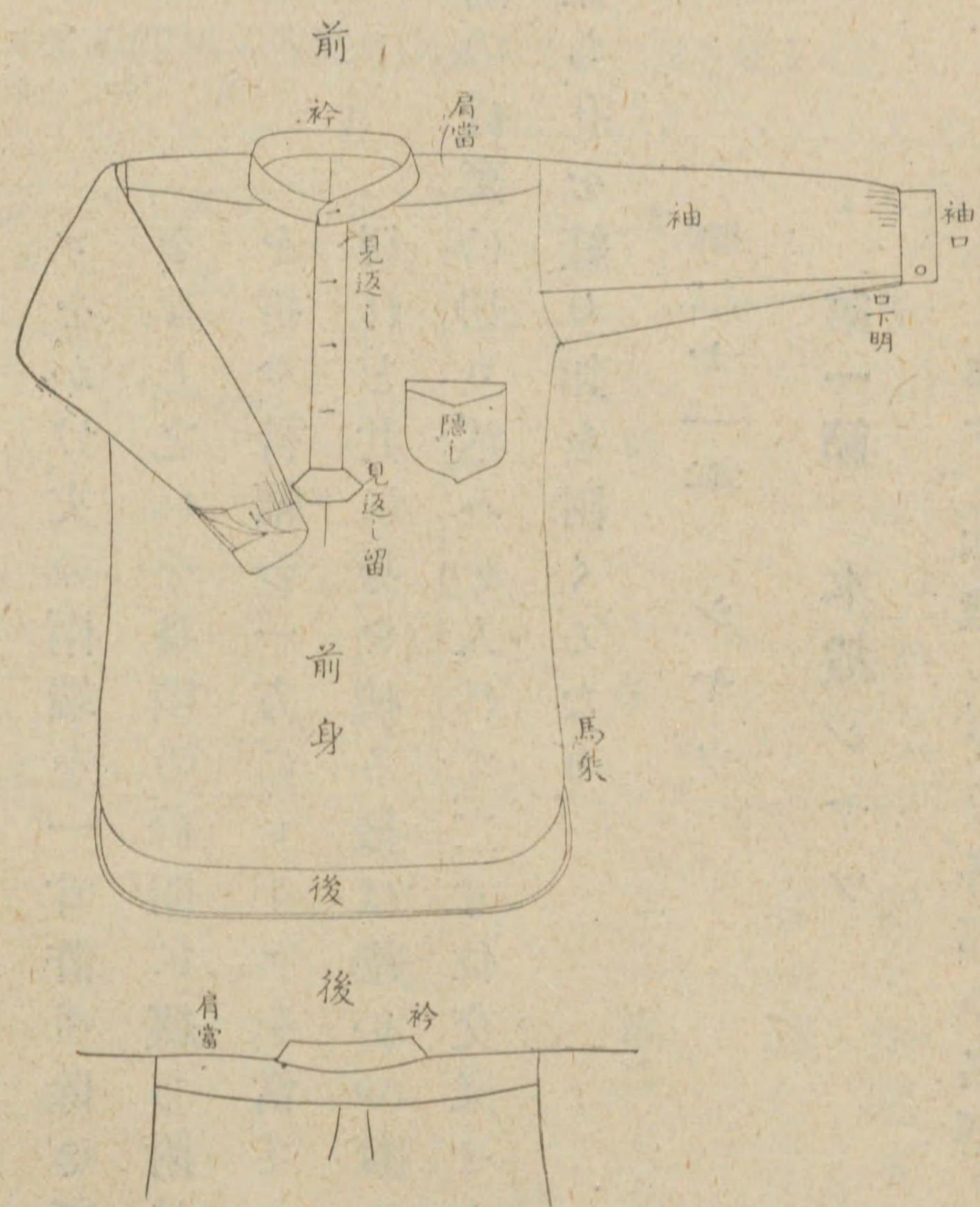
より裾を折りてミシンをかけ、隠しを附く。肩切れの三方を、一分裏へ折り、レースを當て、ミシンをかけ、丈の兩端を一寸許り除きて、適宜に縫ひ締めをなし、之れを身頃の衿明に綴ち附け、次に、肩切れの幅を折り、衿幅の一方にレースを當て、ミシンをかけ、肩切れと共に身を挟み、後は端いつばい、前は圖の如く、上前の衿裏に切り込みを入れて、二寸位交叉せしめ、ミシンをかけ、後ち、孔を縫り、釦を附くるなり。

第二十二章 シヤツ

第一節 本裁シヤツ

第一 本裁シヤツ各部の名稱

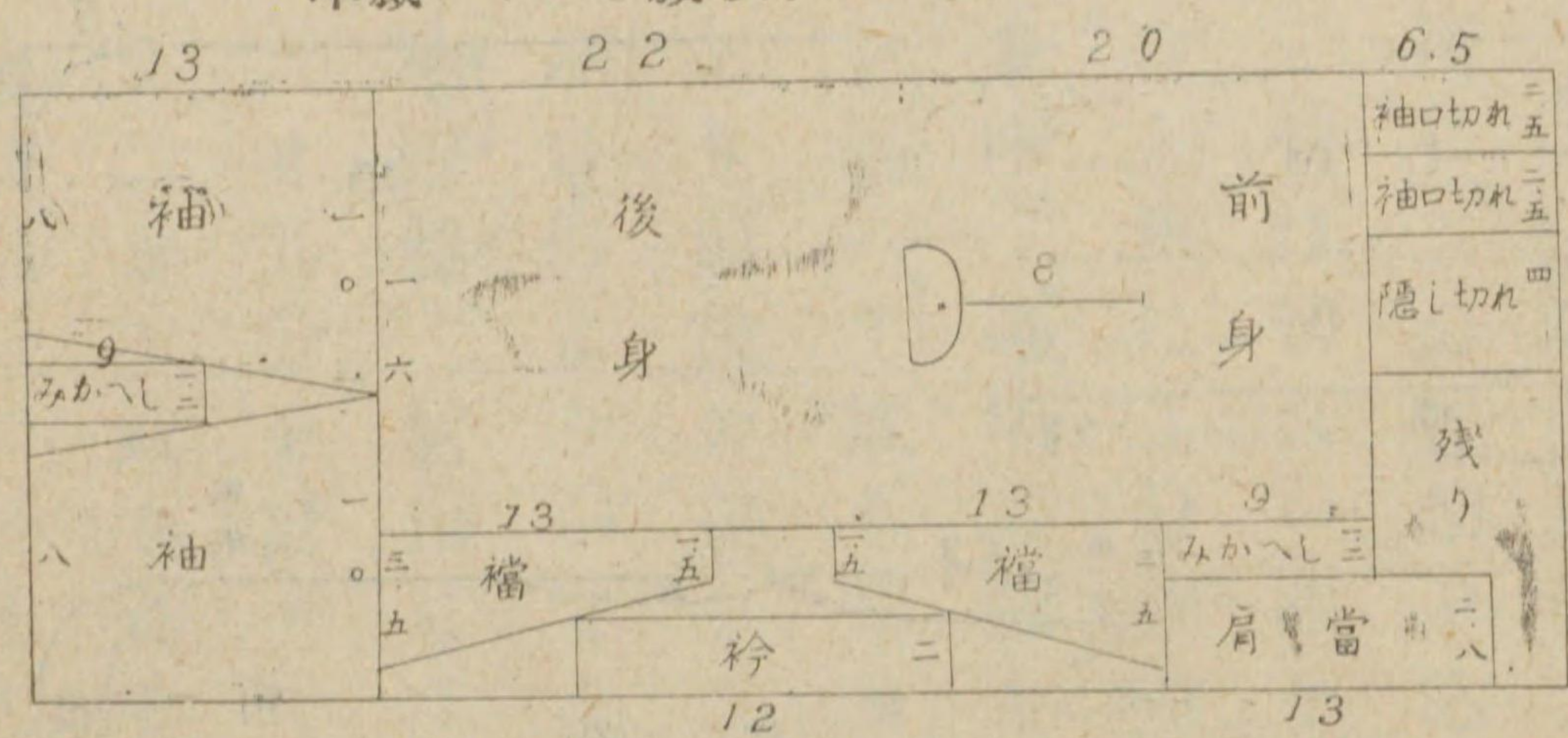
立衿シャツの圖



第三 本裁シャツ裁ち方積り方

衿	見返し	肩當	前身幅	後丈	袖口切れ	袖幅	袖丈	第二本裁シャツ普通裁ち切り寸法
幅二尺一寸二分	幅一尺九寸二分	幅三尺一寸三分	一尺六寸	二尺二寸	幅二寸五分	口附一尺三寸	丈一尺三寸	

片面物二尺幅六尺一寸五分にて
本裁シャツの裁ち方並に裁ち切り寸法

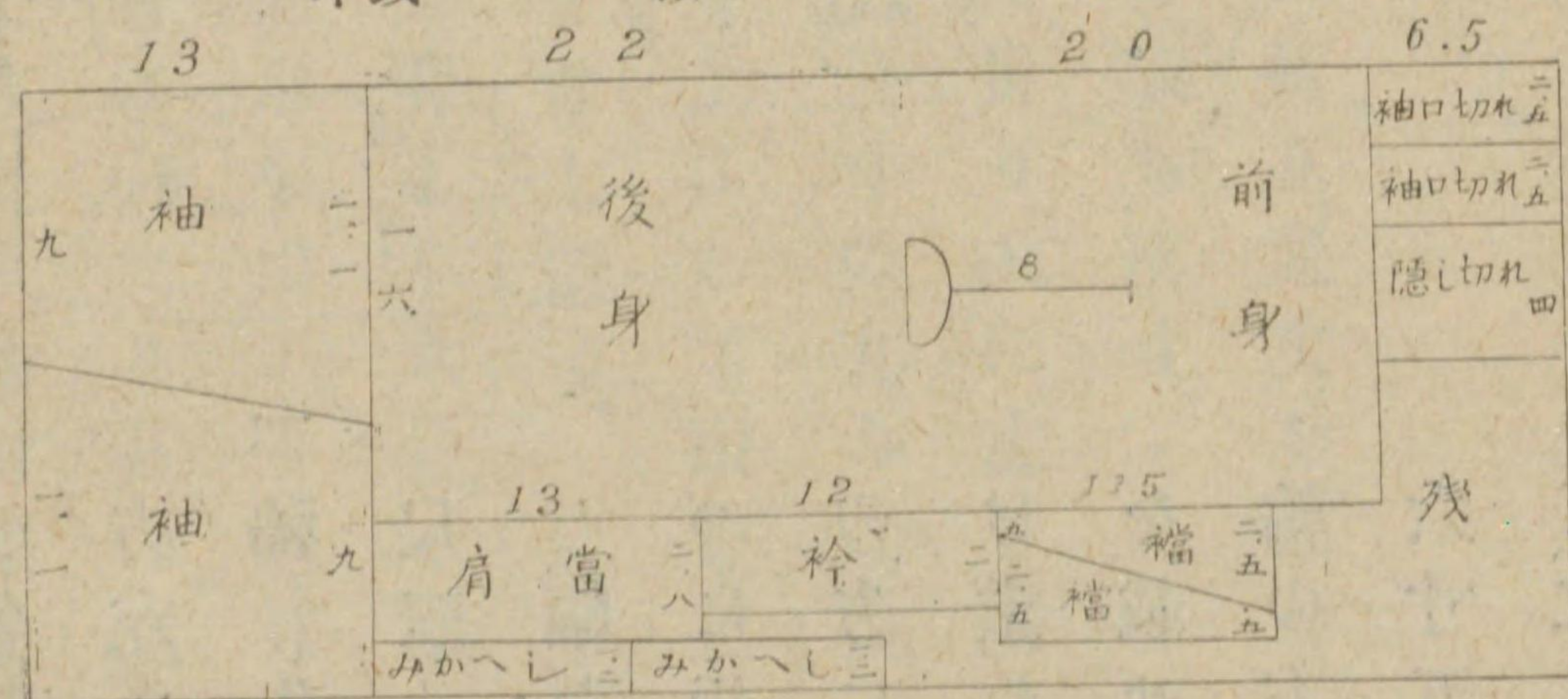


積り方

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{用布の總尺} - (\text{袖丈} + \text{袖口切れ}) + \text{前後の差} \\ 61.5 - (13 + 6.5) + 2 \end{array} \right\} \div 2 = \text{後丈} = 22$$

$$\text{後丈} - \text{前後の差} = \text{前丈} = 22 - 2 = 20$$

両面物二尺幅六尺一寸五分にて
本裁シャツの裁ち方並に裁ち切り寸法

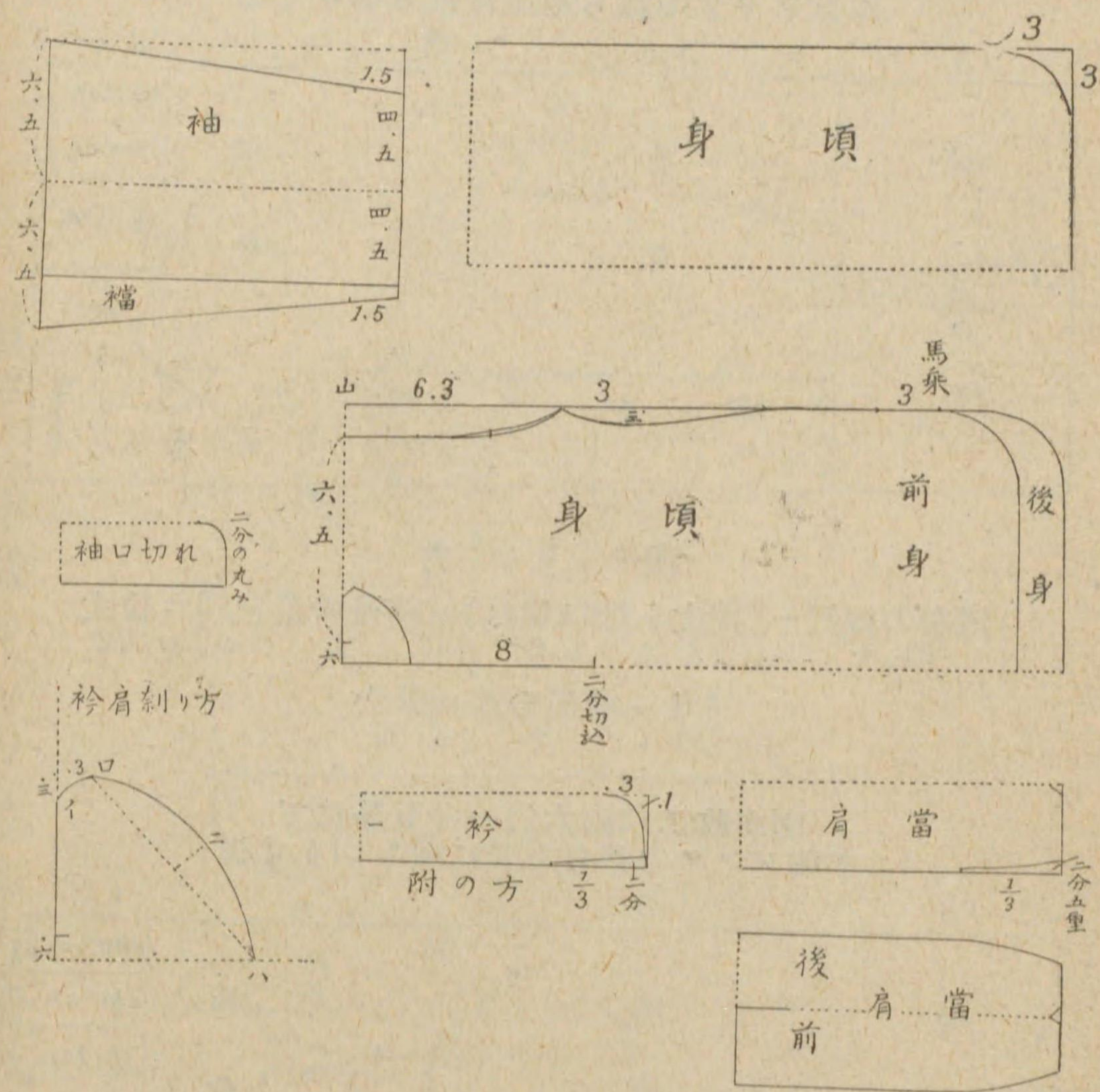


積り方

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{用布の總尺} - (\text{袖丈} + \text{袖口切れ}) + \text{前後の差} \\ 61.5 - (13 + 6.5) + 2 \end{array} \right\} \div 2 = \text{後丈} = 22$$

$$\text{後丈} - \text{前後の差} = \text{前丈} = 22 - 2 = 20$$

本裁シャツ各部分の裁ち方



各部分の裁ち方左の如し。
 一、袖 先づ袖丈一尺三寸を切り放し、幅を中表に二つに折り、裁ち目の方に縫ひ代だけ重ねて、襷切れを載せ、針を打ち、輪の方より、袖幅六寸五分を標して、之れを山とし

て、口及び附の幅を標し、之れを裁ち切り、口先より一寸五分の所に、二分程切り込みを入れおく。

袖口切れの幅を中表に二つに折り、又丈を二つに折り、兩端の左上角に、二分程の丸みを付けて、裁ち落す。

二、身頃 身頃の幅を中表に二つに折り、次に、丈を二つに折り、裾を揃へて裁ち切り、圖の如く角を三寸の丸みに裁ち落とし、其れより、前後の差を二寸とし、前身を上にして山を正し、前身の丸みの終より一寸上に、馬乗の標をなし置く。

袖・附・脇 肩山にて、後幅の弛みを脊より六分と標し、之れより六寸五分を計りて、肩幅を定め、袖附を山より六寸三分(袖幅より二分を減きたるもの)と標し、前は、山より其の三分の二まで、後は、三分の一まで、眞直に標し、之れより袖附標まで、丸味を附

けて標をなし、次に、袖附標より三寸程下りて五分内に入り、較深く丸みを付け、以下馬乗り三寸上の邊まで少しく丸味を付けて、斜に標し、後ち、標通りに裁ち切る。

衿・肩明 肩山にて、脊の弛みの標より、衿の取り寸の六分一を計り、之れより脊の方へ三分、前の方へ三分にイ・ロを標し、羽織の衿肩明の如くイ・ロに丸みを付け、次に、衿の取り寸の五分一に二分を加へて顎ハを標し、ロ・ハの中央にて、其の四分の一より二分減じたる寸法を計りて、ニを標し、ロ・ニ・ハの標を連結し、ハの方を較、平にし、程よく丸みを付け、前身のみ、裁ち落とし、顎より八寸下に、二分の切り込みを入れ、其の間を切り放す。

三、衿 衿の幅を中表に二つに折り、次に、丈を二つに折り、附の方の衿先にて、二分上り、衿丈の三分の一より斜に裁ち切り、其れ

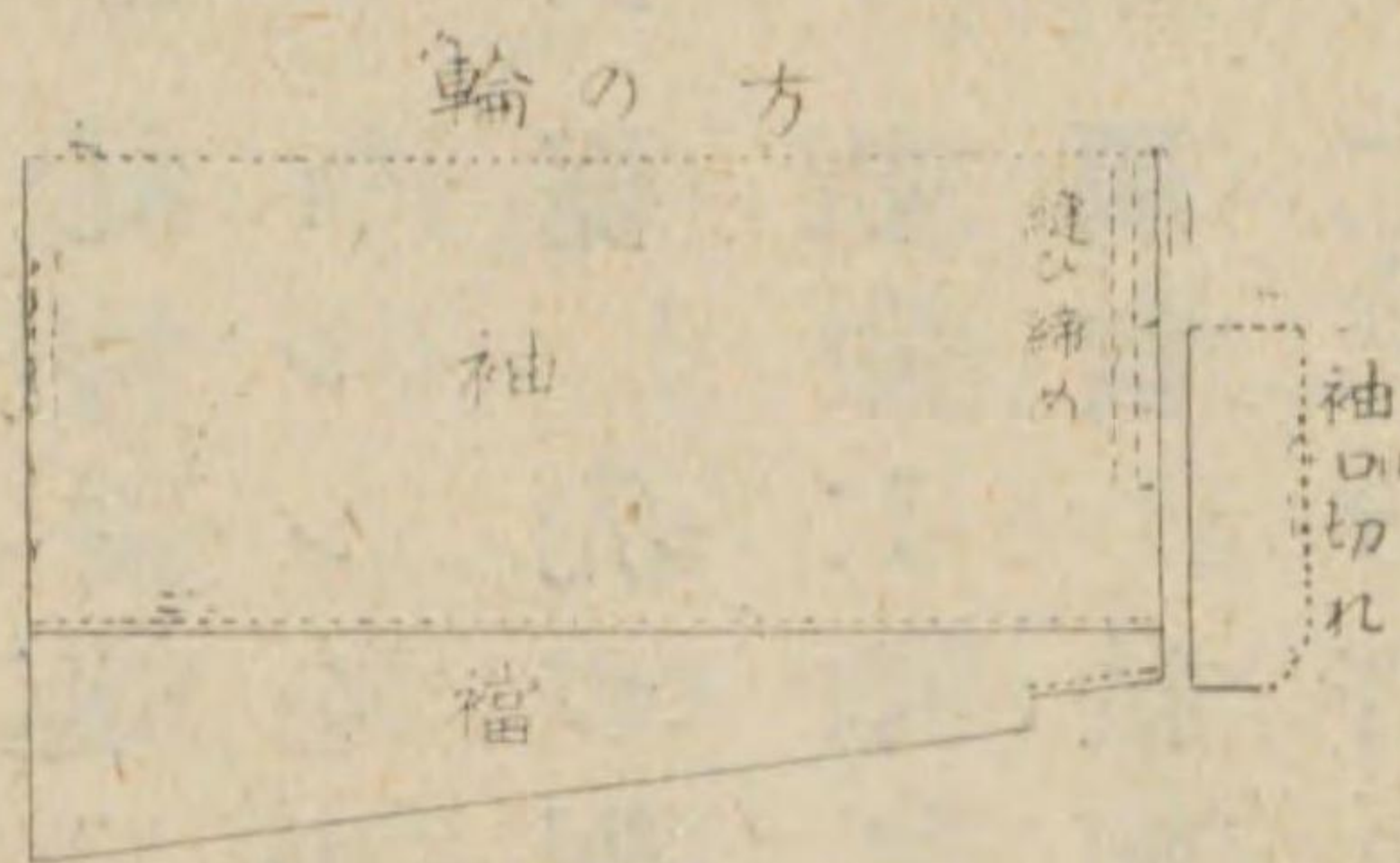
より山の方へ、一分斜に切り、角を三分の丸みに裁ち落す。

四、肩當 肩當も、衿の如く、幅及び丈を二つに折り、圖の如く、裁ち落とし、衿肩明に少しく缺を入れ、前を切り放し置く。

五、隠し切れ見返し留め 各自の好みによりて裁つべし。

第四 本裁シャツ縫ひ方順序

一、袖 袖と襜と眞直の方を合せ、袖の方を一分五厘引きて、躰をなし、襜の方よりミシンを掛け、袖の方へ折り、襜にて縫ひ込みを包みて、躰をなし、表よりミシンを掛け、次に、口下明を細く三つ折りにして、ミシンをかけ、其れより、袖口に圖の如く袖口切れを合せ、残り幅の二倍の間にて袖口を縫ひ締め、袖口の表の方に袖口切れを合せて、ミシンをかけ、



口切れの方へ折り、表よりミシンをかけ、袖口切れの両端を縫ひ、表へ返し、角の丸みを正し、裏の方をまつり、口切れの三方にミシンを掛く。

二、裾 先づ裾の丸みを縫ひ締め、其れより、前後の裾を、細く三つ折りになし、ミシンをかく。

三、肩當 後幅の弛み六分を、脊の所にて、表の方より摘みて、一寸二三分許り縫ひ、縫ひ込みを割りて、襷になしおき、肩當の前後を二分程裏の方へ折り、山を合せて、肩當を身頃の表に綴ち附け、表より前後にミシンを掛け、其れより、肩當の衿肩明を身に倣ひて裁ち落す。

四、見返し 上前、前明の裏の方に、見返し切れを合せて一分五厘の縫ひ代にミシンをかけ、折りを附けて表へ返し、身頃の上に

載せ、一方の端を二分に折り、見返しの両側にミシンをかけ、次に、下前の表の方に、見返しを合せてミシンをかけ、裏へ返し、幅を上前より一分詰めて、端を折り、身の表よりミシンを掛く。

五、衿 衿丈の山を、脊の表の方に合せ、衿肩廻しより顎までは、衿を稍張り加減に、其の他は平に躰をなし、ミシンをかけ、衿の方へ折り、表よりミシンを掛け、其れより、衿先を縫ひ、引返し、衿先の丸味を整へ、裏をまつり附け、表より三方にミシンを掛く。

六、見返し留め 下前見返し下の切り込みを、尙ほ一・二分切り込み、上下の見返しを正しく重ね、下方を綴ち、下前見返しの下を折りてまつり、上前見返しの下に、留切れを當て、ミシンを掛く。

七、袖付脇縫 袖と肩との山を合せ、身の方を一分五厘引き、袖を見て、ミシンをかけ、身の方へ、折り、縫ひ込みを包みて、躰をかけ、

表よりミシンをかけ、次に、袖下より續きて馬乗の標まで、前後を合せて躰をかけ、前を見て、三分の縫ひ代にミシンをかけ、後の方へ折り、後の縫ひ込みを一分五厘切り落とし、前の縫ひ込みにて、裁ち目を包み、まつり附く。

八、孔縫り門留 上前の衿幅の中央にて、衿先より二分程内に一個、見返し丈を四等分して、其の間に三個、又外袖口の端より二分、口先より四分許り内に入りて一個、合せて六個の孔を穿けて縫り、釦を附く。其れより、口下明と馬乗とに門留をなす。

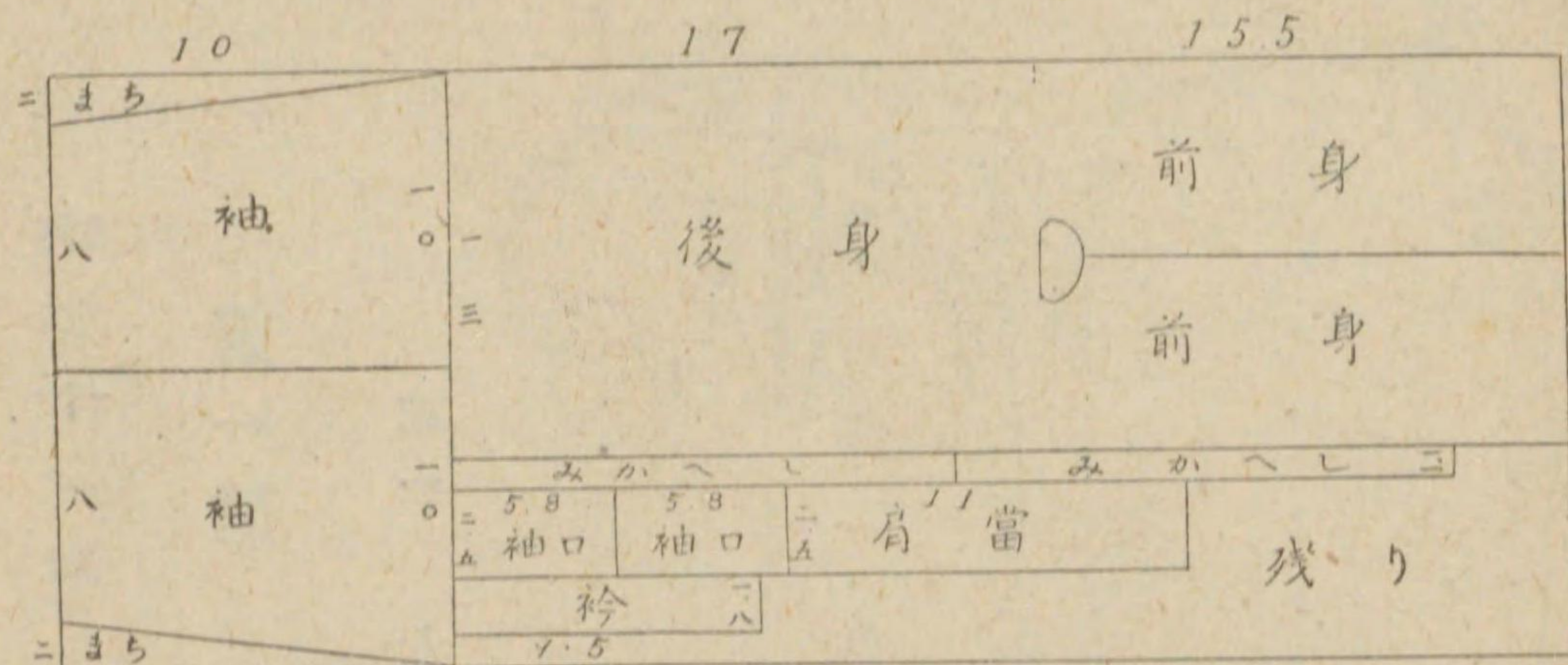
九、隠し 隠しは上前の肩より六七寸下り、前幅の中程より少しく脇の方へ寄せて附くるなり。

第二節 中裁・小裁 シャツ裁ち方積り方

第一 中裁・小裁 シャツ普通裁ち切り寸法

各部名稱	年 齡	
	十 五・六 歳	十 一・二 歳
袖 丈	一尺二寸	一尺
袖 幅	附、六寸 口、四寸三分	五寸五分
袖口切れ	丈、六寸 幅、二寸五分	五寸八分
後 丈	一尺九寸五分	一尺七寸
前 丈	一尺七寸五分	一尺五寸五分
身 幅	一尺五寸	一尺三寸
衿 肩 明	一寸七分	一寸六分
頸	二寸	一寸九分
衿 丈	一尺一寸五分	一尺五分
衿 幅	一寸九分	一寸七分
肩 當	丈、二寸八分 幅、二寸八分	一寸五分
見返し幅	一寸二分	一寸一分
		八・九 歳
袖 丈	一尺二寸	一尺
袖 幅	附、六寸 口、四寸三分	五寸五分
袖口切れ	丈、六寸 幅、二寸五分	五寸八分
後 丈	一尺九寸五分	一尺七寸
前 丈	一尺七寸五分	一尺五寸五分
身 幅	一尺五寸	一尺三寸
衿 肩 明	一寸七分	一寸六分
頸	二寸	一寸九分
衿 丈	一尺一寸五分	一尺五分
衿 幅	一寸九分	一寸七分
肩 當	丈、二寸八分 幅、二寸八分	一寸五分
見返し幅	一寸二分	一寸一分
		五 六・ 歳
袖 丈	一尺二寸	一尺
袖 幅	附、六寸 口、四寸三分	五寸五分
袖口切れ	丈、六寸 幅、二寸五分	五寸八分
後 丈	一尺九寸五分	一尺七寸
前 丈	一尺七寸五分	一尺五寸五分
身 幅	一尺五寸	一尺三寸
衿 肩 明	一寸七分	一寸六分
頸	二寸	一寸九分
衿 丈	一尺一寸五分	一尺五分
衿 幅	一寸九分	一寸七分
肩 當	丈、二寸八分 幅、二寸八分	一寸五分
見返し幅	一寸二分	一寸一分

二尺幅にて十一・二歳用シャツの裁ち方並に裁ち切り寸方

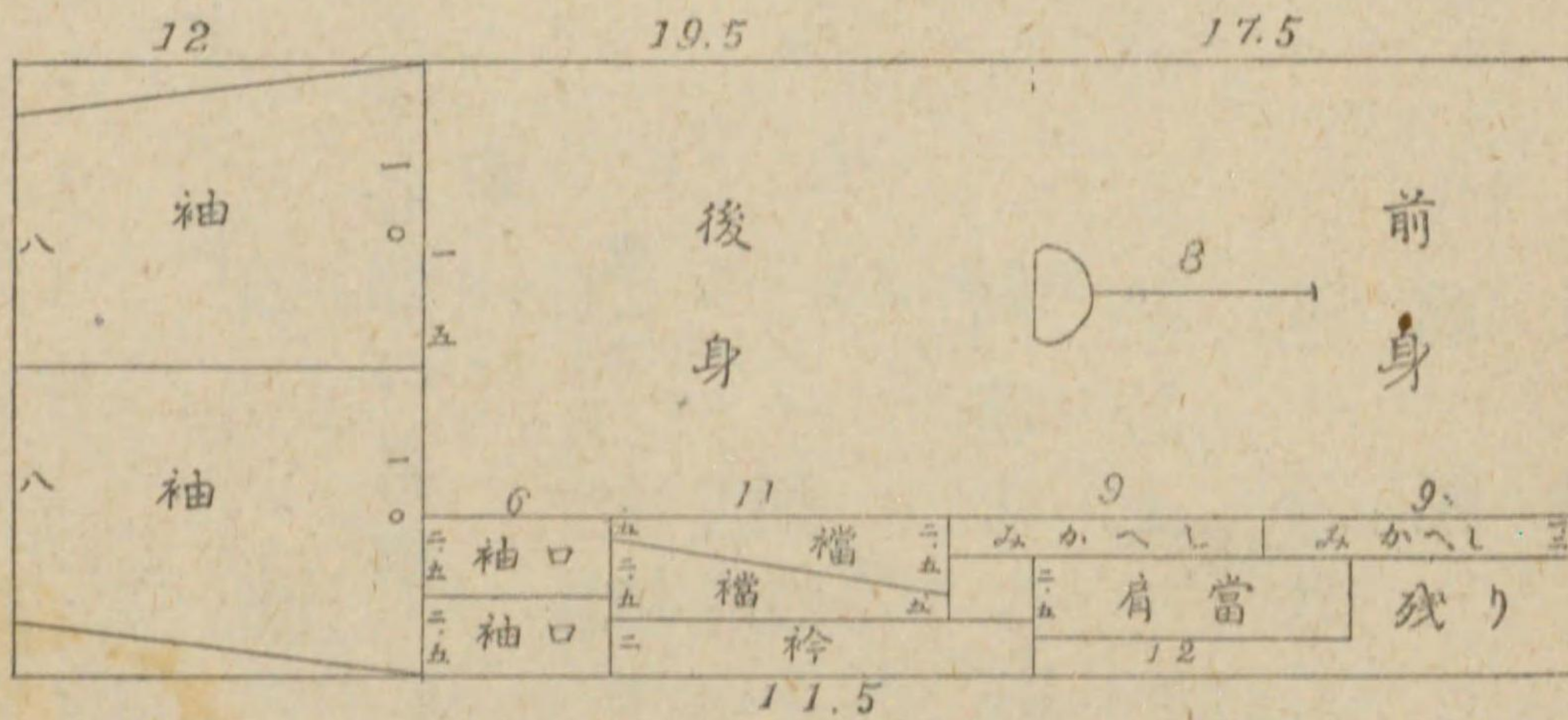


積り方

袖丈+後丈+前丈=用布の總尺

10 + 17 + 15.5 = 42.5

二尺幅にて十五・六歳用シャツの裁ち方並に裁ち切り寸方

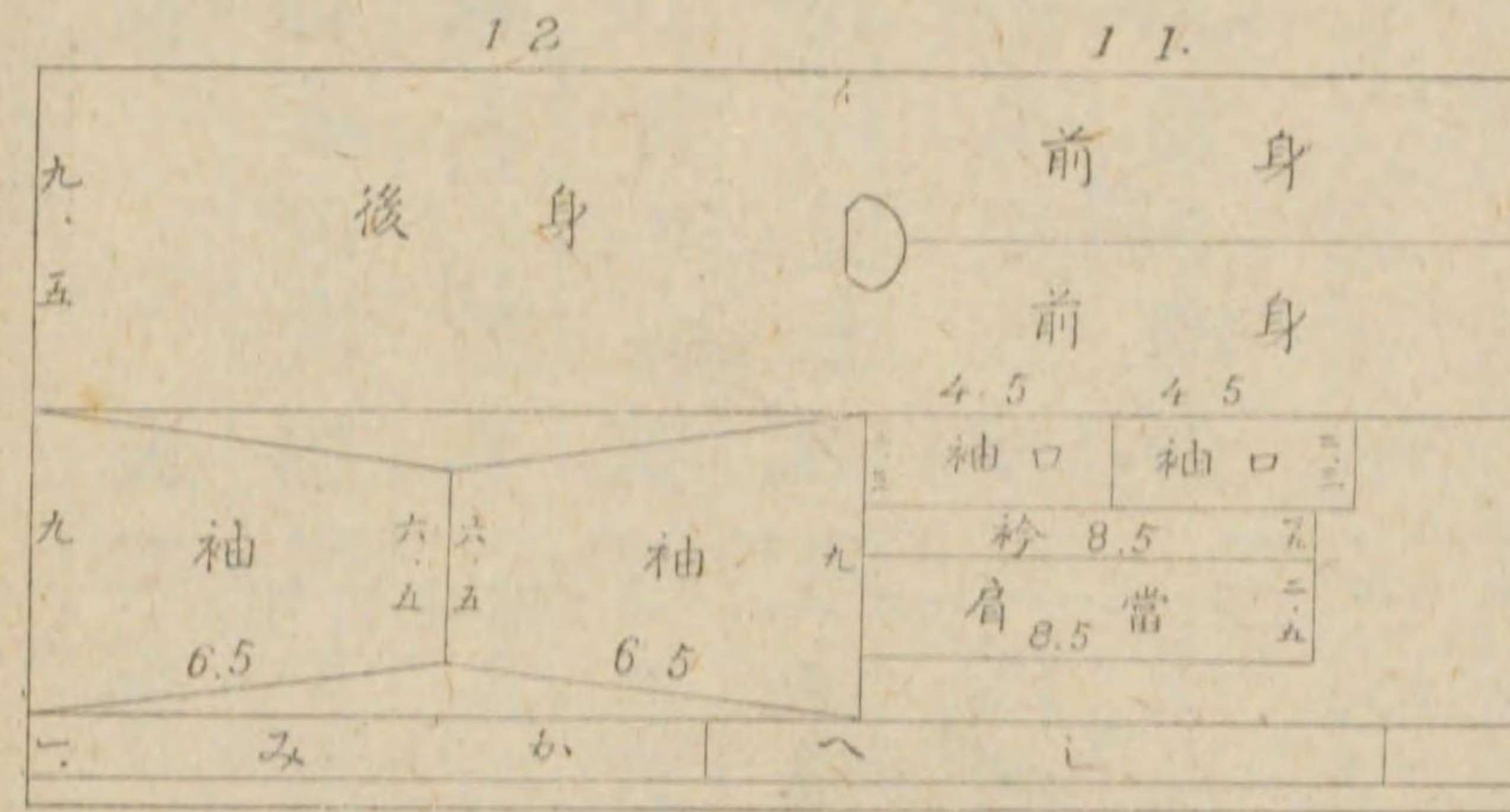


積り方

袖丈+後丈+前丈=用布の總尺

12 + 19.5 + 17.5 = 49

二尺幅にて五・六歳用シャツの裁ち方並に裁ち切り寸法

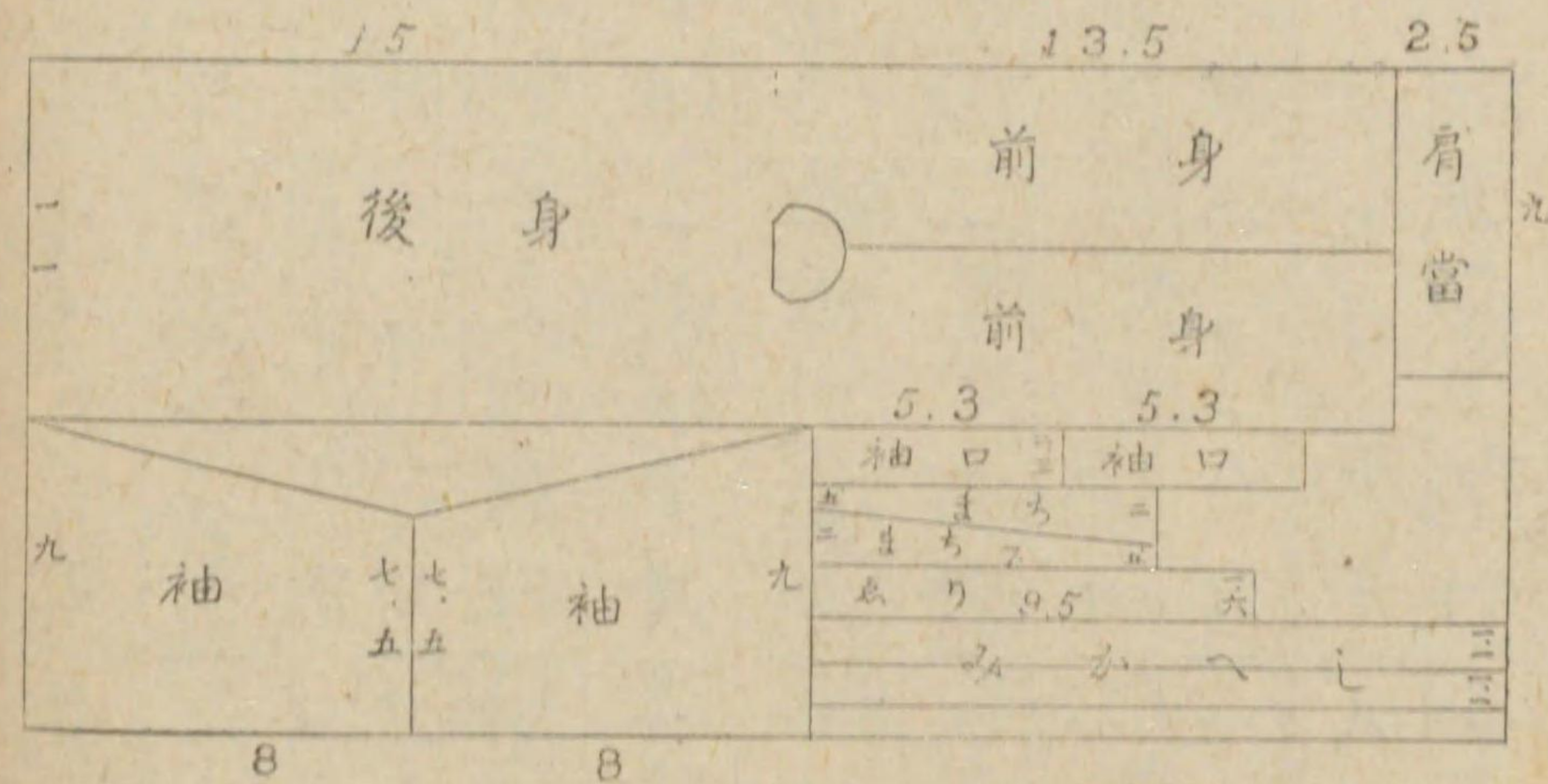


積り方

後丈+前丈=用布の總尺

12 + 11 = 23

二尺幅にて八・九歳用シャツ裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

後丈+前丈+肩當幅=用布の總尺

15 + 13.5 + 2.5 = 31

第二 中裁・小裁シャツ裁ち方・積り方